平成 24 年度

# 知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討業務

Protection of sea birds and sustainable use of the marine environment along the Utoro coast of Shiretoko National Park.

# 報　告　書

平成 25 年 3 月

環境省　釧路自然環境事務所

平成 24 年度

知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討業務

Protection of sea birds and sustainable use of the marine environment along the Utoro coast of Shiretoko National Park.

目　　次


1.　業務概要 ..... 1
1-1.　業務の目的 ..... 1
1-2.　業務概要 ..... 1
1-3.　業務内容 ..... 2
2.　これまでの経緯 ..... 3
2-1.　検討会に至る背景 ..... 5
3.　利用者動向調査 ..... 8
3-1.　調査目的 ..... 8
3-2.　調査方法 ..... 8
3-3.　アンケート調査結果（基本集計） ..... 14
3-4.　アンケート調査結果（前期（6-7 月）・後期（8-9 月）比較） ..... 27
3-5.　次年度以降の調査実施について ..... 38
4.　各事業所における自然情報収集調査 ..... 41
4-1.　調査概要 ..... 41
4-2.　実施方法 ..... 41
4-3.　記録内容および調査範囲 ..... 41
4-4.　調査期間 ..... 41
4-5.　海鳥観察技術指導「海鳥ミニ出前講座」の開催 ..... 43
4-6.　福田氏提供資料 ..... 44
4-7.　実施結果 ..... 45
4-8.　次年度以降の観察実施について ..... 54
5.　広報用コンテンツの作成について ..... 55
5-1.　制作手順の検討 ..... 55
5-2.　シナリオの検討 ..... 56
5-3.　撮影作業 ..... 66
5-4.　動画コンテンツ編集およびレビュー ..... 66
5-5.　動画コンテンツ　タイトル一覧 ..... 67
6.　検討会の運営 ..... 69
6-1.　第 1 回　ウトロ海域部会の開催 ..... 70

6-2.　第 2 回　ウトロ海域部会 ..... 74
7.　企画会合および成果報告の実施..... 80
7-1.　成果報告の実施..... 80
7-2.　企画会合の開催..... 88
8.　知床国立公園における海域適正利用の具体的対策の検討 ..... 97
8-1.　現在の取り組み活動の継続ついて..... 97
8-2.　今後の課題 ..... 100
9.　別途業務との連携協力 ..... 102
10.　取り組みに対する評価コメント ..... 103

# 1. 業務概要

## 1-1. 業務の目的

知床国立公園の斜里町側の海沿いでは、ウミウやウミネコをはじめとする数多くの海鳥が繁殖している。その中でもレッドリストで絶滅危惧種Ⅱ類に指定され、希少鳥獣でもあるケイマフリについては、知床半島斜里側の断崖が国内で数少ない繁殖地であるとともに、その繁殖地付近の海域において漁業・観光の利用がなされていることから、保護と利用の両立を図ることが求められている。

ケイマフリの減少要因は明らかではないが、生息海域では従来からの生業として営まれてきた漁業に加え、近年では観光船による利用やシーカヤックでの利用など様々な形態での利用がなされており、海鳥等の野生生物を取り巻く環境は変化している。また、平成 21 年 6 月に改正された自然公園法では、新たに海域での自然環境保全のための取組みも強化されている。

このような状況の中、本業務では、ケイマフリ等海鳥の保護と持続可能な海域利用の両立をはかるため、海域の利用動向の調査を行うとととともに、海域の利用状況、過去の海鳥の調査結果及び昨年までの検討経緯を踏まえて、海域を利用するすべての関係者と海鳥や自然環境にとって好ましい状態について検討するために、海域利用関係者（事業者等）や関係行政機関に加え、海鳥等に関する学識経験者の参画した検討会を開催する。また、海域の利用やその取り組みの情報発信を行う。

## 1-2. 業務概要

1) 業務名称：平成 24 年度知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討業務
2) 業務箇所：斜里町ウトロ
3) 業務期間：平成 24 年 5 月 22 日～平成 25 年 3 月 25 日
4) 発注者　：環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
5) 受注者　：ユニオンデーターシステム株式会社

## 1-3. 業務内容

本年度業務における業務項目を以下に示す。

(1) 利用者動向調査

ウトロ海域のレクリエーション利用の状況・動態を把握するため、大型観光船、小型観光船、シーカヤックの利用者に対してアンケート調査を行う。

(2) 各事業所における自然情報収集調査

ウトロ海域でレクリエーション利用を行っている各事業所による、海鳥やヒグマなどの情報の収集調査を進め調査結果をとりまとめる。

(3) 広報用コンテンツの作成

ケイマフリ等海鳥の生態や、それを保全する活動について PR を行う YouTube 等への掲載を想定した動画コンテンツを作成する。

(4) 検討会の運営

環境省が事務局を担っている適正利用・エコツーリズム検討会議ウトロ海域部会を運営し、その結果をとりまとめる。

(5) 企画会合および成果報告の実施

ア 企画会合の開催

海鳥等の専門家、知床世界自然遺産科学委員会の WG の委員、観光事業者代表による次年度計画の企画検討のための会合（斜里開催、1 回を想定）を開催する。

イ 平成２５年２月開催の知床世界遺産地域科学委員会の前後にて、3 カ年の成果報告（札幌開催 1 回）を行い、科学委員等からの評価、助言を受け、(6)の事業総括に反映させる。発表は海鳥等の専門家、知床世界自然遺産科学委員会の WG の委員を想定する。請負者は、発表の資料案作成及び成果報告の際の記録の作成を行う。

(6) 知床国立公園における海域適正利用の具体的対策の検討

(1)～(5)及び過去の検討結果より本事業の総括を行うと共に、今後の取組の継続のための具体策のとりまとめを行う。

(7) 別途業務との連携協力

本検討業務を進めるにあたり、別途実施している海域海鳥調査業務と随時連携・協力を図る。

## 2. これまでの経緯

本業務は、「知床国立公園ウトロ海域における適正利用検討業務」（平成 21～23 年度）において進められてきた議論に基づき計画されたものであり、取組み体制や取組み方針については、基本的に昨年度までの流れを踏襲するものである。また平成 21 年度以前の海鳥保護に関する取組みとしては、前年の平成 20 年度に環境省、知床海鳥研究会（代表　福田佳弘氏）、地元観光船事業者らとの間で、海鳥の生息と観光船の与える影響について、これまでの調査結果を交え意見交換が交わされている。

海鳥の生態調査に関連しては、平成 9 年度（1997）以降に斜里町（1997-1998）、知床海鳥研究会（1999-2003）、環境省（グリーンワーカー事業「知床半島における海鳥生育状況調査」 2004-2009、マリンワーカー事業「知床国立公園ウトロ海域における海鳥調査業務」2010-2011）と継続的に生息状況調査が実施されており、中でもケイマフリの繁殖状況については、2002 年から毎年観察が続けられている。

●平成 21 年度　知床国立公園ウトロ海域における適正利用検討業務（環境省）
- 既存データの収集・整理
- 他地域での先進事例の収集
- 地元関係者ヒアリング
- 懇談会の開催
  事前打合せ　平成 22 年 2 月 10 日　（場所：阿寒湖自然保護官事務所）
  懇談会　　平成 22 年 3 月 5 日　（場所：知床世界遺産センター）
- 知床国立公園における海域適正利用の方向性の検討

●平成 22 年度　知床国立公園ウトロ海域における適正利用検討業務（環境省）
- ケイマフリデコイ設置に関する情報収集と整理
- ケイマフリ等の重要性についての共通認識の確立
  関係者ヒアリング、関係者による現地視察および検討
- 観光船利用者動向調査（試験調査）の実施
- 関係者会議・地域検討会の開催
  関係者会議（2 回）、地域検討会（2 回）の開催

| 会議区分 | 開催日 | 場所・日時 | 参加者状況 |
|---|---|---|---|
| 関係者会議 | H22 年 7 月 8 日 | 札幌（環境省北海道地方環境事務所） | 環境省、専門委員ら 6 名 |
| 地域検討会 | H22 年 7 月 26 日 | 斜里町（知床世界遺産センター） | 環境省、専門委員、地域関係者ら 21 名 |
| 地域検討会 | H22 年 11 月 30 日 | 斜里町（斜里町役場） | 環境省、専門委員、地域関係者ら 19 名 |
| 関係者会議 | H23 年 2 月 17 日 | 釧路（環境省釧路自然環境事務所） | 環境省、専門委員ら 7 名 |

- ガイドブック（パンフレット）の原版作成
- 次年度実施計画の検討

●平成 23 年度　知床国立公園ウトロ海域における適正利用検討業務（環境省）

- 検討会名称を「適正利用・エコツーリズム検討会議ウトロ海域部会」へ改称
- ウトロ漁業協同組合の協力を得て、トークシモイにケイマフリデコイを設置
- 観光船利用者動向調査の本格実施。総アンケート配布数 4,857 通
- 観光船事業者による海域状況観察記録を「おーろら号」で試験実施
- 観光船事業者へ PR 用デコイを貸し出し。各事業者の案内所や船内で展示される
- 関係者会議・地域検討会の開催
  関係者会議（2 回）、地域部会（2 回）の開催

| 会議区分 | 開催日 | 場所・日時 | 参加者状況 |
|---|---|---|---|
| 関係者会議 | H23 年 4 月 21 日 | 札幌（環境省北海道地方環境事務所） | 環境省、専門委員ら 8 名 |
| 地域部会 | H23 年 5 月 30 日 | 斜里町（知床世界遺産センター） | 環境省、専門委員、地域関係者ら 20 名 |
| 地域部会 | H23 年 10 月 5 日 | 斜里町（知床世界遺産センター） | 環境省、専門委員、地域関係者ら 24 名 |
| 関係者会議 | H23 年 2 月 22 日 | 札幌（環境省北海道地方環境事務所） | 環境省、専門委員ら 10 名 |

- 観光船事業者やウトロ地区のホテルや民宿、旅館等の宿泊事業者を対象に「海鳥ミニ出前講座」を開催。
- ケイマフリ広報用ホームページ作成

## 2-1. 検討会に至る背景

### 2-1-1. ウトロ海域利用に関する経緯

・ 昭和 59 年 2 月に、貴重な植物群落や各種野生鳥獣の生育地である知床岬一帯の自然景観を保護するため、レクリエーション目的の立ち入りを抑制することを目的として、関係行政機関において**「知床岬地区の利用規制指導に関する申し合わせ」**が策定された。

・ 平成 16 年 12 月に、知床国立公園利用適正化検討会議において**「知床先端部地区利用適正化基本計画」**が策定され、海鳥・海棲哺乳類や漁業活動へ悪影響が生じないよう一定の「利用の心得」の下で利用することが方針として示された。

・ 平成 17 年 6 月に知床岬において発生した観光船の座礁事故を発端として、同年 7 月に**知床地区旅客船等安全対策等連絡会議**が組織され、平成 18 年には、主に安全面を勘案し、利用の心得の作成状況等も参考として基準航路が策定された。この基準航路策定の議論の際、環境省からケイマフリ繁殖巣数の減少の調査結果について情報提供の上、生息地及び繁殖地となっている海域において沿岸から 100m 以上距離を取る航路を設定するよう案を提示した。しかし、基準航路策定時に関係機関が全員一致しての結論には至っていない。当会議は、平成 17 年度以降事故が発生していないことから平成 20 年から活動休止中。

・ 平成 20 年 1 月に、地域の関係機関によって知床半島先端部を利用するためのルールとして、**「知床半島先端部地区利用の心得」**が公表された。利用の心得の中では、①観光船では認可を受けている航路から外れて航行しないことや、②海棲哺乳類、海鳥、猛禽類及びヒグマ等の生息行動に影響を与えるような接近行為をしないことなど、動力船による海域利用に関する事項もあげられている。

・ 平成 20 年 2 月に開催された知床世界遺産調査報告会において、海鳥の繁殖に関して、観光船による海域利用の影響を受けている可能性が推察されるとの発表を受けて、科学委員会の委員からも、海域の利用について検討が必要である旨の指摘を受けた。

・ 知床の世界自然遺産としての価値をより良い形で後世に引き継いでいくに当たり、極めて多様かつ特異な価値を有する遺産地域の自然環境を将来にわたり適正に保全・管理していくことを目的として、平成 21 年 12 月に**「知床世界自然遺産地域管理計画」**が策定された。

・ この中で、遺産地域の原生的な自然環境を将来にわたり保全し、人々に大きな感銘をもたらし続けることを前提として、観光、自然探勝、登山、釣り等の利用は、自然環境に支障を及ぼすことのないよう適正に行うことで、原生的な自然環境の保全と、地域の主要な産業である観光を始めとするレクリエーション利用との両立を図ることが基本方針として示されている。

また、遺産地域の海岸部及び海域は、ケイマフリやオオセグロカモメ、ウミウ等の海鳥や海棲哺乳類の生息地・繁殖地となっているため、観光・レジャー目的の船舶や水上バイクの航行、無秩序な餌やりや観察等がこれら海鳥や海棲哺乳類に悪影響を与えることも懸念される。このため、海域のレクリエーション利用が海鳥や海棲哺乳類に悪影響を与えないようルールづくりを行うとともに、普及啓発を行うということが、主要利用形態毎の対応方針として示されている。

## 2-1-2. 自然公園法の改正（海域公園地区制度の創設）

・ 近年、優れた海中の景観の他、海上を含む海域の景観が、ますます自然探勝に供され、また海鳥の休息地等として生物多様性保全の観点からも重要であると評価されるなど、その価値が高まってきている。

また、海洋性レクリエーションの多様化により、優れた景観を間近に眺めることができる海域は、シーカヤックなどを用いた質の高い自然体験の場として利用されることなどにより、その重要性が高まっている。

このように海域における景観の価値は、海中にとどまらず海上についても重要であると認められるようになりつつあり、海域の景観の保護に向けた取組は、海上の景観も含めて総合的に推進していくことが必要となっている。

そのため、海中の景観のみを対象としていた現行の海中公園地区制度を、生物多様性の豊かな干潟や、干潮時に海上に干出する岩礁等の特徴的な地形、海鳥、海獣等の動植物によって構成される海上の景観を含む海域公園地区に改め、陸海域の一体的な保全を図ることが可能となる。

また、観光船により無秩序なウォッチングツアーが野生動物等へ悪影響を与えることが報告されていることから、これまで陸域に限定されていた利用調整地区を海域公園地区にも指定できることとし、海域における公園利用者の立入り人数・期間・方法等を調整することにより、海域の生態系の保全と持続可能な利用を推進することができるようになる。

### 2-1-3. ウトロ海域懇談会の開催

平成21年度「知床国立公園ウトロ海域における適正利用検討業務」において、外部の有識者を加えて課題解決策の検討を開始し、「落石ネイチャークルーズ」やエトピリカの「浜中モデル」を参考に、自然保護対観光利用の構図ではなく海鳥を観光資源とすることで全ての関係者に守ることへのインセンティブを与える方法が提案され、ウトロ海域に係る観光、漁業、行政、研究者、有識者相互の共有認識を構築するための懇談会が開催された。

### 2-1-4. 検討会の開催と地域参加による取り組みの開始

平成 22 年度より「知床国立公園ウトロ海域における適正利用検討会」の事業実施により、地域の海域利用者（漁業者・観光船事業者）および行政機関、各種団体、研究者、有識者らの海域関係者による海域の保護と利用に関する検討と具体的取り組みが本格的に始まった。検討会では生息数の減少が懸念されているケイマフリを中心に、その保護と海域利用に関する検討が行われている。平成 22 年度には検討会の平成 22 年度～平成 24 年度までの 3 カ年計画が立案され、ケイマフリ保護と海域利用の両立を目指した仕組みづくりが進められている。

過去には自然環境の保全、保護を推進したい行政や研究者と、その場所を利用する利用者の関係においては両者の立場の違いから意見のすれ違いも多かったが、検討会の目標とする“保護と利用の両立“という方針により関係者間の相互理解も進み、この取り組みをきっかけに各関係者間の協力体制も構築され始めている。

検討会名称は平成 23 年度より「適正利用・エコツーリズム検討会議　ウトロ海域部会」に名称変更され、適正利用・エコツーリズム検討会議内の地域部会として位置付けられた。

図 2-1　検討会年次スケジュール

（平成 24 年 5 月 30 日開催のウトロ海域部会会議資料より抜粋）

## 3. 利用者動向調査

平成 23 年度より本格実施された利用者動向調査を引き続き今年度も実施した。実施要領については、ほぼ昨年と同様の方法で実施した。

### 3-1. 調査目的

調査は観光船利用における乗船動機、興味の対象、乗船後の感想、海鳥（特にケイマフリ）の関心度・理解度を調査し、海鳥の保護の為の情報提供のあり方と観光船サービスにおける海鳥生息環境の利用の可能性を検討するための基礎資料を得る事を目的とする。

### 3-2. 調査方法

調査は観光船利用者（観光客）を対象にアンケートを配布し、返信用封筒で返送された回答を集計し分析を行った。アンケートの配布についてはウトロで営業している観光船事業者の６社およびシーカヤックガイド事業者１社の協力を得た。

#### 3-2-1. 実施期間

調査実施期間は海鳥の繁殖期６～７月を前期、海鳥の非繁殖期８～９月を後期として全４か月を調査期間とした。

#### 3-2-2. アンケート票の設問設定

アンケート調査における設問設定は昨年の調査と同様に、以下のテーマに基づいて設定された。

**テーマ１．観光船利用者の興味対象や満足度の把握**
『何に期待しているか？何が面白かったか？満足したか？』
**テーマ２．観光船利用者の海鳥への関心度の把握**
『海鳥の事をどれだけ知っているか？興味はあるか？』

設定した設問は昨年度作成したアンケートと基本的に同様のもので、回答選択肢の一部で軽微な修正を行ったのみである。

（※作成したアンケート票は資料編を参照）

### 3-2-3.　　アンケート配布方法

アンケート配布対象は大型観光船、小型クルーザー観光船、シーカヤックの利用者を対象とした。アンケートの配布方法は　表 3-1　のとおり大型観光船とシーカヤックは帰着後の利用者への直接配布。小型観光船では、案内所での乗船前直接配布、および据え置き配布とした。また、大型船は知床岬コースと硫黄山コースの航路別の配布コントロールを行ったが、小型船は出船時間前の混雑時のアンケート協力依頼の負担や、居合わせる多数の利用者の中で利用者選択がしにくい面（アンケートを貰えた人と貰えない人の不公平感）を配慮し、昨年度と同様に航路別の配布コントロールは行わなかった。

表 3-1　船種別配布方法

| 分類 | 配布方法（計画） | 航路別配布コントロール | |
|---|---|---|---|
| 大型観光船 | 帰港後に手渡し | ○ | 該当航路便を選択し配布 |
| 小型観光船 | 受付窓口より手渡し | × | 混雑時の配布負担や利用者への配慮として選択配布を行わない。 |
| | 据え置き配布 | × | 希望者の任意持ち帰り |
| シーカヤック | 帰着後に手渡し | ― | 営業されているコースは１コースのみ |

写真 3-1　アンケートの配布体裁
（実施説明書、アンケート票、ポストカード）

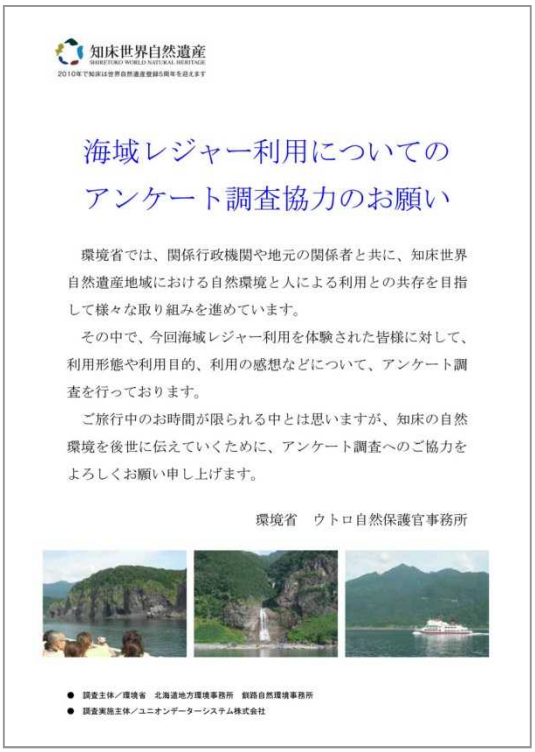



図 3-1　アンケート案内ポスター

### 3-2-4. アンケート配布時の留意点

アンケート配布時には以下の点に留意した。

(1) 配布対象者の性別や年齢層などに偏りが起こらないよう、万遍なく様々な利用者層に配布されるよう留意する。
(2) 航路別に配布数の偏りが出ないよう、なるべく同じ割合で配布する。配布時の天候や海況に偏りが起こらないよう留意する。
(3) 大型船団体ツアー客への配布では、同一ツアー客への集中配布などが起こらないよう、なるべく多くの様々なツアー客に配布すること。
(4) 悪天候により航路が短縮された場合は配布しない。
(5) 大型観光船の配布の際は、下船してくる全ての利用者へ呼びかけを行い「貰いたかったけど貰えなかった・・。」という不愉快な思いをさせないよう配慮した。

また、大型観光船おーろら号（道東観光開発株式会社）の配布対象運航便では、今年度も帰港直前に船内放送によるアンケート配布協力のアナウンスを実施して頂いた。

○観光船おーろら号で実施されたアンケート協力依頼船内放送の原文

本日、観光船おーろら号（おーろら２号）に御乗船の皆様に、環境省からのお願いです。

ただいま環境省では、世界自然遺産地域・知床国立公園における海域レジャー利用に関するアンケート調査を実施しております。豊かな自然の残る知床の海を後世に伝えるため、本日乗船された皆様の御意見や御感想を、是非お聞かせください。

アンケートは切手不要の返信用封筒による回収となりますので、御旅行から御帰宅された後でも構いません、お時間のある時に記入して頂き、お近くのポストへ入れて頂ければ結構です。住所や御名前の記入の必要も御座いません。また今回のアンケート票には、非売品のポストカードが同封されております。

入港後、船を降りられましたら係の者がアンケート票を配布しております。是非お受け取りの上、アンケート調査に御協力をお願い致します。

皆様にとって良い旅になりますように・・環境省からのお願いでした。

### 3-2-5.　　アンケート配布数量

アンケートの配布数量は、平成 23 年度調査時の配布実績数量（4,857 通）で、各事業者で配布の負担が大きかったことや、分析可能な回答数が十分に見込めるものと判断されたことから、前年比 50%の全体配布数 2,000 通を計画数量に設定した。

今年度の配布計画数量表を以下に示す。

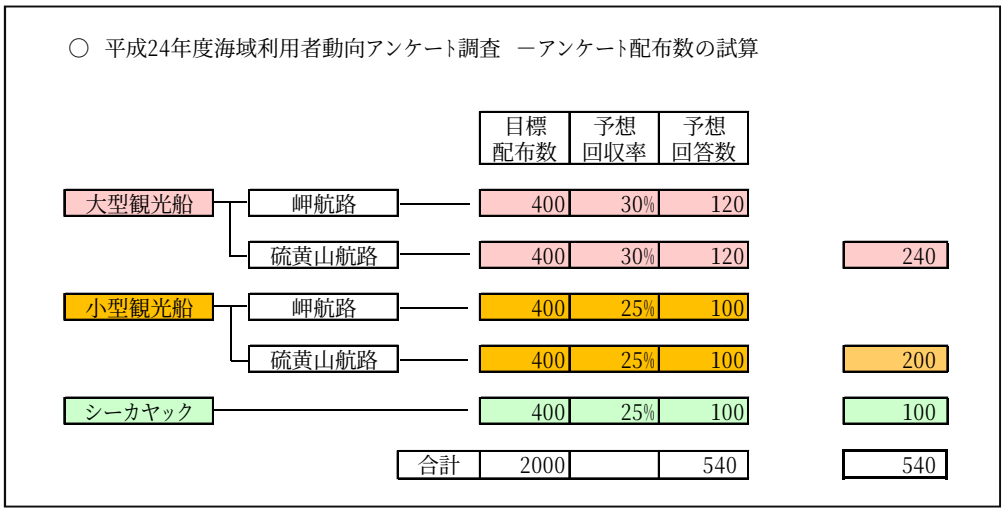



図 3-2　アンケート配布計画

### 3-2-6.　　アンケート配布結果（実績数量）

アンケート配布実績数は表 3-2 に、大型観光船の配布実施日別配布実績数を表 3-3 に示す。大型観光船は一月あたりの各航路配布計画数は 100 通であり、概ね 3 便／月で配布を完了した。8 月など乗船客数の多い月では計画数量を超える場合もあった。小型観光船とシーカヤックでは、毎月の配布計画数をコンスタントに配布することが出来た。

表 3-2　アンケート配布実績数

| カテゴリ | 航路 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **大型観光船** | 知床岬 | 105 | 111 | 120 | 171 | 507 |
| | 硫黄山 | 115 | 138 | 139 | 111 | 503 |
| | 計 | 220 | 249 | 259 | 282 | 1,010 |
| **小型観光船** | 計 | 200 | 200 | 200 | 200 | 800 |
| **シーカヤック** | 計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 400 |
| | 合計 | 520 | 549 | 559 | 582 | 2,210 |

表 3-3　大型観光船アンケート配布実施日別配布実績数

| No. | 日付 | 天候 | 航路 | 便（出発時刻） | 乗客数 | 配布数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 6月14日 | 晴れ | 硫黄山 | 10:30 | 90 | 46 |
| 2 | 6月14日 | 晴れ | 岬 | 13:15 | 40 | 115 |
| 3 | 6月14日 | 晴れ | 硫黄山 | 13:25 | 160 | 59 |
| 4 | 7月27日 | 晴れ | 硫黄山 | 8:15 | 120 | 69 |
| 5 | 7月27日 | 晴れ | 岬 | 10:00 | 180 | 111 |
| 6 | 7月27日 | 晴れ | 硫黄山 | 12:30 | 260 | 69 |
| 7 | 8月9日 | 晴れ | 硫黄山 | 8:15 | 167 | 44 |
| 8 | 8月9日 | 晴れ | 岬 | 10:00 | 230 | 120 |
| 9 | 8月30日 | 晴れ | 硫黄山 | 12:30 | 238 | 95 |
| 10 | 9月13日 | 晴れ | 硫黄山 | 14:30 | 170 | 111 |
| 11 | 9月14日 | 晴れ | 岬 | 10:00 | 280 | 171 |
| | | | | 合計 | 1,935 | 1,010 |

写真 3-2　観光船事業者によるアンケート配布（左）と直接配布の状況（右）(H24.8.9)

### 3-2-7. アンケート回収数

アンケート回収数は表 3-4 に示すとおりである。船種別の傾向としては、いずれの船種においても回収率は 20%を超えており、比較的高い値となっている。大型観光船の航路別の傾向としては知床岬コースが 35.3%、硫黄山コースが 15.１%であり、昨年度調査時の回収率（知床岬コース 27.6%、硫黄山コース 16.8%）と、ほぼ同様の傾向が現れている。小型観光船については航路別の配布コントロールが行われていないが、大型船と同様に知床岬コースの回収率が高くなっている事が予想される。

全体の回収率は 25.6%となっており、昨年度の回収率 23.3%を、やや上回った結果となった。総回収数では 566 通の回答が寄せられた。

表 3-4　アンケート回答数一覧

| カテゴリ | 航路 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 合計 | 配布数 | 回収率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大型観光船 | 知床岬コース | 24 | 44 | 48 | 63 | 179 | 507 | 35.3% |
| | 硫黄山コース | 15 | 20 | 24 | 17 | 76 | 503 | 15.1% |
| | ※無効 | 4 | 2 | 2 | 2 | 10 | | |
| | 計 | 43 | 66 | 74 | 82 | 265 | 1,010 | 26.2% |
| 小型観光船 | 計 | 33 | 92 | 22 | 39 | 186 | 800 | 23.3% |
| シーカヤック | 計 | 3 | 27 | 58 | 27 | 115 | 400 | 28.8% |
| | 合計 | 79 | 185 | 154 | 148 | 566 | 2,210 | 25.6% |

### 3-2-8. アンケート集計および評価

アンケートは配布終了後 2 ヶ月程度の回収期間の後、集計を行った。集計方法は昨年度の調査で行った集計方法（設問ごとの選択肢選択率）を基本とし、前期・後期別の回答傾向の違いや、昨年度までの調査結果との傾向の違いなどの比較を行った。次頁以降にアンケート集計結果および設問ごとの評価を示す。

なお、集計結果は検討会などで観光船事業者へ報告し、回収されたアンケート回答データは観光船事業者に還元提供されている。

3-3.　　アンケート調査結果（基本集計）

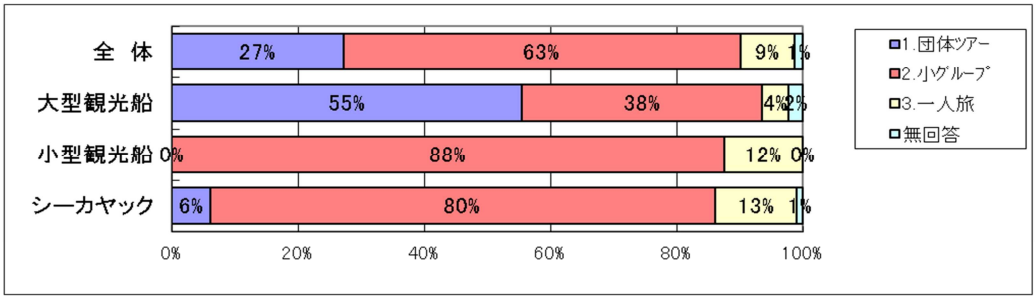
## ○ アンケート結果 （全体結果）

**Q 1. 乗船日および天候**　　※省略

**Q 2. 今回知床に訪れた旅行のタイプは？**

1.団体旅行・ツアー　2. 小グループ旅行(家族・友人)　3. 一人旅

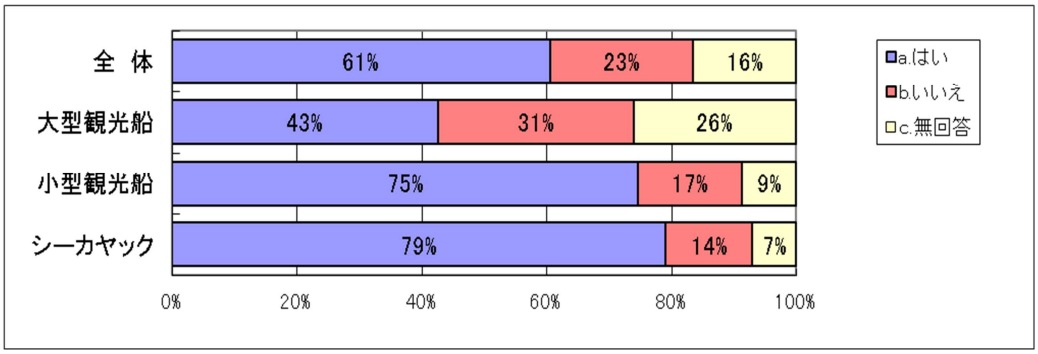
| | 1.団体ﾂｱｰ | 2.小ｸﾞﾙｰﾌﾟ | 3.一人旅 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 27% (154) | 63% (356) | 9% (49) | 1% (7) |
| 大型観光船 | 55% (147) | 38% (101) | 4% (11) | 2% (6) |
| 小型観光船 | 0% (0) | 88% (163) | 12% (23) | 0% (0) |
| シーカヤック | 6% (7) | 80% (92) | 13% (15) | 1% (1) |




大型船の団体ツアーは6割程度を占めている。昨年（60%）とほぼ同様であった。
※小型船は団体ツアー利用者への配布が出来なかったため結果に表れていない。

ウトロに宿泊されましたか？ → a.はい　b.いいえ

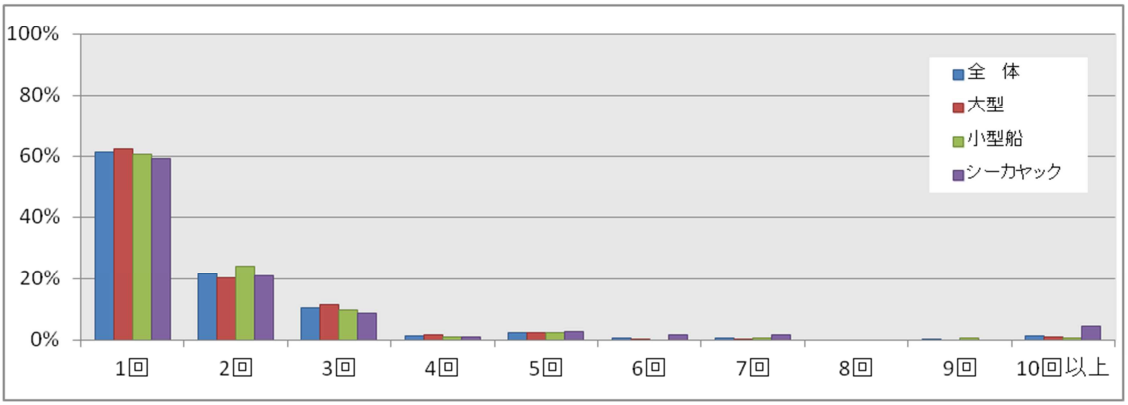
| | a.はい | b.いいえ | c.無回答 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 61% (343) | 23% (130) | 16% (93) |
| 大型観光船 | 43% (113) | 31% (83) | 26% (69) |
| 小型観光船 | 75% (139) | 17% (31) | 9% (16) |
| シーカヤック | 79% (91) | 14% (16) | 7% (8) |




大型船利用者のウトロ宿泊者の割合が昨年度調査（82%）から大幅に低下。配布数減少により配布した時間帯に偏りが発生した影響と考えられる。朝の便ではウトロ宿泊の割合が多いとの事（大木さん聴き取り済み）
小型船、シーカヤックはほぼ昨年同様の傾向。

Q 3. 知床に旅行されたのは今回で何回目ですか？

| | 1回 | 2回 | 3回 | 4回 | 5回 | 6回 | 7回 | 8回 | 9回 | 10回以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 61% (346) | 22% (123) | 10.2% (58) | 1.2% (7) | 2.3% (13) | 0.5% (3) | 0.7% (4) | 0.0% (0) | 0.2% (1) | 1.4% (8) |
| 大型観光船 | 62% (165) | 20% (54) | 11.3% (30) | 1.5% (4) | 2.3% (6) | 0.4% (1) | 0.4% (1) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 0.8% (2) |
| 小型観光船 | 61% (113) | 24% (45) | 10% (18) | 1.1% (2) | 2.2% (4) | 0.0% (0) | 0.5% (1) | 0.0% (0) | 0.5% (1) | 0.5% (1) |
| シーカヤック | 59% (68) | 21% (24) | 8.7% (10) | 0.9% (1) | 2.6% (3) | 1.7% (2) | 1.7% (2) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 4.3% (5) |




ほとんどの利用者（全体の61%）が初めての知床観光である。昨年も同割合（61%）。

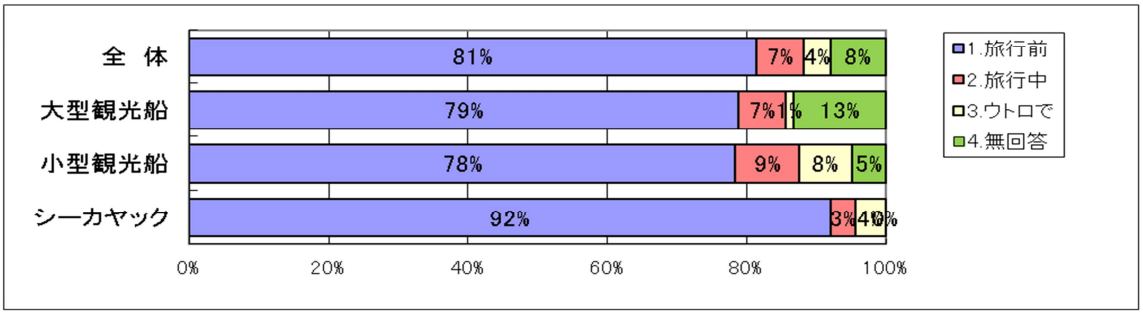
Q 4.. 乗船した航路は？　※シーカヤックを利用された方はQ5.へ

※配布時コントロールされている

Q 5. 今回乗船した船（シーカヤック含む）に乗る計画をしたのはいつですか？

1.旅行前　2.旅行中　3.ウトロで（急に乗ることになった）

| | 1.旅行前 | 2.旅行中 | 3.ウトロで | 4.無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 81% (461) | 7% (39) | 4% (22) | 8% (44) |
| 大型観光船 | 79% (209) | 7% (18) | 1% (3) | 13% (35) |
| 小型観光船 | 78% (146) | 9% (17) | 8% (14) | 5% (9) |
| シーカヤック | 92% (106) | 3% (4) | 4% (5) | 0% (0) |



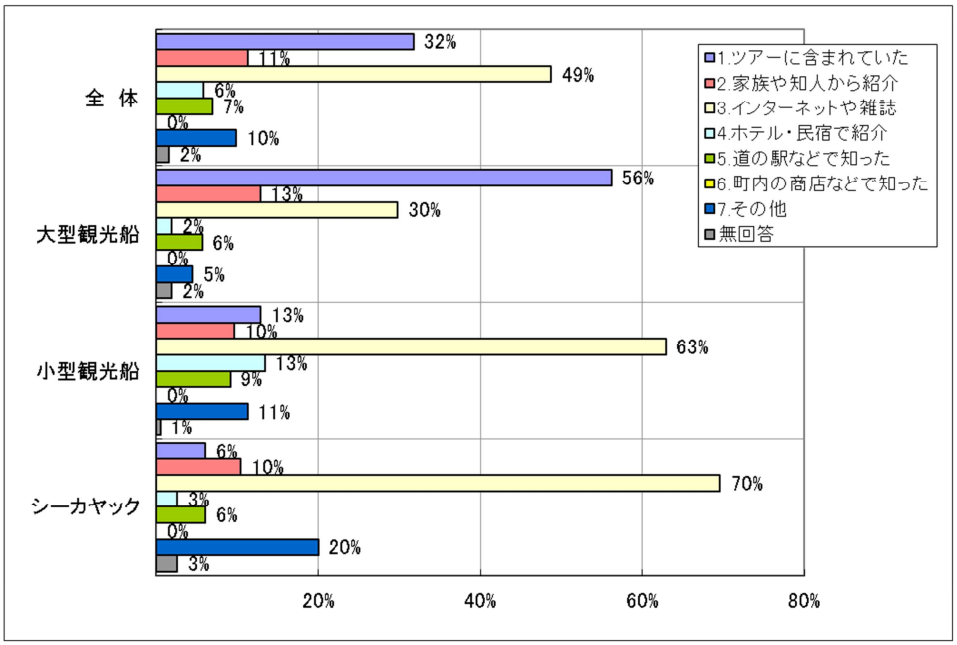

ほとんどの利用者（全体の81%）が、あらかじめ乗船を計画している。昨年もほぼ同割合（85%）

## Q 6. 乗船した船を選んだきっかけは？　－複数回答可

1. ツアーの中でのオプション、アクティビティ
2. 家族や友人などに乗った方が良いと勧められたから
3. インターネット、旅行雑誌などを見た
4. ホテル、民宿などでの紹介
5. 観光案内所・道の駅・世界遺産センターなどで知った（パンフレット等）
6. 町内の商店やコンビニなどで知った
7. その他

| | 1.ツアー | 2.家族や | 3.インタ | 4.ホテル | 5.観光案 | 6.町内の | 7.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 32% (180) | 11% (64) | 49% (276) | 6% (33) | 7% (39) | 0% (0) | 10% (56) | 2% (9) |
| 大型観光船 | 56% (149) | 13% (34) | 30% (79) | 2% (5) | 6% (15) | 0% (0) | 5% (12) | 2% (5) |
| 小型観光船 | 13% (24) | 10% (18) | 63% (117) | 13% (25) | 9% (17) | 0% (0) | 11% (21) | 1% (1) |
| シーカヤック | 6% (7) | 10% (12) | 70% (80) | 3% (3) | 6% (7) | 0% (0) | 20% (23) | 3% (3) |

※括弧内数字＝選択数

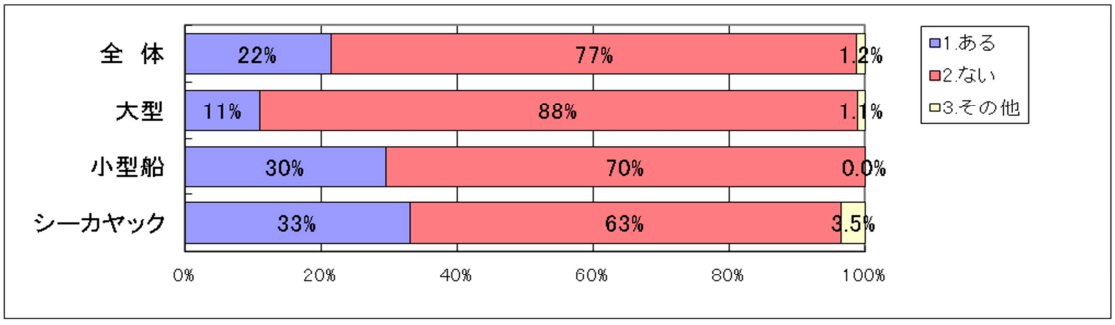



大型船は団体ツアーに組み込まれている事が多く、Q2の旅行タイプの結果に対応している。全体としてはインターネットや雑誌などの情報を元に乗船を決めた割合が高く（全体で49%）、小型船、シーカヤックはそれぞれ63%、70%と高い割合を示している。そのほかシーカヤックの「7.その他」の選択割合が他の船の種類に比べ高く（20%）、内訳として”テレビ番組を見て”という内容のコメントが多く見られた。

Q 7.「こんな情報が欲しかった」と思われる事はありますか？

※事前に雑誌やインターネットで情報を集めた方のみ、お答えください。

| カテゴリ | ある | ない | その他 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 22% (122) | 77% (437) | 1.2% (7) |
| 大型観光船 | 11% (29) | 88% (233) | 1.1% (3) |
| 小型観光船 | 30% (55) | 70% (131) | 0.0% (0) |
| シーカヤック | 33% (38) | 63% (73) | 3.5% (4) |




全体で22%の利用者が欲しかった情報があると回答。各カテゴリの傾向は昨年と同様。

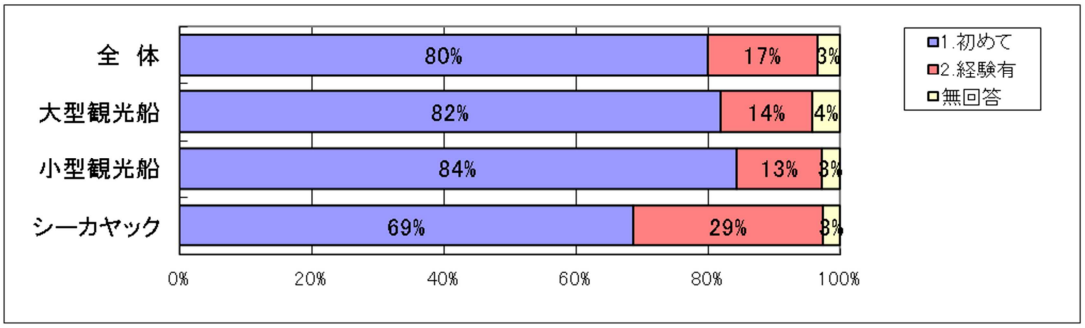
※「ある」と答えた方の意見　（別紙1）

コメント内容は様々であるが、コンディションの情報（寒いこと、濡れる場合がある事、服装）についての要望が多い。そのほか船の席の情報についての要望も多い。昨年もほぼ同様のコメント内訳である。

Q 8. 以前にもウトロの観光船（シーカヤック含む）に乗船したことはありますか？

1. 初めて乗った　2. 以前に乗ったことがある

| | 1.初めて | 2.経験有 | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 80% (453) | 17% (94) | 3% (19) |
| 大型観光船 | 82% (217) | 14% (37) | 4% (11) |
| 小型観光船 | 84% (157) | 13% (24) | 3% (5) |
| シーカヤック | 69% (79) | 29% (33) | 3% (3) |

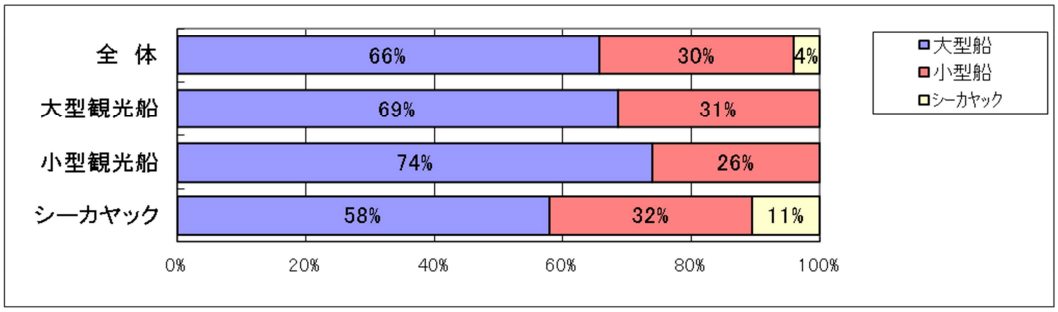



ほとんどの利用者（全体で80%）が初めて乗船されている。各カテゴリとも昨年とほぼ同様の傾向であるがシーカヤックの利用者は過去に知床でいずれかの観光船に乗った事がある方の割合が高い。

2.以前に乗ったことがある方　以前に乗った船のタイプ
大型観光船（　）回　小型観光船（　）回　シーカヤック（　）回

○過去に乗った事のある船のタイプ回答数

| | 大型回答数 | 小型回答数 | カヤ回答数 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 66%（63） | 30%（29） | 4%（4） |
| 大型観光船 | 69%（24） | 31%（11） | 0%（0） |
| 小型観光船 | 74%（17） | 26%（6） | 0%（0） |
| シーカヤック | 58%（22） | 32%（12） | 11%（4） |

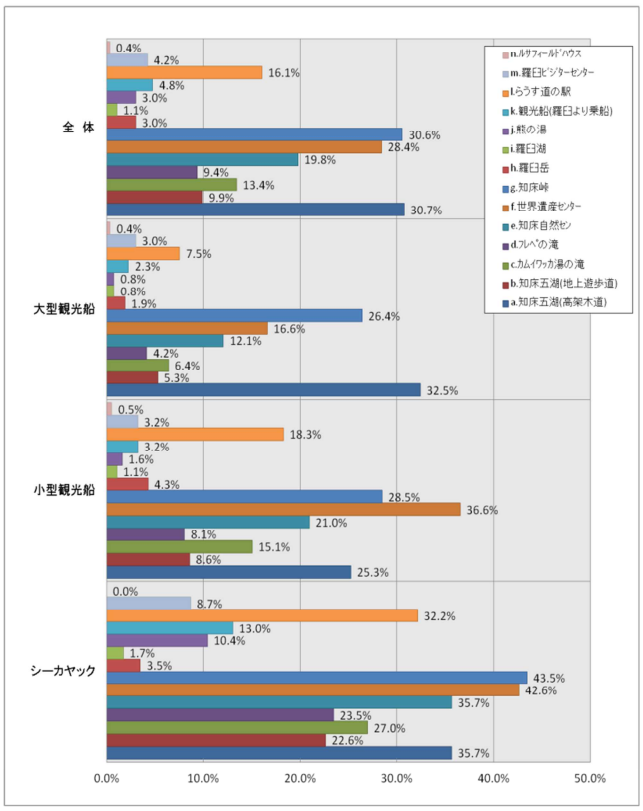



以前に乗った事のあるタイプでは”大型船”がどの種類の船でも最も割合が高い。またシーカヤックのリピートユーザーの割合が高いのが特徴である。傾向としては昨年とほぼ同様である。

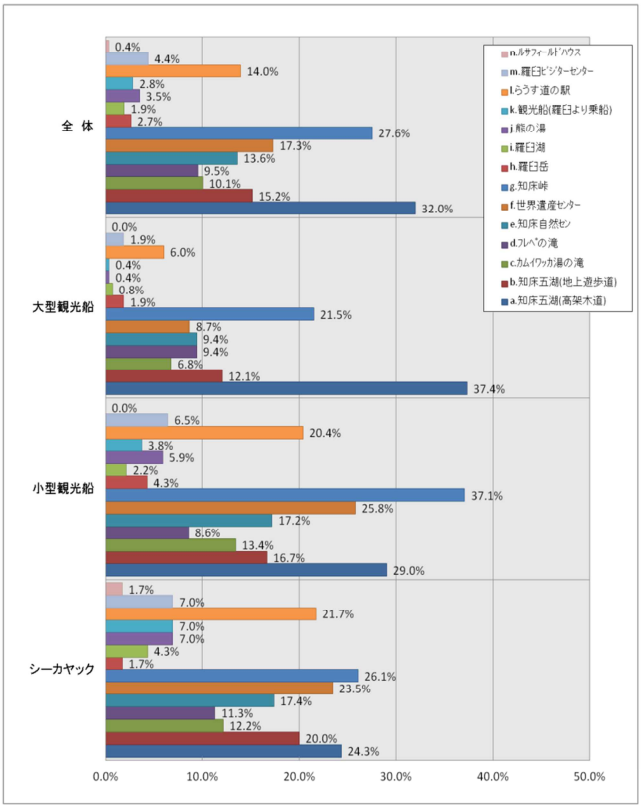
## Q 9. 知床の他の場所への訪問状況について

a.知床五湖(高架木道を散策)　b.知床五湖(地上遊歩道をﾂｱｰで散策)　c.ｶﾑｲﾜｯｶ湯の滝　d.ﾌﾚﾍﾟの滝
e.知床自然ｾﾝﾀｰ　f.世界遺産ｾﾝﾀｰ･うとろ道の駅g.知床峠　h.羅臼岳　i.羅臼湖　j.熊の湯
k.観光船(羅臼より乗船)l.らうす道の駅　m.羅臼ﾋﾞｼﾞﾀｰｾﾝﾀｰ　n.ﾙｻﾌｨｰﾙﾄﾞﾊｳｽ

○乗船前に行った場所




○乗船後に行った場所



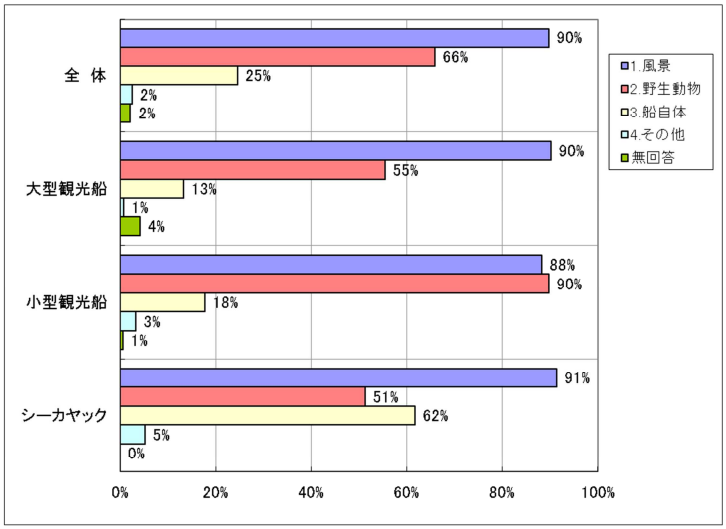

「g.知床峠」、「f.世界遺産センター」、「a.知床五湖（高架木道）」の利用率が高い。
乗船前後の比較では「f.世界遺産センター」が乗船前に立ち寄っている傾向が高い。ウトロに到着してまず訪れる場所となっていることがうかがえる。またシーカヤックの利用者は色々な所を訪問している割合が高く”積極的な観光”をしている事がうかがえる。昨年の結果から大きな変化は見られない。

Q 10. この船（シーカヤック含む）に乗る前に何に期待しましたか？－複数回答可

1. 風　景　　2. 野生動物　　3. 船という乗り物自体に乗る楽しみ　　4. その他

| | 1.風景 | 2.野生動物 | 3.船自体 | 4.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 90% (508) | 66% (373) | 25% (139) | 2% (14) | 2% (12) |
| 大型観光船 | 90% (239) | 55% (147) | 13% (35) | 1% (2) | 4% (11) |
| 小型観光船 | 88% (164) | 90% (167) | 18% (33) | 3% (6) | 1% (1) |
| シーカヤック | 91% (105) | 51% (59) | 62% (71) | 5% (6) | 0% (0) |

※括弧内数字＝選択数



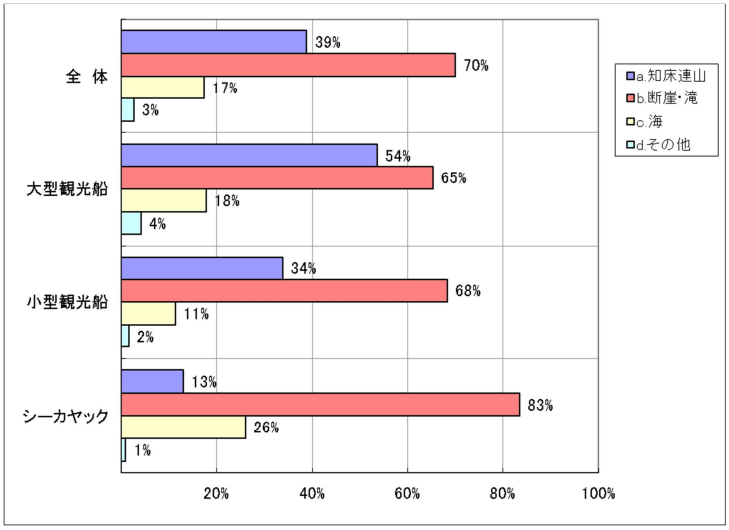

全体の傾向としては「1.風景」への期待割合が高いが、個別に見ると小型船の「2.野生動物」への期待割合が非常に高い。シーカヤックは「3.船自体」に乗る事を楽しみにしている割合が高い。昨年の結果とほぼ同様の傾向が見られている。

「風景」と答えた方→　一番期待していたものは？

a.知床連山　　b.断崖･滝　　c.海　　d.その他（　　）

| | a.知床連山 | b.断崖･滝 | c.海 | d.その他 |
|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 39% (220) | 70% (396) | 17% (98) | 3% (15) |
| 大型観光船 | 54% (142) | 65% (173) | 18% (47) | 4% (11) |
| 小型観光船 | 34% (63) | 68% (127) | 11% (21) | 2% (3) |
| シーカヤック | 13% (15) | 83% (96) | 26% (30) | 1% (1) |

※括弧内数字＝選択数

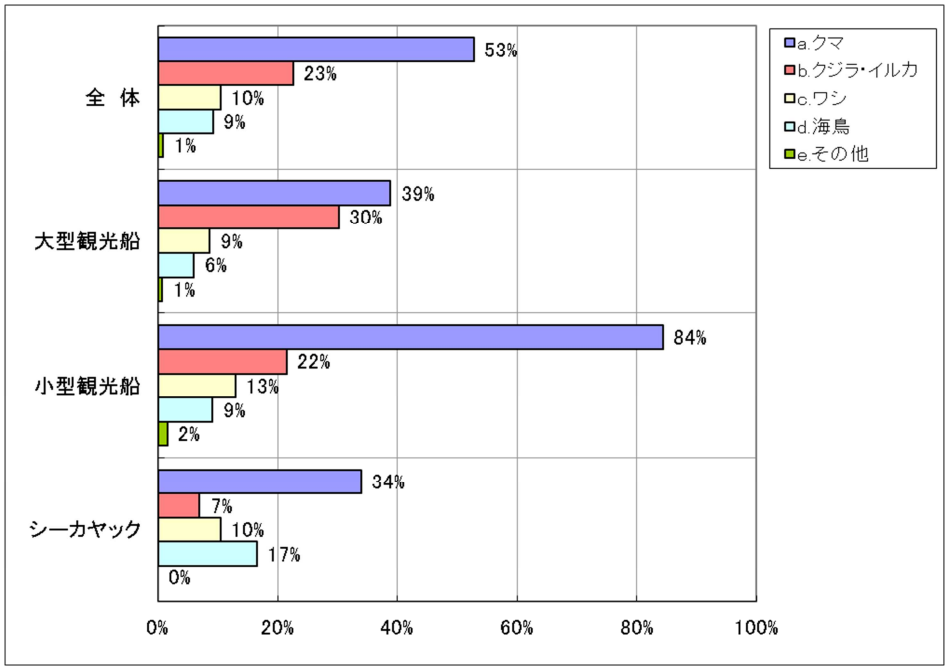



風景への期待の内訳としては「b.断崖・滝」が最も選択されている。海からしか見る事が出来ない風景であることがその要因？シーカヤックの「c.海」の選択率の高さは海を最も近くに感じる事が出来る乗り物であることによるものと思われる。全体的に昨年度とほぼ同様の傾向が見られる。

「野生動物」と答えた方→　一番期待していたものは？
a.クマ　b.クジラやイルカ　c.ワシ　d.海鳥　e.その他（　　）

| | a.クマ | b.クジラ･イルカ | c.ワシ | d.海鳥 | e.その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 53% (299) | 23% (128) | 10% (59) | 9% (52) | 1% (5) |
| 大型観光船 | 39% (103) | 30% (80) | 9% (23) | 6% (16) | 1% (2) |
| 小型観光船 | 84% (157) | 22% (40) | 13% (24) | 9% (17) | 2% (3) |
| シーカヤック | 34% (39) | 7% (8) | 10% (12) | 17% (19) | 0% (0) |

※括弧内数字＝選択数




圧倒的に「a.クマ」への期待が大きく、小型船はこの特徴が際立っている。シーカヤックで「d.海鳥」への期待割合が高い（17%）。昨年度のほぼ同様の傾向となっており、”海鳥への期待”の増加を期待したいが、残念ながら昨年とほぼ同様の値で向上しているとは言えない。

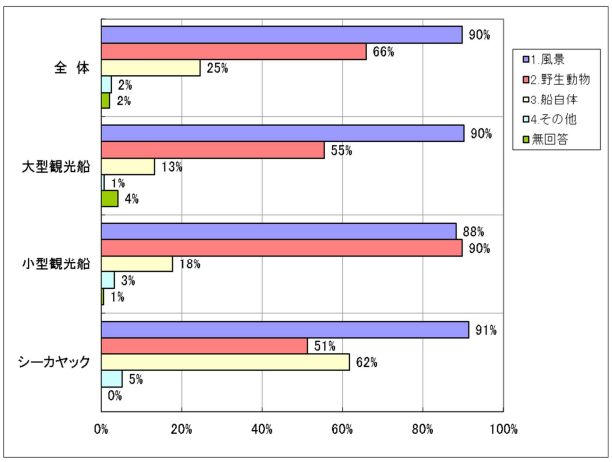
## Q 11. 乗船して何が印象に残っていますか？（良かった点）－複数回答可

1. 風　景　　2. 野生動物　　3. 船に乗ること自体が面白かった　　4. その他

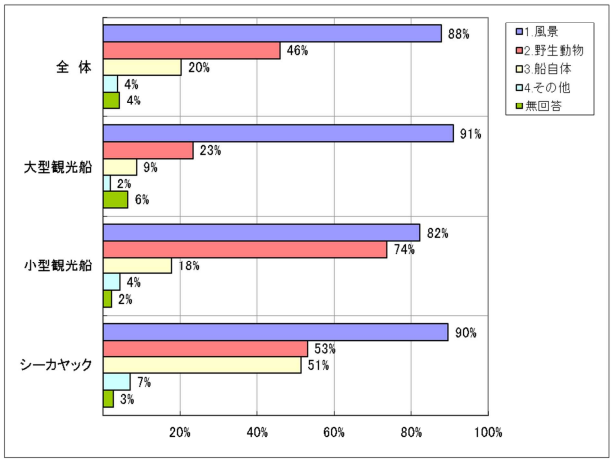
| | 1.風景 | 2.野生動物 | 3.船自体 | 4.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 88% (497) | 46% (260) | 20% (115) | 4% (21) | 4% (24) |
| 大型観光船 | 91% (241) | 23% (62) | 9% (23) | 2% (5) | 6% (17) |
| 小型観光船 | 82% (153) | 74% (137) | 18% (33) | 4% (8) | 2% (4) |
| シーカヤック | 90% (103) | 53% (61) | 51% (59) | 7% (8) | 3% (3) |

※括弧内数字＝選択数

Q10. 乗船前の期待




Q11. 乗船後の印象




全体では「1.風景」はどの種類の船においても高い満足度が得られている。一方「2.野生動物」への印象では乗船前の期待より乗船後の印象の割合が低下しており、当たり外れがあることの結果と考えられる。しかし小型船の「2.野生動物」への印象が74%と高い割合を示しており、これはクマの目撃率の高さを反映した結果と考えられる。全体としては昨年度とほぼ同様の傾向であった。

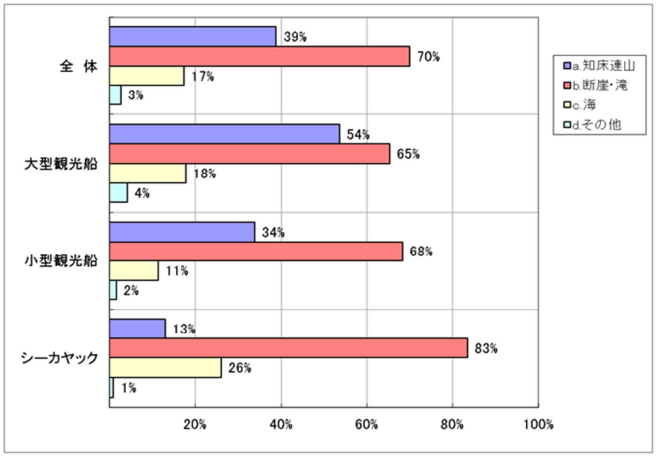
### 「風景」と答えた方→　一番印象に残っているのは？

a.知床連山　　b.断崖･滝　　c.海　　d.その他（　　）

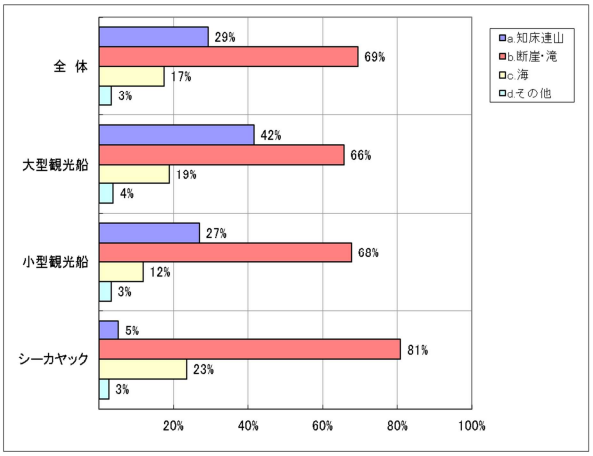
| | a.知床連山 | b.断崖･滝 | c.海 | d.その他 |
|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 29% (166) | 69% (393) | 17% (99) | 3% (19) |
| 大型観光船 | 42% (110) | 66% (174) | 19% (50) | 4% (10) |
| 小型観光船 | 27% (50) | 68% (126) | 12% (22) | 3% (6) |
| シーカヤック | 5% (6) | 81% (93) | 23% (27) | 3% (3) |

※括弧内数字＝選択数

Q10. 乗船前の期待




Q11. 乗船後の印象



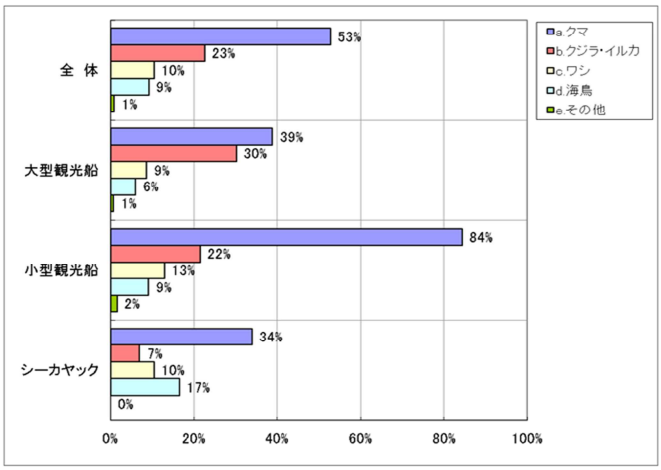

風景の中では"断崖や滝"が最も期待されている。乗船前後の傾向の差は殆んど見られず、期待どおりの満足度が得られているようである。傾向的には昨年度とほぼ同様である。

「野生動物」と答えた方→　一番印象に残っているのは？
a.クマ　b.クジラやイルカ　c.ワシ　d.海鳥　e.その他（　　）

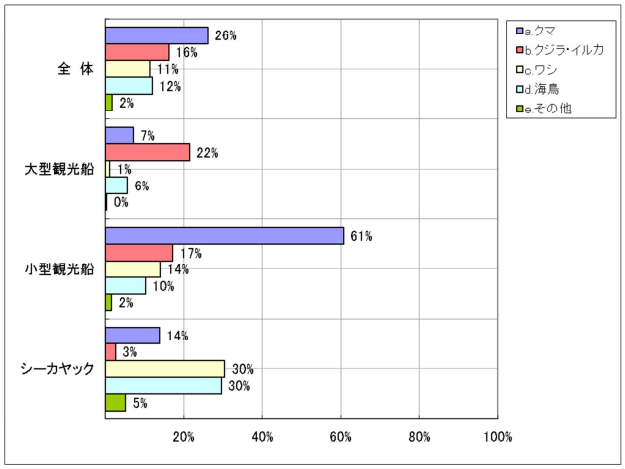
| | a.クマ | b.クジラ･イルカ | c.ワシ | d.海鳥 | e.その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 26%（148） | 16%（92） | 11%（64） | 12%（68） | 2%（10） |
| 大型観光船 | 7%（19） | 22%（57） | 1%（3） | 6%（15） | 0%（1） |
| 小型観光船 | 61%（113） | 17%（32） | 14%（26） | 10%（19） | 2%（3） |
| シーカヤック | 14%（16） | 3%（3） | 30%（35） | 30%（34） | 5%（6） |

※括弧内数字＝選択数

Q10.　乗船前の期待




Q11.　乗船後の印象



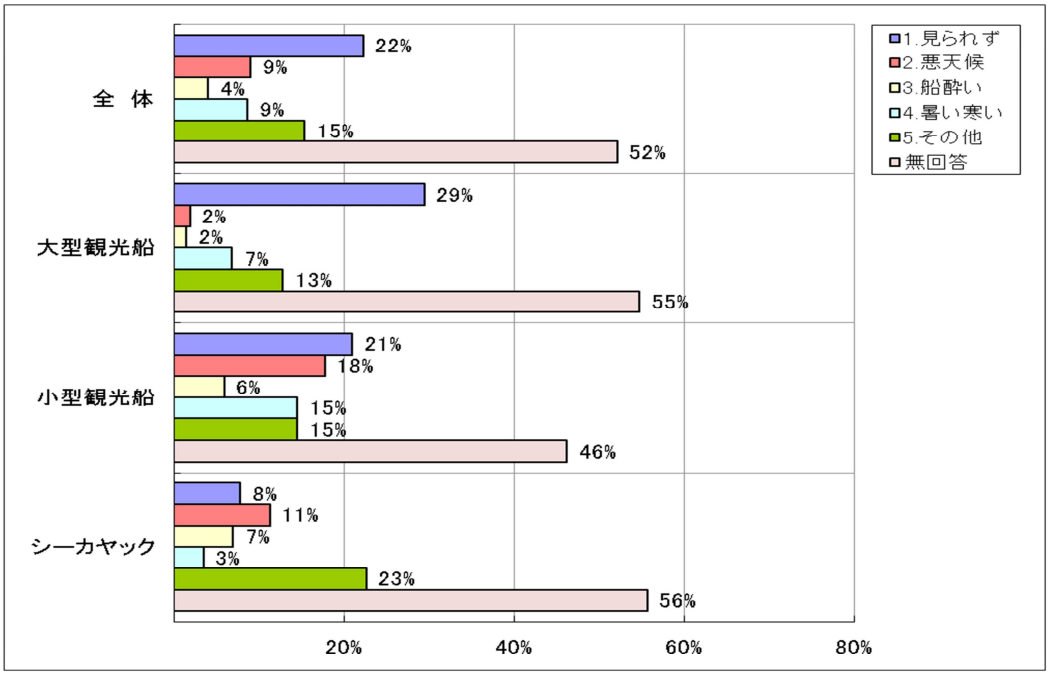

全体的に”期待＞印象”の傾向が見られるが数値的には小型船のクマへの期待と印象が突出している。次いで「b.クジラ･イルカ」について見ることが出来た利用者は強い印象を残し、大型船ではクマを凌いでいる。
「d.海鳥」への印象はどのカテゴリにおいても乗船前の期待とほぼ同等の印象が乗船後に感じられており、全体数値では「c.ワシ」と同程度の興味対象であることが示されている。シーカヤックで「d.海鳥」への乗船後の印象の伸びは顕著（17%→30%）である。昨年もシーカヤックは同様の傾向が出ていたが、今年はワシについても(10%→30%)と大きな伸びが見られている。

## Q12.乗船して残念だった点はありますか？　－複数回答可

1. 見たかった物が見られなかった。　2. 天候が悪かった。　3. 船酔いしてしまった。
4. 暑かった・寒かった・濡れてしまった等　5. その他

| | 1.見られず | 2.悪天候 | 3.船酔い | 4.暑い寒い | 5.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 22% (126) | 9% (51) | 4% (23) | 9% (49) | 15% (87) | 52% (295) |
| 大型観光船 | 29% (78) | 2% (5) | 2% (4) | 7% (18) | 13% (34) | 55% (145) |
| 小型観光船 | 21% (39) | 18% (33) | 6% (11) | 15% (27) | 15% (27) | 46% (86) |
| シーカヤック | 8% (9) | 11% (13) | 7% (8) | 3% (4) | 23% (26) | 56% (64) |

※括弧内数字＝選択数




回答の中で「無回答」が最も多く、概ね満足考えられている事を表していると言える。残念だった点として選択されたものでは「1.見たかったものが見られなかった」が多い。またシーカヤックの「5.その他」の回答も比較的多いが、「波が怖かった」「漕ぐのが大変だった」など小型で自力航行のシーカヤック特有の内容のコメントが目立った。

## Q 13.船内放送（案内・解説）の感想をお聞かせください。

※　（別紙2）

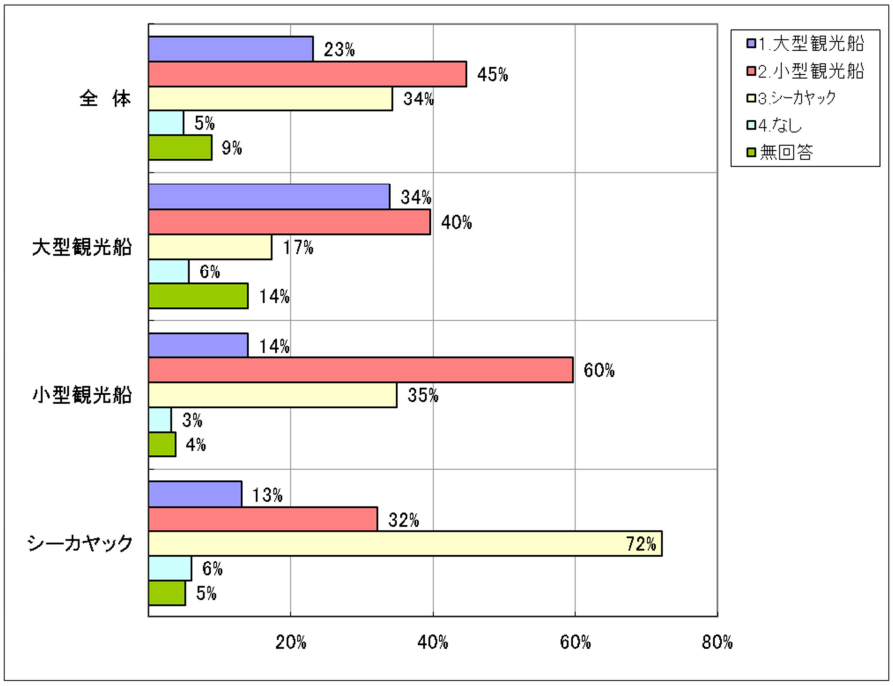
音が聞こえにくかった点や説明内容に関する要望、解説が適切で良く解ったなどの評価など、様々な意見が寄せられた。

## Q 14. 次回ウトロに来た時に乗ってみたい船のタイプはありますか？　－複数回答可

1. 大型観光船　2. 小型観光船　3. シーカヤック　4. なし

| | 1.大型観光船 | 2.小型観光船 | 3.シーカヤック | 4.なし | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 23% (131) | 45% (253) | 34% (194) | 5% (28) | 9% (50) |
| 大型観光船 | 34% (90) | 40% (105) | 17% (46) | 6% (15) | 14% (37) |
| 小型観光船 | 14% (26) | 60% (111) | 35% (65) | 3% (6) | 4% (7) |
| シーカヤック | 13% (15) | 32% (37) | 72% (83) | 6% (7) | 5% (6) |

※括弧内数字＝選択数

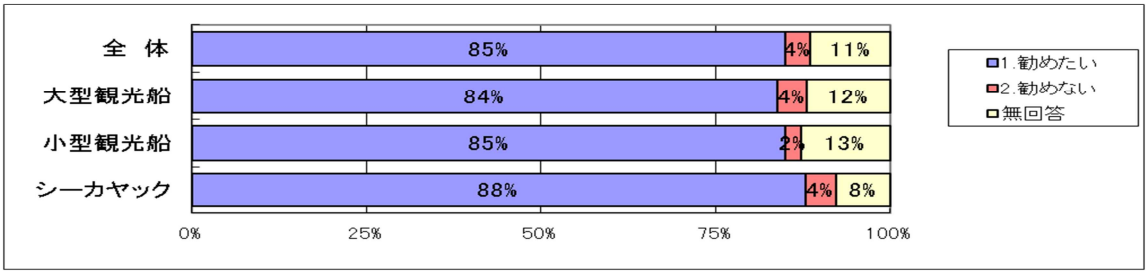



小型船とシーカヤックは次に来たときも同じタイプの船に乗りたいと感じているが、大型船のみ次回小型船に乗ってみたいという利用者が自船を14%上回っている。傾向としては昨年とほぼ同様である。

## Q 15. 今回乗った船を家族や友人会社の同僚などにお勧めしたいですか？

1.お勧めしたい　2.お勧めできない

| カテゴリ | 1.勧めたい | 2.勧めない | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 85% (481) | 4% (20) | 11% (65) |
| 大型観光船 | 84% (222) | 4% (11) | 12% (32) |
| 小型観光船 | 85% (158) | 2% (4) | 13% (24) |
| シーカヤック | 88% (101) | 4% (5) | 8% (9) |




全体で85%の方々が「1.勧めたい」と回答されており、どのカテゴリにおいても利用者の満足感が得られている事を表していると考えられる。昨年度とほぼ同様（90%）の結果である。

Q 16. そのほか乗船後の率直な感想など是非お聞かせください。

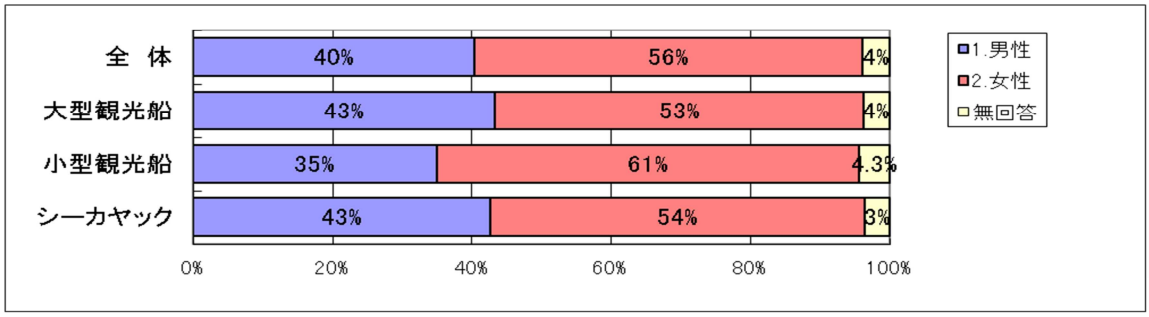
※ （別紙3）

様々な回答が寄せられている。

Q 17. 性別・年齢

性 別　1.男性　2.女性

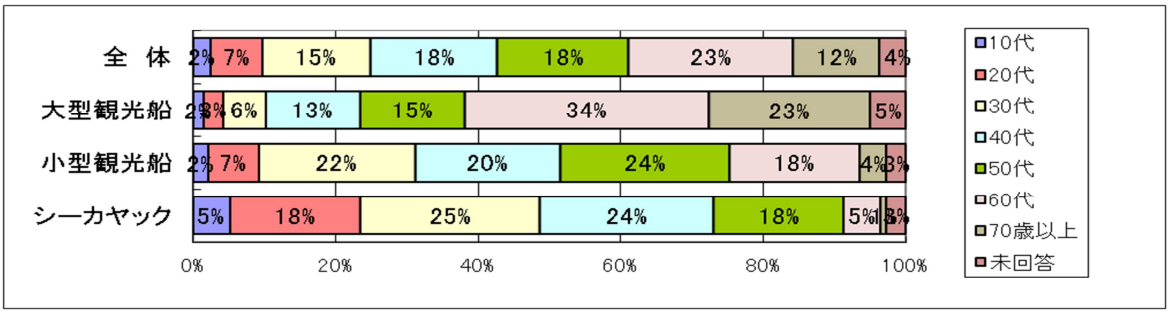
| | 1.男性 | 2.女性 | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 40% (229) | 56% (315) | 4% (22) |
| 大型観光船 | 43% (115) | 53% (140) | 4% (10) |
| 小型観光船 | 35% (65) | 61% (113) | 4.3% (8) |
| シーカヤック | 43% (49) | 54% (62) | 3% (4) |




配布時に性別の偏りないようにコントロールされているため、利用者全体の実際の割合には一致しない。

年 齢　a.10代　b.20代　c.30代　d.40代　e.50代　f.60代　g.70歳以上

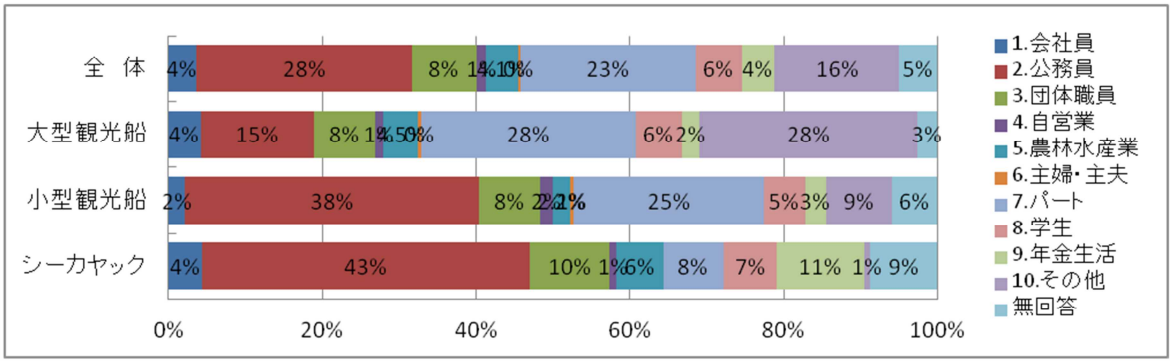
| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70歳以上 | 未回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 2% (14) | 7% (41) | 15% (86) | 18% (101) | 18% (104) | 23% (131) | 12% (68) | 4% (21) |
| 大型観光船 | 2% (4) | 3% (7) | 6% (16) | 13% (35) | 15% (39) | 34% (91) | 23% (60) | 5% (13) |
| 小型観光船 | 2.2% (4) | 7% (13) | 22% (41) | 20% (38) | 24% (44) | 18% (34) | 4% (7) | 3% (5) |
| シーカヤック | 5% (6) | 18% (21) | 25% (29) | 24% (28) | 18% (21) | 5% (6) | 1% (1) | 3% (3) |




配布時に年代に偏りないようにコントロールされているため、利用者全体の実際の割合には一致しないが、大型船の60歳代以上の割合が高いこと、小型船、シーカヤックで若い年代が多い事などは、ある程度実態を反映している物と思われる。昨年度もほぼ同様の傾向である。

## Q 18. ご職業

| | 1.会社員 | 2.公務員 | 3.団体職員 | 4.自営業 | 5.農林水産業 | 6.主婦・主夫 | 7.パート | 8.学生 | 9.年金生活 | 10.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 4% (20) | 28% (159) | 8% (48) | 1% (7) | 4.1% (23) | 0% (2) | 23% (129) | 6% (34) | 4% (24) | 16% (92) | 5% (28) |
| 大型観光船 | 4% (11) | 15% (39) | 8% (21) | 1% (3) | 4.5% (12) | 0% (1) | 28% (74) | 6% (16) | 2% (6) | 28% (75) | 3% (7) |
| 小型観光船 | 2% (4) | 38% (71) | 8% (15) | 2% (3) | 2.2% (4) | 1% (1) | 25% (46) | 5% (10) | 3% (5) | 9% (16) | 5.9% (11) |
| シーカヤック | 4% (5) | 43% (49) | 10% (12) | 1% (1) | 6% (7) | 0% (0) | 8% (9) | 7% (8) | 11% (13) | 1% (1) | 9% (10) |

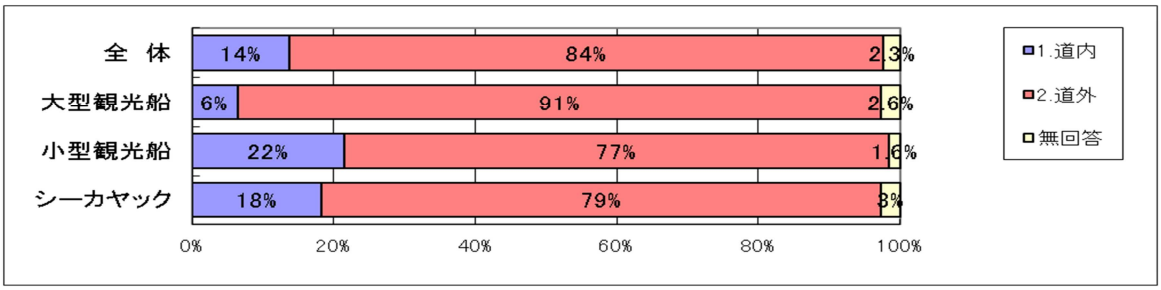



船種カテゴリ別の利用者年齢層を反映していると思われる。大型→小型→シーカヤック　の順で利用者の年齢は　高→低　の傾向。

## Q 19. どこから来られましたか？

1.道内（網走管内）　2.道内（その他の地域）　3.道外　4.海外（　　）

| | 1.道内 | 2.道外 | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 全 体 | 14% (78) | 84% (475) | 2.3% (13) |
| 大型観光船 | 6% (17) | 91% (241) | 2.6% (7) |
| 小型観光船 | 22% (40) | 77% (143) | 1.6% (3) |
| シーカヤック | 18% (21) | 79% (91) | 2.6% (3) |




圧倒的に道外からの利用者が多い。全体では84%にものぼる。昨年度と同じ傾向（85%）である。

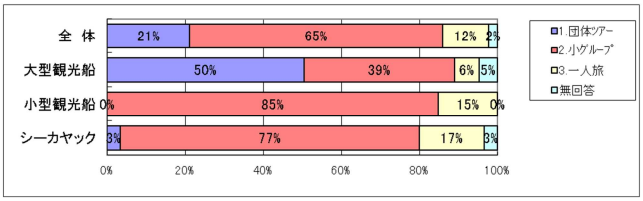
## 3-4.　アンケート調査結果（前期（6-7 月）・後期（8-9 月）比較）

**Q1. .乗船日および天候状況について　※対象外**

**Q2. 今回知床に訪れた旅行のタイプは？**

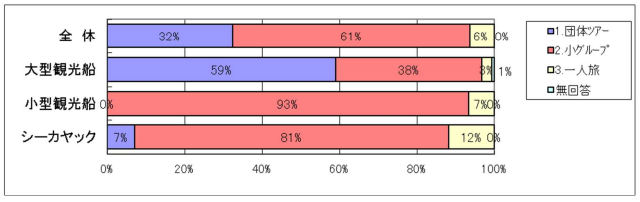
1.団体旅行-ツアー　2. 小グループ旅行(家族-友人)　3. 一人旅

**前期**




| | 1.団体ﾂｱｰ | 2.小ｸﾞﾙｰﾌﾟ | 3.一人旅 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 21% (56) | 65% (171) | 12% (31) | 2% (6) |
| 大型観光船 | 50% (55) | 39% (42) | 6% (7) | 5% (5) |
| 小型観光船 | 0% (0) | 85% (106) | 15% (19) | 0% (0) |
| シーカヤック | 3% (1) | 77% (23) | 17% (5) | 3% (1) |

**後期**

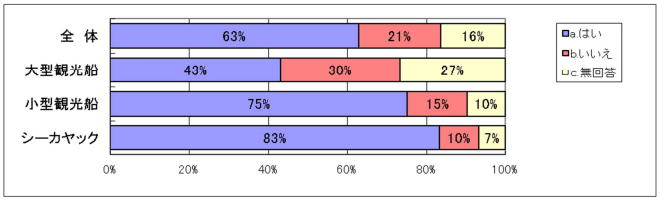



| | 1.団体ﾂｱｰ | 2.小ｸﾞﾙｰﾌﾟ | 3.一人旅 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 32% (98) | 61% (185) | 6% (18) | 0% (1) |
| 大型観光船 | 59% (92) | 38% (59) | 3% (4) | 1% (1) |
| 小型観光船 | 0% (0) | 93% (57) | 7% (4) | 0% (0) |
| シーカヤック | 7% (6) | 81% (69) | 12% (10) | 0% (0) |

前後期による差は見られない。昨年と比較しても大きな傾向の差は見られない。

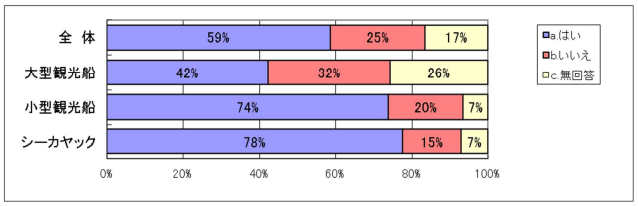
**Q2-1. ウトロに宿泊されましたか？**

**前期**




| | a.はい | b.いいえ | c.無回答 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 63% (166) | 21% (55) | 16% (43) |
| 大型観光船 | 43% (47) | 30% (33) | 27% (29) |
| 小型観光船 | 75% (94) | 15% (19) | 10% (12) |
| シーカヤック | 83% (25) | 10% (3) | 7% (2) |

**後期**

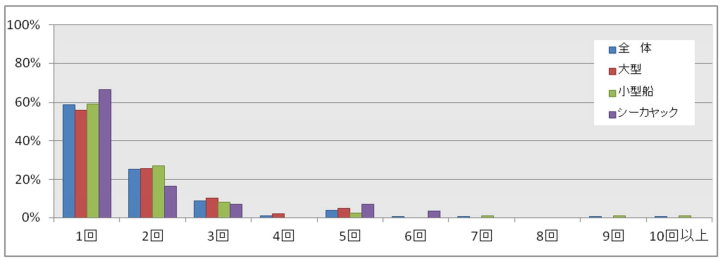



| | a.はい | b.いいえ | c.無回答 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 59% (177) | 25% (75) | 17% (50) |
| 大型観光船 | 42% (66) | 32% (50) | 26% (40) |
| 小型観光船 | 74% (45) | 20% (12) | 7% (4) |
| シーカヤック | 78% (66) | 15% (13) | 7% (6) |

前後期による差は見られない。大型船のウトロ宿泊率が昨年より低下しているが、これはアンケートの配布数減少により、配布した便が午後の便に偏りが出たためと考えられる。

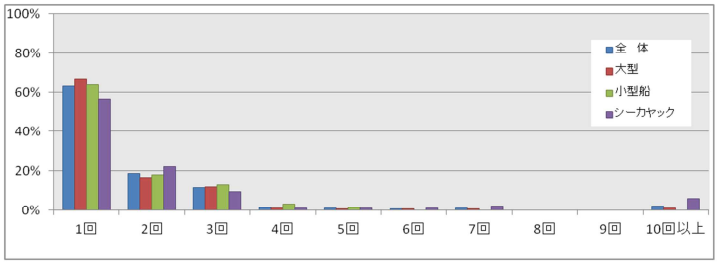
**Q3. 知床に旅行されたのは今回で何度目ですか？**

前期




| | 1回 | 2回 | 3回 | 4回 | 5回 | 6回 | 7回 | 8回 | 9回 | 10回以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 59% (155) | 25% (67) | 8.7% (23) | 0.8% (2) | 3.8% (10) | 0.4% (1) | 0.4% (1) | 0.0% (0) | 0.4% (1) | 0.4% (1) |
| 大型観光船 | 56% (61) | 26% (28) | 10.1% (11) | 1.8% (2) | 4.6% (5) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 0.0% (0) |
| 小型観光船 | 59% (74) | 27% (34) | 8% (10) | 0.0% (0) | 2.4% (3) | 0.0% (0) | 0.8% (1) | 0.0% (0) | 0.8% (1) | 0.8% (1) |
| シーカヤック | 67% (20) | 17% (5) | 6.7% (2) | 0.0% (0) | 6.7% (2) | 3.3% (1) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 0.0% (0) |

後期



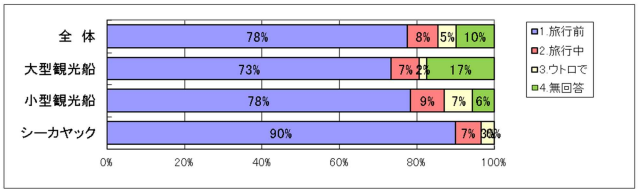

| | 1回 | 2回 | 3回 | 4回 | 5回 | 6回 | 7回 | 8回 | 9回 | 10回以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 63% (191) | 19% (56) | 11.6% (35) | 1.7% (5) | 1.0% (3) | 0.7% (2) | 1.0% (3) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 2.3% (7) |
| 大型観光船 | 67% (104) | 17% (26) | 12.2% (19) | 1.3% (2) | 0.6% (1) | 0.6% (1) | 0.6% (1) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 1.3% (2) |
| 小型観光船 | 64% (39) | 18% (11) | 13% (8) | 3.3% (2) | 1.6% (1) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 0.0% (0) |
| シーカヤック | 56% (48) | 22% (19) | 9.4% (8) | 1.2% (1) | 1.2% (1) | 1.2% (1) | 2.4% (2) | 0.0% (0) | 0.0% (0) | 5.9% (5) |

差は見られない。

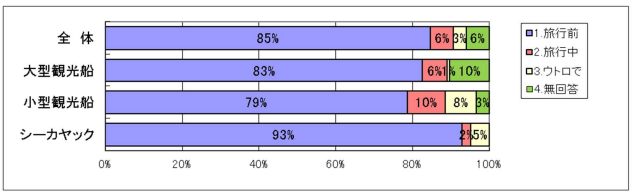
**Q4.乗船した航路は？　※配布時コントロールされているため比較対象外**

**Q5. 今回乗船した船（シーカヤック含む）に乗る計画をしたのはいつですか？**

前期




後期



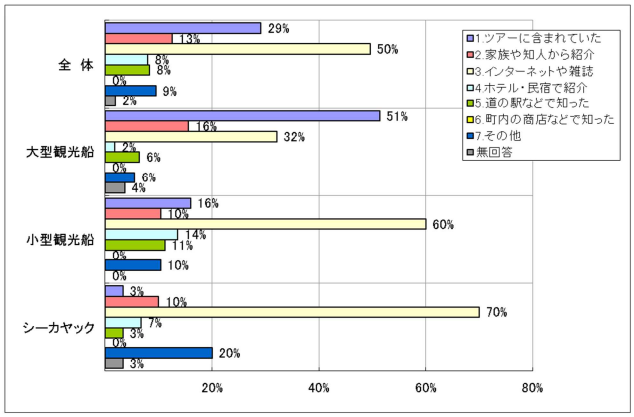

| | 1.旅行前 | 2.旅行中 | 3.ウトロで | 4.無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 78% (205) | 8% (21) | 5% (12) | 10% (26) |
| 大型観光船 | 73% (80) | 7% (8) | 2% (2) | 17% (19) |
| 小型観光船 | 78% (98) | 9% (11) | 7% (9) | 6% (7) |
| シーカヤック | 90% (27) | 7% (2) | 3% (1) | 0% (0) |

| | 1.旅行前 | 2.旅行中 | 3.ウトロで | 4.無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 85% (256) | 6% (18) | 3% (10) | 6% (18) |
| 大型観光船 | 83% (129) | 6% (10) | 1% (1) | 10% (16) |
| 小型観光船 | 79% (48) | 10% (6) | 8% (5) | 3% (2) |
| シーカヤック | 93% (79) | 2% (2) | 5% (4) | 0% (0) |

前後期の差はほとんど見られない。昨年比では前期の大型船、小型船で、”旅行前”の割合が10%程度低下している。一方で大型船は”無回答”が9%→17%に増加、小型船は”旅行中”が6%→9%に上昇。

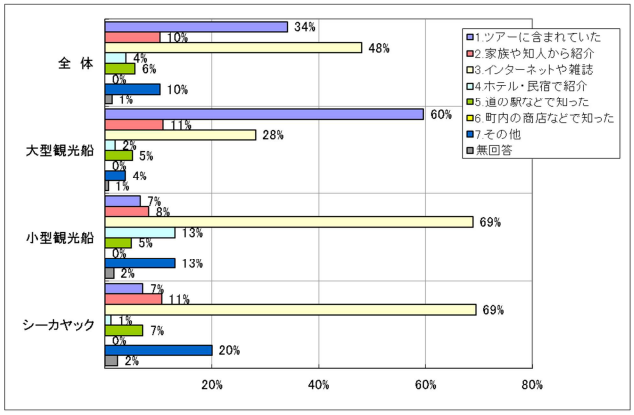
## Q6. 乗船した船を選んだきっかけは？　－複数回答可

前期




| | 1.ツアー | 2.家族や | 3.インタ | 4.ホテル | 5.観光案 | 6.町内の | 7.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 29% (77) | 13% (33) | 50% (131) | 8% (21) | 8% (22) | 0% (0) | 9% (25) | 2% (5) |
| 大型観光船 | 51% (56) | 16% (17) | 32% (35) | 2% (2) | 6% (7) | 0% (0) | 6% (6) | 4% (4) |
| 小型観光船 | 16% (20) | 10% (13) | 60% (75) | 14% (17) | 11% (14) | 0% (0) | 10% (13) | 0% (0) |
| シーカヤック | 3% (1) | 10% (3) | 70% (21) | 7% (2) | 3% (1) | 0% (0) | 20% (6) | 3% (1) |

後期

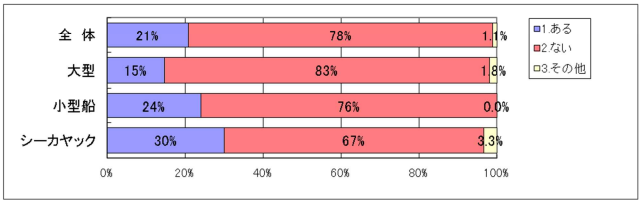



| | 1.ツアー | 2.家族や | 3.インタ | 4.ホテル | 5.観光案 | 6.町内の | 7.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 34% (103) | 10% (31) | 48% (145) | 4% (12) | 6% (17) | 0% (0) | 10% (31) | 1% (4) |
| 大型観光船 | 60% (93) | 11% (17) | 28% (44) | 2% (3) | 5% (8) | 0% (0) | 4% (6) | 1% (1) |
| 小型観光船 | 7% (4) | 8% (5) | 69% (42) | 13% (8) | 5% (3) | 0% (0) | 13% (8) | 2% (1) |
| シーカヤック | 7% (6) | 11% (9) | 69% (59) | 1% (1) | 7% (6) | 0% (0) | 20% (17) | 2% (2) |

差は見られない。

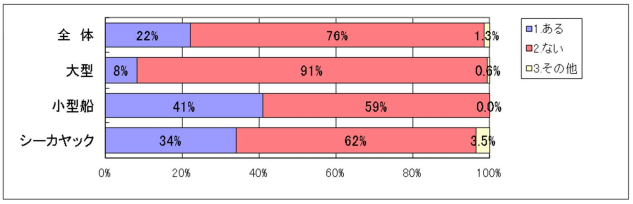
## Q7.「こんな情報が欲しかった」と思われる事はありますか？

前期




| カテゴリ | ある | ない | その他 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 21% (55) | 78% (206) | 1.1% (3) |
| 大型観光船 | 15% (16) | 83% (91) | 1.8% (2) |
| 小型観光船 | 24% (30) | 76% (95) | 0.0% (0) |
| シーカヤック | 30% (9) | 67% (20) | 3.3% (1) |

後期

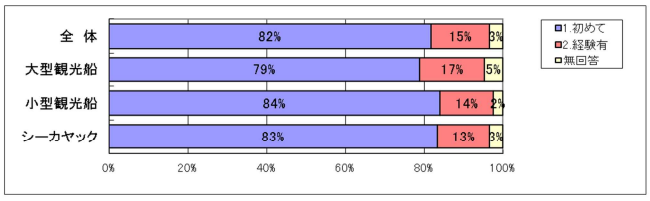



| カテゴリ | ある | ない | その他 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 22% (67) | 76% (231) | 1.3% (4) |
| 大型観光船 | 8% (13) | 91% (142) | 0.6% (1) |
| 小型観光船 | 41% (25) | 59% (36) | 0.0% (0) |
| シーカヤック | 34% (29) | 62% (53) | 3.5% (3) |

小型船で前期より後期に「ある」の回答率が上昇しているが、傾向的に差は見られない。昨年からの傾向の変化も見られない。

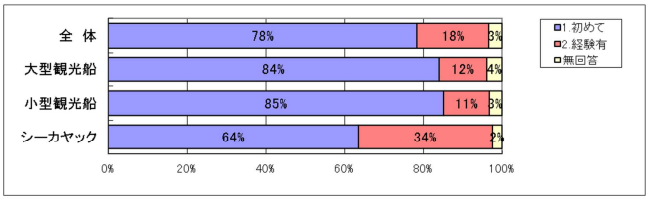
## Q8-1. 以前にもウトロの観光船（シーカヤック含む）に乗船したことはありますか？

前期




| | 1.初めて | 2.経験有 | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 82% (216) | 15% (39) | 3% (9) |
| 大型観光船 | 79% (86) | 17% (18) | 5% (5) |
| 小型観光船 | 84% (105) | 14% (17) | 2% (3) |
| シーカヤック | 83% (25) | 13% (4) | 3% (1) |

後期

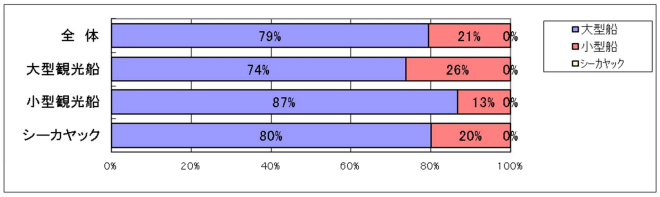



| | 1.初めて | 2.経験有 | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 78% (237) | 18% (55) | 3% (10) |
| 大型観光船 | 84% (131) | 12% (19) | 4% (6) |
| 小型観光船 | 85% (52) | 11% (7) | 3% (2) |
| シーカヤック | 64% (54) | 34% (29) | 2% (2) |

シーカヤックで前期の利用者の方が「初めて乗る」割合が後期に比べ20%程高めとなっているが、その他は大きな差は見られない。
昨年からの傾向の変化としてはシーカヤックの後期の”経験あり”の割合がやや上昇している。

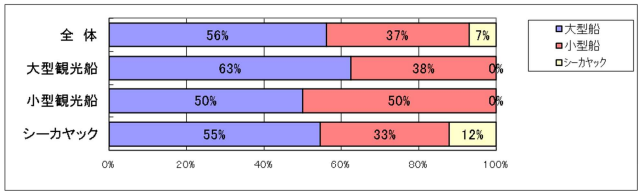
**Q8-2. 以前に乗ったことがある方　→　以前に乗った船のタイプ**

前期




| | 大型回答数 | 小型回答数 | カヤ回答数 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 79% (31) | 21% (8) | 0% (0) |
| 大型観光船 | 74% (14) | 26% (5) | 0% (0) |
| 小型観光船 | 87% (13) | 13% (2) | 0% (0) |
| シーカヤック | 80% (4) | 20% (1) | 0% (0) |

後期

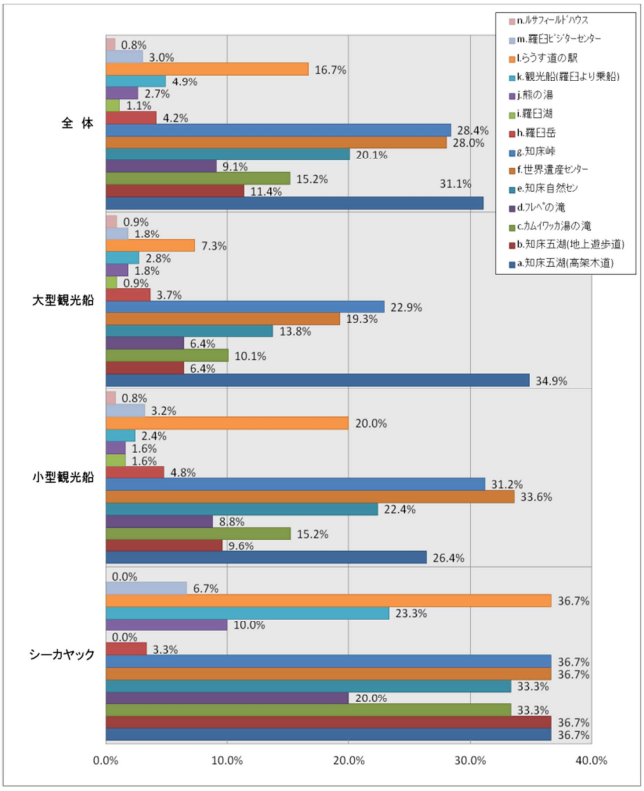



| | 大型回答数 | 小型回答数 | カヤ回答数 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 56% (32) | 37% (21) | 7% (4) |
| 大型観光船 | 63% (10) | 38% (6) | 0% (0) |
| 小型観光船 | 50% (4) | 50% (4) | 0% (0) |
| シーカヤック | 55% (18) | 33% (11) | 12% (4) |

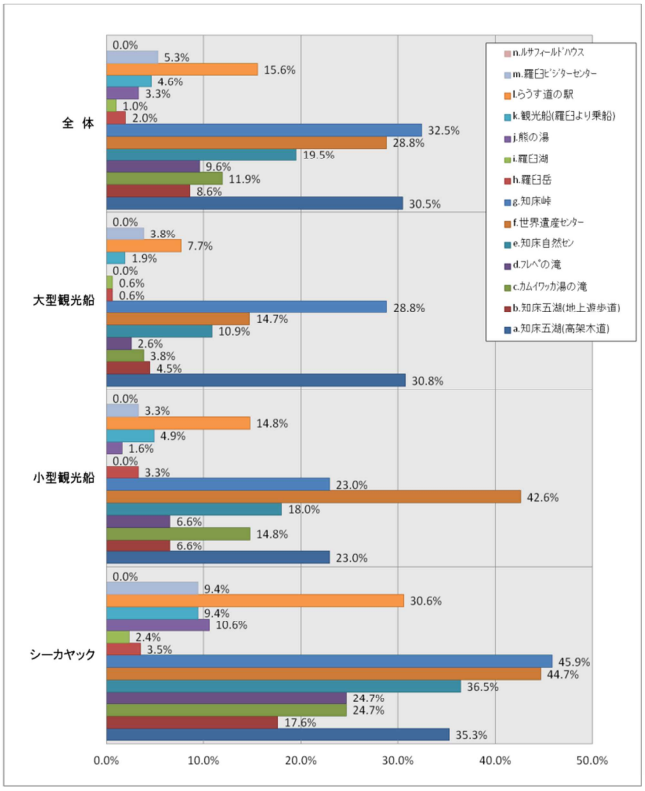
比較困難　（前期･後期で選択割合で差が見られるが、回答数が少ないため比較は適当でないと思われる）。

**Q9-1. 知床の他の場所への訪問状況について　ー複数回答可　（乗船前の訪問箇所）**

前期



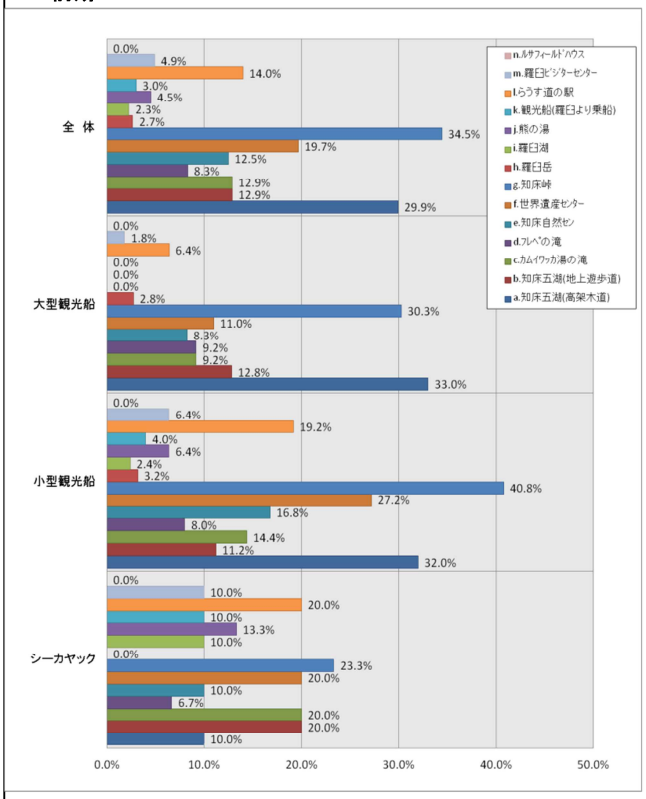

後期



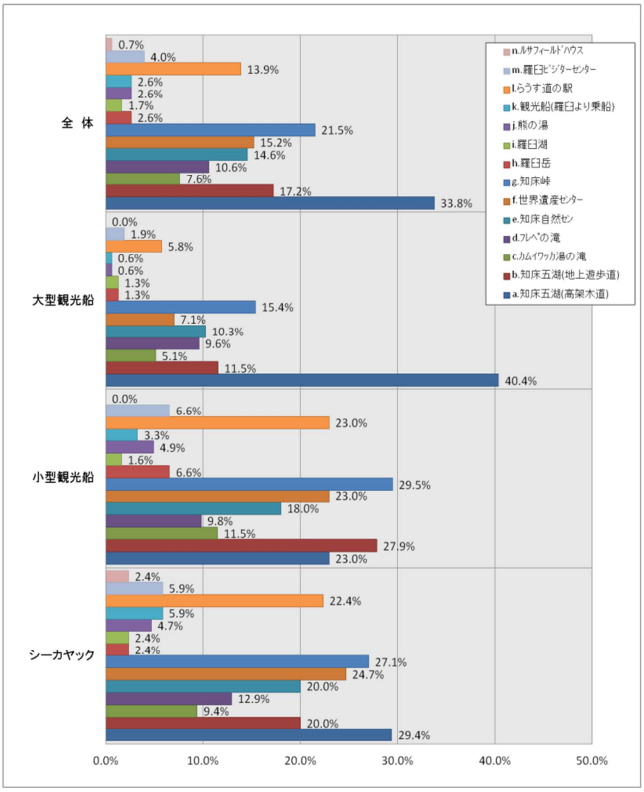

全体の傾向としては大きな差は見られないが、シーカヤックで「b.知床五湖(地上遊歩道)」の選択率が低下している(36.7%→17.6%)

**Q9-2. 知床の他の場所への訪問状況について　－複数回答可　（乗船後の訪問箇所）**

前期




後期

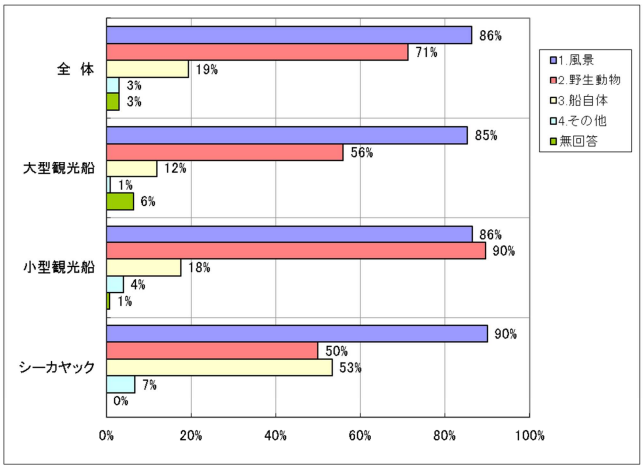



全体の傾向としては[g.知床峠」の選択率が後期にやや下がっている（34.5%→21.5%）。
「g.知床峠」は大型船、小型船で後期に選択率が下がり、シーカヤックではやや上昇が見られる。
時期による観光客のタイプや動き（斜里側←→羅臼側）の傾向が影響している可能性がある。

※大型船についてはアンケート配布対象となった便が、午後便に偏りが出ている事により、旅行経路パターンにも影響を与えている可能性があります。

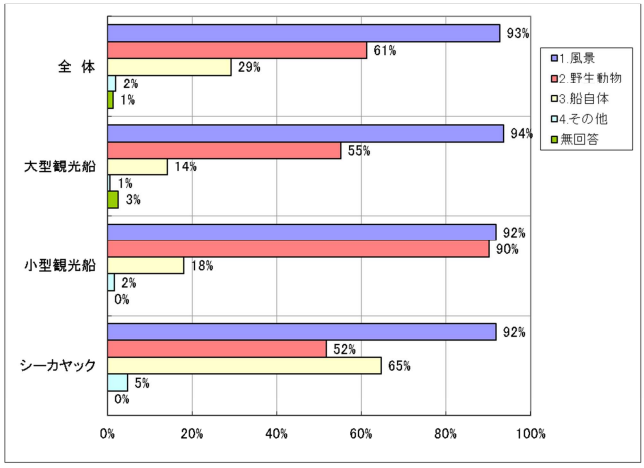
## Q10-1. この船(シーカヤック含む)に乗る前に何に期待しましたか？　－複数回答可

前期




| | 1.風景 | 2.野生動物 | 3.船自体 | 4.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 86% (228) | 71% (188) | 19% (51) | 3% (8) | 3% (8) |
| 大型観光船 | 85% (93) | 56% (61) | 12% (13) | 1% (1) | 6% (7) |
| 小型観光船 | 86% (108) | 90% (112) | 18% (22) | 4% (5) | 1% (1) |
| シーカヤック | 90% (27) | 50% (15) | 53% (16) | 7% (2) | 0% (0) |

後期

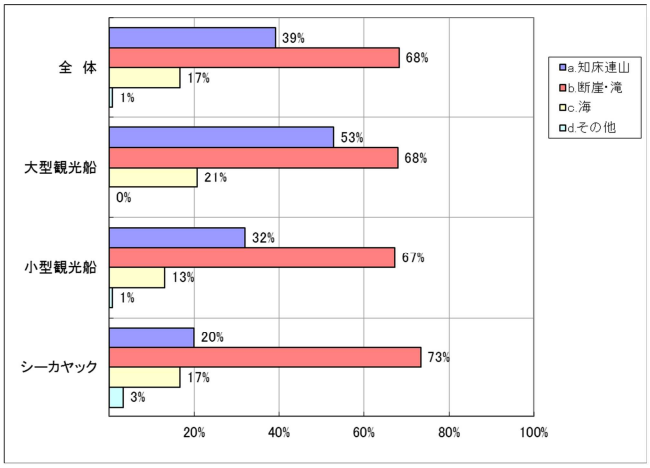



| | 1.風景 | 2.野生動物 | 3.船自体 | 4.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 93% (280) | 61% (185) | 29% (88) | 2% (6) | 1% (4) |
| 大型観光船 | 94% (146) | 55% (86) | 14% (22) | 1% (1) | 3% (4) |
| 小型観光船 | 92% (56) | 90% (55) | 18% (11) | 2% (1) | 0% (0) |
| シーカヤック | 92% (78) | 52% (44) | 65% (55) | 5% (4) | 0% (0) |

差は見られない。

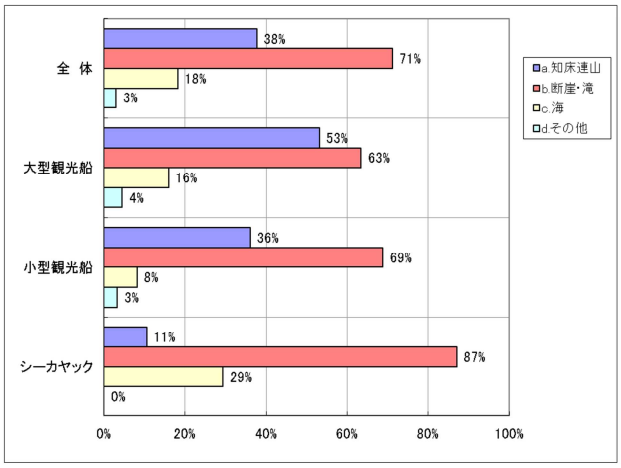
## Q10-2(風景)　「風景」と答えた方→　一番期待していたものは？　－複数回答可

前期




| | a.知床連山 | b.断崖･滝 | c.海 | d.その他 |
|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 39% (101) | 68% (176) | 17% (43) | 1% (2) |
| 大型観光船 | 53% (56) | 68% (72) | 21% (22) | 0% (0) |
| 小型観光船 | 32% (39) | 67% (82) | 13% (16) | 1% (1) |
| シーカヤック | 20% (6) | 73% (22) | 17% (5) | 3% (1) |

後期

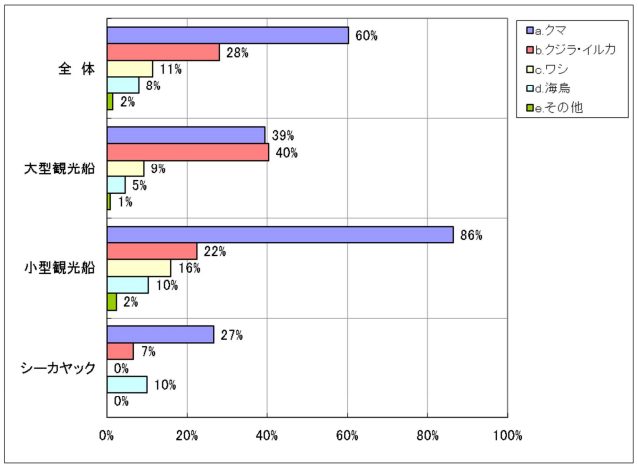



| | a.知床連山 | b.断崖･滝 | c.海 | d.その他 |
|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 38% (114) | 71% (215) | 18% (55) | 3% (9) |
| 大型観光船 | 53% (83) | 63% (99) | 16% (25) | 4% (7) |
| 小型観光船 | 36% (22) | 69% (42) | 8% (5) | 3% (2) |
| シーカヤック | 11% (9) | 87% (74) | 29% (25) | 0% (0) |

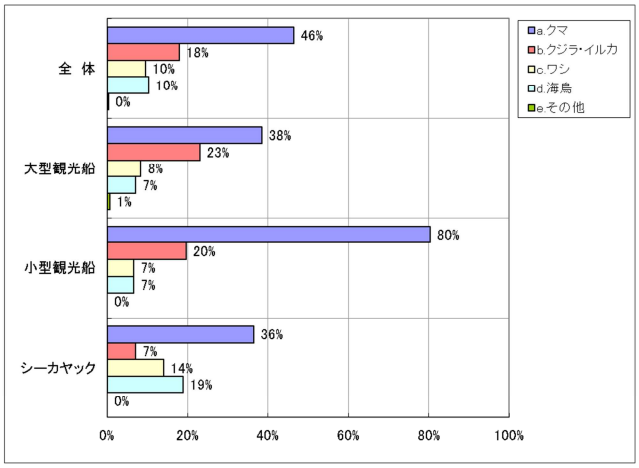
前後期の傾向に差は見られない。昨年からの傾向の変化も見られない。

**Q10-2（野生動物）　「野生動物」と答えた方→　一番期待していたものは？　－複数回答可**

前期




後期



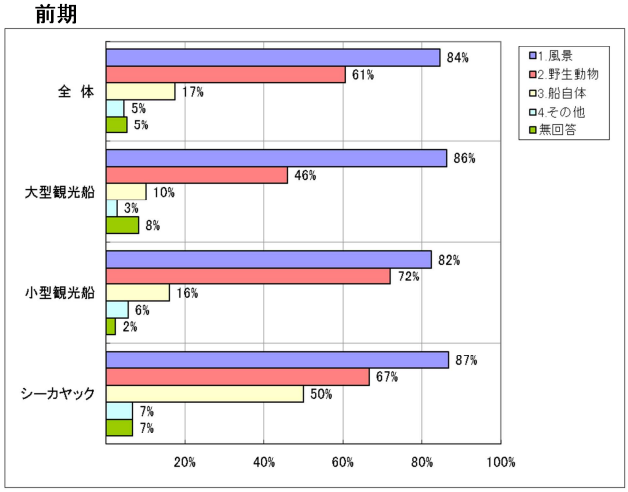

| | a.クマ | b.クジラ・イルカ | c.ワシ | d.海鳥 | e.その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 60% (159) | 28% (74) | 11% (30) | 8% (21) | 2% (4) |
| 大型観光船 | 39% (43) | 40% (44) | 9% (10) | 5% (5) | 1% (1) |
| 小型観光船 | 86% (108) | 22% (28) | 16% (20) | 10% (13) | 2% (3) |
| シーカヤック | 27% (8) | 7% (2) | 0% (0) | 10% (3) | 0% (0) |

| | a.クマ | b.クジラ・イルカ | c.ワシ | d.海鳥 | e.その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 46% (140) | 18% (54) | 10% (29) | 10% (31) | 0% (1) |
| 大型観光船 | 38% (60) | 23% (36) | 8% (13) | 7% (11) | 1% (1) |
| 小型観光船 | 80% (49) | 20% (12) | 7% (4) | 7% (4) | 0% (0) |
| シーカヤック | 36% (31) | 7% (6) | 14% (12) | 19% (16) | 0% (0) |

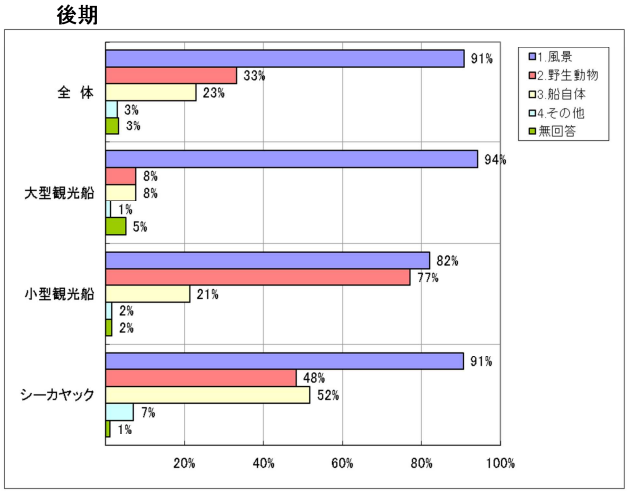
クマへの期待が前期、後期通じて圧倒的だが、シーカヤックでの「d.海鳥」の選択率が前期で10%、後期で19%とクマに次いでいる。

**Q11-1. 乗船して何が印象に残っていますか？（良かった点）　－複数回答可**

前期




後期



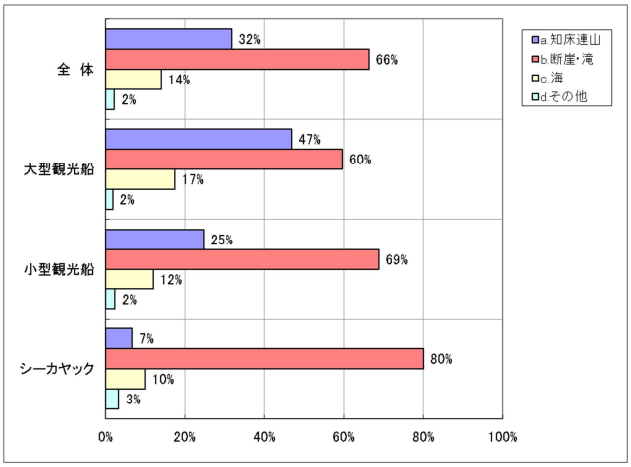

| | 1.風景 | 2.野生動物 | 3.船自体 | 4.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 84% (223) | 61% (160) | 17% (46) | 5% (12) | 5% (14) |
| 大型観光船 | 86% (94) | 46% (50) | 10% (11) | 3% (3) | 8% (9) |
| 小型観光船 | 82% (103) | 72% (90) | 16% (20) | 6% (7) | 2% (3) |
| シーカヤック | 87% (26) | 67% (20) | 50% (15) | 7% (2) | 7% (2) |

| | 1.風景 | 2.野生動物 | 3.船自体 | 4.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 91% (274) | 33% (100) | 23% (69) | 3% (9) | 3% (10) |
| 大型観光船 | 94% (147) | 8% (12) | 8% (12) | 1% (2) | 5% (8) |
| 小型観光船 | 82% (50) | 77% (47) | 21% (13) | 2% (1) | 2% (1) |
| シーカヤック | 91% (77) | 48% (41) | 52% (44) | 7% (6) | 1% (1) |

大きな差は見られないが、風景が高い割合を示している。昨年からの傾向の変化も見られない。

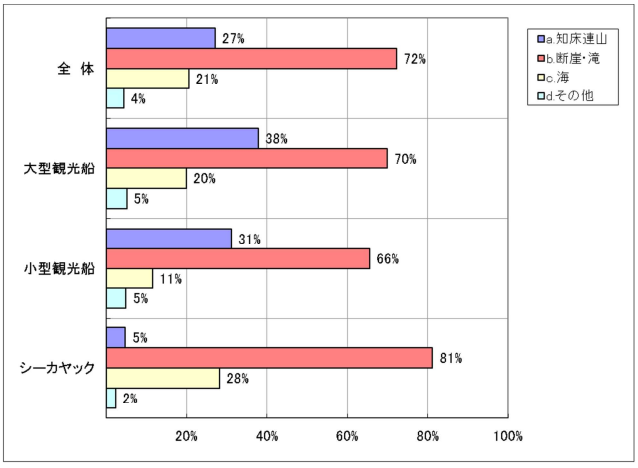
**Q11-2（風景） 「風景」と答えた方→ 一番印象に残ったものは？ －複数回答可**

前期




| | a.知床連山 | b.断崖・滝 | c.海 | d.その他 |
|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 32% (84) | 66% (175) | 14% (37) | 2% (6) |
| 大型観光船 | 47% (51) | 60% (65) | 17% (19) | 2% (2) |
| 小型観光船 | 25% (31) | 69% (86) | 12% (15) | 2% (3) |
| シーカヤック | 7% (2) | 80% (24) | 10% (3) | 3% (1) |

後期

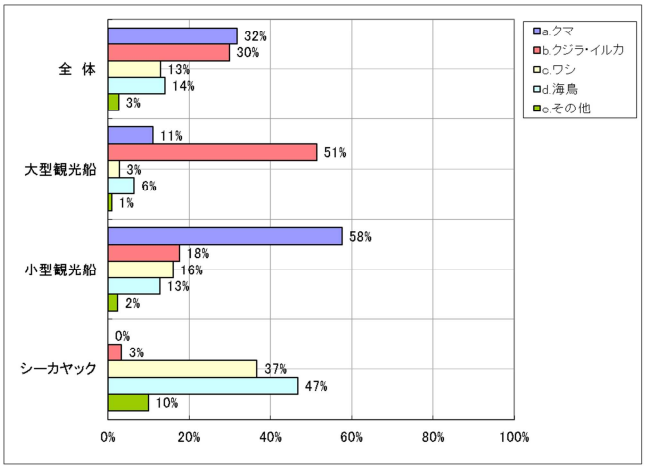



| | a.知床連山 | b.断崖・滝 | c.海 | d.その他 |
|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 27% (82) | 72% (218) | 21% (62) | 4% (13) |
| 大型観光船 | 38% (59) | 70% (109) | 20% (31) | 5% (8) |
| 小型観光船 | 31% (19) | 66% (40) | 11% (7) | 5% (3) |
| シーカヤック | 5% (4) | 81% (69) | 28% (24) | 2% (2) |

大きな差は見られない。「b.断崖・滝」が前期、後期共に高い割合を示している。

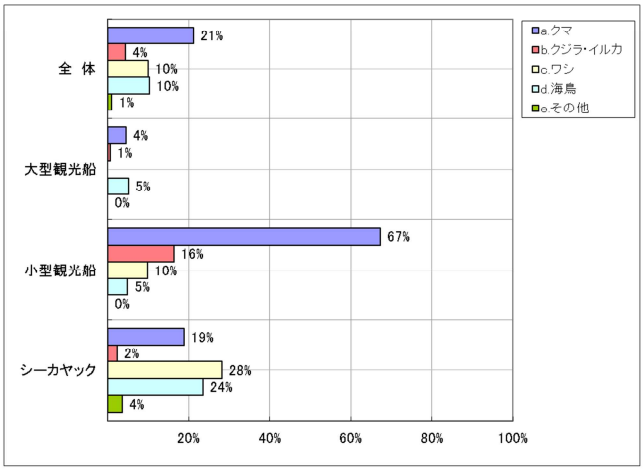
**Q11-2（野生動物） 「野生動物」と答えた方→ 一番印象に残ったものは？ －複数回答可**

前期




| | a.クマ | b.クジラ・イルカ | c.ワシ | d.海鳥 | e.その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 32% (84) | 30% (79) | 13% (34) | 14% (37) | 3% (7) |
| 大型観光船 | 11% (12) | 51% (56) | 3% (3) | 6% (7) | 1% (1) |
| 小型観光船 | 58% (72) | 18% (22) | 16% (20) | 13% (16) | 2% (3) |
| シーカヤック | 0% (0) | 3% (1) | 37% (11) | 47% (14) | 10% (3) |

後期

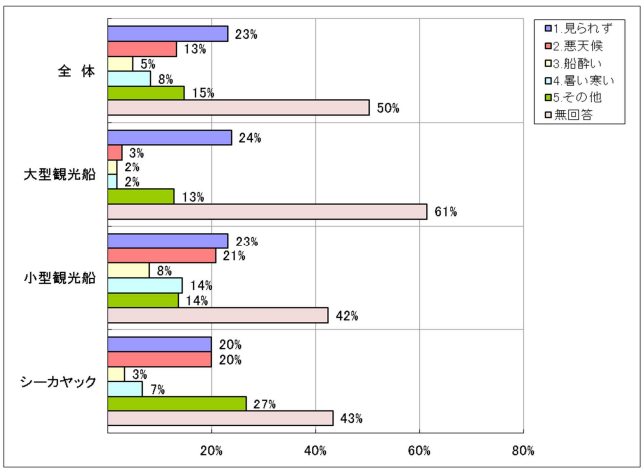



| | a.クマ | b.クジラ・イルカ | c.ワシ | d.海鳥 | e.その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 21% (64) | 4% (13) | 10% (30) | 10% (31) | 1% (3) |
| 大型観光船 | 4% (7) | 1% (1) | 0% (0) | 5% (8) | 0% (0) |
| 小型観光船 | 67% (41) | 16% (10) | 10% (6) | 5% (3) | 0% (0) |
| シーカヤック | 19% (16) | 2% (2) | 28% (24) | 24% (20) | 4% (3) |

大型船で、「b.イルカ・クジラ」の選択率が前期が51%と高い。小型船は差が見られず、シーカヤックで「d.海鳥」の選択率が前期、後期を通じて高くなっている。特に前期は47%とほぼ半数近くが選択しており関心の高さが伺える。

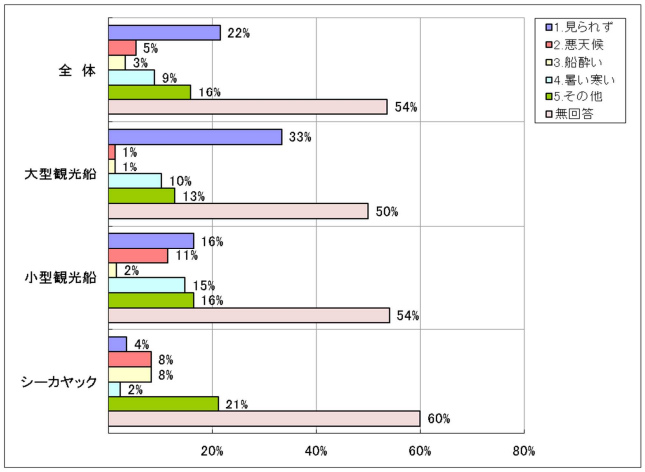
**Q12. 乗船して残念だった点はありますか？**

前期




| | 1.見られず | 2.悪天候 | 3.船酔い | 4.暑い寒い | 5.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 23% (61) | 13% (35) | 5% (13) | 8% (22) | 15% (39) | 50% (133) |
| 大型観光船 | 24% (26) | 3% (3) | 2% (2) | 2% (2) | 13% (14) | 61% (67) |
| 小型観光船 | 23% (29) | 21% (26) | 8% (10) | 14% (18) | 14% (17) | 42% (53) |
| シーカヤック | 20% (6) | 20% (6) | 3% (1) | 7% (2) | 27% (8) | 43% (13) |

後期




| | 1.見られず | 2.悪天候 | 3.船酔い | 4.暑い寒い | 5.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 22% (65) | 5% (16) | 3% (10) | 9% (27) | 16% (48) | 54% (162) |
| 大型観光船 | 33% (52) | 1% (2) | 1% (2) | 10% (16) | 13% (20) | 50% (78) |
| 小型観光船 | 16% (10) | 11% (7) | 2% (1) | 15% (9) | 16% (10) | 54% (33) |
| シーカヤック | 4% (3) | 8% (7) | 8% (7) | 2% (2) | 21% (18) | 60% (51) |

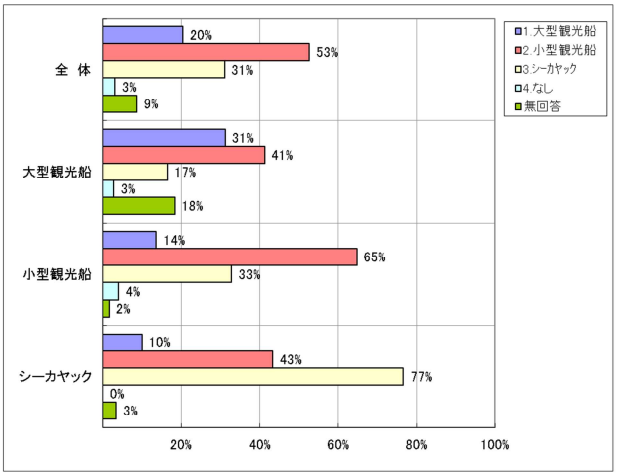
差は見られない。設問への無回答の数値は、”概ね満足していた”と解釈できる。シーカヤックの無回答は60%で最も高い。

・”5.その他”の回答に「とても良かった」「残念な点はありません」などの良い感想の回答が多かった。

**Q13.船内放送（案内・解説）の感想をお聞かせください。　※対象外**

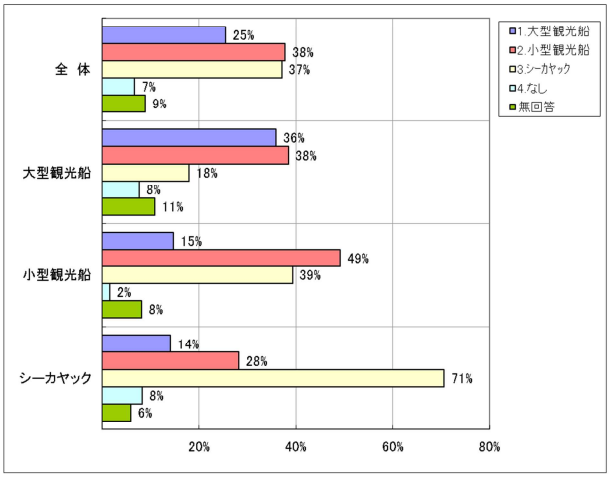
**Q14. 次回ウトロに来た時に乗ってみたい船のタイプはありますか？　－複数回答可**

前期




| | 1.大型観光船 | 2.小型観光船 | 3.シーカヤック | 4.なし | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 20% (54) | 53% (139) | 31% (82) | 3% (8) | 9% (23) |
| 大型観光船 | 31% (34) | 41% (45) | 17% (18) | 3% (3) | 18% (20) |
| 小型観光船 | 14% (17) | 65% (81) | 33% (41) | 4% (5) | 2% (2) |
| シーカヤック | 10% (3) | 43% (13) | 77% (23) | 0% (0) | 3% (1) |

後期

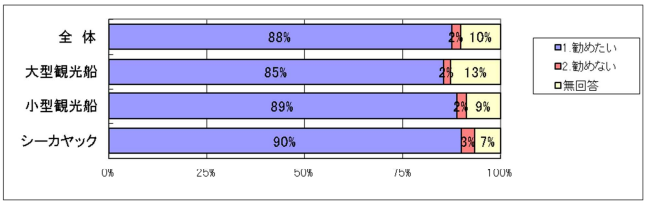



| | 1.大型観光船 | 2.小型観光船 | 3.シーカヤック | 4.なし | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 25% (77) | 38% (114) | 37% (112) | 7% (20) | 9% (27) |
| 大型観光船 | 36% (56) | 38% (60) | 18% (28) | 8% (12) | 11% (17) |
| 小型観光船 | 15% (9) | 49% (30) | 39% (24) | 2% (1) | 8% (5) |
| シーカヤック | 14% (12) | 28% (24) | 71% (60) | 8% (7) | 6% (5) |

大きな差は見られない。次回もまた同じ船に乗りたいという割合が小型船（前期：65%　後期：49%）とシーカヤック（前期77%　後期71%）で大型船より高い。

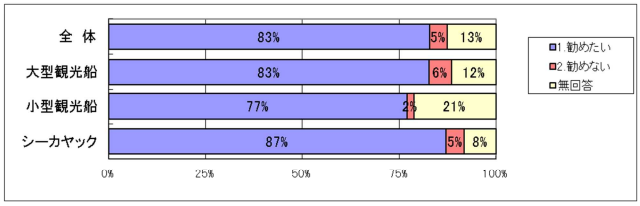
**Q15 今回乗った船を家族や友人会社の同僚などにお勧めしたいですか？**

前期




| カテゴリ | 1.勧めたい | 2.勧めない | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 88% (231) | 2% (6) | 10% (27) |
| 大型観光船 | 85% (93) | 2% (2) | 13% (14) |
| 小型観光船 | 89% (111) | 2% (3) | 9% (11) |
| シーカヤック | 90% (27) | 3% (1) | 7% (2) |

後期



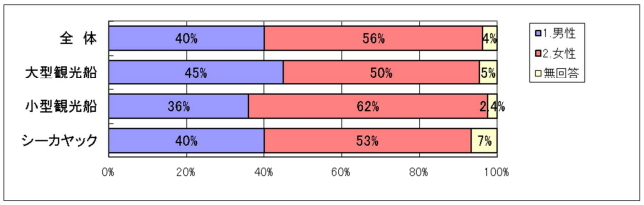

| カテゴリ | 1.勧めたい | 2.勧めない | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 83% (250) | 5% (14) | 13% (38) |
| 大型観光船 | 83% (129) | 6% (9) | 12% (18) |
| 小型観光船 | 77% (47) | 2% (1) | 21% (13) |
| シーカヤック | 87% (74) | 5% (4) | 8% (7) |

差は見られない。どの船の種類でも「1.勧めたい」が8割程度かそれ以上を占めている。

**Q16. そのほか乗船後の率直な感想など是非お聞かせください。 ※対象外**

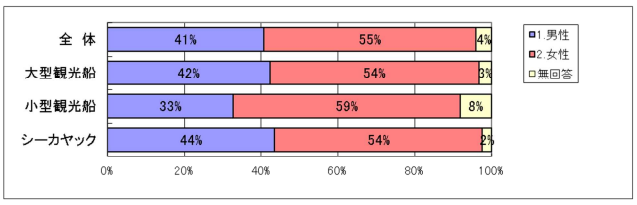
**Q17-1. 性別**

前期




| | 1.男性 | 2.女性 | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 40% (106) | 56% (148) | 4% (10) |
| 大型観光船 | 45% (49) | 50% (55) | 5% (5) |
| 小型観光船 | 36% (45) | 62% (77) | 2.4% (3) |
| シーカヤック | 40% (12) | 53% (16) | 7% (2) |

後期

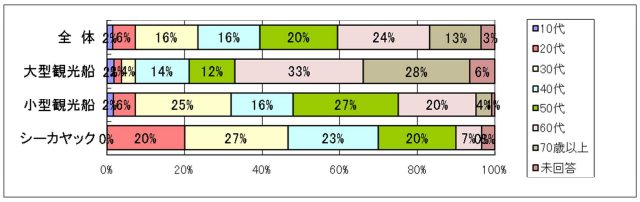



| | 1.男性 | 2.女性 | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 全　体 | 41% (123) | 55% (167) | 4% (12) |
| 大型観光船 | 42% (66) | 54% (85) | 3% (5) |
| 小型観光船 | 33% (20) | 59% (36) | 8% (5) |
| シーカヤック | 44% (37) | 54% (46) | 2% (2) |

配布時に性別の偏りないようにコントロールされているため、利用者全体の実際の割合には一致しない。

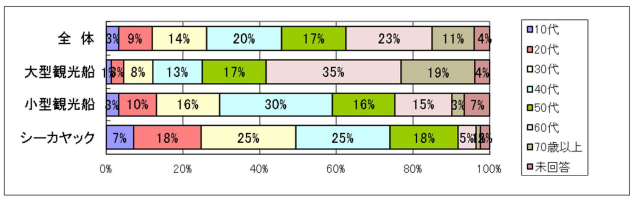
**Q17-2. 年齢区分**

前期




| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70歳以上 | 未回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 2% (4) | 6% (15) | 16% (43) | 16% (42) | 20% (53) | 24% (63) | 13% (35) | 3% (9) |
| 大型観光船 | 2% (2) | 2% (2) | 4% (4) | 14% (15) | 12% (13) | 33% (36) | 28% (30) | 6% (7) |
| 小型観光船 | 2% (2) | 6% (7) | 25% (31) | 16% (20) | 27% (34) | 20% (25) | 4% (5) | 1% (1) |
| シーカヤック | 0% (0) | 20% (6) | 27% (8) | 23% (7) | 20% (6) | 7% (2) | 0% (0) | 3% (1) |

後期

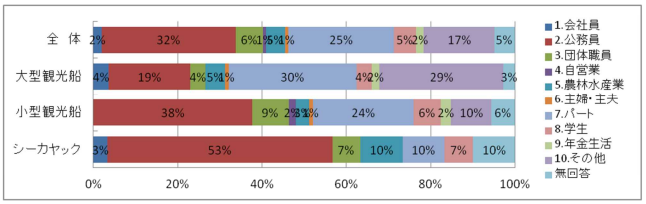



| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70歳以上 | 未回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 3% (10) | 9% (26) | 14% (43) | 20% (59) | 17% (51) | 23% (68) | 11% (33) | 4% (12) |
| 大型観光船 | 1% (2) | 3% (5) | 8% (12) | 13% (20) | 17% (26) | 35% (55) | 19% (30) | 4% (6) |
| 小型観光船 | 3.3% (2) | 10% (6) | 16% (10) | 30% (18) | 16% (10) | 15% (9) | 3.3% (2) | 6.6% (4) |
| シーカヤック | 7% (6) | 18% (15) | 25% (21) | 25% (21) | 18% (15) | 5% (4) | 1% (1) | 2% (2) |

配布時に年代に偏りないようにコントロールされているため、利用者全体の実際の割合には一致しない。
全体の前期で60歳台以上の割合が多い事、大型船の60歳代以上の割合が高いこと、小型船、シーカヤックで若い年代が多い事などは、ある程度実態を反映している物と思われる。

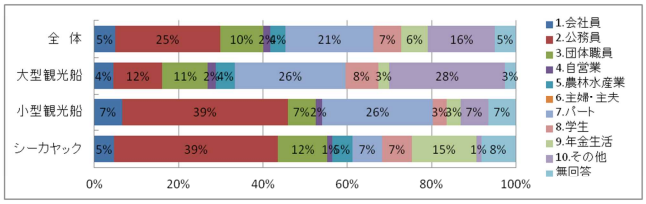
## Q18.ご職業

### 前期




| | 1.会社員 | 2.公務員 | 3.団体職員 | 4.自営業 | 5.農林水産業 | 6.主婦・主夫 | 7.パート | 8.学生 | 9.年金生活 | 10.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 2% (5) | 32% (84) | 6% (17) | 1% (2) | 4.5% (12) | 1% (2) | 25% (66) | 5% (14) | 2% (5) | 17% (44) | 5% (13) |
| 大型観光船 | 4% (4) | 19% (21) | 4% (4) | 0% (0) | 4.6% (5) | 1% (1) | 30% (33) | 4% (4) | 2% (2) | 29% (32) | 3% (3) |
| 小型観光船 | 0% (0) | 38% (47) | 9% (11) | 2% (2) | 3.2% (4) | 1% (1) | 24% (30) | 6% (8) | 2% (3) | 10% (12) | 5.6% (7) |
| シーカヤック | 3% (1) | 53% (16) | 7% (2) | 0% (0) | 10% (3) | 0% (0) | 10% (3) | 7% (2) | 0% (0) | 0% (0) | 10% (3) |

### 後期

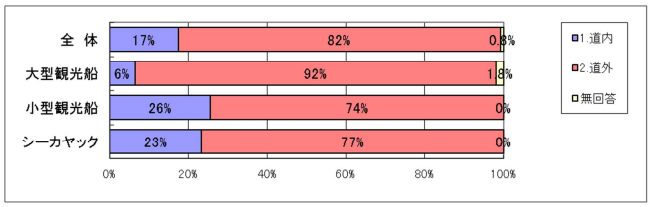



| | 1.会社員 | 2.公務員 | 3.団体職員 | 4.自営業 | 5.農林水産業 | 6.主婦・主夫 | 7.パート | 8.学生 | 9.年金生活 | 10.その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 体 | 5% (15) | 25% (75) | 10.3% (31) | 2% (5) | 3.6% (11) | 0% (0) | 21% (63) | 7% (20) | 6% (19) | 16% (48) | 5% (15) |
| 大型観光船 | 4% (7) | 12% (18) | 11% (17) | 2% (3) | 4.5% (7) | 0% (0) | 26% (41) | 8% (12) | 3% (4) | 28% (43) | 3% (4) |
| 小型観光船 | 7% (4) | 39% (24) | 6.6% (4) | 2% (1) | 0.0% (0) | 0% (0) | 26% (16) | 3% (2) | 3.3% (2) | 7% (4) | 6.6% (4) |
| シーカヤック | 5% (4) | 39% (33) | 11.8% (10) | 1% (1) | 5% (4) | 0% (0) | 7% (6) | 7% (6) | 15.3% (13) | 1% (1) | 8% (7) |

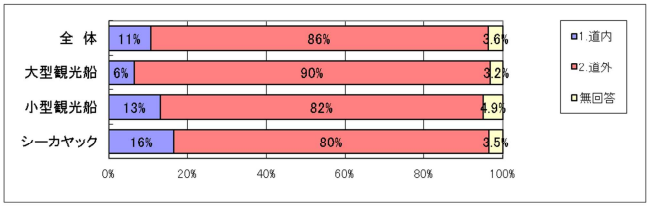
差は見られない。

## Q19. どこから来られましたか？

### 前期




### 後期




| | 1.道内 | 2.道外 | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 全 体 | 17% (46) | 82% (216) | 0.8% (2) |
| 大型観光船 | 6% (7) | 92% (100) | 1.8% (2) |
| 小型観光船 | 26% (32) | 74% (93) | 0.0% (0) |
| シーカヤック | 23% (7) | 77% (23) | 0.0% (0) |

| | 1.道内 | 2.道外 | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 全 体 | 11% (32) | 86% (259) | 3.6% (11) |
| 大型観光船 | 6% (10) | 90% (141) | 3.2% (5) |
| 小型観光船 | 13% (8) | 82% (50) | 4.9% (3) |
| シーカヤック | 16% (14) | 80% (68) | 3.5% (3) |

全体的に道外から来られた方が8割程度と多い。昨年から大きな傾向の変化は見られない。

## 3-5. 次年度以降の調査実施について

平成 22 年度の試験実施を経て、平成 23 年度から今年度までの 2 年間の本格調査実施結果を踏まえ、次年度以降の調査実施方法について、以下に検討し提案する。

### (1) 実施のための留意点

平成 22 年度から 3 カ年に亘って実施されてきた利用動向調査の結果から、調査を行う事による実施効果が明確になってきた。今後も調査が継続されるよう、今後の調査実施における留意点を以下にまとめる。

・行政と観光船事業者との協働による調査実施

調査結果からは、行政、観光船事業者の双方に実施メリットが発生している。行政には知床国立公園利用者がどのような関心を持って訪れているか？どのぐらい満足されているか？知床国立公園の素晴らしさを伝えられているか？各種の公園施設は効果的に機能しているか？などの行政サービスへのニーズ調査、効果検証をする上での貴重なデータを得ることが出来る。一方の観光船事業者も同様に、観光船利用者のニーズや満足度といったマーケティングデータを得ることが出来ることの他に、行政と協働で調査している事で“知床の自然を守ることに積極的に協力している”→“質の高いサービス”というアピールにもつながり、また、日々の営業サービスにおける自然環境への一層の配慮を促す効果も期待できる。

双方にメリットがある調査であることが､継続していくための重要な要素であり、また、協働実施することでコストや作業負担についても、双方ともに軽減することが可能である。双方にメリットがあるという共通認識を維持する事は重要である。

### (2) 実施頻度

毎年の実施がもちろん望ましいが、知床国立公園内の状況変化や来訪者の意識や社会情勢の変化、調査実施の負担などを考えると、2 年～3 年間隔での調査実施が現実的な実施サイクルと予想される。

### (3) 調査規模

本格調査の初年度となる平成 23 年度の配布実績数量は 4,857 通であったが、この年の配布は、配布者にかなり負担が掛かっていた。今年度は当初の配布予定数を 2,000 通と計画し、前年の約半数となったため配布作業負担は軽減された。回答数の状況も、目標の目安（分析単位当たり 100 回答※）を概ね達成されている。このことから、今後の調査実施の際の 1 シーズンあたりの目標配布数は、今年度の配布計画数（全体で 2,000 通）程度で十分であるものと予想される。

※前期・後期別の比較では想定回答数は 50 程度となるが、傾向を把握する目的では十分な数量と考えられる。

(4) アンケート配布方法

調査実施期間や配布方法は基本的に過去 2 年間の実施実績から、今年度と同様の手法が現状では妥当と考えられる。配布の際の留意点は、3-2-4.アンケート配布時の留意点（P.10）に示すとおりであるが、次年度以降の実施を想定し、いくつか変更の必要性が考えられる点を以下に示す。

①大型観光船の配布方法

配布は基本的に各観光船事業者が実施する。これまで大型観光船では帰港後の利用者への直接配布は本業務の受託者（ユニオンデーターシステム㈱）が行っていたが、このような人員を確保する事は今後、困難であると思われる。また、回収率を考えると手渡しによる配布が望ましいが､乗船数も小型観光船に比べ圧倒的に多く、「貰える人と貰えない人」の発生も予想されることから、船内の売店のカウンターなどへの据え置き式の配布への移行も検討して良いと思われる。また配布はなるべく多くの便で万遍なく配布される方が望ましいため、一便当たりの配置数の調整が必要となる可能性がある。船内放送はアンケートの配布に対し大変効果的だが、一気に無くなってしまう事も懸念されるため、敢えて実施しないことも考えられる。

(5) アンケート票の体裁および作成費用

アンケート票の体裁は、大きさとして邪魔にならない事、水濡れへの配慮などを考えた、これまでの体裁が現状では妥当と考えらえる。調査票の作成には資材コストと折り込み・封入などの人力コストが発生する。これらの負担は行政と観光船事業者とで調整し作業分担することが望ましい。例えばアンケート票の印刷までを行政が担当し、折り込み・封入を観光船事業者が行うといった形が考えられる。

アンケート票作成資材および費用試算を以下にまとめる。

① 資材および単価

表 3-5 アンケート票作成資材および単価

| 品 名 | 仕 様 | 費 用 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 回答票用紙 | 趣旨説明＋アンケート票＝A4 サイズ 3 ページ | A4 リサイクル用紙 \420/(500 枚) | |
| 返信用封筒 | クラフト封筒（長形 3 号シール付き 120×235㎜） | \3,680（1000 枚） | |
| アンケート封入袋 | フィルム封筒（長３（大）125×250） | \239（100 枚）<br>\2,142（1000 枚） | |
| ポストカード | 環境省オリジナル | 現物支給 | |
| 印刷費（回答票） | A4 白黒両面印刷 3 ページ | \11 円/頁<br>1 部あたり 6 頁で\66 円 | 1000-5000 枚の単価 |
| 印刷費（返信用封筒） | 返信用宛先印刷費 | \12,000（2,000 枚） | |

② 2､000 部作成の場合の作成費用の試算

表 3-6 アンケート票作成費用の試算

| 品 名 | 仕 様 | 単価 | 数量 | 金額 |
|---|---|---|---|---|
| 回答票用紙 | 1 部あたり 3 枚<br>2,000 部＝6､000 枚 | \420/(500 枚) | 12 | \5,040 |
| 返信用封筒 | 2,000 枚 | \3,680（1000 枚） | 2 | \7,360 |
| アンケート封入袋 | 2,000 枚 | \2,142（1000 枚） | 2 | \4,284 |
| ポストカード | 環境省オリジナル | 現物支給 | - | - |
| 印刷費（回答票） | 2,000 部 | \66（1 部） | 2,000 | \132,000 |
| 印刷費（返信用封筒） | 2,000 枚 | \12,000（2,000 枚） | 1 | \12,000 |
| | | | 合計 | \160,684 |

③ 回答票の郵送費用の試算

回答は料金後納郵便による郵送回収方式とするため、普通郵便料金¥80 の他に、料金後納郵便（配達時直接払い）手数料¥20 が必要となる。なお有効回答票の数量は、回収率予測値 25%の 500 通として試算した。

表 3-7 回答票の郵送費用の試算

| 項目 | 仕 様 | 単価 | 数量 | 金額 |
|---|---|---|---|---|
| 回答票郵送料 | 定型郵便（料金後納） | \80+\20=\100 | 配布数(2,000)×回収率 25%として 500 通 | \50,000 |
| | | | 合計 | \50,000 |

(6) 調査結果の集計

アンケート回答票の集計は、これまで本業務の受託者（ユニオンデーターシステム㈱）により行われてきた。集計は Microsoft Access による入力および集計を行い、表やグラフの作成は Microsoft Excel を使用してとりまとめを行っている。

次年度以降の集計では、これまでに使用してきたアンケート集計ツールを用いる事が可能であるが、回答票の入力作業と調査結果のとりまとめ作業は若干発生する。

## 4. 各事業所における自然情報収集調査

平成 23 年度に引き続き、観光船事業者による取り組みとして「海域状況観察記録」が実施された。実施事業者は昨年同様、大型観光船「おーろら号」の運航サービスを行っている道東観光開発株式会社（網走市）によるものである。小型観光船事業者の方々にも実施のお願いをしたが、運行中は操船やガイド、乗船客の安全確認等で人員の余裕は無く、実施は困難として見送られた。

### 4-1. 調査概要

海域利用とケイマフリを中心とした海鳥生息環境の保護をテーマとした取り組みの一環として、観光船事業者の方々の協力により運行時に見られる海鳥の簡易モニタリング調査を実施し、海鳥の生息状況やデコイの設置による効果の検証を行うものである。

本調査は貴重な海鳥への関心度の向上や観光資源としての海鳥の利用を探る事も目的とする。調査実施に際しては海鳥の専門家や調査研究者と観光船事業者との協力関係の構築もテーマとし、専門家によるノウハウの提供や互いの観察情報の共有が出来るような方法も取り入れ、最終的には研究者、観光船事業者、観光客、生息する海鳥、それぞれがメリットを享受出来るような仕組みを目指すものである。

### 4-2. 実施方法

調査はウトロ海域で運行している観光船およびシーカヤックの事業者を対象とし、運行中に見られた海鳥の状況を記録する。また、他の野生動物についても可能な範囲で記録する。

### 4-3. 記録内容および調査範囲

対象を繁殖期のケイマフリをメインとするが、観察実施者の実施可能なレベルで実施する。調査結果は記録票に記録する。

### 4-4. 調査期間

調査実施時期は海鳥の繁殖期６～7 月末までの期間とする。

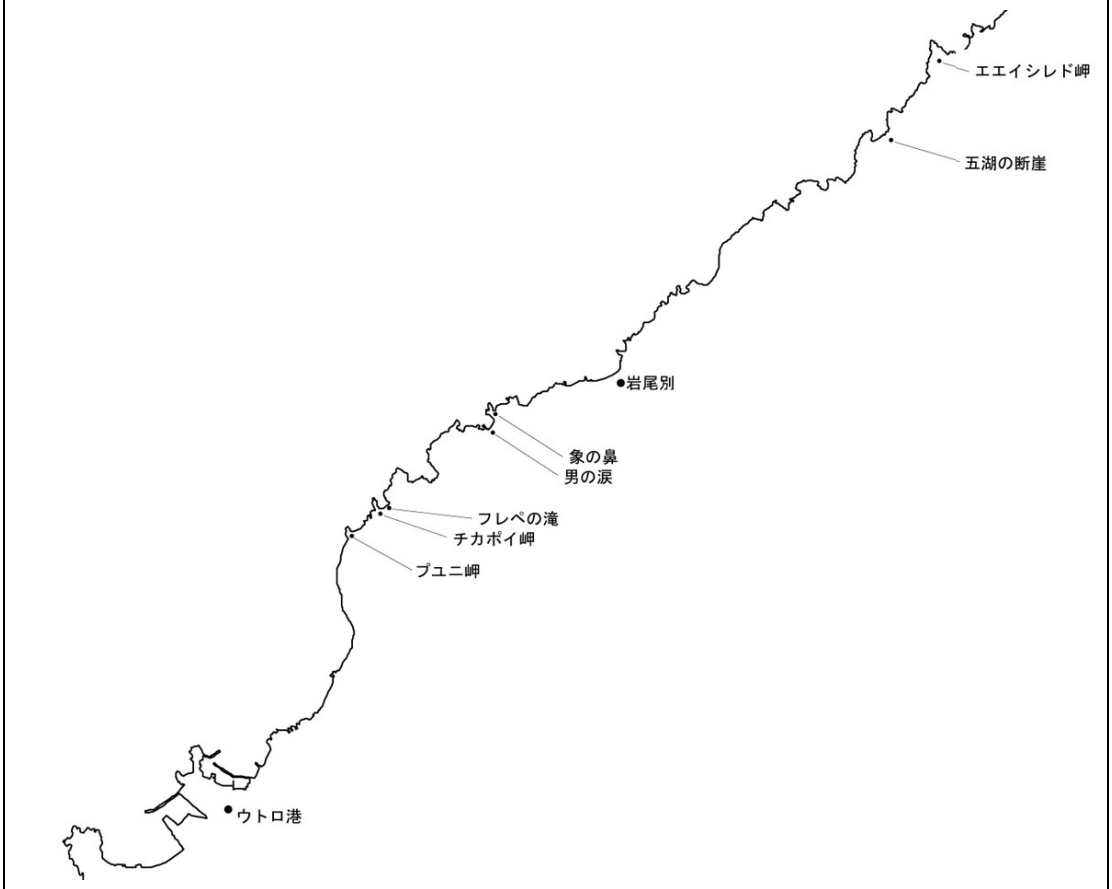
○海域状況観察記録票

## ウトロ海域　海域観察記録票

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 船　名 | | 観察日 | 平成　　年　　月　　日 | | |
| | | 航　路 | 硫黄山 ・ 岬 ・ ルシャ ・ その他（　　） | | |
| 記録者 | | 出航時間 | ： | | |
| | | 天　候 | | 波の高さ | m |

●ケイマフリの記録

| | 場所･位置区分 | 確　認　数 | 分布状況 | 距離 | 解説 |
|---|---|---|---|---|---|




●その他の記録

## 4-5.　海鳥観察技術指導「海鳥ミニ出前講座」の開催

観光船事業者による海鳥観察技術指導および、観光船から見る海鳥の魅力紹介の機会として、「海鳥ミニ出前講座～おーろら号から見る海鳥」と題して、大型観光船おーろら号のスタッフを対象に平成 24 年 8 月 9 日、10 日の 2 日間にわたり、おーろら号船内で開催した。講師にはウトロ海域部会の委員　知床海鳥研究会　代表　福田　佳弘氏を招聘した。

会場の様子

講師　福田　佳弘　氏

写真 4-1　海鳥ミニ出前講座開催状況（H24.8.9）

環境省　適正利用･エコツーリズム検討会議「ウトロ海域部会」

2012 海鳥ミニ出前講座

「おーろら号から見る海鳥」の開催について

環境省では、知床ウトロ海域における海鳥保護と海域利用の両立を目指し、これまでに漁業・観光船業・ガイド業などに携わる地域の皆様と共に、知床半島に生息する希少な海鳥の保全と、観光船などの海域の利用との共存のあり方について検討会を開催して参りました。

今回、「海鳥ミニ出前講座」として大型観光船おーろら号、おーろら２号にお邪魔させて頂き、知床の海鳥に関する話題提供や興味深い海鳥の生態などについて御紹介できる機会を企画致しました。ケイマフリをはじめとする海鳥の今年度の生息状況や知床で稀に見る事が出来る珍しい海鳥、観光船利用者への楽しい説明に使える海鳥の話などを御紹介させて頂ければと思います。どうぞお気軽に御参加下さい。

**海鳥ミニ出前講座～「おーろら号から見る海鳥」**
**開催要項**

開催日程：平成 24 年 8 月 9 日、10 日　　14：00～14:40
開催場所：観光船　おーろら号、おーろら２号
主　　催：環境省釧路自然環境事務所（ウトロ自然保護官事務所）
対　象　：観光船おーろら号乗組員、乗船券販売所スタッフの方々など
　　どなたでも御参加可能です。
参加申込：無料

**2012 海鳥ミニ出前講座～「おーろら号から見る海鳥」**

開催日程：平成 24 年 8 月 9 日、10 日　14：00～14:40
開催場所：観光船　おーろら号、おーろら２号
主　　催：環境省釧路自然環境事務所（ウトロ自然保護官事務所）

【プログラム】

1. **地域参加の取り組みについて**
   ・現在進められている取り組みの紹介

   紹介者：環境省ウトロ自然保護官事務所　野川 裕史

2. **知床の海鳥**
   ・観光船おーろら号から見る事の出来る海鳥を紹介
   ・ケイマフリの生態や生息状況について解説
   ・その他不思議な海鳥の生態などを紹介

   紹介者・知床海鳥研究会　福田　佳弘　代表

3. **意見交換**
   ・お客様に知ってもらうために
   展示素材の提供、写真、解説資料
   ・お客様へのサービス
   「クマだけじゃない！」知床の野生動物の見所の一つとしての提案。

4. **閉会**

※プログラム内容および時間は変更になる場合があります。

○お問い合わせ先
環境省ウトロ自然保護官事務所　（担当：野川）電話：0152-24-2297
(運営業務受託会社)ユニオンデーターシステム株式会社（担当：栗林）電話：011-862-7330

図 4-1　海鳥ミニ出前講座　開催案内

## 4-6.　福田氏提供資料

### 「おーろら号から見る海鳥」～観光資源としての知床の海鳥

知床海鳥研究会　代表　福田佳弘

<はじめに>
おーろら号でアナウンスされている野生動物：「ヒグマ」「イルカ」etc.
⇒　当たり外れが大きい、「ヒグマ」岸にいるので遠くて発見しづらい。
一方、「海鳥」は観光資源としては見落とされがちですが、季節に応じて様々な鳥たちが飛び交っています。
*（「外れ」がない！）*
～いかにお客様に「海鳥」を見てもらうか？そのヒントとなるトピックスをご紹介します。～

1）観光船おーろら号から海鳥を観察する　→　ネーチャークルーズ船としての利点
ネーチャークルーズ船：ウトロや羅臼のような小型船舶・根室歯舞、落石のような漁船など。
～おーろら号の利点～
・揺れが少ない　→　船酔いが少ない、写真が撮りやすい
・寒くなく快適、休憩できる
→　大型船なので海面から遠く、バードウオッチングとしては間近に観察できる小型船舶から劣ると考えがちですが、そんなことはありません。⇒　*お客様への「見せ方」「紹介のしかた」*

2）おーろら号から観察できる鳥（パンフレット参照）
○知床半島で繁殖しているもの
・ウミウ　：この時期は今年生まれた個体（羽色のうすいもの）が巣立って多く見られます
・オオセグロカモメ
・ウミネコ　：やはりこの時期はチョコレート色の巣立ち個体をよく見かけます
*・ケイマフリ（絶滅危惧種）：国内でケイマフリ繁殖し、身近に観察できるのは知床だけ。*
○知床半島付近に飛来する海鳥
・ウトウ　・フルマカモメ　・ハシボソミズナギドリ　・ミツユビカモメ　などなど。
なかには南半球からやってくる渡り鳥もいます。
⇒　なぜ様々な渡り鳥が知床半島にやってくるのか？
・寒谷暖流の終焉にあたり、暖流に乗ってくる魚を求めて渡り鳥が集結する。
・流氷がもたらすプランクトンにより栄養が豊富。
鳥たちの数的、時期的な傾向は毎年異なる　→　海洋環境の変化の指標となりうる。

3）おーろら号から観察できる鳥　～ケイマフリに焦点をあてて～
・絶滅危惧種Ⅱ類：かつては北海道・東北などで局地的に繁殖していたが、近年繁殖地の消失が相次ぎ、国内全体としては繁殖個体の減少も著しい。
・夏羽は黒褐色、目の周りはメガネをかけたように白い。真っ赤な足が特徴的。
・知床半島では100羽前後で推移している　→　100羽を切ると繁殖地としての維持が困難。
⇒　*知床半島のケイマフリを守る取り組み　～観光船の協力～*
・「ケイマフリが観察できる海」：ケイマフリの繁殖地へは近づかない、減速をお願いする。
・「観光資源としてのケイマフリを護る」取り組み：トークシモイ湾で本年、営巣を確認。
→　**各団体との協力で、ケイマフリの保護活動が進んでいることを、観光客の方にも知ってほしい。**
**海鳥を広くお客様へ紹介できるような掲示物・写真・ビデオなど提供し協力させていただきたい！！**

### ケイマフリを知ってください。

目の周りが白い！
フィッフィッフィーと
よくろおる声でよく鳴きます。
口の中も赤い！
海鳥の1種
チドリ目ウミスズメ科
足が赤く
アイヌ語の
ケマ：足
フレ：赤
が由来です。

学名：Cepphus carbo
英名：Spectacled Guillemot（メガネをかけたウミバト）

知床ではウトロ側のウトロ港から
知床五湖の断崖までの海域で多く生息しています。
太古の昔に起こった火山活動の溶岩流でできた断崖。
そして流氷が育む豊かな生態系がケイマフリの生息を支えています。

巣作りの場所は・・・
ブユニ岬から知床五湖の断崖の
切り立った断崖の岩の穴や割目で
繁殖しています。

### ケイマフリは凄い！

空も飛び！　海中もペンギンのように泳ぐ！

歩くのは苦手！
ペンギンのようによちよち歩きます。

繁殖期以外は陸に上がりません！
嵐のときも決して陸に上がりません！

**ケイマフリは変身する！**

繁殖期は営巣する崖と同じような色になり、目立たない保護色になります。
繁殖期は営巣する崖と同じような色になり、目立たない保護色になります。

**ケイマフリの世界分布**
極東アジアの日本とロシアだけで繁殖し、世界的にも希少な海鳥です。

**国内のケイマフリの繁殖地**

繁殖期が終わると
ケイマフリは陸地を離れ
放浪の旅に出ます。
網走沖や根室沖でも観察されます。
詳しい事は解りませんが
東北地方まで南下するようです。
ケイマフリの移動は謎に
つつまれています。
道内でも消滅した繁殖地があります。
国内すべての繁殖地で
数が減っています。
環境省絶滅危惧種に指定され、絶滅が心配されています。
岩手県でも繁殖していましたが
消滅しました。

### 知床に繁殖する海鳥

知床半島では、ケイマフリ・ウミウ・オオセグロカモメ・ウミネコの4種類の海鳥が繁殖しています。

オオセグロカモメ　約2200羽が営巣。

ウミネコ　約500羽が営巣

ウミウ　約1000羽が営巣

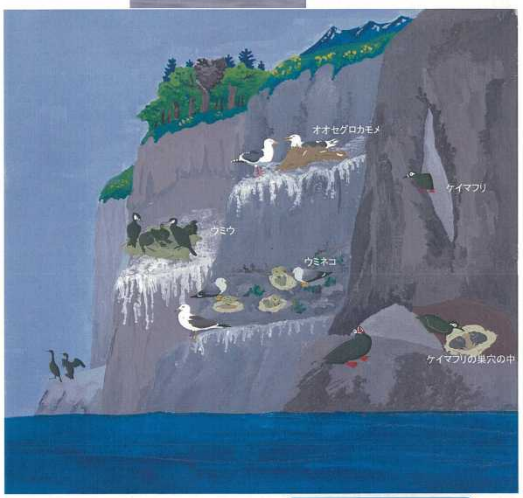
海鳥の多くは集団で営巣し
外敵から卵やヒナを守ります。

知床の切り立った断崖は
彼らの子育てに適しています。

ケイマフリ　約80羽が営巣

知床半島は国内でも
有数の海鳥の繁殖地です。

海鳥は生態系の高い位置に属し
知床の豊かな海の生態系の象徴的
存在です。




知床の断崖と海鳥の営巣の様子

## 4-7.　実施結果

実施期間中に大型観光船「おーろら号」「おーろら 2 号」の 2 隻から合計 50 便分の記録票が作成された。記録は運航業務の合間を縫って観察されているため定量的な観察とは成っておらず一枚当たりの観察時間にはムラがあり、また鳥類個体の同定や計数技術にも個人差があると考えられるが、今年度も非常に細かく丁寧に記録されており相当な努力をされたことが調査票からうかがえる。

観察の実施結果については 10 月の部会でも報告され、委員の鳥類専門家らより高く評価された。また、今年度の調査結果は環境省により GIS によるメッシュ解析が行われ、調査データの可視化と有効利用について部会にて紹介された。

観察記録票の例を図 4-2～図 4-5 に、GIS による解析の例を図 4-6～図 4-9 に示す。

写真 4-2　観察中の乗組員（写真は平成 23 年度実施状況）

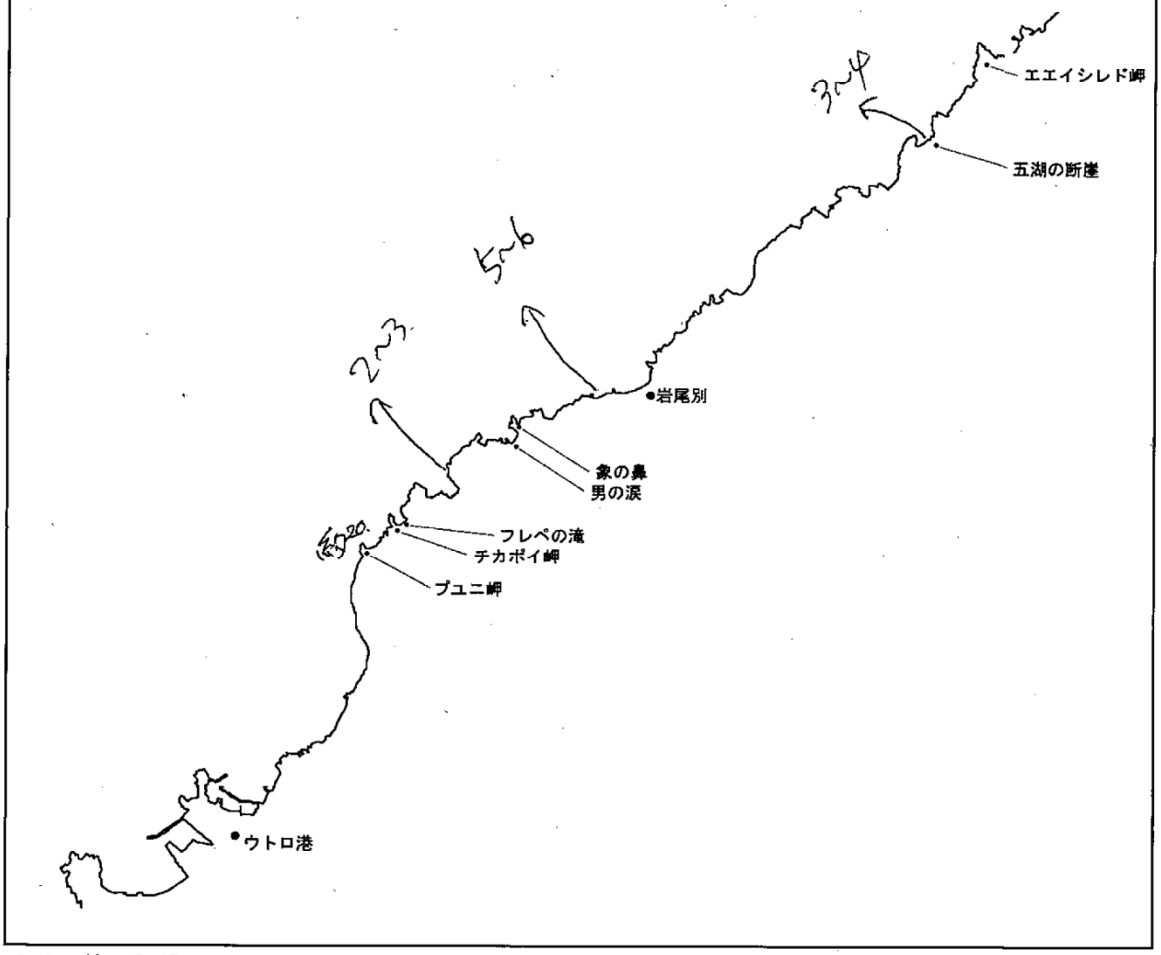
写真 4-3　おーろら 2 号（左）　おーろら号（右）

## ウトロ海域　海域観察記録票

| 船名 | おーろら、おーろら2 | 観察日 | 平成 24 年 6 月 17 日 |
|---|---|---|---|
| | | 航路 | 硫黄山 ・ 岬 ・ ルシャ ・ その他（ ） |
| 記録者 | | 出航時間 | 10 : 00 |
| | | 天候 | C　波の高さ　m |

●ケイマフリの記録

| 場所・位置区分 | 確認数 | 分布状況 | 距離 | 解説 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |




●その他の記録

18:00頃 湾付近 20羽くらい

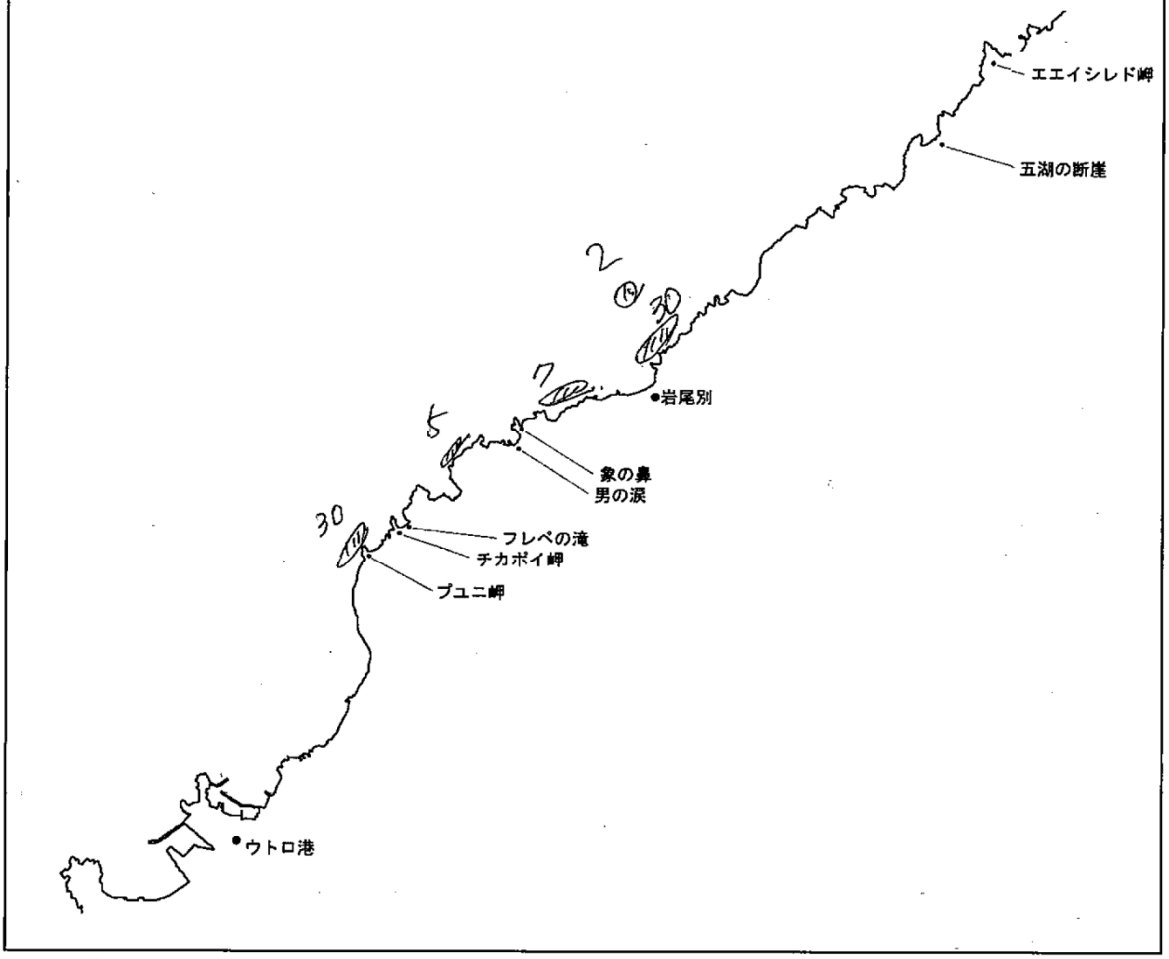
図 4-2　海域状況観察記録票の例（1）

## ウトロ海域　海域観察記録票

| | | | |
|---|---|---|---|
| 船名 | おーろら、おーろら2 | 観察日 | 平成24年 7月 8日 |
| | | 航路 | 硫黄山 ・ 岬 ・ ルシャ ・ その他（　　） |
| 記録者 | | 出航時間 | 08：15 |
| | | 天候 | C　波の高さ ―― m |

●ケイマフリの記録

| 場所・位置区分 | 確認数 | 分布状況 | 距離 | 解説 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |




●その他の記録

帰り航海観察

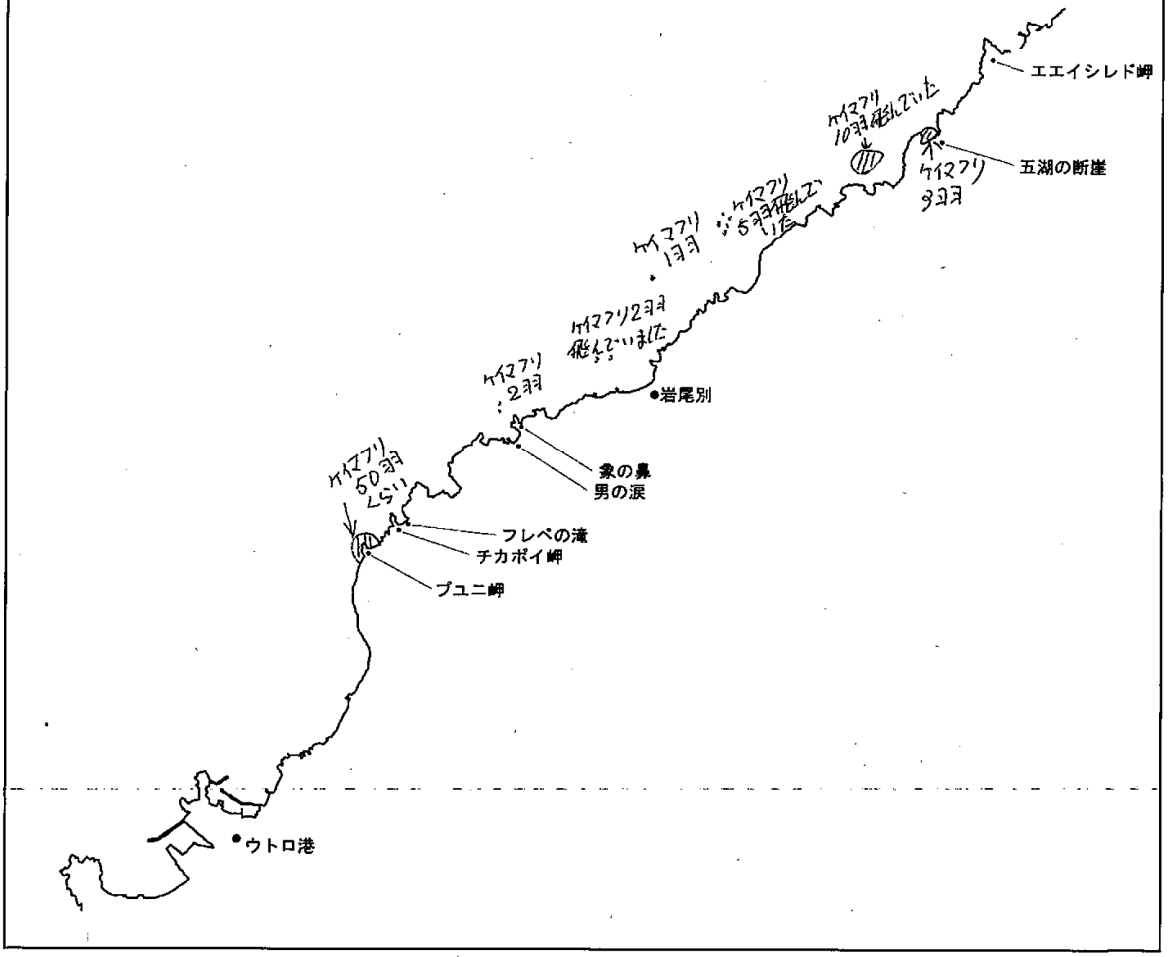
図 4-3　海域状況観察記録票の例（2）

## ウトロ海域　海域観察記録票

| 船名 | おーろら、おーろら2 | 観察日 | 平成 24 年 6 月 22 日 |
|---|---|---|---|
| | | 航路 | 硫黄山 ・ (岬) ・ ルシャ ・ その他( ) |
| 記録者 | | 出航時間 | 10:00 |
| | | 天候 | くもり　波の高さ 0.7 ～ 1 m |

●ケイマフリの記録

| 場所・位置区分 | 確認数 | 分布状況 | 距離 | 解説 |
|---|---|---|---|---|




●その他の記録

西よりの風 5～6m/s
男の涙と象の鼻の間くらいにトドが1頭いました。(岩の上に)

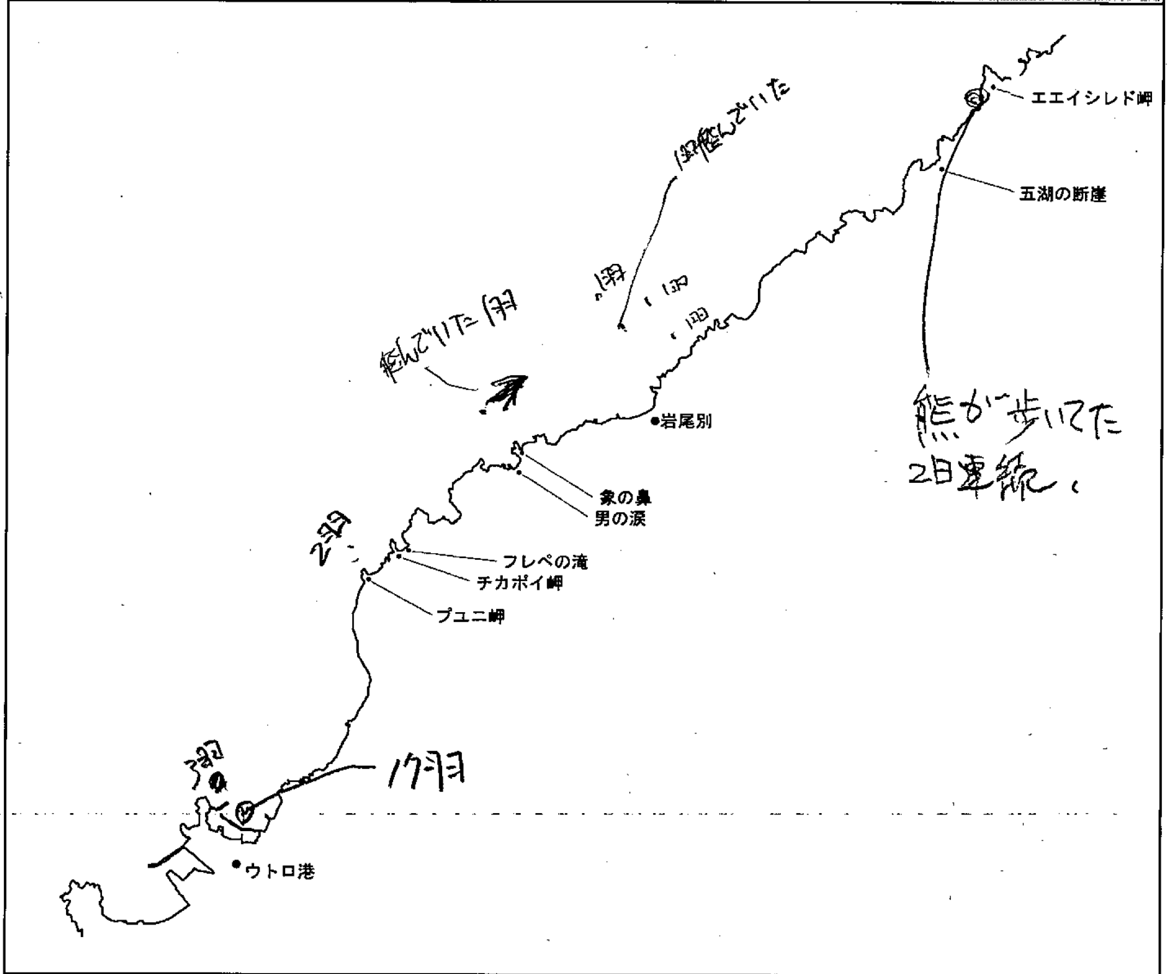
図 4-4　海域状況観察記録票の例（3）

## ウトロ海域　海域観察記録票

| 船名 | おーろら、おーろら2 | 観察日 | 平成 24年 6月 26日 |
|---|---|---|---|
|  |  | 航路 | 硫黄山 ・ 岬 ・ ルシャ ・ その他（　　　） |
| 記録者 |  | 出航時間 | 16 : 30 |
|  |  | 天候 | 晴れ。　波の高さ　0 m |

●ケイマフリの記録

| 場所:位置区分 | 確認数 | 分布状況 | 距離 | 解説 |
|---|---|---|---|---|




●その他の記録

今日海水温度が13℃になったので
いわしが来ると思われる。→魚が活発に動く。

図 4-5　海域状況観察記録票の例（4）

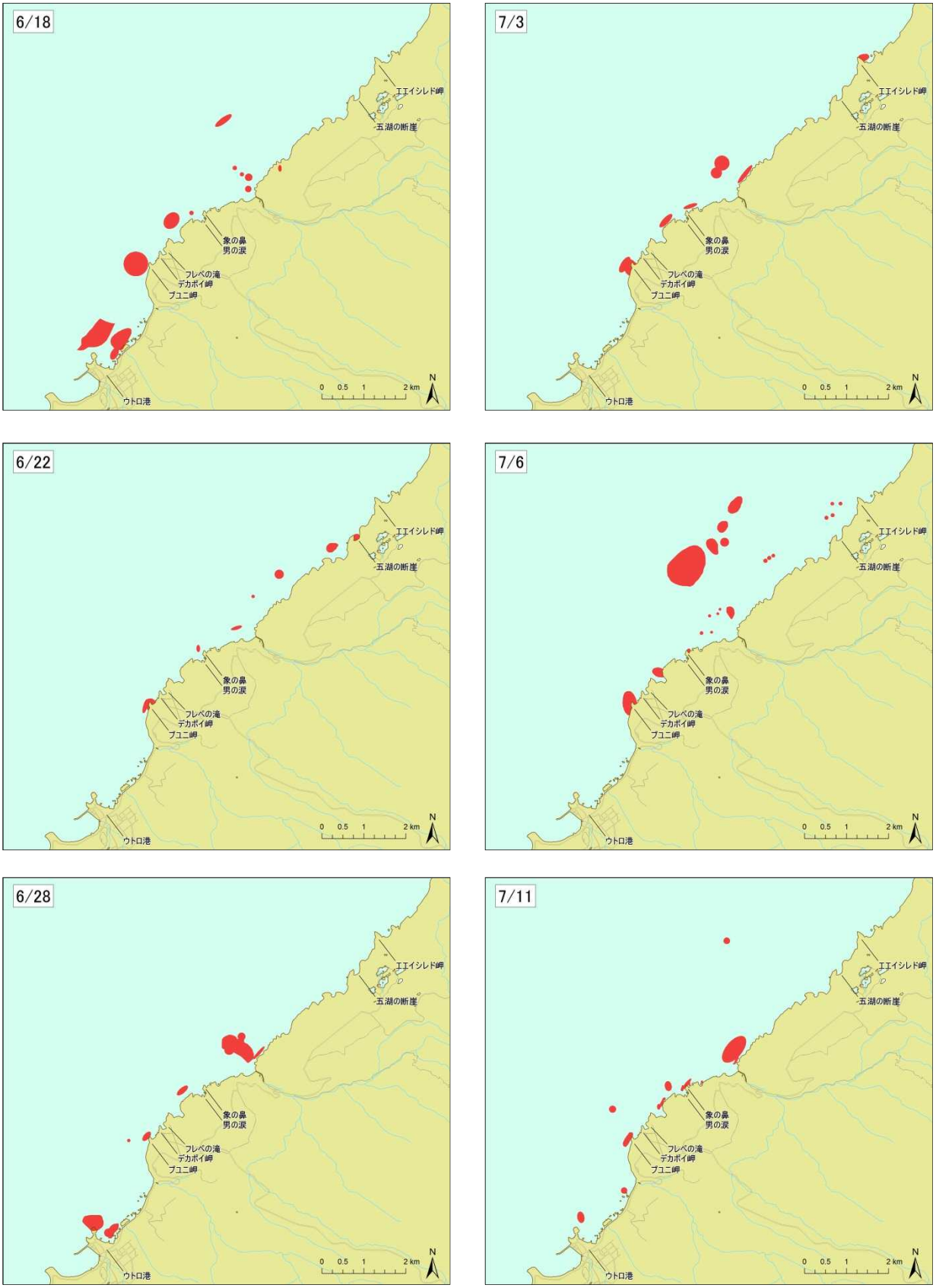



図 4-6　GIS によるケイマフリ個体確認位置図（任意抽出）

※全記録は資料編に掲載

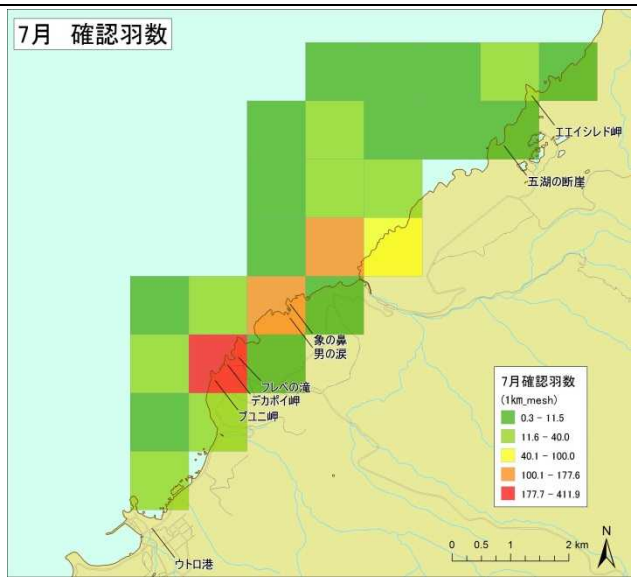
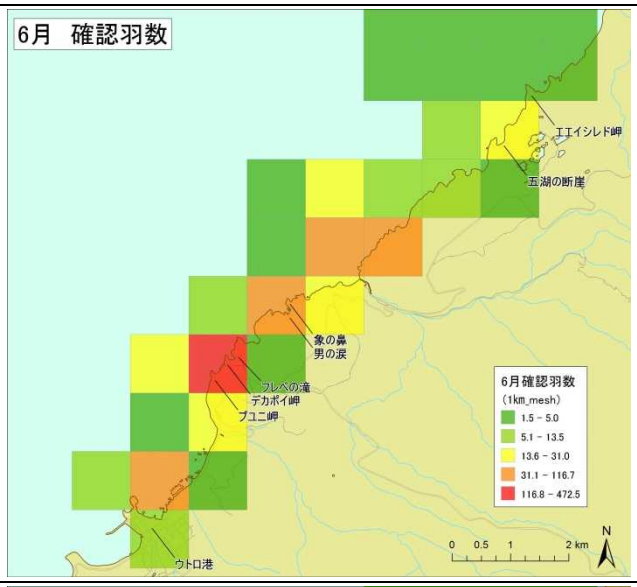
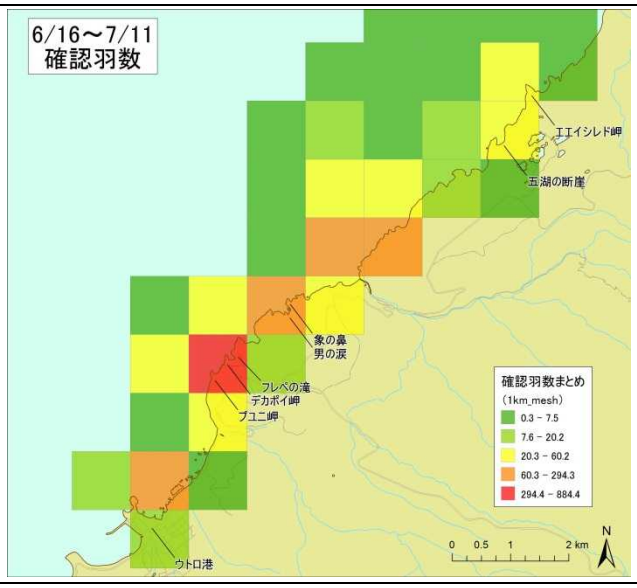
| 観察月 | メッシュ図 |
|---|---|
| 6 月 |  |
| 7 月 |  |
| 6～7 月 |  |

図 4-7　GIS によるケイマフリ確認個体数メッシュ解析

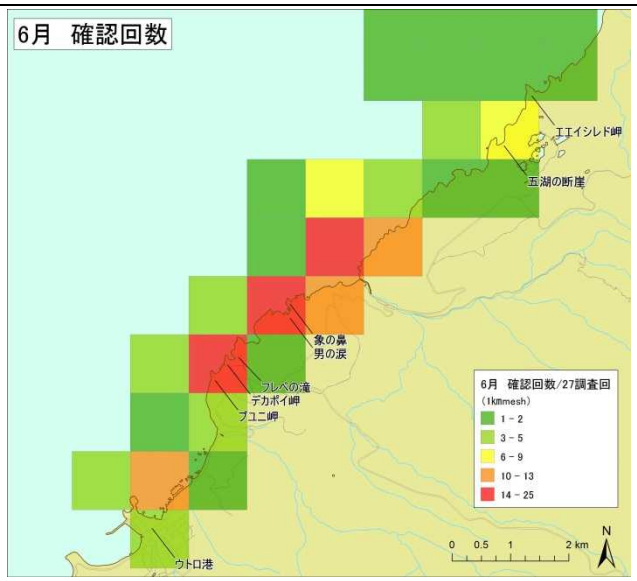
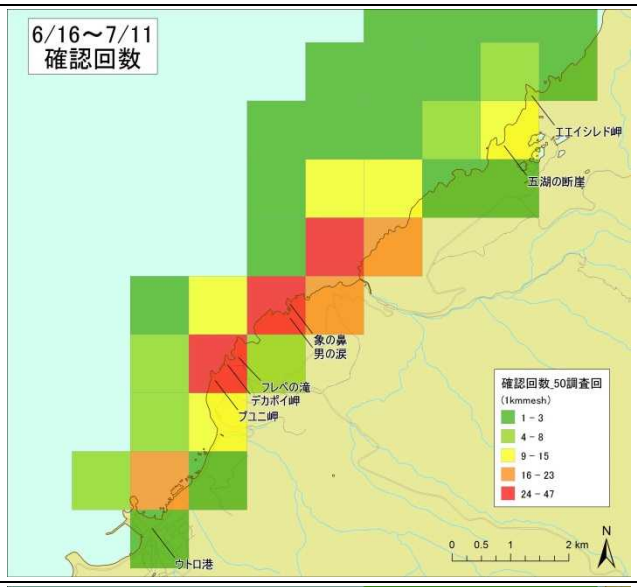
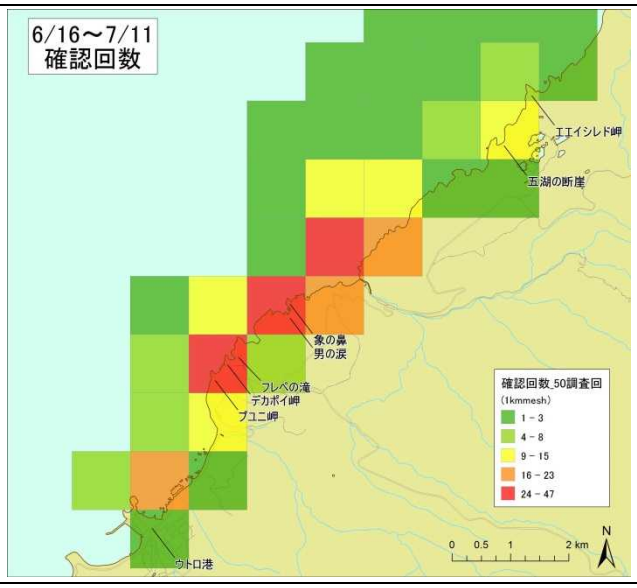
| 観察月 | メッシュ図 |
|---|---|
| 6 月 |  |
| 7 月 |  |
| 6～7 月 |  |

図 4-8　GIS によるケイマフリ確認回数メッシュ解析

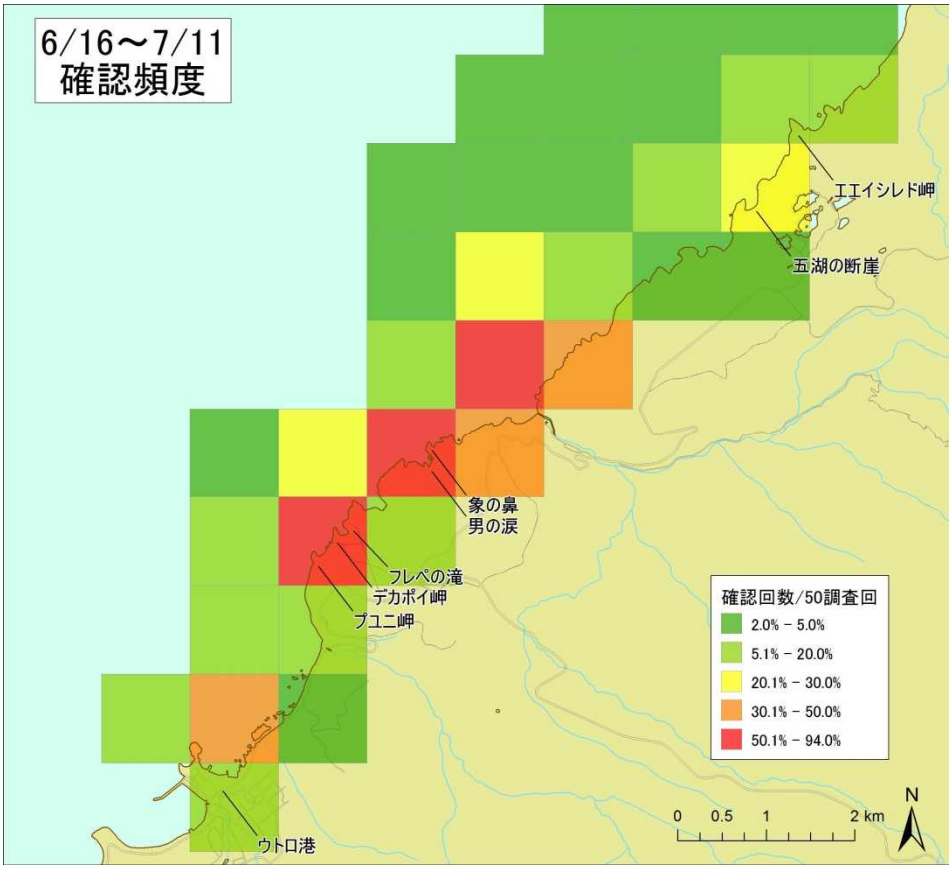



図 4-9　GIS によるケイマフリ個体確認頻度のメッシュ解析（6 月～7 月）

## 4-8. 次年度以降の観察実施について

平成 23 年度から今年度までの 2 年間の観察実施結果を踏まえ、次年度以降の観察実施方法について、以下に検討し提案する。

### (1) 実施のための留意点

今後も観察が継続されるよう、今後の継続実施における留意点を以下にまとめる。

・観光船事業者の取り組みへの行政のサポート

海域状況観察記録についても、利用動向調査と同様に、行政との協働による調査の実施によって得られる双方のメリットの共通認識を維持する事が重要である。

行政としては、海域における海鳥をはじめとする野生動物の観察データが得られるメリットがある。専門家による調査からは精度的には劣るものの、観察頻度は専門家の調査を凌ぐものである。観光船からの観察実施は、定期的で、かつ定量的な観察も期待可能であり、調査データとしての価値も十分にあるものと考えられる。

また、海域における異常現象や野生動物の事故、不適切な公園利用者などの発見の可能性がある事など（もちろん観光船事業者の責任範疇ではないが）、「海の番人」として巡視的な役割も副次的に期待できる。

一方の観光船事業者には、“知床の自然を守ることに積極的に協力している”→“質の高いサービス”というアピールにつながり、海洋生物を観察する事による、利用者への解説サービス技術の向上も期待できると考えられる。

今後は各観光船事業者に観察の継続実施を推奨するとともに、行政は専門家による観察技術の指導や観察記録のレビューなどの技術支援やサポート、今年度行われた調査結果の GIS による可視化作業や調査結果を活用した広報資料の制作のような、観察実施者（観光船事業者）への“成果の還元“が必要と考えられる。

### (2) 実施方法

次年度以降の実施については、現実的には今年度同様に大型観光船による実施のみが可能と考えらえるが、もちろん小型観光船や漁業者などへの、実施の呼び掛けも行われることが望ましい。

## 5. 広報用コンテンツの作成について

今年度事業では、平成 23 年度に作成したホームページに続くＰＲコンテンツとして、ケイマフリ等海鳥の生態や、それを保全する活動について紹介する動画コンテンツを制作した。動画コンテンツ制作の構想は、平成 22 年度の検討会の中で提案されていたものである。これを受けて平成 23 年度はサンプル版を試験的に制作し、ホームページから閲覧できるようにしていたが、今年度は実際のウトロ周辺のケイマフリの姿や、地域事業者の事業の様子などの映像の撮影を行い、「ケイマフリ短編動画シリーズ」7 本に加え、海鳥の専門家と観光船事業者双方のインタビュー映像を基に、これまでの経緯や、現在のウトロ海域部会の取り組みを紹介する「取り組み紹介ビデオ」(5 分編、10 分編、30 分編)も制作した。制作した動画コンテンツは、インターネット動画サイト「YouTube」から既に公開されている。

### 5-1. 制作手順の検討

動画コンテンツの制作手順は　図 5-1　に示す作業フローに準じて作業を進めた。第 1 回部会（6 月 14 日開催）では、この制作手順の説明と関係者の協力依頼を行い了承され、第 2 回部会（10 月 23 日開催）までに撮影作業とデモ版の制作作業を進め、第 2 回部会でのデモ版の発表とレビューを実施し了承が得られ、その後本格的な制作作業を行った。

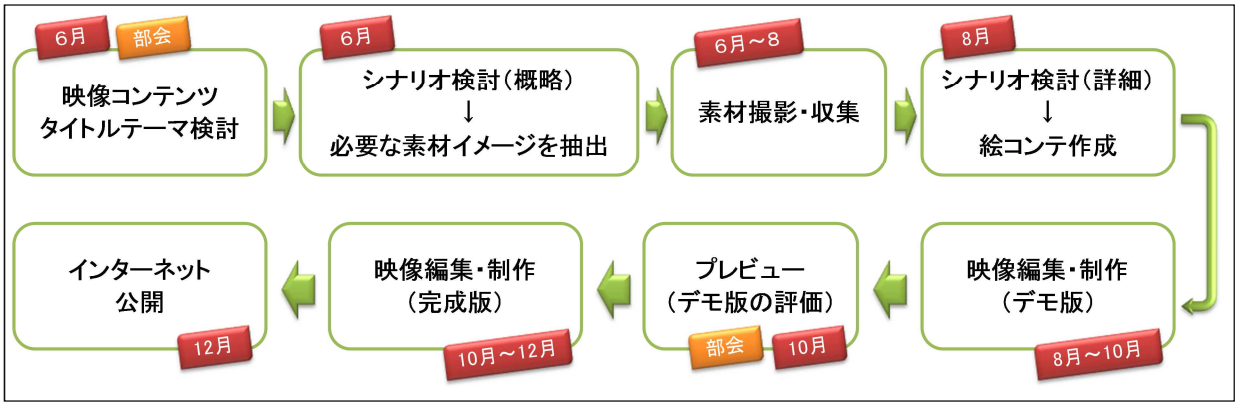



図 5-1　動画コンテンツ制作作業フロー

## 5-2.　シナリオの検討

動画コンテンツのタイトル全 7 タイトルを事前に検討し、第 1 回部会で協議され決定された。その後、それぞれのタイトルごとにシナリオ案と必要な映像シーンの検討を行った。タイトルの一覧は以下のとおりである。（最終的にタイトル名称は変更されているが、内容については当初のシナリオ意図を踏襲している）

(1) ケイマフリとは？
(2) ケイマフリの希少性について
(3) ケイマフリの生態的特徴
(4) ケイマフリの営巣
(5) ケイマフリを守る取組１（観光船事業者によるルール）
(6) ケイマフリを守る取組２（ケイマフリを調査する活動）
(7) ケイマフリを守る取組３（デコイの設置）

またウトロ海域部会の「取り組み紹介ビデオ」については、関連会議での報告用として、先行して敷田座長のシナリオ案を基に撮影、編集作業を行った。

次頁以降に各タイトルのシナリオ検討内容を示す。

5-2-1.　　動画コンテンツシナリオ検討内容

## 01 タイトル：ケイマフリとは？

「ケイマフリという海鳥を御存じですか？」

ビデオ　写真

### 1. 知床半島ウトロの紹介

「・・・ヒグマやシマフクロウなどの野生動物と知床連山、カムイワッカの滝、知床五湖などダイナミックで勇壮な景観が知床の魅力として、訪れる人々を楽しませています。しかし・・・あまり皆さんに知られていませんが、こんな生き物も知床には生息しています。」

- ウトロの風景・・・プユニの展望台からの風景、など
- にぎわう観光客・・・道の駅、遺産センター、ホテル、観光船
- 野生動物・・・エゾシカ、熊、カラフトマス遡上（岩尾別川、遠音別）、海鳥
- 景観（陸）・・・知床連山（岩尾別の坂）、カムイワッカ、五湖
- 景観（海）・・・漁港（漁船）、カムイワッカの滝、断崖、クンネポール

### 2. 知床半島は海鳥の楽園

「知床の海にはたくさんの海鳥の姿を見る事が出来ます。ウミウ、オオセグロカモメ、ウミネコ、ハシボソミズナギドリ、、、例えば一口にカモメといってもたくさんの種類が居ます。普段頻繁に目にするオオセグロカモメ、ウミネコのほかにもミツユビカモメ、ワシカモメ、シロカモメ、ユリカモメ、・・・御存知でしたか？」

「五湖の断崖といわれている断崖には 500 つがい以上のウミネコとウミウの営巣地、コロニーが形成されています。」

「近年、ウトロで少しずつ話題になっている海鳥がいます・・・ケイマフリです。」

- ウミウ・・・岩の上の群れ、羽根を乾かしている所、何羽かで飛翔しているところ
- ウミネコ・・・青空をバックに飛んでいるところ（オロンコ岩でもよし）
- オオセグロカモメ・・・港で羽づくろいしているような絵、断崖で抱卵しているところ
- ケイマフリ①・・・洋上に浮かぶケイマフリ（単独・群れ）、断崖とケイマフリ、飛翔、潜水、餌咥え、営巣地付近

### 3. ケイマフリの紹介 1

形態的特徴

- アップの写真・・・顔、足などわかる物など数枚

### 4. ケイマフリの紹介 2

生息環境

- 断崖の風景（プユニなど）　遠景および岩の割れ目などのアップ

## 5. ケイマフリの紹介 3

繁殖期

- １２ヶ月カレンダーのイラスト　→　３月中旬→８月中旬　ハイライトのアニメ

- ケイマフリ①・・・洋上に浮かぶケイマフリ（単独・群れ）、断崖とケイマフリ、飛翔、潜水、餌咥え、営巣地付近

## 6. ケイマフリの事をちょっとだけ覚えておいて下さい

「ヒグマだけじゃない知床の実力を是非見て下さい。自然豊かな知床でも、ここウトロでしか生きられないケイマフリという鳥が暮らしています。赤い脚のケイマフリ。是非その目でお確かめ下さい。」

- ケイマフリ①・・・洋上に浮かぶケイマフリ（単独・群れ）、断崖とケイマフリ、飛翔、潜水、餌咥え、営巣地付近

## 02 タイトル：ケイマフリの希少性について

### 1. ケイマフリの解説

知床のケイマフリの紹介：「知床半島ではウトロ周辺の海岸の断崖にのみ営巣し、3 月末～8 月初旬の繁殖期しか、殆んど見る事ができない海鳥です。過去においてはウトロの繁殖地では数多くのケイマフリを見る事が出来ましたが、近年、徐々にその数を減らしています。」

・ウトロの風景（プユニの展望台など）　ケイマフリの映像

### 2. 生態について解説

ウミスズメ科の海鳥で、主な餌は小魚や甲殻類。海に潜り餌を獲ります。繁殖は春で海岸の断崖地形にある岩の割れ目などで営巣。卵は一度に 2 個産みます。巣立ちは 8 月です。ケイマフリは繁殖のために海岸にやってきて次の年の繁殖期までは沖合の洋上で暮らしています。

・　断崖に佇むケイマフリ　・営巣箇所付近でのケイマフリのいる風景
・　餌を咥えているところ　・海面から飛び立ち巣に戻るところ　・巣から出てくるところ

### 3. 分布域について解説

国内での生息地、世界的な生息地、RDB 指定状況　→分布域も広くは無い！

・国内生息地の地図　・海外分布域の地図　・環境省 RDB のカテゴリ説明とケイマフリのランク解説

### 4. 生息数について解説

国内での生息数およびウトロでの生息数の状況　→「だんだん減っている。」

・国内生息数グラフ　・調査結果から（生息数推移グラフ）

### 5. こんなに手軽に見る事が出来るのはウトロだけ

観光船などで手軽に見る事が出来るのはウトロだけ。良い時期に来られた際には一目見て欲しい海鳥です。鮮やかな赤い脚を持つ海鳥を是非探してみて下さい。

・賑わいを見せる観光船の絵　・ケイマフリの映像

## 03 タイトル：ケイマフリの生態的特徴

飛べるし、泳げるし、潜れる鳥

### 1. ケイマフリの色・形

ケイマフリの形態的特徴を解説。

・黒は一様に黒く、大きさは鳩と同じくらい。

・目の周りが白く、涙目のように見える。

・赤い脚。海の水色に生える赤！

・美しい鳴き声。注意深く聞いて下さいね。

・水面に漂う or 岩の上に佇むケイマフリのアップ
・飛び立つとき、着陸する時の赤い脚が目立つシーン
・ケイマフリの鳴き声（音声メイン）（群れが浮いている所などで撮影。プユニの前など）

### 2. 飛ぶ！潜る！泳ぐ！

ケイマフリは鳥なので勿論飛べますが、、

・潜って餌を探します。深さは？ｍぐらいまで潜る事もあるようです。時間は？分ぐらい潜れるようです。

・海中ではどんな動きをしているのでしょうか？ケイマフリは海の中でも飛ぶように翼を動かして自由に泳ぎ回ります。残念ながらケイマフリの泳ぐ姿は未だ撮影された事がありませんが、水中の様子を見てみましょう。

・ウトロの前浜の海底です。砂地の海底が広がっています。ケイマフリの大好物であるイカナゴという魚は、このような砂地の海底で昼間は砂に潜っていますが、敵が近付くとロケットのように飛び出してきます。飛び出してきたイカナゴをケイマフリは巧みに捕らえて浮上します。

・海で生きて行くための高度な能力を持ったケイマフリですが、彼らを支えているのは豊かな海域環境です。彼らがウトロ周辺で繁殖している事実は、知床の海が豊かである事の証です。知床の海が将来にわたりケイマフリ達が暮らしやすい海であるように、これからも大事にしていかなくてはなりません。

・ケイマフリの飛翔シーン　・水面を浮かんでいてチャポンと潜るシーン
・ポコンと浮き上がるシーン　・水中の映像（ROV）海底の状況　・砂から飛び出るイカナゴ
・イカナゴを咥えたケイマフリの姿（浮上して口にイカナゴを咥えているシーンがベスト）
・海の風景（豊かさを想像出来るようなシーン）

## 04 タイトル：ケイマフリの営巣

崖に営巣するケイマフリ

### 1. ケイマフリの繁殖期

「ケイマフリは知床の海から流氷が去る３月ウトロ周辺に繁殖のためにやってきます。産卵→抱卵→孵化→育雛→巣立ちは７月下旬～８月中旬です。」

・ケイマフリの飛翔シーン　・水面を浮かんでいてチャポンと潜るシーン
・ポコンと浮き上がるシーン　・水中の映像（ROV）海底の状況　・砂から飛び出るイカナゴ
・イカナゴを咥えたケイマフリの姿（浮上して口にイカナゴを咥えているシーンがベスト）

### 2. ケイマフリの子育て

「ケイマフリの雛が生まれると子育てが始まります。親鳥は海で餌を捕り、雛に給餌します。餌は大好物の小魚やカニなどです。小魚の中でもイカナゴと呼ばれる主に海底が砂地の場所に生息する小魚が主食となっています。イカナゴは多くの海洋生物の餌として利用されています。大変栄養豊富で貴重な餌資源となっています。」

「ウトロ漁港周辺にはイカナゴの生息する砂地の海底が広がっており、良い餌場となっており断崖の営巣地から餌を探しに頻繁にケイマフリがやってきます。断崖、そしてイカナゴが豊富な砂地の海底、この環境こそがケイマフリの繁殖に必要な環境要素です。」

・　ウトロ漁港周辺の風景　・ケイマフリが餌捕りをしている風景　・潜るシーン
・　イカナゴを咥えたケイマフリの姿（浮上して口にイカナゴを咥えているシーンがベスト）
・　水中の映像（倉沢氏撮影の海底の映像）・砂から飛び出るイカナゴ（倉沢氏撮影）
・海の風景（ベタ凪の穏やかな海、グリーンの海の色、夕焼けの海など）

### 3. ケイマフリの巣立ち

「夏。いよいよケイマフリは巣立ちのときを迎えます。ケイマフリの巣立ちは・・・・・残念ながら巣立ちの瞬間を撮影した記録がありません。幼鳥はまだうまく飛ぶ事のできないので、おそらくまだ薄暗い早朝などなるべく外敵に襲われないように、非常に警戒した中での一瞬の巣立ちであると予想されています。」

・　断崖の上で鳴くケイマフリ　・海に浮かぶケイマフリ
・　海に浮かんでいるケイマフリつがいと幼鳥（難しいか？）
・　遠くに飛んでいくケイマフリ（ウトロを離れていくようなイメージのもの）

「巣立ったケイマフリはどこへ行くのか？実はまだ巣立った後の移動経路や洋上での暮らしについては詳しい事は解明されていません。しかし翌年の春、ケイマフリはまたここ知床半島ウトロに子育てのためにやってきます。ケイマフリにとってここウトロは命をつなぐための大事な場所なのです。」

## 05 タイトル：ケイマフリを守る取組 1
## （観光船事業者によるルール）

### 1. ケイマフリをシンボルに～ウトロ海域部会の発足

「知床のケイマフリの生息状況は安定しているのでしょうか？近年ケイマフリの生息状況を調査している研究者から、ケイマフリの生息数が減少している事が指摘されました。知床国立公園を管理する環境省は漁業者、観光船事業者などの海域利用者と、行政機関が参加する適正利用エコツーリズム検討会議ウトロ海域部会を立ち上げ、知床の海域に係わる諸問題を協議する場が提供されました。そして緊急性が高いケイマフリの保護について具体的な協議と取り組みがスタートしました。」

- 会議の開催風景（環境省、敷田先生、観光船事業者、漁協、自治体、観光協会、国土交通省、そうそうたるメンバーが揃っている、スライドショー）

### 2. 小型観光船の取り組み

「小型観光船事業者により組織されている知床小型観光船協議会では、各事業所でのケイマフリ展示や利用者動向アンケート調査協力、ケイマフリデコイ設置エリアへの接近自粛、ケイマフリ保護のための募金活動、海鳥研究者を講師に迎えた意見交換会の開催など、様々な取り組みをスタートさせています。」

- 観光船の店舗が並ぶ通りの風景　・ケイマフリ展示の様子（ゴジラさん）
- 募金箱とアンケートが置かれている所（ドルフィンさん）
- ポスターと待合室（KAZU さん）　・お客さんにデコイを見せる光景（FOX さん）

- 断崖付近を行く観光船　・ケイマフリの説明をしているところ（運航中の様子）
- 海に浮かぶデコイとその横を通過する観光船

### 3. 大型観光船の取り組み

「ウトロで唯一営業している大型観光船おーろら号では、海域で見られるケイマフリをはじめとする海洋生物の観察記録を記入し、データの蓄積を行っています。ケイマフリの季節ごとの分布エリアの変化や確認個体数の変化を観察しています。またデータの蓄積のほかにも、その他の海洋生物の出現状況や、海域の変化などを観察する事で、海洋生物におこる何らかの事故や急激な変化などの早期発見に繋がることも期待されています。」

- 港に停泊するおーろら　・お客さんが乗り込むところ　・海を行くおーろら（すれ違う船から）
- 船内に展示されているデコイとポスター　・風景を楽しむお客さん　・硫黄山とカムイワッカ
- 海域観察記録の実施しているところ（双眼鏡で覗いているシーン、記入しているシーン）
- お客さんに何かを説明している船員の風景（笑顔付）

## 4. 地域の取り組みとしての広がり

「ケイマフリの保護をシンボルに取り組みを展開してきたウトロ海域部会では、この取り組みを地域の取り組みとして広がりを実現できるよう、ホテルや旅館、民宿などの宿泊事業者へのアプローチも始めました。宿泊事業に係わる方を対象にした“海鳥出前講座”の開催や、ケイマフリ PR 展示支援などを行い、知床を訪れる利用者にケイマフリの事を紹介して頂いています。ケイマフリという海鳥が暮らしている知床、そしてそのことを伝える事のできる観光事業関係者。質の高い知床観光を目指し、より来訪者に旅を楽しんでいただくための地域の取り組みとして、期待されています。」

- ウトロのホテルエリアの風景　・海鳥検討会の実施風景（今期実施しなければ写真）
- 団体客を迎えるスタッフ　・ケイマフリの展示風景　・ケイマフリを宿泊客に紹介している光景（笑顔付）

エンディング

- ウトロの海の風景　・ケイマフリの映像をいくつか

## 06タイトル：ケイマフリを守る取組２
## （ケイマフリを調査する活動）

### 1. ケイマフリを調査する人

「ウトロ在住の福田佳弘さん。（知床海鳥研究会　代表）日本野鳥の会職員として天売島のウミガラス（オロロン鳥）などの調査研究を長期にわたり実施したキャリアを持ち、２００？年斜里町ウトロに住みケイマフリをはじめとする知床の海鳥の調査研究を現在も継続している。

・　調査の準備をする福田氏　・港を出て行く福田さんの船

### 2. ケイマフリの調査方法とは？

「ケイマフリの調査は小型船を使用した洋上観察によるものです。毎週のように調査を実施し、個体確認数の記録や繁殖状況の確認などを行っています。そのほか潜水士やによるケイマフリの餌場となる改定の状況やイカナゴの生息調査も行われています。平成２４年には水中ロボットカメラ（ROV）による改定調査も実施されました。ケイマフリ以外の海鳥についても観光船「おーろら号」に乗船し、知床半島の海鳥生息分布調査も行われています。」

・　断崖の前で双眼鏡を覗く福田氏　。カメラを構える福田氏　・おーろら号で調査中の福田氏
・　ROV の紹介映像　・ROV 調査実施風景

### 3. ケイマフリの保護の必要性を訴える　～観光船事業者との衝突

※　本人の承諾が得られればインタビュー中の福田氏の映像

「ケイマフリが減少していることを感じて、観光船の影響が考えられたので、ある会議の席でケイマフリの生息数の事や観光船の営巣地への接近などについての自粛を依頼したが、最初は全く平行線で理解しては貰えませんでした。挙句の果てに怒鳴られたりもしましたね。（笑）」

・　昔の写真　会議風景や調査時の写真など

### 4. 観光船事業者の理解と地域の協力

「しかしウトロ海域部会が始まった２０１０年からは、観光船事業者の理解も徐々に得られ、また協力関係としてケイマフリデコイ設置箇所周辺での接近自粛や海鳥に関わる情報交換が行われるようになってきました。最近でホテルなど宿泊事業者との協力関係も構築されつつあり、益々地域に根差した取り組みとなって活動が継続していけたらと考えています。

・海鳥ミニで前講座中の福田氏　・小型観光船協議会の月例会への参加風景

エンディング

・　ウトロの海の風景　・ケイマフリの映像をいくつか

## 07 タイトル：ケイマフリを守る取組３（デコイの設置）

### 1. 保護増殖への動き　～ケイマフリデコイの設置が始まった

「平成２３年度からは過去にケイマフリの営巣が見られ、その後営巣数が減少してしまったトークシモイ（コケシ岩付近）にデコイが設置されました。ここにまたケイマフリの営巣地を復活させようとする試みです。設置の結果、周辺でのケイマフリの確認個体数が少しずつ増加している事が確認されました。今後は設置箇所や設置数量などを変更しながら観察を継続していきます。」

・　トークシモイ遠景　・水面に浮くデコイ映像　・トークシモイ付近に浮かぶケイマフリ

### 2. デコイの説明

「デコイは海鳥の模型・模造品です。海鳥は集団で暮らす習性があり、このデコイを囮として本物のケイマフリを誘引しようというのが目的です。ウミガラス（オロロン鳥）@天売島、エトピリカ@根室などでも同様の手法が用いられ保護増殖に効果を上げています。」

「デコイは FRP 製です。波にもまれても壊れないように意図的に形状を少し太目で細部の造形を省略した形に作られています。デコイには陸上設置型と洋上浮遊型の２種類があります。」

・　デコイ２タイプの映像　・デコイ本体部分のアップ

### 3. 設置箇所の説明

トークシモイ（こけし岩）の位置説明

・　地図上での位置説明（航空写真もしくは白地図ベースにハイライト表示）

### 4. 設置作業　～ウトロ漁協の協力

「設置作業にはウトロ漁業共同組合から船の利用、資材提供などの協力を頂いています。ウトロ周辺は海流も速く、設置には漁師の経験と海鳥研究者との両者の意見を踏まえ、細心の注意を払い設置しています。」

・　設置作業風景　・設置後の映像（近景→遠景）

### 5. デコイ設置エリアへの配慮　～観光船の接近自粛

「小型観光船協議会の加盟各社には、トークシモイの湾入り口付近への接近自粛以来を行い、各社協力いただいています。

・　デコイと横を航行する観光船

エンディング

・　ウトロの海の風景　・ケイマフリの映像をいくつか

## 5-3.　撮影作業

動画コンテンツ制作に際し、写真およびビデオの撮影作業を行った。撮影実施日は以下のとおりである。撮影には観光船事業者やウトロ地区の宿泊事業者の方々から、多大な協力を得ることが出来た。また、本業務での撮影で得られなかったケイマフリの飛翔や採餌、営巣地における行動、海中景観等の映像については、釧路自然環境事務所にて別途購入の上、提供いただいた。

表 5-1　影作業実施状況一覧

| 撮影日 | 主な撮影内容 |
|---|---|
| 6 月 5 日 | 海岸風景、海鳥など |
| 6 月 15 日 | ウトロ漁港、知床連山、大漁祈願祭など |
| 7 月 12,13,14 日 | ウトロ市街地遠景、ウトロ漁港、ケイマフリ（港）、カモメ類、エゾシカ、福田氏、神尾氏のインタビュー撮影など |
| 7 月 26,27 日 | ウトロ漁港（観光船）、世界遺産センター、小型観光船乗船撮影、ケイマフリ（港） |
| 8 月 8,9,10 日 | 大型観光船乗船撮影、「海鳥ミニ出前講座」撮影、福田氏の調査風景撮影、営巣地周辺の海岸撮影、ケイマフリ（港） |
| 8 月 30,31 日 | ウトロ漁港（観光船）、ウトロ市街地遠景（オロンコ岩から） |
| 9 月 13,14 日 | 音遠別川のカラフトマス遡上、観光船事業者案内所、宿泊施設内のケイマフリ展示状況、大型観光船乗船撮影、ウミウなど海岸風景撮影 |
| 10 月 24 日 | 知床五湖、岩尾別川など |

写真 5-1 海鳥調査船からの撮影(H24.8.10)

## 5-4.　動画コンテンツ編集およびレビュー

動画コンテンツのデモ版のレビューは、第 2 回ウトロ海域部会の開催に合わせ、事前に関係者各位へ案内し、意見の収集に努めた。また平成 25 年 2 月 22 日には、本業務受託者の制作担当スタッフと、ウトロ海域部会委員　福田　佳弘　氏　によるレビューを実施し、テロップの修正や画像の差し替えなどの助言を受けている。

5-5.　　動画コンテンツ　タイトル一覧

# ＝ ウトロ海域部会・ケイマフリ動画コンテンツ一覧 ＝

## ウトロ海域部会　取り組み紹介 10 分編　　http://www.youtube.com/watch?v=GuOSBj9v3y8

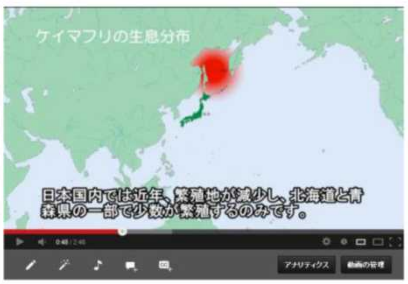
ケイマフリの保護をシンボルテーマとして、『人と自然との良い関係つくり』を目指し立ち上げられた『知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議＝ウトロ海域部会』の取り組みを紹介。

## ①　「知ってる？」　ケイマフリ　　http://youtu.be/cqTLceNf9Bg

勇壮な自然景観で訪れる人々を楽しませてくれる知床。多くの野生動物が生息する知床。ここ知床のウトロで、近年少しずつ話題になっている海鳥『ケイマフリ』を紹介。ヒグマだけじゃない知床の実力を是非ご覧下さい。

## ②　貴重な海鳥「ケイマフリ」　　http://youtu.be/7I_mhE6vp6A

ケイマフリの生息地とその生息個所での現状を示し、ケイマフリの希少性を環境省レッドデータブックのランク区分を使用して紹介。ケイマフリを観光船や防波堤から観察できるのはウトロだけ！




## ④　『飛ぶ！潜る！泳ぐ！』ケイマフリの生態　　http://youtu.be/c6IhA7fxCv0

ケイマフリの形態、ケイマフリが生息する海上での様子を使い、ケイマフリの生態について紹介。ケイマフリがウトロ周辺で繁殖している事実は、知床の海が豊かである事の証です。

⑤　ケイマフリの子育て～断崖と海に守られて～　http://youtu.be/KeGZzvJKjxU

ケイマフリの子育てを営巣地（断崖の巣穴）の映像を中心に紹介。ケイマフリにとってここウトロは命をつなぐための大事な場所なのです。

⑥　知床の海鳥を見守る　http://youtu.be/uBk16BLkeVU

ウトロに住みケイマフリの調査・研究を続けている『知床海鳥研究会　福田佳弘さん』の活動をインタビューとともに紹介。

⑦　ケイマフリデコイの「デコイくん」　http://youtu.be/p4jHFtIsmK4

ケイマフリデコイの設置についてデコイの形態や種類の他、設置作業の様子を示しながら解説。デコイ設置作業での漁業関係者の協力や観光船事業者の保護活動への協力を紹介。

⑧　ウトロの人々が守るケイマフリ　http://youtu.be/DRnpkKEEfXc

小型観光船事業者、大型観光船事業者、宿泊事業者ら観光事業関係者達によるケイマフリを見守る取り組みを紹介。

## 6. 検討会の運営

今年度事業では地域関係者を交えた全体会合（適正利用・エコツーリズム検討会議ウトロ海域部会）を斜里町内で 2 回、また専門委員らによる企画会合を 1 回開催し、活発な議論が行われた。

表 6-1　関係者打合せ、地域検討会実施状況

| 会議区分 | 開催日 | 場所・日時 | 参加者状況 |
|---|---|---|---|
| ウトロ海域部会 | H24 年 6 月 14 日 | 斜里町ウトロ（知床遺産センター） | 環境省、専門委員、<br>地域関係者ら 21 名 |
| ウトロ海域部会 | H24 年 10 月 23 日 | 斜里町ウトロ（知床遺産センター） | 環境省、専門委員、<br>地域関係者ら 22 名 |
| 企画会合 | H25 年 3 月 1 日 | 羅臼町（コミュニティーセンター） | 環境省、専門委員ら 10 名 |

写真 6-1　部会開催の状況(H24.6.14)

## 6-1.　第１回　ウトロ海域部会の開催

### 6-1-1.　開催概要

| | |
|---|---|
| 会議名 | 第１回　ウトロ海域部会の開催 |
| 日　時 | 平成 24 年 6 月 14 日　PM18:00～20:00 |
| 場　所 | 斜里町ウトロ　知床世界遺産センター　レクチャールーム |
| 参加者 | 環境省、専門委員、地域関係者ら 21 名 |
| 議　事 | 1．ウトロ海域部会について<br>～経緯および年次計画における今年度の位置付け<br>2．本年度事業実施計画<br>(1) ウトロ海域海鳥調査計画<br>～今年度の海鳥調査計画および、 デコイ設置状況について報告<br>(2) 利用者動向調査（アンケート調査）<br>～実施計画の説明<br>(3) 海域状況（海鳥）観察の実施<br>～実施依頼および観察技術支援（洋上説明会、意見交換会等）の実施計画<br>(4) 広報用コンテンツの作成<br>・ホームページの公開について<br>・動画コンテンツ制作について<br>・広報用素材（映像・写真等）の提供のお願いについて<br>(5) その他<br>・ケイマフリデコイを使用した広報 PR について<br>・海鳥出前講座の開催<br>3．その他　意見交換 |

写真 6-2　会議風景

### 6-1-2. 出席者

| 区 分 | 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|---|---|---|---|
| 委員 | 北大名誉教授、山皆鳥研客員研究員 | 名誉教授 | 小城 春雄 |
| | 北海道大学大学院水産科学研究院 | 教授 | 桜井 泰憲 (欠席) |
| | 北海道大学観光学高等研究センター | 教授 | (座長) 敷田 麻実 |
| | (財)日本交通公社 観光調査部 | 部長 | 寺崎 竜雄 (欠席) |
| | 斜里知床博物館 | 元館長 | 中川 元 |
| | 知床海鳥研究会 | 会長 | 福田 佳弘 |
| 関係行政機関等 | 斜里町 環境課自然環境係 | 係長 | 高橋 誠司 |
| | | 主事補 | 伊藤 咲音 |
| | 国土交通省北海道運輸局北見運輸支局 | | (欠席) |
| | 網走海上保安署 | | (欠席) |
| | 北海道オホーツク総合振興局環境生活課 | 係長 | 大宮 久俊 |
| 関係機関･団体 | ウトロ漁業協同組合 | 課長 | 山本 栄蔵 |
| | 斜里第一漁業協同組合 | | (欠席) |
| | 知床斜里町観光協会 | 部長 | 新村 武志 |
| | 知床ガイド協議会 | 会長 | 山本 泰寛 (欠席) |
| | 知床小型観光船協議会 | 事務局長 | 神尾 昇勝 |
| 事業者･一般 | 道東観光開発株 (知床観光船おーろら) | 取締役支配人 | 加藤 誠 |
| | | | 大木 俊和 |
| | ゴジラ岩観光 (ｶﾑｲﾜｯｶ号) | 代表取締役 | 小林 廣幸 |
| | ﾎﾜｲﾄﾘﾘｰ旭川 (ﾄﾞﾙﾌｨﾝ号) | | |
| | (有)知床遊覧船 (KAZU号) | | |
| | 知床ｸﾙｰｻﾞｰ観光船 (FOX号) | 常務取締役 | 渡部 譲二 |
| | | | 岡部 氏 |
| | 知床アウトドアガイドセンター | 代表 | 関口 均 (欠席) |
| オブザーバー | 知床温泉旅館協同組合 | | |
| | ･ホテル知床 | 支配人 | 長谷川 文吾 |
| | 知床民宿協会 | | (欠席) |
| 事務局 | 環境省 釧路自然環境事務所 | 次長 | 中山 隆治 |
| | 環境省 ウトロ自然保護官事務所 | 上席自然保護官 | 野川 裕史 |
| | | 自然保護官 | 山岸 隆彦 |
| その他 | ユニオンデーターシステム㈱ | | 栗林 貴光 |
| | | | 河井 邦夫 |

### 6-1-3. 会議資料

資料 1：トークシモイ ケイマフリデコイの活用

資料 2：ケイマフリホームページ Web ページ一覧

※会議資料・議事概要は知床データセンターWeb サイト
（http://dc.shiretoko-whc.com/）からも閲覧可能

## 6-1-4.　　議事概要

| 発言者 | 発言内容 |
|---|---|
| ○ 開会･挨拶 | |
| 環境省 | 釧路自然環境事務所　中山　次長 |
| ○ 議題 | |
| 環境省 | ･　本日の議題について説明 （環境省）<br><br>1.ウトロ海域部会について<br>　～経緯および年次計画における今年度の位置付け<br><br>2.本年度事業実施計画<br>1) ウトロ海域海鳥調査計画<br>2) 利用者動向調査（アンケート調査）<br>3) 海域状況（海鳥）観察の実施<br>4) 広報用コンテンツの作成<br>5) その他<br><br>3.その他　　意見交換 |
| 1.ウトロ海域部会について | |
| | 1.ウトロ海域部会について（経緯および今年度事業内容） |
| 環境省 | ･経緯および年次計画における今年度の位置付け （パワーポイントにて説明） |
| 敷田座長 | 成果のところで、どうやって協力関係が作れたのかを強調して記載するのが良い。 |
| 2.本年度事業実施計画 | |
| | 2-1.ウトロ海域海鳥調査計画 |
| 環境省 | 今年度事業実施計画について、パワーポイントおよび資料1にて説明<br>･今年度の海鳥調査計画<br>･デコイの設置状況について報告<br>･デコイの設置及びその意味について |
| 環境省 | デコイの効果は繁殖地に近づかないことと、観光船が利用者にケイマフリの存在を説明できることの、二つの効果があると思われる。今年設置したデコイは先日の時化で流されてしまったが、現在再設置を検討している。 |
| 福田委員 | デコイを設置し観光船が近づかないよう協力いただいたお陰で、観察されるつがいの数が去年より2･3ペア増えている。大きな効果が1･2年で出ていることに驚いてる。 |
| 小城委員 | ケイマフリは繁殖に関して非常に神経質。観光船が近づかなくなって安全だとわかれば、もっと巣穴は増えていくだろう。 |
| 小型船 | 多少距離をとったからといって、沖合にもケイマフリは居るので、お客さんへの反響に影響はまずない。ケイマフリに関しての知識も増えたので、お客さんに保護活動を伝えることを推奨している。 |
| | ･今後のデコイの設置のあり方 |
| 小型船 | 設置時期が課題で、今回のように流失してしまうことははこの先もあると思う。天候状況により回収するとか、事前に漁師の人と我々事業者と話し合っていくなど、連絡しあっていくことが大切だろうと思う。 |
| 福田委員 | あともう少しデコイの資金があれば良い。構造上根元から切れてしまうかもしれない。 |
| 環境省 | あと3体デコイがあるのでやり直すことは可能である。 |
| 小型船 | 確かに我々からしてもあそこは繁殖に適している気がする。同時に我々の事業としてはお客さんに景観を見せたいという気持ちが強かった。もっと早くから話し合いをしていたら解決していたかもしれない。今になれば我々も話が聞けるようになった。 |
| 敷田座長 | ウトロ漁協さんには、再度設置のご協力をお願いします。 |
| 福田委員 | 再設置の意味としては、呼び寄せるという効果というよりも、浮き目印です。去年からケイマフリがいなくなった時期にデコイがあったほうが良いというご意見を頂きました。鳥に影響がなければ置いてあっても良いと思う。 |
| 環境省 | 計画当初から繁殖が終わった後は目印を撤去して、観光船が運航する10月まではデコイを残しておくつもりです。 |
| 大型船 | 場所的に我々の船は離れているので近づけない所ですが、何かあれば、すぐ協力体制は取りたいと思う。 |
| | ･ケイマフリの生態調査―調査の必要性とガイドサービスへの活用 |
| 小城委員 | ケイマフリの1日の行動が見たいですね。もう少し生態情報の密度を高められないでしょうか？一体彼らはどういう生活をしているか？ということを観光船などで紹介するのは面白いと思う。観光をやっている方のサービスとして有効だろう。 |
| 中川委員 | ケイマフリを陸上から見れる営巣地があると良いが、なかなか難しい。 |
| 福田委員 | 船で上陸可能だが他の海鳥に影響を与えてしまう。トークシモイで営巣が復活すると観察しやすくなるだろう。 |

| 発言者 | 発言内容 |
|---|---|
| | ・研究者の現状と将来への課題 |
| 敷田座長 | 今まで話を伺っていてわかったのですが、結局、調査は福田さんが全てという感じになっている。福田さんがいなくなる可能性も無い訳ではない。そういうリスク管理も必要かと思う。環境省で担当できる方はいませんか？ |
| 環境省 | なかなか、そう簡単にはいかない。 |
| | 2-2.利用者動向調査（アンケート調査） |
| 環境省 | ・利用動向調査実施計画について、パワーポイントにて説明 |
| 小型船 | 大型船はどう配っているのですか？全員には配れないと思うが希望者だけか？ |
| 大型船 | 基本的に降りてくるお客さん全てに声掛けを行っている。欲しいのに渡せない、というようなことは無いようにしている。 |
| 福田委員 | 「環境省からのお願い」と放送してもらうと関心を持って受け取ってくれる。ケイマフリの普及という意味で効果が大きかった。展示されているポスター・デコイへの関心度も全然違う。 |
| 敷田座長 | 出来上がった調査結果を何らかの形で広く公開出きないか？HPの価値も上がるだろう。 |
| | 2-3.海域状況（海鳥）観察の実施 |
| 環境省 | ・海域状況観察記録実施計画について、パワーポイントにて説明 |
| 小型船 | 小型観光船については船長と乗組員2人だけなのでお客さんの管理もあって厳しい。 |
| 環境省 | ケイマフリがどこにいたかの情報が集められれば分布の基礎情報になる。ケイマフリを意識して運航してくれるので観光船利用者・ケイマフリ、双方のためになるはずと考えている。 |
| 敷田座長 | 小型船としては説明の仕方などを聞きたいなどの希望はあるのですか？ |
| 小型船 | 出前講座で話が聞ける機会が増えるのはとてもいいことだと思う。 |
| 敷田座長 | ハイシーズンは無理なので、シーズン以外にそういう機会を作ってもらうのはどうでしょうか？ |
| 中川委員 | 観光のハイシーズンとケイマフリの繁殖シーズンとの関係もあると思うのですが、ケイマフリ以外の海鳥も対象として観察を行って欲しい。解説も海鳥を全体的に説明してあげた方が面白いと思う。 |
| | 2-4.広報用コンテンツの作成 |
| 環境省 | ・広報用コンテンツの作成について、パワーポイントおよび資料2にて説明 |
| 敷田座長 | ホームページのコンテンツの「保護の取り組み」のところは「地域での取り組み」に変えたほうが良い。実際に取り組んでいる地域の皆さんを紹介して欲しい。 |
| 敷田座長 | 動画コンテンツの作成ですが、是非皆さんに登場してもらいたいと思う。生の声は迫力があるので取材をぜひ受けて欲しい。 |
| 敷田座長 | Youtubeに上げるのであれば、もっと柔らかいタイトルが良い。中身は真面目でいいですが検索に引っ掛かりやすいものを是非。若い方のアイディアをお願いしたい。 |
| | 2-5.その他 |
| 環境省 | ・ケイマフリデコイを使用した広報PRについて、パワーポイントにて説明 |
| | 意見無し |
| 3.その他 | |
| 小城委員 | 最近出た「オホーツク生態系保全日露協力シンポジウム報告書」には、たくさんネタが詰まっている。こういう話を報告書から抜きだして出前講座でやれば大変よいと思う。 |
| 観光船 | 今年からガイドを始めたばかりの者ですが、なぜケイマフリをアピールしているのか今回非常に勉強になりました。 |
| ○ 閉会 | |
| 環境省 | 閉会挨拶 |

## 6-2.　第 2 回　ウトロ海域部会

### 6-2-1.　開催概要

| | |
|---|---|
| 会議名 | 第 2 回　ウトロ海域部会 |
| 日　時 | 平成 24 年 10 月 23 日　PM18:00～20:00 |
| 場　所 | 斜里町ウトロ　知床世界遺産センター　レクチャールーム |
| 参加者 | 環境省、専門委員、地域関係者ら 22 名 |
| 議　事 | 1.　今年度の実施事業報告<br>・海鳥生息状況調査結果報告<br>・利用動向調査中間報告<br>・海域状況観察記録実施報告<br>・ケイマフリデコイ活用事業報告<br>・動画コンテンツ作成状況<br>2.　事業 3 年間の振り返り<br>・取り組み実施状況　評価および今後の課題<br>・課題整理および次年度以降の実施体制について<br>3.　その他　意見交換 |

写真 6-3　会議風景

6-2-2.　　出席者

| 区 分 | 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|---|---|---|---|
| 委員 | 北大名誉教授、山皆鳥研客員研究員 | 名誉教授 | 小城　春雄 |
| | 北海道大学大学院水産科学研究院 | 教授 | 桜井　泰憲　(欠席) |
| | 北海道大学観光学高等研究センター | 教授(座長) | 敷田　麻実 |
| | (財)日本交通公社 観光調査部 | 部長 | 寺崎 竜雄 |
| | 斜里知床博物館 | 元館長 | 中川　元 |
| | 知床海鳥研究会 | 会長 | 福田　佳弘 |
| 関係行政機関等 | 斜里町　　環境課 | 課長 | 岡田　秀明 |
| | | 自然環境係　係長 | 高橋　誠司 |
| | 国土交通省北海道運輸局北見運輸支局 | 首席運輸企画専門官 | 山口　浩之　(欠席) |
| | 網走海上保安署 | | (欠席) |
| | 北海道オホーツク総合振興局環境生活課 | 自然環境係　係長 | 大宮　久俊　(欠席) |
| 関係機関･団体 | ウトロ漁業協同組合 | 総務課　課長 | 山本　栄蔵 |
| | 斜里第一漁業協同組合 | | (欠席) |
| | 知床斜里町観光協会 | 事業部長 | 新村　武志 |
| | 知床ガイド協議会 | 会長 | 山本　泰寛　(欠席) |
| | 知床小型観光船協議会 | 会長 | 菅原　浩也※ |
| | | 事務局 | 神尾　昇勝※ |
| 事業者･一般 | 道東観光開発株　(知床観光船おーろら) | ウトロ営業所　所長 | 大木　俊和 |
| | | 機関長 | 七崎　淳二 |
| | | 二機士 | 山村　伸也 |
| | ゴジラ岩観光(ｶﾑｲﾜｯｶ号) | 代表取締役 | 小林　廣幸　(欠席) |
| | | 主任 | 神尾　昇勝※ |
| | ﾎﾜｲﾄﾘﾘｰ旭川(ﾄﾞﾙﾌｨﾝ号) | 代表取締役 | 菅原　浩也※ |
| | (有)知床遊覧船(KAZU号) | | (欠席) |
| | 知床ｸﾙｰｻﾞｰ観光船(FOX号) | 船長 | 渡部　健太郎 |
| | | | 岡部　孝大 |
| | 知床アウトドアガイドセンター | 代表 | 関口　均 |
| | | | 関口　菜央 |
| オブザーバー | 知床温泉旅館協同組合 | 組合長 | 佐々木　富美男 |
| | 知床民宿協会 | 会長 | 梅沢　征雄　(欠席) |
| 事務局 | 環境省　釧路自然環境事務所 | 次長 | 中山　隆治 |
| | | 自然保護官 | 木村　麻里子 |
| | 環境省　ウトロ自然保護官事務所 | 上席自然保護官 | 野川　裕史 |
| その他 | ユニオンデーターシステム㈱ | | 栗林　貴光 |
| | | | 竹田　俊哉 |

### 6-2-3. 会議資料

資料 1：利用動向調査調査結果中間報告
資料 2：ケイマフリ動画コンテンツ（評価版）タイトル一覧
資料 3：トークシモイ　ケイマフリデコイの設置
資料 4：海鳥生息状況調査結果中間報告

※会議資料・議事概要は知床データセンターWeb サイト
（http://dc.shiretoko-whc.com/）からも閲覧可能

## 6-2-4.　　議事概要

| 発言者 | 発言内容 |
|---|---|
| ○ 開会･挨拶 | |
| 環境省 | 釧路自然環境事務所　中山　次長 |
| ○ 議題 | |
| | 本日の議題について説明 （環境省）<br><br>1.今年度の事業実施報告<br>1) 海鳥生息状況調査結果報告<br>2) 利用動向調査中間報告<br>3) 海域状況観察記録実施報告<br>4) ケイマフリデコイ活用事業報告<br>5) 動画コンテンツの作成<br><br>2.事業3年間の振り返り<br>1) 取組実施状況　評価及び今後の課題<br>2) 課題整理および次年度以降の実施体制について<br><br>3.その他　　意見交換 |
| 1.今年度の事業実施報告 | |
| | 1-1.海鳥生息状況調査結果報告 |
| 福田委員 | ･調査結果概要について、資料4にて説明<br><br>○要旨<br>･今年のケイマフリの確認数は最大で140羽だった。これまでの生息数にほぼ回復したと思われる。営巣数は40巣を確認した。最も多かったのはプユニ岬で20巣、次に五湖の断崖の下で6巣、デコイの設置個所付近のトークシモイでは1巣のみだった。食性調査の結果は、88%がイカナゴでそれ以外はギンポ･カジカ･スケソウダラであった。<br>･他の海鳥については全体的に数が少なかった。ハシボソミズナギドリ、ミツユビカモメの数も少なかった。<br>･海洋ほ乳類に関しては、6～9月にかけてイシイルカは見られたもののその後見ることがなくなった。<br>･海鳥とイシイルカの数が少ない原因としては海水温の高さが考えられる。主な餌となるイカナゴは低水温でしか生きられず、海水温と海鳥の個体数は関連があると思われる。 |
| 小城委員 | ケイマフリの個体数が増えてきたことは嬉しい事。観光船の方々の努力によるものでしょう。 |
| 小型船 | あまり実感は無いが、気を付けるようにしているので結果に表れているのであれば良かったと思う。 |
| 敷田座長 | 今まで情報交換出来る場がなかったが、今は協力して自主的にやって頂いている。今後も是非続けて欲しい。 |
| 中川委員 | ケイマフリの営巣している辺りは第四紀溶岩の断崖で、それより先の方は第三紀で地質的に古い。そういうところではケイマフリは繁殖しない。 |
| 敷田座長 | そういう説明内容が伝わるといいですね。すごい偶然の場所でしか生息できないものがいるんだというお話が出来ればいいと思う。 |
| 敷田座長 | イルカ･クジラ類というのはお客さんに対してアピールできる観光資源になりえますか？ |
| 小型船 | 目撃率も上がってきているので観光資源になると思います。陸と海の動物両方が見られるというのは、かなり魅力的だろうと思う。 |
| | 1-2.利用動向調査中間報告 |
| 環境省 | 利用動向調査結果中間報告について、パワーポイントおよび資料1にて説明<br><br>･アンケートの配布総数が昨年多かったため今年は半数にした。回収率大型船約30%、小型船･シーカヤック20～25%で予想にほぼ即しており、十分な傾向比較が出来ると思われる。 |
| | 1-3.海域状況観察記録実施報告 |
| 環境省 | 海域状況観察記録について、パワーポイントにて説明<br><br>･今年度も6月～7月に「おーろら号」にて実施された。<br>･観察記録データの活用例として、環境省にてGISによるケイマフリ記録メッシュ解析を行った。 |
| | 1-4.ケイマフリデコイ活用事業報告 |
| 環境省 | ケイマフリデコイ活用事業について、パワーポイントにて説明<br><br>･ウトロ地区の宿泊業者へケイマフリデコイ及びパンフレットの貸し出し、展示協力を頂き地域の取り組みをPR |

| 発言者 | 発言内容 |
|---|---|
| | 1-5.動画コンテンツの作成 |
| 環境省 | 動画コンテンツの作成について、パワーポイントおよび資料2にて説明<br><br>・ケイマフリ動画7タイトル（デモ版）を作成 |
| 寺崎委員 | この短い期間でここにいるメンバーが現場に行ってデータを取られたり、あるいは宿泊事業者に興味を示して頂いたり、Youtubeで漁協さんも協力されているという話が出ていましたが、こういったことは割と難しい。日本中であまり例が無いことが短期間で出来たというのは率直に喜びたい。 |
| 敷田座長 | GISのデータは皆さんが記録したデータが、色々な方が見ても実感出来るような形に変換されている。船内でもお客さんに紹介出来ないか？見栄えも良いし解りやすくて良いだろう。 |
| 大型船 | 現在も船内放送でビデオを流してますから、合間に動画を流してお客さんに見て頂くということは可能だと思う。 |
| 小型船 | 可能だと思います。どの辺りが一番見られているかなど、資料的なものも配布出来ると良いと思う。 |
| 敷田座長 | インターネットを見てこられる利用者にはYoutubeの動画を案内することがでる。事前に動画を見た場合の楽しみ具合は上がると思うので、そういう工夫を来年度以降連携して実施して頂きたい。 |
| 寺崎委員 | 海鳥を守るためにこれだけの人間が一生懸命やっていて、価値のあるものだということが伝わると喜びも大きくなる。単に対象を見るだけではなくて、背景にある物語まで一緒に見せられると、対象生物の価値というのは上がるだろう。 |
| 敷田座長 | おそらく小型船のほうが情報提供が進んでいると思いますので、大型船でもお客さんとのやりとりがもっとあると良いのではないでしょうか？その物語というかストーリーを説明されればお客さんの反応は随分違うと思う。 |
| 福田委員 | 根室市ではバードウォッチングの街にしたいということで観光協会が力を入れています。ここではエトピリカを資源だと考えてる。上手い連携プランを考えることができれば、お互いに相乗効果があって経済効果も期待できるのではないか。 |
| 敷田座長 | 菅原会長、こういう話を福田さんと事務局の方でして頂いて連携して紹介するような事をぜひ検討をお願いします。また、これは「おーろら号」さんなど全体の利益にもなると思います。 |
| 敷田座長 | 動画（Youtube）については完成版が出来たら是非活用してください。 |
| 2.事業3年間の振り返り　　※3.その他　（意見交換） | |
| | 2-1.取組実施状況　評価および今後の課題 |
| 環境省 | .取組実施状況　評価および今後の課題について、パワーポイントにて説明<br><br>・自然観光資源の価値の向上<br>・利用機会の拡大<br>・各種海域利用者間の調整<br>・広報普及啓発 |
| | ・ケイマフリデコイについて |
| ウトロ漁協 | 私どもの立場としては出来る範囲で協力出来ることは協力する、というところです。空いている時は依頼して頂いて結構です。お金を払えとか、そういうことは言いませんので。 |
| 小型船 | デコイはもう少し先の知床五湖の手前あたりに設置してもらえれば説明しやすいと思う。 |
| 敷田座長 | 先程大型船では小さいから見えないというお話があったように、繁殖地ではない所に模型があって、それを説明用に位置付けるというのは選択の余地があると思う。 |
| 中川委員 | 私も街中ならそういう物もいいと思いますが、実際の繁殖地の海ではやめた方がいい。 |
| 寺崎委員 | ケイマフリ自体が好きで見たいという人は限られるのだけれども、その裏にあるプロジェクト全体が価値を作るという点を上手く伝えられたらいい。 |
| 小城委員 | 先程のYoutubeの動画の中でケイマフリが水中を泳いでいるシーンが無いので、是非その姿をみたいと思いますが、やはりそれは飼育下のものを撮るしかないでしょうか？元来沿岸性の鳥というのは飼育するのに非常に難しいものですけれども。ケイマフリの飼育について委員の1人の意見としてご記録願いたいと思う。 |
| | ・利用動向調査について |
| 寺崎委員 | 今回規模を小さくしても前回と変わらない結果となっていることは重要。アンケートの内容がちょっとプロモーション的なことが中心だったが、生態的な面でのモニタリングというのも非常に強調されてきた。アンケートの内容・規模も含めて利用者の意識・感想もずっと聞いていくことが持続的な保護活動にも繋がると思う。 |
| 敷田座長 | 何年も続けるのであれば管理コストも小さく出来るのでお考え頂けたらと思う。毎年やらなくても2年に1度という手もあるだろう。特に私が非常にいいなと思っているのが、このコメント欄の内容で、ひどいことを書かれるケースもある反面、ここを直した方がいいというのも幾つか拾えるので、皆さんにもお考え頂ければと思う。 |

| 発言者 | 発言内容 |
|---|---|
| | 2-2.課題整理および次年度以降の実施体制について |
| 環境省 | 課題整理および次年度以降の実施体制について、パワーポイントおよび資料4にて説明<br><br>1. 3ヵ年事業の総括<br><br>2. 平成25年度の重点事項<br>1) ケイマフリデコイを活用した航路設定<br>2) 観光船からの海鳥等観察記録<br>3) ケイマフリPR活動<br><br>3. 平成25年度のウトロ海域部会の体制 |
| 福田委員 | 海鳥調査を15年くらいやっているが、調査結果はまだ活用して頂けていないと感じている。調査をやりながら結果をすぐに皆さんへ情報提供して、常に活かしていけるような体制を作るのが大事だろう。 |
| 敷田座長 | 小型船協議会の方でこういう会議を開催していく事を、今後前向きにお考え頂けないでしょうか？ |
| 小型船 | それは全然問題ないです。持続していくことが大事ですよね。 |
| 敷田座長 | 斜里町の岡田さん、具体的な成果が上がっていますけれど町が予算要求しませんか？ |
| 斜里町 | 今回は環境省が全面的にバックアップ頂いて、資源の保護と活用の両立を民間の方々も含めて目指すという枠組みが出来てきたところだと思う。今後規模はどうあれ、どうやって繋いでいくかということだと思う。 |
| 敷田座長 | 海鳥の観察などはデータが抜けるとどうしようもなくなる。町には知床財団もお持ちですので、色々な可能性があると思う。資源を利用すればするほど環境保全が出来てしまうという『新しい形の環境保全』の仕組みなので、町としての説明も出来ると思う。 |
| 福田委員 | 例えばこういうことに関して、企業が協賛してバックアップしてくれる体制とか考えられないでしょうか？ |
| 環境省 | 持ち寄り方式とよく言われますが、持っているものをそれぞれ出していくとお金をあまりかけずに色々なことが出来る。環境省も今後予算の継続というものが難しいが、少しずつ良くしていけたらと思う。 |
| 敷田座長 | 事業が終わってから担当者の関心が薄れるのを防ぐことが重要である。 |
| 中川委員 | 平成25年度からどう受け継ぐかが重要。ケイマフリの生息状況を維持、あるいはもっと回復するのか？また元に戻らないように、そういうモニタリングは非常に重要だと思う。 |
| 敷田座長 | 来年度が勝負になる。こういう場の維持は地元関係者の熱心な努力がなければ長続きしない。是非小型船協議会も積極的に関わって頂ければと思う。 |
| ｼｰｶﾔｯｸ | ただそれを議論するのでも聞き役、世話役的な所が必要になってくるので、それは環境省さんにやってもらえるということで良いか？ |
| 環境省 | 聞き手的な役割は担えると思う。 |
| ○ 閉会 | |
| 環境省 | 釧路自然環境事務所　中山　次長 |

# 7. 企画会合および成果報告の実施

本事業は今年度で 3 カ年計画の最終年を迎えることとなり、知床世界自然遺産科学員会の会議の中でウトロ海域部会の成果報告を行い、また、次年度に向けた取り組みの実施に関する地域関係者会議を開催した。

表 7-1　関係者打合せ、地域検討会実施状況

| 会議区分 | 開催日 | 場所・日時 | 参加者状況 |
|---|---|---|---|
| 平成 24 年度<br>知床世界自然遺産科学員会 | H25 年 2 月 23 日 | 札幌市（北農健保会館　大会議室） | ウトロ海域部会から専門委員 3 名（敷田委員、中川委員、福田委員）敷田委員、中川委員は適正利用・エコツーリズムＷＧ委員兼任 |
| 企画会合 | H25 年 3 月 1 日 | 羅臼町（コミュニティーセンター） | 環境省、専門委員ら 10 名 |

## 7-1. 成果報告の実施

平成 25 年 2 月 23 日に開催された「平成 24 年度知床世界自然遺産科学委員会」の中で、ウトロ海域部会の 3 カ年の事業成果報告が行われ、ウトロ海域部会座長の敷田委員から、3 カ年事業の成果報告、福田委員からは、これまでのケイマフリに関するモニタリング調査結果概要とケイマフリ保護の取り組みに関する経緯と今後への課題などが発表された。

### 7-1-1. 開催概要

| | |
|---|---|
| 会議名 | 平成 24 年度　知床世界自然遺産科学委員会 |
| 日　時 | 平成 25 年 2 月 23 日　PM13:00～16:00 |
| 場　所 | 札幌市　北農健保会館　大会議室 |
| 参加者 | 環境省、専門委員、地域関係者ら 22 名 |
| 議　事 | 1．各ワーキンググループ等の検討状況について<br>2．第 2 期多利用型統合的海域管理計画について<br>3．知床エコツーリズム戦略について<br>4．知床世界自然遺産地域年次報告書について<br>5．知床国立公園管理計画改定について<br>6．気候変動シミュレーション結果について<br>**7．適正利用・エコツーリズム検討会議ウトロ海域部会の成果報告**<br>8．その他 |

## 7-1-2.　　出席者および発表者

| 区　分 | 所　属 | 職　名 | 氏　名 |
|---|---|---|---|
| ウトロ海域部会委員 | 北海道大学観光学高等研究センター | 教授（座長） | ※○　敷田　麻実 |
| | 斜里知床博物館 | 元館長 | ※　　中川　元 |
| | 知床海鳥研究会 | 会長 | ○　　福田　佳弘 |
| 環境省 | 環境省　釧路自然環境事務所 | 次長 | 中山　隆治 |
| | | 自然保護官 | 木村　麻里子 |
| | 環境省　ウトロ自然保護官事務所 | 上席自然保護官 | 野川　裕史 |
| | | 自然保護官 | 山岸　隆彦 |
| 事務局 | ユニオンデーターシステム㈱ | | 栗林　貴光 |

※：適正利用・エコツーリズムWG　委員兼任　　○：会議での発表者

知床世界自然遺産科学委員会

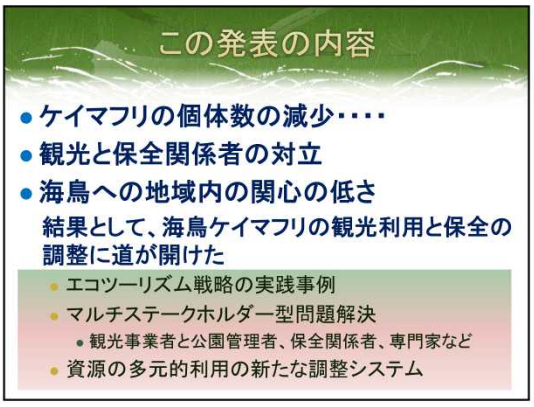
中川委員

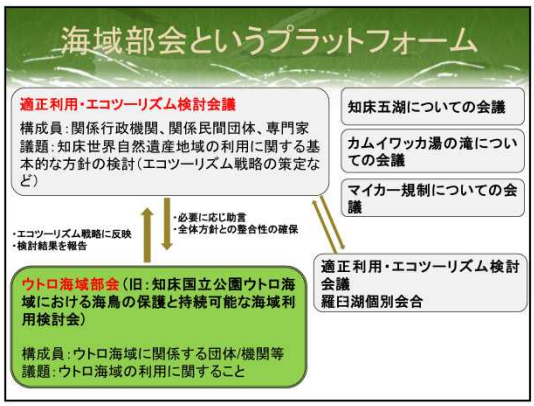
福田委員の報告発表

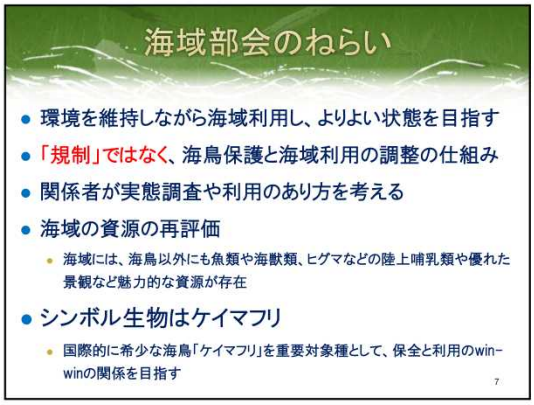
敷田座長の報告発表

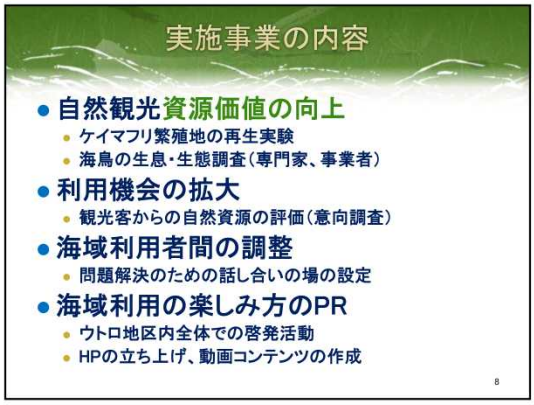
写真 7-1　会議風景

7-1-3.　　会議資料（敷田座長の報告発表パワーポイント）





## 自然観光資源の価値の向上

| | H22 | H23 | H24 | H25～ |
|---|---|---|---|---|
| ケイマフリ繁殖地の再生実験 | デコイ製作 | デコイ設置、<br>誘引効果モニタリング | デコイ設置、<br>誘引効果モニタリング | |

- かつての繁殖地にケイマフリデコイを設置

⇩

誘因効果の確認には至らず

⇩

- 本活動のシンボルアイテム
  - ・ケイマフリの存在を伝える
  - ・営巣に配慮する観光船を示す
  - ・協働活動を示す

## 自然観光資源の価値の向上

| | H22 | H23 | H24 | H25～ |
|---|---|---|---|---|
| 海鳥の生態調査<br>・ウトロ～岬の分布<br>・生息状況、採食状況 | 生態調査<br>・本調査<br>・モニタリング | 生態調査<br>・観光船による観察<br>（おーろら号）<br>・モニタリング | 生態調査<br>・観光船による観察と<br>GISデータ化<br>（おーろら号＋環境省）<br>・モニタリング | |

- 海鳥調査の実施　観光船による調査を支援

⇩

- 海鳥の情報を集める者、知る者、使う者を拡張

10

## 大型船による目視調査での連携

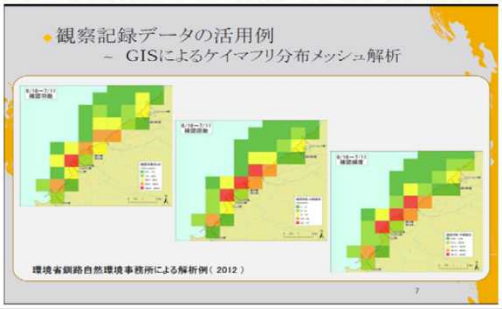
- 6月～7月の期間で「おーろら号、おーろら2号」の2隻で観察記録の実施
- 全50便分の観察データを記録

おーろら号

おーろら2号

## データ活用での官民連携

- 観察記録データの活用例
  - ～ GISによるケイマフリ分布メッシュ解析



環境省釧路自然環境事務所による解析例（2012）

7

## 利用者動向調査（アンケート調査）

今年度配布アンケート
（アンケート票・返信用封筒・ポストカード）

- 配布時期　前期（海鳥繁殖期）　：6月～7月
  後期（海鳥非繁殖期）：8月～9月
- 観光船窓口配布と直接配布
- 期、大型船・小型船、航路、団体・個人の集計
  単位別に目標回答数100とし配布
- 他の陸上アンケート調査と設問内容の調整

調査実施：ユニオンデータシステム㈱　（検討会運営受託会社）

13

## アンケート結果

| カテゴリ | 航路 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 合計 | 配布数 | 回収率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大型観光船 | 岬コース | 16 | 153 | 108 | 112 | 389 | 1,411 | 27.6% |
| | 硫黄山コース | 5 | 79 | 59 | 42 | 185 | 1,102 | 16.8% |
| | 小計 | 21 | 232 | 167 | 154 | 574 | 2,513 | 22.8% |
| 小型観光船 | 小計 | 26 | 157 | 113 | 64 | 360 | 1,600 | 22.5% |
| シーカヤック | 小計 | 8 | 43 | 88 | 58 | 197 | 744 | 26.5% |
| | 合計 | 55 | 432 | 368 | 276 | 1,131 | 4,857 | 23.3% |

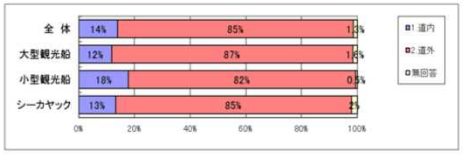
※航路未選択回答（大型4回答、小型5回答）を除く

⇩

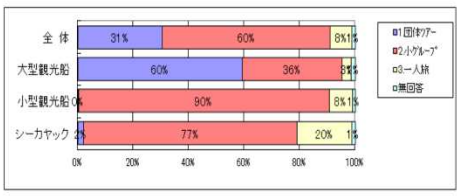
- 回収数1,140　全体の回答率23.3%
- 大型船小型船共に岬・ルシャコースの回答率が高い

14

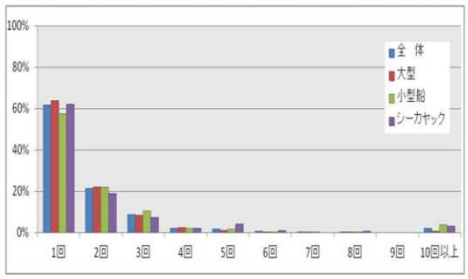
## 北海道内外の観光客の割合



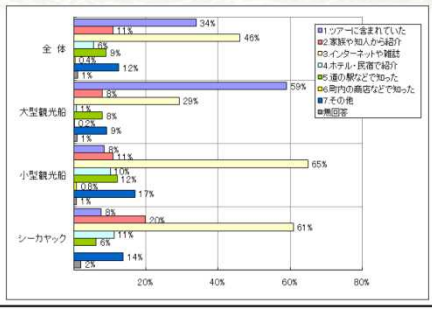

## 利用施設による観光客の違い



## 60%が初めての訪問客

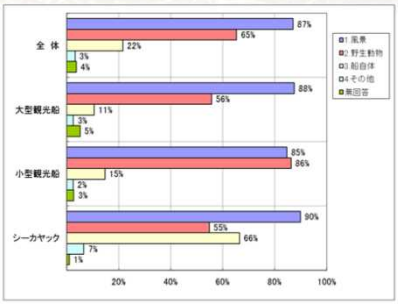



## インターネット利用の観光客

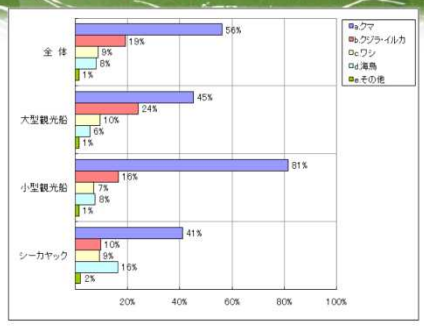



## 船に乗る前に何に期待したか？

複数回答

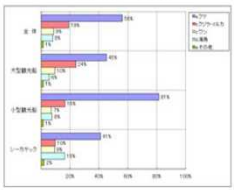



## ターゲットはどんな野生生物？

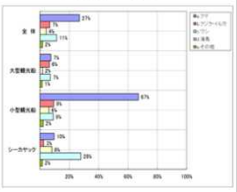



## 野生生物は期待に応えたか？

乗船前の期待



下船後の印象



## 海域利用の楽しみ方のPR

広報普及啓発

| | H22 | H23 | H24 | H25～ |
|---|---|---|---|---|
| 海域利用の楽しみ方のPR | 小冊子作成 | デコイを使ったPR<br>Webによる情報提供<br>ミニ出前講座の開催 | 観察会開催等<br>Webコンテンツの充実<br>ケイマフリ展示支援（宿泊関係） | |

- ウトロ地域からのPR
- 活用する側からのPR
- 保護する側からのPR

ケイマフリデコイの展示
（世界遺産センター）

## 海域利用の楽しみ方のPR

広報普及啓発

| | H22 | H23 | H24 | H25～ |
|---|---|---|---|---|
| 海域利用の楽しみ方のPR | 小冊子作成 | デコイを使ったPR<br>Webによる情報提供<br>ミニ出前講座の開催 | 観察会開催等<br>Webコンテンツの充実<br>ケイマフリ展示支援（宿泊関係） | |

## 海域利用の楽しみ方のPR

広報普及啓発

| | H22 | H23 | H24 | H25～ |
|---|---|---|---|---|
| 海域利用の楽しみ方のPR | 小冊子作成 | デコイを使ったPR<br>Webによる情報提供<br>ミニ出前講座の開催 | 観察会開催等<br>Webコンテンツの充実<br>ケイマフリ展示支援（宿泊関係） | |

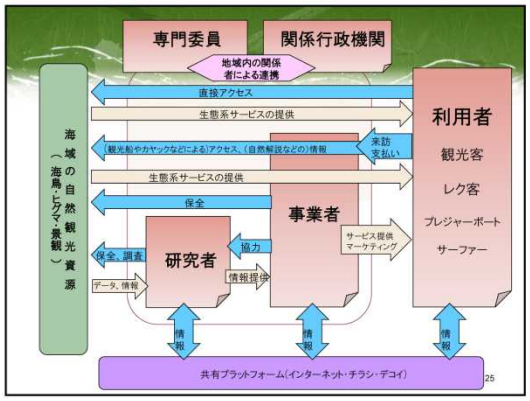
- 保護する側からのPR
- 活用する側からのPR
- 地域からのPR

ケイマフリデコイ・ポスターの展示
（岩尾別ユースホステル）

ケイマフリデコイの展示
（世界遺産センター）

ポスター・写真による
ケイマフリの展示
（世界遺産センター）

ケイマフリが登場するブログ
（岩尾別ユースホステル）




## 何が効果的だったか

- プラットフォームの存在(場)
  - 環境省がプラットフォーム開設者として働いた
- 役割を超えた共同作業の楽しさの発見
  - 事業の目的や内容の「多重化」
- ケイマフリの再資源化に成功
- 科学的知識と地域の知識のバランス
- 支える専門家(委託事業者)の「コスモポライト」効果

## 付録：2010－2012年度の事業計画

| | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|---|---|---|---|
| 自然観光資源の価値の向上 | | | |
| ケイマフリ繁殖地の再生実験 | デコイ製作 | デコイ設置、誘引効果モニタリング | デコイ設置、誘引効果モニタリング |
| 海鳥の生態調査<br>・ウトロ～岬の分布<br>・生息状況、採食状況 | 生態調査<br>・本調査<br>・モニタリング | 生態調査<br>・観光船による観察<br>・モニタリング | 生態調査<br>・観光船による観察（参加増）<br>・モニタリング |
| 利用機会の拡大 | | | |
| 利用動向調査 | 予備調査（アンケート） | 本格調査（アンケート） | 継続調査（アンケート） |
| 魅力的な航路開発 | ― | より好ましい利用形態の検討 | より好ましい利用形態の検討<br>→ 変更<br>・繁殖地の説明やケイマフリデコイを使った解説。<br>・デコイを使ったルート配慮 |
| 各種海域利用者間の調整 | | | |
| 漁業、遊漁、シーカヤック等の状況把握 | 関係者ヒアリング<br>課題整理 | 実態調査 | 必要に応じて随時に調整 |
| 広報普及啓発 | | | |
| 海域利用の楽しみ方のPR | 小冊子作成 | デコイを使ったPR<br>Webによる情報提供<br>ミニ出前講座の開催 | 観察会開催等<br>Webコンテンツの充実<br>ケイマフリ展示支援（宿泊関係）<br>船上出前講座の開催 |

7-1-4.　　会議資料（福田委員の報告発表パワーポイント）

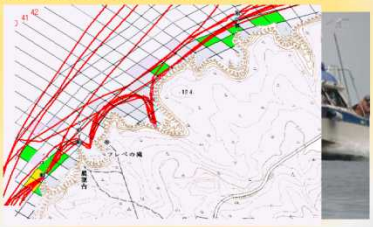
## ケイマフリの保護と活用

成功した理由と今後の課題

## ケイマフリの生息が危機的な状況に！

ヤバイ！大変だ！！

世界遺産指定前後から高速で航行する観光クルーザーが増える



## ケイマフリの個体数の推移

歴史的一歩！　起死回生の一言が！

## ウトロ海域部会開催

知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会

ケイマフリの保護を訴えるが業者に反発される。

なんで、ケイマフリを守らなければいけない！　我々も商売である。などの意見も出る。

反発されながらも、何度も話し合いを続ける。

保護を前面にださなく、利用やその価値を強調する。

ケイマフリは世界的にも貴重な種　世界でも容易に見られるのは知床のウトロ周辺だけ

## 好転気が訪れる

反発から協調へ

「そんな貴重な鳥だとは知らなかった」
観光船業者にも貴重な鳥としての共通認識が生まれる。

ケイマフリも資源であるが
ケイマフリをリサーチしている人も資源である。

我々の商売を邪魔する奴から。→ ガイドのネタになる。

→ 認識の変化

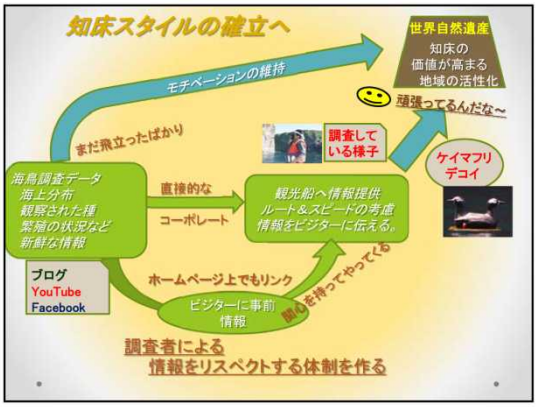
観光船にケイマフリのデコイと解説版を設置

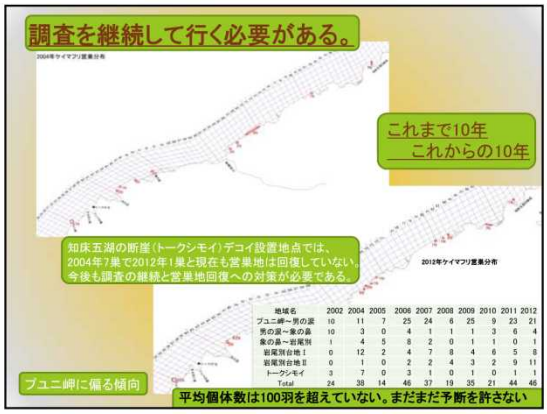
グッツ（手ぬぐい）の販売

海鳥の保護と利用の先駆的な事例として

## 知床スタイルの確立へ

## 知床スタイルの確立へ






7-1-5.　　会議資料（ケイマフリ動画コンテンツのご案内）

※「平成 24 年度知床世界自然遺産科学員会」の会議資料は知床データセンターWeb サイト（http://dc.shiretoko-whc.com/）から閲覧可能

## 7-2.　企画会合の開催

次年度以降の取り組み実施について、企画検討のための会合を、平成 25 年 3 月 1 日（羅臼町　コミュニティーセンター）で実施した。会合では今年度の取り組みの総括の確認と、第 2 回ウトロ海域部会（平成 24 年 10 月 23 日開催）で協議された、次年度以降の取り組み主体となる「ウトロ海域連絡会議（仮称）」への移行準備会として、次年度実施すべき取り組み内容などについて協議が行われた。そのほか、会合の開催場所が羅臼町であったこともあり、羅臼側海域における海域利用の現状や、将来的なウトロ海域部会のような取り組みの可能性など、知床半島全体の海域利用に関する話題にも及んだ。

### 7-2-1.　開催概要

| | |
|---|---|
| 会議名 | 平成 24 年度　ウトロ海域部会　関係者会議 |
| 日　時 | 平成 25 年 3 月 1 日　PM16:00～18:00 |
| 場　所 | 羅臼町　コミュニティーセンター　会議室 |
| 参加者 | 環境省、専門委員、地域関係者ら 10 名 |
| 議　事 | ○平成 25 年度　ウトロ海域部会/ウトロ海域連絡会議準備会にむけて<br><br>1.4 年間の活動（特に協働で実施した 3 年間の活動）の総括<br>2.ウトロ海域部会/ウトロ海域連絡会議準備会における実施事項について<br>3.平成 25 年度事業の実行メニュー案について<br>4.平成 26 年度以降の体制づくりに向けた検討事項・方法について<br>5.平成 25 年度事業の実行メニューの具体的実施法について<br>6.その他 |

## 7-2-2.　　出席者

| 区　分 | 所　属 | 職　名 | 氏　名 |
|---|---|---|---|
| 委員 | 北海道大学観光学高等研究センター | 教授（座長） | 敷田　麻実 |
| | 斜里知床博物館 | 元館長 | 中川　元 |
| | 知床海鳥研究会 | 会長 | 福田　佳弘 |
| 関係機関･団体 | 知床小型観光船協議会 | 事務局 | 神尾　昇勝※ |
| 事業者･一般 | ゴジラ岩観光（ｶﾑｲﾜｯｶ号） | 主任 | 神尾　昇勝※ |
| 事務局 | 環境省　釧路自然環境事務所 | 次長 | 中山　隆治 |
| | | 自然保護官 | 木村　麻里子 |
| | 環境省　羅臼自然保護官事務所 | 自然保護官 | 三宅　悠介 |
| | 環境省　ウトロ自然保護官事務所 | 上席自然保護官 | 野川　裕史 |
| | | 自然保護官 | 山岸　隆彦 |
| その他 | ユニオンデーターシステム㈱ | | 栗林　貴光 |

写真 7-2　会議風景

7-2-3.　　会議資料

130301　ウトロ海域部会関係者会議　　資料 1

平成 24 年度　ウトロ海域における取組の進捗状況について

**トピック：地域協働型活動の継続のため新たな組織へ**

1．部会では、観光利用と海鳥保全に関する協働型活動を構成員相互で評価し、3 カ年の総括を行った。また、平成 26 年度より実行組織としての連絡会議に移行することを確認した。
2．本活動の広報用動画コンテンツが新たに 7 本完成し、合計 8 本となる。YouTube に掲載され、今後、観光事業者等多様な主体による発信を行う予定。
3．ウトロ海域における平成 24 年度のケイマフリの確認最大個体数は 140 羽（昨年比－２羽）、営巣確認数は 46 巣（昨年比＋２巣）であり、活動開始時に比して回復傾向が見られる。

## １．ウトロ海域部会開催と連絡会議への移行準備

・平成24年10月23日に平成24年度第2回ウトロ海域部会を開催した。
平成22～24年度の3カ年の事業を振り返り、専門家、観光事業者、漁業協同組合、行政の相互の立場からの評価を行うとともに、次年度以降の活動を協働ですすめるための仕組みづくりについて意見交換を行った。
・地域協働型の活動を継続していくことについて確認するとともに、平成26年度以降より実行組織としての連絡会議に移行することとし、平成25年度はその準備を行う期間に位置づけることとした。

## ２．ケイマフリ個体数は増加傾向―海鳥の生態調査

・平成 24 年 4 月から 10 月に海鳥の生態調査を実施した。ケイマフリの数をカウントする海上センサスでのケイマフリの確認最大個体数は 140 羽だった。昨年比－２羽であるが、活動開始時の 90 羽台に比して回復傾向にある。
・ケイマフリ営巣数の確認調査では 46 巣が記録され、昨年比＋２巣となった。ケイマフリデコイを設置したトークシモイにも 1 巣確認され、今後の回復が期待される。

## ３．地域協働型活動の実施

・平成 24 年 11 月 6 日に、小型観光船協議会、環境省にてトークシモイ湾に設置されたケイマフリデコイと目印ブイを撤収した。
・平成 25 年２月に、ホームページ「ケイマフリプロジェクト」に新たな掲載企画を追加。ケイマフリ模型の展示により普及活動を行っているウトロ地域の民宿・旅館を紹介する企画を新たに追加した。（http://dc.shiretoko-whc.com/keimafuri/wandervogel/index.html）
・平成 25 年２月に、普及啓発動画７本が完成し、YouTube に掲載・公開した。
・観光船「おーろら号・おーろら２号」により、6 月から 7 月の運行時に見られる海鳥の観察記録を環境省がデジタルデータに編集し、地図情報として集計した。

平成 25 年度　ウトロ海域部会/ウトロ海域連絡会議準備会にむけて

ウトロ海域部会事務局
ウトロ自然保護官事務所

ウトロ海域部会の枠組みから協働の活動を進める組織である連絡会議に平成 26 年度から移行する。平成 25 年度はその準備を行い、地域協働型の活動が継続して進めるための工夫を新体制に盛り込めるよう検討を進め、検討結果を参加機関・団体と共有する必要がある。

１．4 年間の活動（特に協働で実施した 3 年間の活動）の総括

２．ウトロ海域部会/ウトロ海域連絡会議準備会における実施事項について
　１）平成 25 年度の事業の連絡調整・実施を行う
　２）平成 26 年度以降の体制の検討を行う

３．平成 25 年度事業の実行メニュー案について
　平成 25 年度は、環境省から外部に調整事業（現在の UDS が担う事業）は発注されないことを前提に、現在の参加機関・団体で着実に継続できる活動になるよう調整（業務規模や評価の還元の仕方を工夫し、試行）していく。
　１）ケイマフリデコイの設置・撤去（トークシモイ湾）
　２）観光船「おーろら」「おーろら２」によるケイマフリセンサス
　３）ケイマフリ営巣状況調査
　４）観光船事業所、ホテル・旅館等への解説グッズの配布

４．平成 26 年度以降の体制づくりに向けた検討事項・方法について
　１）連絡会議設置規約の策定
　　平成 25 年度中に連絡会議の規約をつくり、関係機関・団体と共有する。
　　・設置目的と目標設定・達成年限
　　・適正利用・エコツーリズム検討会議との対応（連絡会議の取扱範囲）
　　（既存のルール（利用の心得）の見直しが必要となるもの、新規ルール化設定に連絡会議の構成団体間での調整では足りないものについては、知床エコツーリズム戦略を活用し適正利用・エコツーリズム検討会議に提起し、再度部会を設置して進める。）
　　・運営方法（企画・評価の整理を事務局会議で行い、総会で広く確認し実施）
　　・調整を担う事務局体制（活動のコアメンバー）
　　・「顔」となる会長又は議長の設置
　　・取組に助言するメール会員（専門家）の役割
　　・メーリングリストの設置

　２）「知床スタイル」の整理
　　トークシモイの活動などの取組を対外発信したい。一方で、取組にはわかりやすいタ

イトル・説明がついていなければ伝わらない。規制やルール（自主的であっても）の設定はハードルが高いが、取り組み姿勢「スタイル」であればまとめることが可能か

　個々の取組に対して「基本理念」・「目標」・「仕組み・役割分担」が整理されたものをイメージ。

「知床スタイルートークシモイプロジェクト」
「知床スタイル－観光船ケイマフリセンサスプロジェクト」
「知床スタイル－一宿一羽プロジェクト」・・・

５．平成 25 年度事業の実行メニューの具体的実施法について

１）平成 25 年度の海上デコイの活用

役割分担（平成 24 年の例）
資材提供・準備：ウトロ漁組
デコイ設置：ウトロ漁組、知床海鳥研究会、自然保護官事務所
海鳥観察：知床海鳥研究会
航行制限：小型観光船協議会
デコイ回収：小型観光船協議会、自然保護官事務所
資材保管：自然保護官事務所

運用方法
①GW 後（5 月中旬）に設置　設置後はデコイより陸側は航行しない。
②8 月過ぎにケイマフリが巣立てば、デコイより内側への航行を可とする。
③10 月過ぎまで見せデコイとして活用し、観光船シーズン終盤に回収する。

２）平成 25 年度の観光船ケイマフリセンサス

役割分担（平成 24 年の例）
用紙提供・準備・用紙回収：ユニオンデータシステム
調査実施：道東観光
GIS 化作業：釧路自然環境事務所
評価：専門家（部会委員）

運用方法
①GW 後に用紙を道東観光に配布する。
①’５月中にケイマフリの観察方法のレクチャーができればなおよい。
②６月、７月に「オーロラ」、「オーロラ２」での観測記録を記入する。
③８月に記録用紙を回収し、釧路自然環境事務所で GIS 化する。
④GIS 化したデータを専門家にメール送信し、評価をもらう。

６．その他

ウトロ海域の取組を他地区（例えば羅臼の海域利用）に転用する。

資料 2-2

## 7-2-4.　　議事概要

| 発言者 | 発言内容 |
|---|---|
| ○ 開会･挨拶 | |
| 環境省 | ウトロ自然保護官事務所　野川　上級自然保護官 |
| ○ 議題 | |
| 環境省 | ･　本日の議題について説明　(環境省)<br><br>1. 4年間の活動(特に協働で実施した3年間の活動)の総括<br>2. ウトロ海域部会/ウトロ海域連絡会議準備会における実施事項について<br>1) 平成25年度の事業の連絡調整･実施を行う<br>2) 平成26年度以降の体制の検討を行う<br>3. 平成25年度事業の実行メニュー案について<br>1) ケイマフリデコイの設置･撤去(トークシモイ湾)<br>2) 観光船「オーロラ」「オーロラ2」によるケイマフリセンサス<br>3) ケイマフリ営巣状況調査<br>4) 観光船事業所、ホテル･旅館等への解説グッズの配布<br>4. 平成26年度以降の体制づくりに向けた検討事項･方法について<br>1) 連絡会議設置規約の策定<br>2)「知床スタイル」の整理<br>5. 平成25年度事業の実行メニューの具体的実施法について<br>1) 平成25年度の海上デコイの活用<br>2) 平成25年度の観光船ケイマフリセンサス<br>6. その他 |
| 1. 4年間の活動(特に協働で実施した3年間の活動)の総括 | |
| 環境省 | 資料1にて確認。 |
| 2. ウトロ海域部会/ウトロ海域連絡会議準備会における実施事項について | |
| 環境省 | 第2回ウトロ海域部会での合意事項であることを確認。 |
| 3. 平成25年度事業の実行メニュー案について | |
| 環境省 | 平成25年度事業の実行メニュー案について、資料2にて説明<br><br>･現在の実行･参加団体で着実に継続実行出来るものを25年度に組み込む<br>･ケイマフリのデコイの設置、ケイマフリセンサス(「おーろら号」)は実施したい。<br>･調査経費の関係等もあるが、効果を評価するためのケイマフリ営巣の状況調査が必要だろう。 |
| 福田委員 | ケイマフリの営巣状況を調査するためには、センサス調査でケイマフリの状況を見ながらでないと難しいと思います。営巣調査単独では難しい。頻繁に巣に出入りするのは6月から7月くらい。1日多くて4回くらいの餌運びしか見られません。そのタイミングに合わなければ難しい。極端な話、調査費が出なくても私はやらなくてはいけないと思っています。 |
| 環境省 | ケイマフリのデコイのトークシモイへの設置も行うことでいいですね。 |
| | 一同異議なし |
| 環境省 | 「おーろら号」さんが2年間もセンサスをして下さっているので、これについても実施して頂いて、結果を環境省の方でGIS化をしたい。釧路自然環境事務所でGIS化作業は出来ますか？ |
| 環境省 | GISオペレータスタッフがいますので、可能である。 |
| 4. 平成26年度以降の体制づくりに向けた検討事項･方法について | |
| 環境省 | 平成26年度以降の体制づくりに向けた検討事項･方法について、資料2にて説明<br><br>･来年度以降連絡会議を作るための準備として、25年度中に連絡会議の規約を作って共有する。<br>･内容については設置目的･目標や達成年度、適正利用･エコツーリズム検討会議に対応する上位機関<br>･運営は事務局を置くことになる。事務局の「顔」となる会長、又は議長の設置、助言するメール会員のような役割も。 |
| 福田委員 | ケイマフリのセンサスを「おーろら号」(道東観光)さんにやってもらいたいので、何らかの形で関わってもらわないといけないだろう。 |
| 環境省 | あとはシーカヤックの知床アウトドアガイドセンターさんですね。この取組にとても協力的です。 |
| 環境省 | 春までに「おーろら号」さん、知床アウトドアガイドセンターさんに連絡会議事務局への参加について打診する。 |
| | 一同異議なし |

| 発言者 | 発言内容 |
|---|---|
| | ･会長について |
| 環境省 | 会の「顔」として会長か議長を決めなくてはいけないと思う。なるべく地域の人ということでお願いしたい。 |
| 中川　委員 | ウトロ地元で重鎮まではいかなくても、全体的なことを暖かくやってくれる方がいると一番いい。 |
| 環境省 | そういう方に是非お願い致したいと思う。 |
| | 一同異議なし |
| | ･メール会員について |
| 環境省 | 今関わって頂いている専門家の方に入ってもらい情報を共有したいが、情報提供が会議の資料という事になってしまいがちなので、対応を考えたい。 |
| 福田委員 | フェイスブックを活用するのはどうか？堅苦しいものではなく写真などを使った情報提供もできる。 |
| 環境省 | 専門家の役割としては地域活動の評価という役割もあると思う。その役割を促すためには、会議資料を流すだけでは、うまくいかないだろう。 |
| 環境省 | FaceBookなど、やってない人はどうか？という問題がある。既にやっている人は問題ないと思うが、やりたくないという人もいるだろう。 |
| 環境省 | メーリングリスは知床データーセンターで作る事が可能。 |
| 福田委員 | 皆が利用しやすいものを考えたい。例えば「この鳥なんですか？」というような場合もあると思うので、気軽にやりとり出来るような関係がいい。 |
| 環境省 | 使いやすいものを選択すればいいと思われる。 |
| | 「知床スタイル」について |
| 環境省 | 神尾さんとトークシモイでのデコイに対するルール化について話をさせてもらったが、ルール･制度･規制ということになると敷居が高く感じてしまうという話があり、一方で、対外発信する時には何か名前を付けた方が良い、といったやりとりをしました。<br>その際に「知床スタイル」という言葉で取り組みのやり方、イメージを伝えられればいいのではないか？というアイデアが出ました。デコイのプロジェクトや「おーろら号」のセンサスの成果、旅館等に配布したデコイの取り組みに関するHPの立ち上げなど、「知床スタイル」の例をいくつか揃えられればと。そういう準備を来年度したらどうかと思っている。 |
| 敷田委員 | 「知床スタイル」という言葉はどこも使っていないか確認した方が良いだろう。 |
| 福田委員 | 知床は観光だけではなく環境に配慮したこともやっているんだな、ということを、うまくアピール出来るような名前がいい。名前は重要です。 |
| 5. 平成25年度事業の実行メニューの具体的実施法について | |
| | デコイの設置について |
| 環境省 | 海上デコイの活用については今年も去年と同じで良いか？ |
| 福田委員 | 組合さんがお手伝いしてくれるのであればいいのですが。 |
| 事務局 | 今日寄ってきましたけれども、協力はすると仰って頂いてました。 |
| 小型船 | こちらは大丈夫です。あとは実際にケイマフリが見られる時期であれば。 |
| 事務局 | 組合さんからは、海が安定するまでは流されてもいい安いものを設置して、海が安定したらしっかりしたものを入れれば良いだろうと言われてました。 |
| 小型船 | 早い時期であれば観光船も設置協力は出来ます。ただ、組合さんに何らかの形で関わっていてもらいたい。 |
| 環境省 | ひとまず今のスタイルでしばらく実施しましょう。撤去は今年は11月でしたが10月中に撤去しましょう。 |
| | 一同異議なし |
| | ケイマフリセンサス（事業者による海域観察）について |
| 環境省 | 「おーろら号」によるケイマフリセンサスは、環境省で調査用紙の用意･GIS化作業を行うことで継続させたい |
| 事務局 | おーろら号の船員さんたちは的確にやってくれています。ケイマフリ以外のイルカとかもやってくれていましたし、そういうデータも記録されていくと有効だろうと思います。 |
| 福田委員 | 大型観光船と小型観光船とで情報の交換というのはありますか？ |
| 小型船 | 正直なところ、あまりない。 |
| 福田委員 | 今回をきっかけに、横の繋がりがどんどん増えていったらいいですね。 |
| 小型船 | ちょっと距離を置いているという部分はあるが、うまい形でコミュニケーションは取れているところもあるので、その延長で一緒に協力できるところは、やるというように発展していくことは有り得る話だと思います。 |
| | 予算の関係、スケジュールの関係 |

| 発言者 | 発言内容 |
|---|---|
| 環境省 | 来年度、環境省の予算があったとしても、5月には間に合わない可能性があるので、この2本の事業に関しては来年度明けたら、すぐに準備に入って始めてしまいたいと思う。 |
| 環境省 | ボランティアになるかもしれませんが、今年も「おーろら号」さんに観測方法ですとか、海鳥観測もレクチャーして頂きたいのですが。福田さんお願いできますか？ |
| 福田委員 | いいですよ。調査の方も、ある程度見切り発車的というのは、しょうがない。毎年やるつもりでいるので。 |
| 中川委員 | 海鳥調査は、予算があれば予算の範囲内で出来るだけやってもらうというところですね。 |
| 福田委員 | お金の話は抜きにして、毎年海鳥の繁殖地は変わってくるので、事前に調査して営巣状況を知っておく必要があると思う。そういうデータを観光に生かしてやっていくという、それがこの「知床スタイル」だと思う。こういう事例は他に無い。 |
| 中川委員 | あとはこの連絡会議がどういう会議かということ。例えば民間助成金をもらうとか。独自に予算を持つとかそういうことが出来る会議にするには組織的にしっかりしなければならない。規約を作ることで助成金申請も出来るかもしれない。 |
| 福田委員 | 例えば環境省の予算が少なければ外部から助成金を申請してもらう、という形で今までも先行調査をしたりしてきました。そういうふうにお金をあちこちから集めてくるのが可能になれば理想ですけれど。ただそうなると運営していくのがかなり大変になる。誰がお金を扱うとか。組織運営が難しくなる。 |
| 福田委員 | そういうことにも幅を持っていたほうが良いだろう。役割分担で、ここは行政がやるけれど、一部は助成金でやる部分もあるというように。 |
| 環境省 | 長期モニタリングの話で言えば、当然遺産管理者として行います。 |
| 6．その他 | |
| | 他の地域への転用について |
| 環境省 | 羅臼はすごく大きな案件があって、結局ワシの餌付け問題というのが必ず出てくるでしょう？まだ早いのではないか？ |
| 環境省 | まずは海鳥くらいから始めるのが良いかもしれない。 |
| 福田委員 | 羅臼はもの凄い種類と海鳥の数。それはすごい魅力というか、発掘していない観光の魅力だと思う。 |
| 小型船 | ウトロの海域利用のものが現在あるので、おそらく羅臼の海域利用についても必要なのだろう。羅臼の場合は海鳥もワシも出てくる。そのタイミングは難しいが、羅臼もウトロも知床なので、いずれ両方合わせて一つのものになるという考えを持たなければ駄目だろう。事業者にも自分たちのやっていることを認めてほしいと思っている人がいる。折り合いがつくところが解らない状態がある。どこかで話し合いをする機会がないと駄目だろうと思う。 |
| 環境省 | ケイマフリとワシの餌付けのことでは、問題の性質も違う部分がある。進め方も違うだろう。 |
| 環境省 | 町内でも「あれはどうなんだ？」という声もある。何か取り組まないのかと言う人もいる。事業者の中でも最近言われていることが変わってきているので、意見交換はしていきたいと思っている中で、うまくウトロの取り組みと連携が考えられたら良いだろう。 |
| 環境省 | 羅臼の人たちに、「ウトロでこんなことがうまくいったから、羅臼もやりましょう」といったら、それは失敗しそうな気がする。 |
| 福田委員 | 僕は海鳥をやっているから、僕は海鳥くらいから始めたらいいと思う。 |
| 中川委員 | 羅臼では餌付け問題から入るから展開できるという可能性もあるかと思うが。 |
| 環境省 | まずは同じテーブルについて、いきなりワシの餌付けからスタートしたら大変なことになるので、まずはまだ未利用資源である海鳥というところから、対話の場所を設けるというのが切り口として良いのでは？ |
| 小型船 | そういう話し合いの場所が欲しいという人もいるはずで、環境省や中川先生が居てという風に。順序としてそういうテーブルの場所を設けるのが一番最初だと思うので、その辺は福田さんが言うように、羅臼で見られる海鳥を観光船サイドでうまく利用して欲しいという話し合いは凄くいいことだと思う。 |
| 環境省 | 私は中川先生の意見ももっともという気もしている。「いい加減餌付けの問題とかの決着をつけて欲しい」と話す事業者もいます。海鳥の話から持っていくのか、餌付けの話から持っていくのか、そこは考えていかなければならないだろう。 |
| 中川委員 | こちらからの提案の働きかけの前に、向こう側（観光船事業者側）から白黒はっきり付けて、という話があるかもしれない。餌付けは全国で議論している。白鳥から水鳥から家庭の餌台から色々ある。一般論でやったらこれは大変な話になる。 |
| 環境省 | うちで希少鳥類を仕事で抱えているが、まさにタンチョウとシマフクロウは餌付けしている。従来海ワシの場合はこういう定置網漁で相当量の餌を供給されていた状況があったが、最近は以前より餌が減少している。そこを観光船が多少餌付けをしたところで、昔から比べたらトータルでの餌の供給量は小さいじゃないかという話もある。氷下漁も随分昔から行われていて、そういう状況の中でどうなんだ？という話になってくる。本当に何が正しいのかわからなくなってくる。そもそも、スケソウダラ漁による供給が過去になかったら、現在どうなっていたのだろう。何が自然なのか解らない。餌をあげないというのが自然に近いというのは、殆ど感情論に近いんじゃないかとも思える。 |
| 中川委員 | 人間との関わり抜きでは、これだけの越冬は出来てないのは確かである。それが積極的な餌やりと、漁による副次的なものとをどういう風に考えるか。羅臼がいいのなら、こっちでもワシを集めようと、オホーツク海と根室海峡でワシ集めの競争をやり始めるのもどうかと思う。実際に少数だが出てきている。 |

| 発言者 | 発言内容 |
| --- | --- |
| 中川委員 | 一般のお客さんとカメラマンも違うだろう。カメラマンは写真を撮りたいだろうけども、一般のお客さんには不自然に感じる人も結構いると思う。 |
| 小型船 | きちんと話をしないといけない。捉え方というのはそれぞれで、観光のお客さんは特に気をつけなくてはならないと思う。昔は漁師さん達が魚をこぼれるくらい獲っていて、それを学習してワシが集まったということ。「過去に、こういうことがあって今は餌をあげて皆さんに見せている」という話を伝えることを、我々もやってはいるのですけれど。 |
| 中川委員 | こういう議論を一緒にやっていくということは悪いことでない。 |
| 敷田委員 | ウトロ海域部会のやり方からもうちょっとエッセンスを取り出せばいいと思う。ここで何かをやろうとしたら、最初にまず餌やりを認める、暫定的に。だけれども餌やりでお客さんを集めることよりもっといいことがあるのでは？ということを考えよう、というやり方が一番適していると思う。一番認めにくいことを認めてしまって、ただしそれがベストではないだろう、ということから入っていけばいい。お客さんのデータもこっちはないし、実際にどのくらいの割合でカメラマンがいて、どれだけ収益が上がっているのか、解らない状態ですから。ウトロと同じようにやっていくのであれば、まずデータを取って、戦略を進めていく。基本は最初餌やりを頭ごなしに否定しない、ということでスタートさせればいいのでは。 |
| 環境省 | 認めるかどうかはともかくとして、規制しないということは最初に伝える必要がある。高圧的な規制をするつもりはないということから入らないと話し合いのテーブルには付けない。 |
| 小型船 | 観光船サイドもやっていることを認めてもらいたいというところもあって、町サイドも観光船がやっていることに言えないで伏せている部分があると思う。観光船サイドでも、そこまで町や人との同意の上で、こういうことをやっているということが言えるようになれば、もっと仕事としてやれると思う。どうすればこの仕事が認められて、町に胸張って言えるのか、というところだと思う。 |
| 敷田委員 | もしこの海域でやるのだったら第一段階として給餌の事実を関係者が認めてもらった上で、環境保全の問題だけではなく、経済の問題で経済効果がどのくらいかがわかって、それをやらずに転換できる道があれば開いていけばいいと思いますし。無いのであれば暫定的に給餌を認めていくしかないと僕は思います。 |
| 環境省 | 羅臼の観光協会の人が言っていたのは今はカメラマンが多いからどうしても餌をやらないと駄目だと。お客さんさえ来れば将来的にはやめたいという気持ちはみんな持っているだろうと。今は暫定的にだろうけれど将来的にはゼロにするということで段階的に減らしていくと。あとは観光船の方で餌はやるけれども海ワシ類の保護を別の形で収益の一部をワシの保護にキックバックするものを作ることで、認めてもらえるようにすればいいのではないか。そういう落としどころはあるかもしれない。 |
| 環境省 | 次の会に間に合わせるのは難しいですけれども、まず意見交換会をやって進んだところで提案してみるのがいいかと思います。 |
| 敷田委員 | 次の検討会議に出す時には、全く今までそういう議論をしてこなかった人達も一堂に会するので、その人達が納得できるように暫定的に餌やりを認めるという仕組みというか、整理をした上で、例えば3年間相談させてくれ、という感じで進める必要があるだろう。 |
| 中川委員 | ただエコツーとか経済の問題ではなくて、保全上のリスクの問題がある。過度に集中することは感染症の問題があって、もしそれで大量に死ぬようなことがあったら、完全に資源を失うことになる。だからそういう視点でも、しっかり考えなくてはならない。 |
| 敷田委員 | どうでしょうか。こちらの海域への拡張というのはリスクはありますけれど、給餌を3年間ぐらい現状を認めた上で何とかする方法を考えて、その根拠はウトロでやったこの成功事例ということで、皆さんを説得して提案をして部会を設置していくような事で。 |
| 環境省 | いきなり戦略の一連をここにのせるのは危険性が高すぎると思うので、少し地元で意見交換した中である程度実現可能かどうかを。 |
| 敷田委員 | とにかく予算が付いたらやりましょう。 |
| 小型船 | でもその場は多分こういう戦略的な集まり方は出来ないという三宅さんの話で、たぶんその場に中川先生がいれば一番適切な意見交換が出来ると思う。 |
| 環境省 | 中川先生は（地元の方なので）理解される部分もありますが、一部の専門家からは既に指摘は入っています。それについてもこちら側としては考えなくてはならない。 |
| 中川委員 | しかし、エコツーで議論するにしても、保全の問題からの視点も無視は絶対出来ません。 |
| 環境省 | 来年度に関してはウトロ側については会議が立ち上がる前に進めていく。羅臼側は、まず話し合いからスタートということで、可能であればそういう場を設けます。ご協力をよろしくお願いします。 |
| | 閉会 |
| 環境省 | 議論は尽きませんが、お時間も過ぎてしまいましたので、本日のところはここで終了したいと思います。皆様本当にありがとうございました。 |

# 8. 知床国立公園における海域適正利用の具体的対策の検討

平成 22 年度から平成 24 年度までの 3 カ年にわたる本事業は、今年度で一区切りを迎える事となった。本事業で進められてきたケイマフリの保護と、持続的な海域の適正利用の両立を目指すという難しい目標に対して、この 3 カ年の取り組みにより、情報の共有、話し合いの場を共有することで関係者間の距離を近づけ、相互理解が進み、取り組みの基盤が形成されてきた。利害関係のある様々な立場の関係者間で、それぞれのメリットと共通の目標を認識できたことは、委員の方々からも大きく評価されているところである。

豊かな知床の自然環境は観光や漁業の大きな資源価値であることと同様に、ウトロ海域部会で進められてきた取り組み（守りながら利用する）、それ自体も知床の価値を高める事に繋がり、世界自然遺産登録の際も大きく評価された点でもある。この考え方の定着を更に継続して推進してくことが望まれる。

また、この取り組みが評価されることも、取り組みを継続するためには必要な事であると考えられることから、今後も対外的に「知床スタイル」として積極的に情報発信していくことが重要である。

## 8-1. 現在の取り組み活動の継続ついて

今年度までの取り組みは、行政（環境省）が主体となって続けられたものであり、今後地域主導型の取り組みへの移行を考えると、まだまだ取り組み体制の確立や多くの改善点など課題があることも事実である。

平成 25 年度は平成 26 年度以降の地域連絡会議の設立に向けた準備会として、実現可能な取り組み実施体制づくりがスタートする予定であるが、これまで行ってきた取り組みを振り返り、今後実施する際の留意点や提案などを以下にまとめる。

### (1) 利用者動向調査

① 調査実施方法、頻度

「3-5.次年度以降の調査実施について」P.38 に、詳しくまとめているが、配布数量や配布方法については今年度の実施規模が、負担などを考慮すると目安となると予想される。実施頻度は 2～3 年に 1 度程度の実施頻度で十分傾向の把握は可能であると考えられる。

② 調査費用と必要作業

調査実施に伴う費用や、集計および分析、とりまとめの方法については協議が必要となるであろう。（今年度分析に使用したアンケート入力ツール、集計ファイルなどは一式発注者へ提供される予定である。）

(2) 海域状況観察記録

平成 23 年度から開始された「海域状況観察記録」は観光船事業者自らが実施することの意義が大きく“自然に配慮している観光船“として利用客に対するアピールポイントである。観察を継続するためには、実施者が実施したことによる成果や効果を感じられることがモチベーションの維持に繋がる。今年度は環境省が観察記録データを GIS（地理情報システム）に入力し、確認個体数や確認頻度を地図上に可視化したメッシュ解析図が作成された。地域事業者と行政との連携、相互協力の良い例として、今後も実績を積み重ねる上で、継続のために調査者となる観光船事業者の意欲を増進させる仕組みが必要であり、定期的な海鳥勉強会の実施や調査結果をわかりやすい解説素材として還元する等の取組が重要である。

① 調査実施方法

調査方法については、これまでと同様の調査票を使用して、実施可能な範囲で観察を継続して頂ければ良いと思われる。小型観光船やシーカヤックにも実施の呼び掛けを続けることが望まれるが、実際の運航状況を考えると、少ない船員で運航している小型観光船とシーカヤックの実施は、現段階では実施困難と思われる。

② 調査期間

実施期間については、6 月から、8 月中旬までのケイマフリの繁殖期間の実施は確保したいところである。他の期間についても、ケイマフリ以外の海鳥やイルカ、クジラなどの海生動物について観察されると、さらに良いデータの蓄積が出来るものと思われる。

③ 観察技術指導支援

今年度は大型観光船の船員方々を対象に「海鳥ミニ出前講座」を開催し、海鳥の魅力や観察方法についての講座を実施した。このような情報提供の機会も、今後も定期的に開催する事が重要と考えられ、また、今年度の観察記録を実施して頂いた記録者の中には、非常に丁寧に観察記録を付けて頂いた船員の方も見られるため、興味を持って積極的に観察をしていただける、キーマン的な存在の方の出現にも期待したいところである。

④ 蓄積データの活用と評価

今年度の調査結果は、環境省によって GIS 上に入力され、ケイマフリの確認位置や出現頻度などを地図上に表現した、メッシュ解析図が作成された。観光船事業者と行政の良い連携の一つの形であることから、今後も是非継続を願いたい取り組みである。

(3) 広報用コンテンツ

① ケイマフリデコイを使用した展示

平成 22 年度より観光船事業者と宿泊事業者への展示用ケイマフリデコイの貸し出しが行なわれている。事業者各社では工夫を凝らしたケイマフリデコイの展示も行われ、啓蒙普及に貢献していると考えられる。今後はさらに商店、飲食店などにも貸し出し範囲を拡大し「どこでもケイマフリ」といったような地域の話題となるような企画も効果的と思われる。ただし貸し出しのデコイは本物のデコイであるため、コスト的に問題があるようでれば、より安価に作成できるモデルや、小型のモデル、ステッカーなどの製作配布なども検討すると良いと思われる。

② ケイマフリＰＲホームページ

平成 23 年度にケイマフリの取り組みを紹介するホームページが制作され、ホームページは少しずつ更新が進められている。今後もコンテンツとしての新鮮さを保ちながら、多くの人に見て頂けるようなサイトを目指すことが必要である。知床に訪れる観光客の多くが、事前にインターネットで情報を集めている事が利用動向調査から明らかになっているため、今後もインターネットを利用した情報発信は積極的に行って行くべきである。

③ ケイマフリ動画コンテンツ

今年度では動画コンテンツの制作も行われており、無料動画サイト YOUTUBE から公開が始まっている。今シーズンからは積極的に地域関係者のサイトからもリンクしてもらうなど、普及ツールとして利用を促進していく必要がある。

また、ケイマフリデコイの展示とともに、QR コード付きの紹介ポスターなどを掲示し、スマートフォンなどの携帯端末で、その場で動画を見る事が出来るような事も有効と考えられる。

(4) ミニ出前講座の開催

今年度は大型観光船向けに 2 回の講座を開催した。現状としては海鳥への関心度の高い方が多いとは言えないが、講座に参加された参加者の多くは興味を持って聞いて頂いていた様子であった。観光船の方々、宿泊事業者の方々等、なるべく多くの方々に海鳥の魅力に触れる機会を提供できるように。定期的な開催を継続する必要がある。

また一般観光客を対象にしたものの企画や、実際に繁殖地の観察を行いながら開催する繁殖地出前講座、地元の学校をはじめ修学旅行なども対象とした環境教育のコンテンツとしても有効なイベントであると考えられる。

## 8-2.　今後の課題

本事業における今後の課題として下記の 4 つのポイントを検討した。このうち(1)～(3)までの項目は、昨年度の検討で挙げられたものであるが、現状を踏まえ内容の再検討を行った。また(4)については、今年度の新たな検討ポイントとして追加したものである。

今後の課題　4つのポイント

(1) ケイマフリをはじめとする海鳥の生態調査
(2) 取り組みの継続のための実施体制の確立
(3) 海鳥営巣地保護エリアの設定や自主ルールづくり
(4) キーマンとなる人材の発掘と支援

### (1) ケイマフリをはじめとする海鳥の生態調査

ケイマフリや他の海鳥の生息状況を把握するモニタリング調査はケイマフリ保護の取り組みに対する成果（効果）を検証するために必要である。調査内容と調査規模について本活動の効果検証に必要な調査項目を抽出し、方法を選択し、計画的に実行出来るよう継続実施が可能な調査計画を検討する必要があり、平成 26 年度の新体制に向け準備を進める必要がある。

平成 23 年度より、観光船事業者による海域観察記録が試験的に行われており、事業者の関心度の向上やサービスの向上に期待できる。しかしながら、調査精度は専門家によるケイマフリの生息（繁殖）調査の調査精度には及ぶものではない。本活動の効果検証に必要な調査項目のうち基盤となる重点事項に位置づけられ、且つ専門的知見や技術が必要な調査については専門家による調査が必須となる。

行政の予算措置として、現状では永年継続的な調査実施は困難であり、研究者、行政、観光船事業者等の相互の利点を活用し、調査を継続できる仕組み（調査の規模や方法）を確立していく必要がある。また同時に、社会が予算・資金を投入する価値があると判断できるだけの成果や効果を出していく事や、調査ニーズを創出する工夫と努力が必要である。

### (2) 取り組みの継続のための実施体制の確立

これまで 3 カ年事業で継続されてきた「ウトロ海域部会」は次年度の準備会期間を経て、平成 26 年度からは「連絡会議」として地域協働型の枠組みへ移行を目指すことになった。これまでに開催されたウトロ海域部会の会議は、行政、有識者、地域関係者らの情報交換の場として有効に機能したと考えられ、着実に地域の関係者間の距離は縮まり、協力関係が築かれつつある。保護の取り組みが自分達のメリットへ繋がる“ Win-Win-Win の関係 ”が持続できること、参加者の意欲が下がらないこと、取り組みが負担と感じてしまわないこと、などに注意を払いながら、継

続的に実施可能な、取り組みの進め方を確立する必要がある。

(3) 海鳥営巣地保護エリアの設定や自主ルールづくり

“規制”や“自主ルール”を設定することで、将来、新たな懸念事項が発生した際の抑止効果が得られる。例えば、ケイマフリの営巣地へのカメラマンの異常接近や、多数のプレジャーボートの集結、シーカヤックで断崖危険個所への上陸などの状況が発生する可能性がゼロでは無く、地域の取り組みが事前に周知されていれば、このような計画を立てる人の発生を抑止する効果があり、仮に状況が発生した際には、説得力のある説明が可能となる。

“規制”や“自主ルール”の設定には、多様な主体が協働で活動する上での危うさも内包している。“Win-Win-Win の関係”の持続のためには、海鳥の保全に対する価値が生まれ、自発的にルール化が進むような調整が必要となる。

平成 22 年度よりトークシモイ（通称コケシ岩）の湾にケイマフリのデコイが設置された。このデコイを目印に多くの観光船事業者が海鳥の繁殖期に湾の中に入らない配慮をおこなっているが、対外的にルールとして明文化し発表することについて躊躇する状況が見られる。評価は顕在化した事実にしか与えられないことから、“Win-Win-Win の関係”にするためにも、今後、海鳥を保全しながら活用するウトロ海域の取り組みの対外発信が重要となる。

現在の「ウトロ海域部会」では、各分野それぞれの参加者の間で十分協議できると雰囲気があるので、対外的に発信することの出来るルール・仕組みの具体的内容と今後のルール作りに向けた意見交換、協議を開始できるものと思われる。

ルール作りに向けては、企画会合で出された「知床スタイル」の確立が対外発信に向け整理できるアイデアの一つとなろう。ルールという言葉に縛られないが海鳥を保全しながら活用を進める姿勢・あり方を鮮明化させる「知床スタイル」は、対外発信に向けた活動内容の明文化の第一段階となり、この作業を経ることで第二段階のルールとしての明文化を模索することができるだろう。

(4) キーマンとなる人材の発掘と支援

地域の取り組みを進める上で、キーマンとなる方が重要である。既にウトロ海域部会の取り組みの中では、キーマンとなりつつある方も出てきている。今後も様々な立場や事業者の中から、取り組みの良き理解者や、海鳥などの野生動物に興味を持ってくれるような方が現れるよう、働きかけや企画を検討していく必要がある。

また、斜里町に永く在住する方々や、地域の自然や歴史に詳しい方などと、現在地元で活躍している若者とが、同じ輪の中で話を聞けるような機会、場の提供といった企画も有効であると考えられる。昔の知床の姿や人々の生活などの話から、知床がこれまでどう変化してきたか？今後どのように変わっていくか？など、若い人たちが考える良いきっかけになる事と思われる。「地域のベテラン」の経験や記憶の伝承は、知床を守っていく次の世代の育成に大きな意味があると考えられる。

## 9. 別途業務との連携協力

今年度環境省で実施されている「平成 24 年度知床国立公園ウトロ海域における海鳥調査業務」からは、第 2 回ウトロ海域部会（H24.10.23 知床世界遺産センター）での調査結果中間報告を発表していただいた。また動画コンテンツ制作のための撮影の際も調査船に同乗させて頂き調査風景の撮影に協力して頂いた。

写真 9-1　海鳥調査結果の報告
（第 2 回ウトロ海域部会 H24.10.23）

写真 9-2　海鳥調査船からのビデオ撮影

## 10. 取り組みに対する評価コメント

これまで３カ年の取り組みに対して、ウトロ海域部会の敷田委員、中川委員、小城委員、桜井委員、寺崎委員、福田委員、また、知床科学委員会の松田委員から総評を頂くことが出来たので次頁以降に紹介する。

ウトロ海域部会の 3 年間の事業に関するコメント

北海道大学観光学高等研究センター　敷田　麻実

ウトロ海域部会は当初、海鳥「ケイマフリ」の保護のためにという性格が強い「知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討業務」としてスタートした。しかし初期段階の検討で、ケイマフリの保護自体を推進することは、観光船という利用者が存在する以上、保護側だけの意思だけでは難しいのではないかという議論があり、事業が始まる前に、予算要求時に想定した事業内容を変更することになった。このような柔軟な事業内容変更を可能にした環境省側の対応がまず評価できる。事業スタート時の計画のまま事業を進めていれば、ケイマフリの生態調査は効果的に進められたかもしれないが、それが保全や海域利用の管理などへ発展することはなかったと考えられる。

次に、事業内容が、①生態系調査(海鳥の生態調査)、②利用実態調査、③資源価値の向上と利用促進のための工夫、④以上を基にした対策とバランスがとれて配置されていたことが評価できる。保全地域の中で特定の生物が対象となった事業では、まず生態的な知見の蓄積が優先され、その利用や管理に関する調査は、一般には生態的な知見が得られた後で、それを元に考察することが多い。しかしこの事業ではそれが最初に組み込まれ、海鳥ケイマフリ(生態系)、観光船の顧客の意識や属性調査(利用)、さらにその調整方法についての話し合いと新たな提案(管理)が同時に進められたので、それぞれの立場からの参加が可能だった。

さらに、観光船の関係者、特にウトロ小型観光船協議会の関係者が、この事業を拒まずに相談の場に参加を続けたことが大きい。またウトロ海域部会が定期的に開催され、そこで生態系のデータ以外にも観光船の利用者(顧客)データが示され、また顧客からの回答の中に観光船の運航を高く評価するものがあったことも、観光船関係者の信頼を得るきっかけとなった。こうした委員会では、行政から生態系の調査に基づく「客観的」データが示され、生態系や特定の生物に対する脅威や危機的状況が示され、それが「規制」につながることが多いが、今回は、早期から利用データも示され、観光船関係者にとっても有用な情報がウトロ海域部会に示された。このように、事業に関与した参加者それぞれが有益な情報が提示されて議論することができたことが、保全の推進と関係者の信頼関係の構築につながったと考えられる。

こうした信頼感に基づく関係は、ウトロ海域部会が「プラットフォーム」として働くことにつながった。これに関連して特に、環境省の現地担当者、釧路事務所関係者が、この事業の位置を柔軟に解釈し、成果を生むためには手段に関して寛容であったことも強調したい。そして環境省が規制担当者や管理の推進者としてではなく、「プラットフォームの開設者」として、いかに多くの参加を実現し、そこで有効な議論を行い、最終的に実行に移せるかを重

視したことが評価できる。関係者が協働して、プラットフォームという創造的な解決方法を創出する場を設定できれば、それぞれが持つオプションを提示し、適した解決策を模索することができる。これまでの環境省が規制を手段として保全を進める方法に比較して選択肢が多くなった。

なお、今回の事業では当初からケイマフリを対象にしてきていたが、それはあくまで保全の対象としてのケイマフリであった。しかし今回の事業は、ケイマフリを保全対象から資源として認識する視点に変更した。その結果、それまで知られておらず、観光資源として認識できていなかったケイマフリが、観光船関係者にとっての資源となった。観光関係者として資源認識をした以上、その資源を破壊的に利用したり、配慮もなく徹底して利用したりすることはなくなるだろう。このように、ケイマフリの「再資源化」が進められたために、関係者にとってケイマフリが「維持すべき共有資源」として再認識された。このプロセスの実現が、当該事業の最大の成果をといってもよいだろう。

事業の詳細な内容で特に評価すべきことは、資源価値の向上に努力が振り向けられたことである。特に、ケイマフリの資源価値を高めるためのデコイの設置やデコイの貸し出しなどが行われている。こうしたケイマフリの認知度向上によって、地域関係者、観光関係者とも改めてケイマフリの価値を認識評価したことである。そして,価値が高い資源なら持続可能な利用をしようという思考につながった。

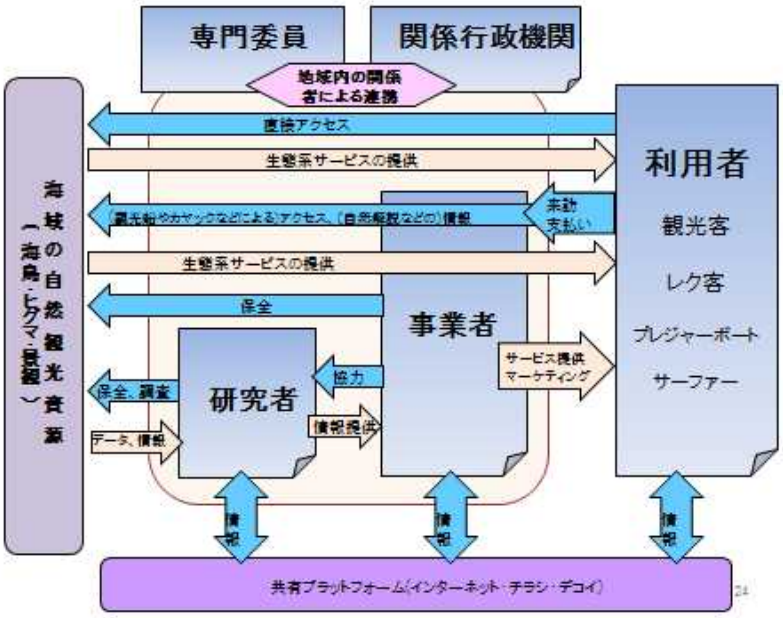
また、漁協関係者、海鳥関係者、観光船関係者が協働でデコイ設置を進めたことで、デコイの設置が目的であった事業では得られない、副次的効果が得られている。それは、共同作業を通したコミュニケーションであり、デコイの設置目的には含まれていないが、共同による共有や協働意識の向上ともいうべき効果であろう。このように事業目的が単純なものから「多重化」したことで、事業効果が高められた。

さらに受託者による観光客(乗船客)を対象としたアンケート調査事業では､委託事業者が､地域の関係者を戸別訪問し、丹念に事業内容を説明する中で信頼感が醸成されていった。これは、一律の事務的な対応では可能にならず、委託事業者にとっての負担は大きかったが,結果的に、関係者がこの事業者を介してつながっていき協働が図られた。これは支える専門家(委託事業者)の「コスモポライト」効果である。これは異質の考えを持つ関係者を何らかの形でつなぐ際に重要な役割を果たす存在のことで、この事業ではこうした役割が大きく成果に貢献した。

また、専門家がこの事業の委員会や分析作業に参加していたが、地域の関係者、特に観光船の関係者の持つ知識と専門家の協働がうまく行った。例えば、大型観光船からの毎日の目視情報が得られ､環境省の GIS 編集スタッフがそれを元にケイマフリの分布図を作成するなど、事業の目的のための協働が、実際の成果となった。こうしたことは、どちらかがやろうとしてもコストや手間の点でうまく行かないことが多い。しかし異質な立場の関係者が、プラットフォームでうまく連携することで、意外と簡単に協働は成功することを示している。

また委員会に参加した専門家も、鳥類生態学から観光マーケティングまで、分野が多様であり、委員会で関係者から出る多様な疑問や議論を追従することができた。また関係者の事業への参加に対して、専門家からの評価が委員会の議論でも積極的に出され、特に日常業務で多忙な観光船関係者が､毎回の委員会に嫌がらずに参加していたことが事業効果を上げた。

以上のような関係者の関係をまとめたのが下図である。




この図は左側に利用対象となっているケイマフリなどの地域資源、右に最終利用者である観光客などの利用者を配置した。この事業が優れていたのは、地域資源と利用者の間の仕組みを構築できたことである。ヒグマや自然景観などの資源を観光客は、地域資源を直接利用することはできなかったが、観光船を通して利用してきた。また、観光船事業者は、地域資源を利用者に提供することで利益を得てきたと考えられる。しかし観光船事業者が観光客と地域資源を結びつけている限り、地域資源の利用と保全、資源管理の調整は観光船事業者が権限を持つ。そしてそこに他者が関与できなければ、資源管理は実施できない。今回の事業の成果は、関係者がそこに関与するチャンスをつくることができた。そして、ケイマフリという資源と観光船事業者の関係を調節することができるようになった。　さらに、そこに研究者が関与できる仕組みも創られ、地域資源に関する情報(この場合ケイマフリの生息情報や生態情報)を研究者から観光船事業者に提供して、さらに観光船事業者が観光客に提供する仕組みができた。そのため観光船事業者は、観光客を満足させるための情報を研究者から得るために、研究者の持つ情報やその存在を評価し始めた。ここで明らかなのは、この事業によって、ケイマフリを代表とする、海域に存在する資源の利用を研究者の関与によって「複雑化」したプロセスを用いることで、一方的に資源を「乱用」できなくしたことである。

以上、本事業を総括すると、プラットフォームによってケイマフリの保全に関する仕組みを構築できたことが成果として大きい。そして、保全対象資源と利用者の関係を調整する関係者間の調整システムを関係者で連携して構築できたこと、さらに研究者の関与やデコイ設置などで保全対象資源の価値を高め、価値が高い資源なら保全しようという意識を醸成できたことが評価できると考えられる。

（委員・敷田　麻実）

ウトロ海域部会３年間の取り組み　総評

斜里町立知床博物館　元館長　　中川　元

ウトロ海域部会の３年間の取り組みによって、減少傾向が続いていた希少種ケイマフリの個体数が回復傾向に転じ、かつ観光船による海域利用の質的向上が図られたことは大きな成果である。成果が上がった理由の第一は、専門家や事業者、行政など関係者が一つのテーブルに着き、情報と目標を共有し、議論がなされたことである。保全策が求められる希少種の現状に関して、調査資料をもとに部会の構成員が共通認識に立って有効な保護対策を検討できた。また、観光船事業者もケイマフリを観察対象（観光客に提供する知床ならではの体験）として、観光資源の一つとして守り、PR 活動による普及と価値の向上に取り組むことができた。これはエコツーリズムの理念に基づいた検討の場（共通のプラットフォーム）を作ることができたことが大きい。

今後については、この関係者共通のプラットフォームを地域に根付かせることが重要であり、モニタリング調査の継続によるケイマフリなど海鳥の生息状況把握と保全・利用対策への反映が不可欠である。この３年間の取り組みと成果は、いうまでもなく国（環境省）の事業として行われたものであり、一定の成果が上がったと判断された後は自治体やコミュニティーが中心になって継続すべきという考えもあるかもしれない。しかし地域の現状は依然として人口減少と経済衰退の中にあり、自治体や地域コミュニティーには新たな事業を担う余力があるようには見えない。エコツーリズムが生み出す地域経済への波及効果もまだ限定的であり、中央から地域へ権限と財源を委譲する国の政策も頓挫したままである。このような中で国が資金や人材を引き上げることになると、せっかく築きあげたプラットフォームや共通の目標を持って取り組む体制が崩壊しかねず、成果を上げつつある保全と利用の両立も維持が難しいと考えられる。当面は国の関わりを継続してゆく中で、地域ができる部分やその方策を模索し、段階的に地域が担える体制を作ってゆくことが必要であろう。加えて、この成功例が知床や他地域における保全と利用の両立のモデルとして活用されることが望まれ、そのためにも現在の取り組みがレベルを下げることなく継続できる体制が重要になろう。

（委員・中川　元）

ケイマフリの取り組みに関して　総評

北海道大学名誉教授　小城　春雄

私がまだ北大水産学部に奉職していた頃、何とかケイマフリの繁殖生態を解明しようとして学生や大学院生に研究課題として与える機会を狙っていた。当時誰もケイマフリの繁殖生態など研究するノウハウがわからなかった。3 人の大学院生がケイマフリについてまとめた。幸い天売島の寺沢氏のご好意により常時観察できる巣穴を確保することができ論文としてまとめることができたのと、筋肉や骨格の特性も論文としてまとめることができた。その後、青森県の尻屋崎の繁殖地で、産卵時から巣立ち期までの 2 羽の雛の成長を追跡でき修士論文にまとめた。現在での日本におけるケイマフリに関しての詳細な研究成果はこれら 3 例だけであろう。ケイマフリは沿岸性ではあるが、かなり神経質な性質があり、岩石海岸で釣り人や海岸でキャンプしたり泳いだりする人が増加すると、簡単にその場所での繁殖を放棄してしまう。意外と調査しにくい海鳥種である。

ウミバト属については北大西洋の極地域でウミガラス類の祖先系から分岐して進化したものであろう。その後の間、氷期にベーリング海峡を通過して、北太平洋域とその付属海に分布を広げウミバトやケイマフリへとさらに進化したと考えられる。現在の北大西洋でのハジロウミバトは 7 亜種が報告され、さらに多くの地方型があるなど議論されている。しかし太平洋域では進化系統分類等に関しての詳細な研究はなく空白状態である。その中でもケイマフリはオホーツク海と隣接する周辺海域だけで繁殖するという極東海域だけに分布が限定されている希少種といってよい。

日本におけるケイマフリの繁殖地は東北地方の太平洋岸以北、北海道の離島、そして北海道本土では知床半島や道南の恵山岬周辺と限定されている。興味ある分布としては択捉島の南岸域では､ケイマフリとウミバトが同所的に繁殖している｡本州及び北海道の繁殖地では、近年繁殖数の減少が多くの研究者により報告され今後何らかの対策が必要であると警告されている。

ケイマフリの営巣場所は断崖斜面の岩の割れ目や隙間、断崖下部の崩落した土砂や岩石でできた崖錘斜面であり、人間が簡単にアクセスできる場所はほとんどない。知床半島のケイマフリの営巣場所で人が安全にいつでもアクセスできる所は全くない。

ケイマフリの繁殖生態を調査した過程で、数日間隔で体重やら外部形態を計測するために雛をいじりまわしたが、数日経つと雛は抱き慣れてきてあまり抵抗しなくなった。このことは野生個体を人工飼育した場合結構人に慣れる可能性のあることが解った。ウミガラス、ハシブトウミガラス、エトピリカ、ツノメドリ、ニシツノメドリ等は人工飼育下では人に慣れる。しかし、ウトウだけは親鳥も雛も人間には決して慣れない。面白いことに人になれた上

記の海鳥も野生に戻すとその瞬間から、人間との生活から独立してしまう。丁度、鷹匠の飼育訓練した鷲鷹類を放鳥した場合と同じである。

ケイマフリは絶滅危機状態になる前の現時点において、人工飼育下で繁殖生態を完全に把握すべきである。現在の日本では野生生物に関しての保全（Ｃｏｎｓｅｒｖａｔｉｏｎ）と保存（Ｐｒｅｓｅｒｖａｔｉｏｎ）に関しての国民や行政の理解が実際の社会でソフトウエアとして機能していない。特に海鳥類については動物園や水族館との提携がうまく機能できていない。さらには野生動物保護法などという法制度があるものの、実際水族館で飼育されているのはアイスランド産のニシツノメドリであったり、ロシアやアメリカ産のエトピリカだったり妙である。佐渡のトキのように危機的な状態が長く続き、皆が保護の必要性を感じていた。やっと政府の保護が行われ始めたときは、時すでに遅く絶滅し、その補充は中国産だったりした。これではまるでストーカー殺人事件の構図と同じである。近年翻訳出版されたフランク・Ｂ・ギルの鳥類学をみると、ある鳥種の保護対策はまだ資源に十分な余裕のあるときから始めなければならないと記されている。日本の海鳥類保護のためにさまざまな法律が作られているものの、その施策が柔軟性を持って適用できないのは悲しいことである。

知床半島のような人間がアクセスできない場所で繁殖しているケイマフリのような場合には、まず人工的に繁殖させて、その問題点を炙り出す必要があるのではないだろうか。

これまでのウトロでのケイマフリに関しての会議では、従来海鳥保護とは無縁とも考えられてきた漁業者や観光業者の方々の、思いもかけぬ協力と理解が得られた。これは素晴らしいことであった。誰でもわが国のケイマフリの減少傾向を他人事のように感じてばかりいるわけではないことが解った。ただ惜しむらくは、ウトロを中心とした住民の方々からの発信の無さであった。観光地に人が多く集まっても、その観光地の観光業務や施設が外部資本に支配されれば地元での資本蓄積や知識の蓄積は期待できない。さらには次世代を見越した人間活動の胎動は期待できない。さらには知床半島の北部沿岸域はオホーツク海の一部である。言うなればオホーツク海の生態系の一部である。このような海からの視点がないと、ケイマフリの保護対策の将来像は描けないと思う。

（委員・小城　春雄）

ウトロ海域部会の 3 年間の成果を讃えて

北海道大学大学院水産科学研究院・教授　桜井　泰憲

知床世界自然遺産地域科学委員会の海域ワーキンググループの座長として、ウトロ海域部会に参加してきました。知床世界自然遺産地域の海域の保護管理に向けて、「多利用型統合的海域管理計画」が平成 19 年に策定されました。その目的は、「海洋生態系の保全と安定的な水産資源の利用の両立」です。平成 25 年度からは第 2 期の管理計画のもとで、知床の海の生物多様性を保全し、そこからの水産資源の恵み、そして豊かな自然と野生生物の営みがもたらす多様な海洋リクリエーションの場を利用する生態系サービスとしての価値を、それぞれの立場から享受できる仕組みも必要となってきました。つまり、豊かな知床の海や半島全体の自然、そして多様な生き物たちとも、私たち人間が賢く、しかも持続的に付き合って行くことこそ、知床世界自然遺産の価値を高めることになります。

ウトロ海域部会が発足して 3 年間、敷田麻実北大教授の座長のもとで、知床半島で繁殖する海鳥・ケイマフリの保全と沿岸漁業、観光産業との関係を、どのように作って行くのか、真剣に取り組んできました。これには、海鳥の専門家、観光事業者、漁業組合、そして環境省などが互いの立場から、互いにウィンウィンの関係を目指した議論、行動が実施されています。ケイマフリが安心に繁殖できる場の提供こそ、それが利害関係の異なる方にとってもプラスになるという目標と成果は、まさにワイズユーズの成功例と高く評価します。これを先導されてきました敷田座長、ケイマフリの保護の研究を進めてきた福田佳弘氏にも、敬意を表します。

しかし、この事業は、ようやく一歩を踏みだしたばかりです。海鳥の保全と漁業や観光業の安定的な営みは、未来永劫に続きます。海を守り、命を守る、そしてその恩恵を受け続けるためには、まだまだ多様な方が参加した取り組みが必要です。もし、ケイマフリが乱舞する海が知床から消滅すれば、私たちは知床の海からの恵みすらもらえないことになります。このことを、私たちは絶対に忘れてはいけません。

（委員・桜井　泰憲）

ウトロ海域部会に参加して

公益財団法人日本交通公社　観光調査部長　寺崎　竜雄

最初の集まりの時、環境省から「Win-Win」の関係を作りましょうという発言があったことを印象深く覚えています。「地域資源の立場」において、“貴重な資源や独自の文化が傷つけられたり失われたりすることなく存在し続けること”。つまり、ケイマフリの生育環境が良好に保たれること。そして、「地域経済の立場」において、“観光産業が健全に経営していけるだけの収入が得られること”。つまり、観光船事業者等の売上げが確保されること。この対極にあると思われがちな二つの立場の主張がともに成り立つようにしましょうというメッセージです。加えて、この事業では「観光客の立場」として重要な、“その観光地には満足できる体験や求める体験があること”にも配慮し、アンケート調査を通して来訪者の意識と行動の分析も努めました。「Win-Win-Win」の関係を目指したのです。

理屈ではわかっていることですが、感情をもつ人間が集まり、相手の立場を気にかけながら方向性をみいだし、できることから行動に移すということは、そうたやすいことではありません。しかしながら、ウトロ海域部会の活動の結果、知床の自然観光の重要性に対する関係者間の理解の深化、観光事業者のケイマフリ保全意識の増大という具体的な成果が得られました。海域部会に参画する観光船やカヌー事業に取り組む観光関係者、海鳥の研究者をはじめとする資源の保全に関わる方々、漁協関係者、それぞれの誇りと知床の自然に対する強い思いが、このような成果を導いたのだと思います。環境省と当事業の受託機関が、ひとつひとつの作業やコミュニケーションを丁寧にすすめたことも特筆すべきでしょう。

また、当部会が前向きに運営された要因として、科学的なデータをもとに議論が進められたということも見逃せません。ケイマフリの生態や個体数などの調査、前述した来訪者アンケート調査。実態をあいまいに表現せず、客観データで示したことにより、話し合いが具体化しました。ウトロ海域部会の取り組みは、自然地域の協働型管理の模範例として、おおいに評価されるべきケースだといえます。

さて、協働型管理の基本的な枠組みはできたといえますが、この活動を継続していくことこそ重要です。できることなら、地元の関係者による自走的活動を目指して欲しいものです。そのための有効な手段は、「持続可能性指標」の活用だと考えます。簡単に言うと、地域経済、観光マーケット、観光サービス、環境、地域社会や文化、などの状態を端的に示す指標を設定して、それらを継続的に測定し、指標の値の変化を評価し、その結果に応じた対応をおこなうという一連の作業です。国外の自然観光地で活用が始まったと聞いていますが、国内ではまだ例がありません。協働型管理の先駆例として、ぜひチャレンジされたらいかがでしょうか。

（委員・寺崎　竜雄）

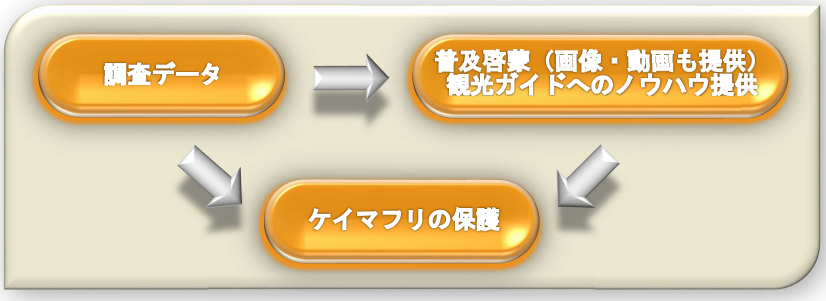
ウトロ海域部会３年間の取り組み　総評

知床海鳥研究会　代表　福田　佳弘

これまで、3 年間ウトロ海域部会として目指してきた「win -win- win」 の関係も徐々にできつつありますが、まだまだ活動としては道半ば。飛行機で言えば飛び立ったばかりで、これを安定した活動と継続していかなければ、花火を打上げただけとなってしまいます。環境省の予算も一区切りを迎え、次年度以降の予算化は全く不透明です。これからが、本当の正念場となるでしょう。ケイマフリを調査する側としても霞を食って生きていけない現状もあり辛いところです。

この活動が実り、ケイマフリの生息数も 2004 年の 140 羽前後まで回復しました。しかし、それ以前の生息数の記録がなく、どこまで増えれば本来の知床の生息数だということは解りません。天売島の例では 1960 年代には 3000 羽で、現在は 300～400 羽しか生息していません。一桁違うわけです。

これまで、ケイマフリや海鳥の調査を 10 年以上行ってきました。同時に、その保護も訴えて来ました。調査データをいかに保護に活かして行くか？というのが私のテーマでした。これまで、報告書や論文にまとめても、それを直接保護に活かせるという事は難しかったのです。今回のウトロ海域部会では、ケイマフリの調査データを利用して、観光船のルートや速度をケイマフリの生息に影響を与えないように配慮がなされるようになりました。また、以前は数多くのケイマフリが繁殖していたトークモイにデコイを設置し、繁殖地を回復させる試みと、観光船やその観光客に対して、ケイマフリの生息地としてアピールする活動も開始されました。このような活動は、国内でも先駆的な事例として誇れるものであると考えます。




これを、「知床スタイル」として定着させ活動を続けて行きたいと考えます。

今後は、海鳥やケイマフリに対しての普及啓蒙や環境教育についても力を入れて行きたいと思っております。今後とも皆さんのご協力をお願いいたします。

（委員・福田　佳弘）

ウトロ海域部会（ケイマフリの取り組み）事業へのコメント

横浜国立大学教授　松田裕之

ウトロ海域部会のケイマフリの取り組みは、当所は観光資源とみなされていなかった海鳥の保護を図る上で、保護を訴える研究者と観光業者の間の初期の対立を越え、両者が相互理解を経て共存を図ることができたという点で、他地域のモデルになりえる成功事例である。しかし、2009 年度の会合、2010-2012 年度の海鳥調査、ウトロ部会会合、デコイや動画作成など、さまざまな予算措置が一段落したところで、特別な予算措置を伴わない息の長い取り組みに移行できるかが問われている。

動画（http://www.youtube.com/user/ROUTORO?feature=watch）をみると、当所は一方的に観光漁船が原因と決め付けたなどの角逐が見られたが、海鳥も観光資源として活用できるという認識を持つに至り、大きな転換が図られたようである。この動画からは、世界遺産の自然の価値を持続可能に利用しようという観光業者の自然に対する真摯な姿勢と強い責任感が感じられる。また、2002 年ころから研究者がケイマフリの個体数を自主的に調べていたからこそ、その減少に気づき、科学委員会の注目を集め、その回復を社会にアピールすることができた。

法規制や行政措置ではなく、関係者の自主的な取り組みによって保全と利用の調和を図るという取り組みは、知床遺産の海域管理計画に通じるものであり、国際コモンズ学会が「世界のインパクトストーリー」の一つに選んだ成功事例の教訓が、観光業者との間にも生かされていることがうかがわれる。

また、このような自主的な取り組みを育てることにも予算措置をとった行政の英断も高く評価される。国の上意下達でなく、当事者の取り組みを支えるために予算を投入することは、なかなかできることではない。

ここまでの記述に足りないものの一つは、環境教育である。海鳥だけでなく、それを調査する研究者も知床世界遺産の一部である。自然の恵みと人の営みそのものが観光資源であり、観光業者と観光客も、その自然に親しむだけでなく、その調査の一翼を担いうる。専門家の視線だけでなく、知床の自然を守りたいと願う人の自主的な取り組みは、それ自体が貴重である。

研究者が満足するような精密で客観的なデータは取れないかもしれないが、市民の手作りの維持活動も重要である。自然とそれを守ろうとする人の両方の価値を大切にし、育てることが大切である。多少精度の悪い観測でも、それが善意に基づいている限り、多くの場合、手遅れになる前に異変に気づくことができるだろう。よく言われることだが、多くの人に手厚く見守られている自然は恵まれているともいえる。

予算がつくことによって、その分自由を失う場合が多々ある。今回、特に利用規制などな

く予算措置ができたことは行政の英断である。国に守ってもらうというだけでなく、自らの取り組みで自然を守るのが本来の姿である。その取り組み自体も観光客にとって魅力になるだろう。その仕組みをぜひ考えていただきたい。

2013 年 3 月 6 日　松田裕之

# 【資料編】

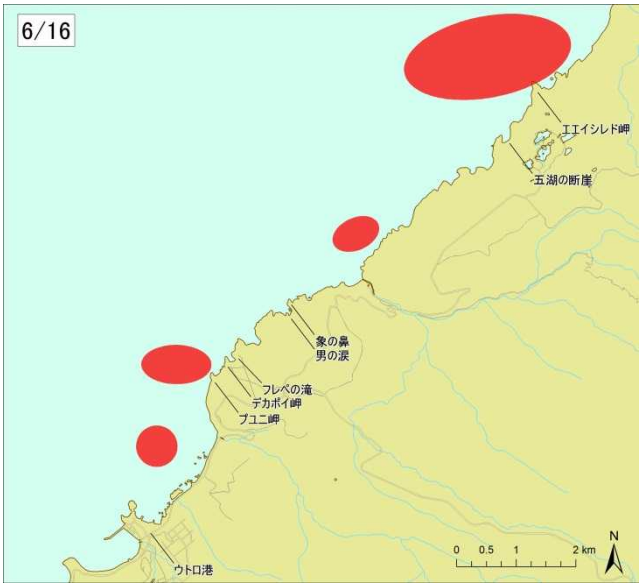
資料 1　・海域観察記録 GIS による取りまとめ結果　（環境省釧路環境事務所による）

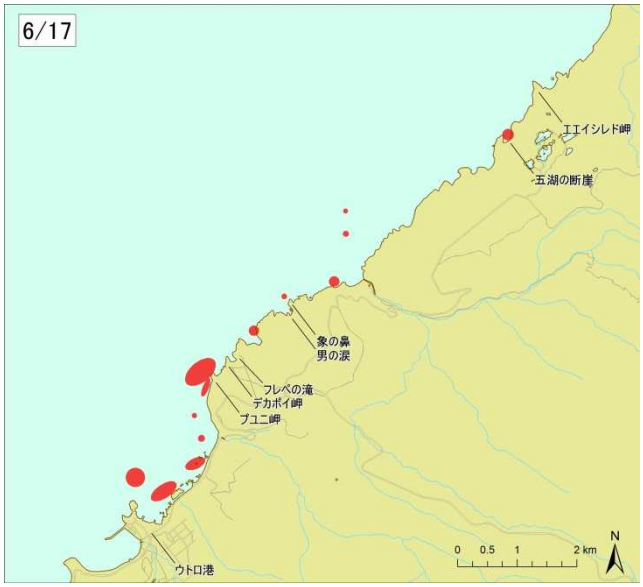
資料 2　・適正利用・エコツーリズム検討会　ウトロ海域部会　議事録
資料 2-1.平成 24 年　6 月 14 日　第 1 回　部会
資料 2-2.平成 24 年 10 月 23 日　第 2 回　部会
資料 2-3.平成 25 年　3 月　1 日　第 1 回　企画会合

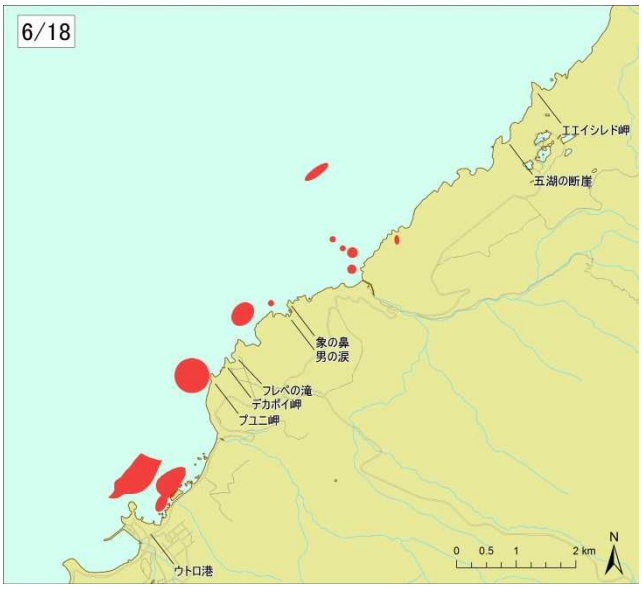
資料 3　・各種様式

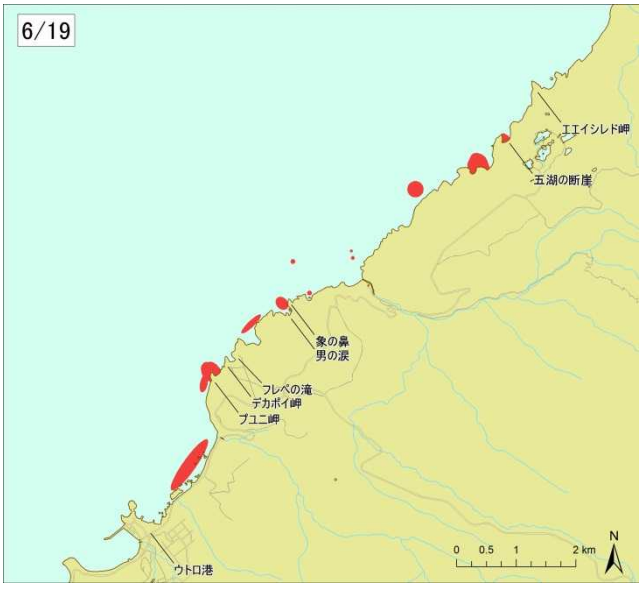
資料 1. 海域観察記録 GIS による取りまとめ結果　（環境省釧路環境事務所による）

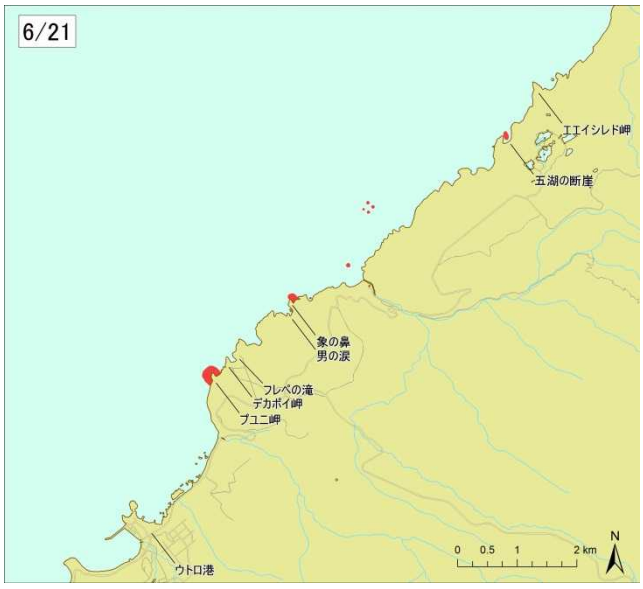
(1)ケイマフリ個体確認位置図（平成 24 年 6 月 16 日～平成 24 年 7 月 11 日）

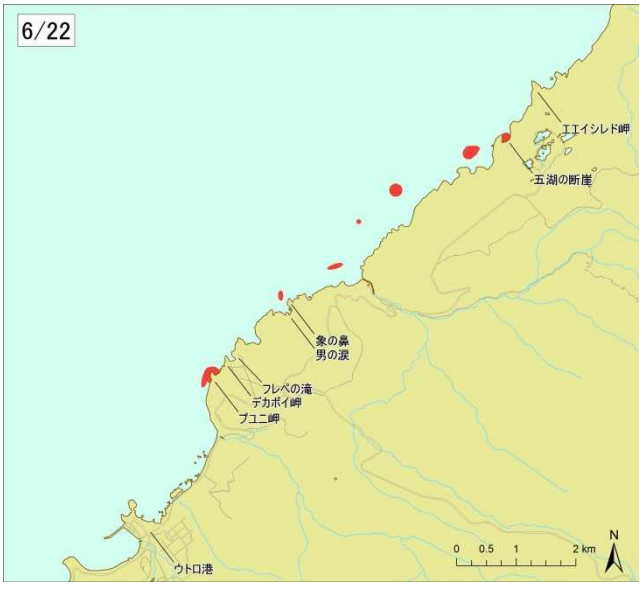


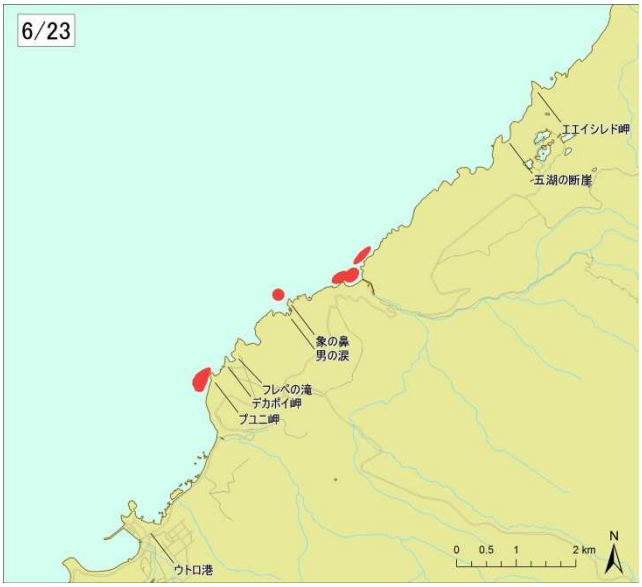



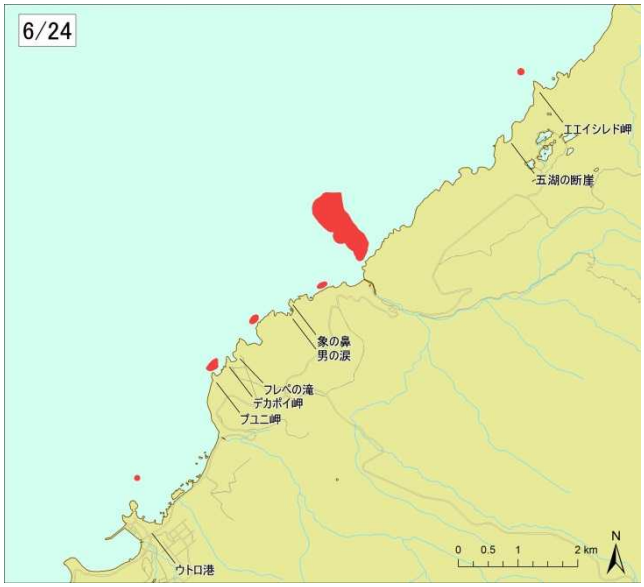



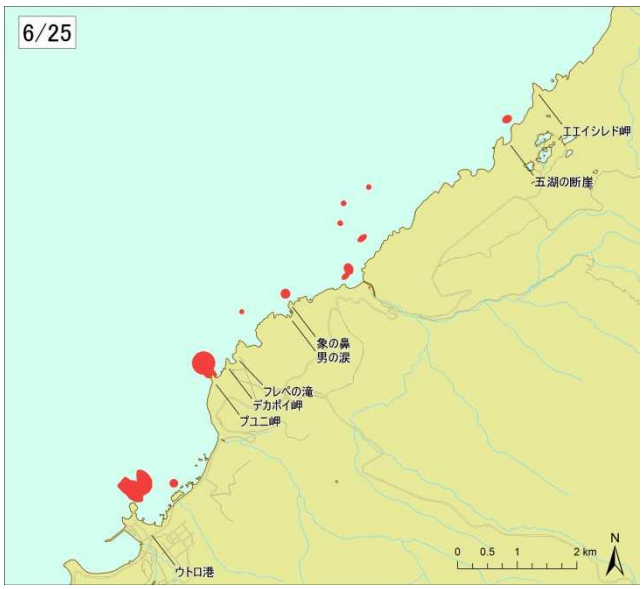



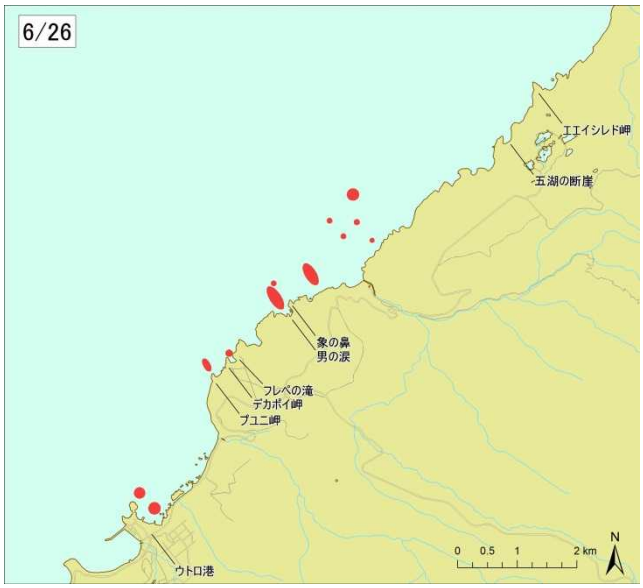



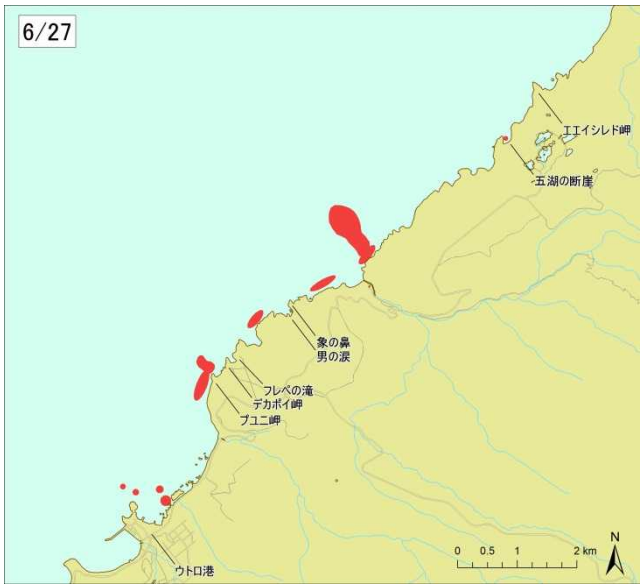



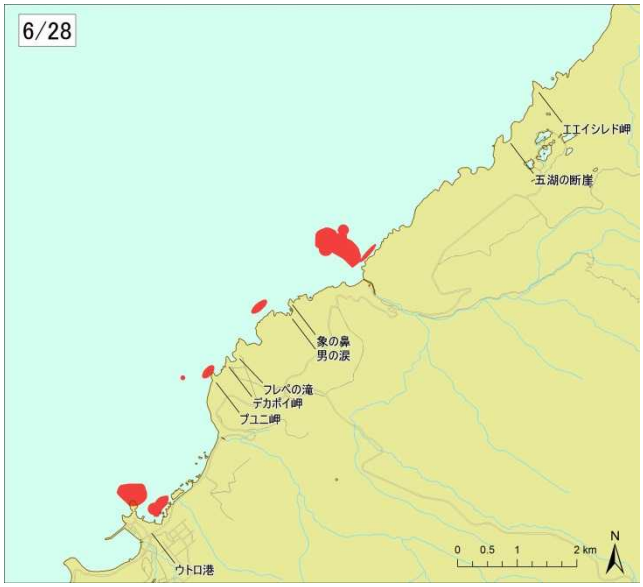

6/23
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

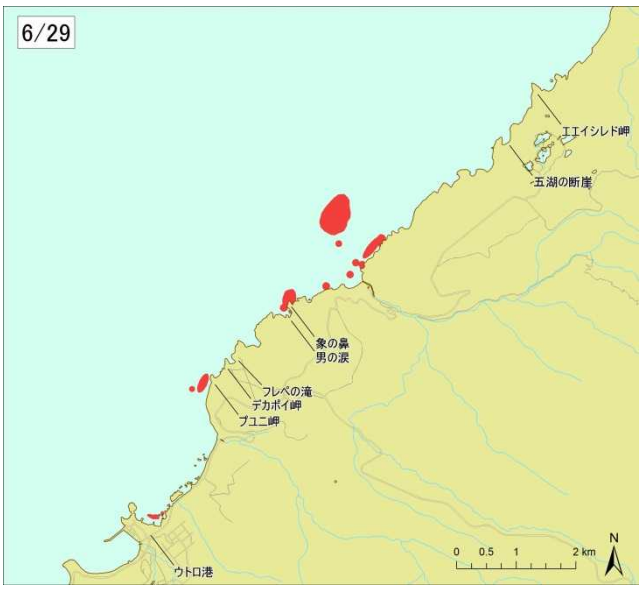

6/24
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

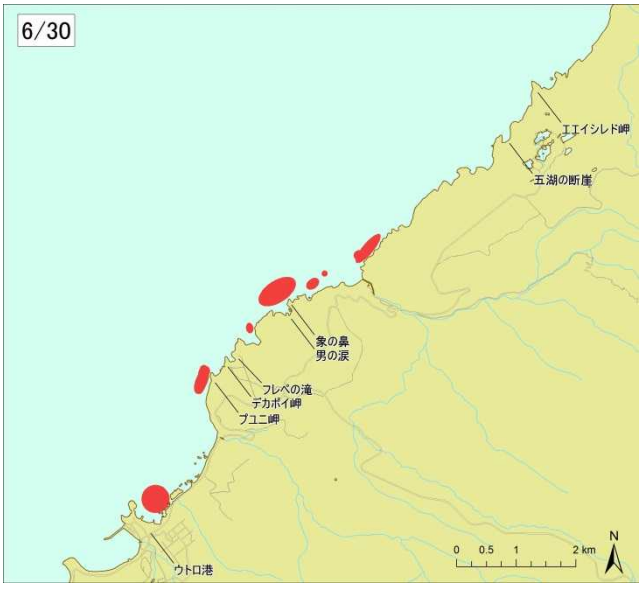

6/25
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

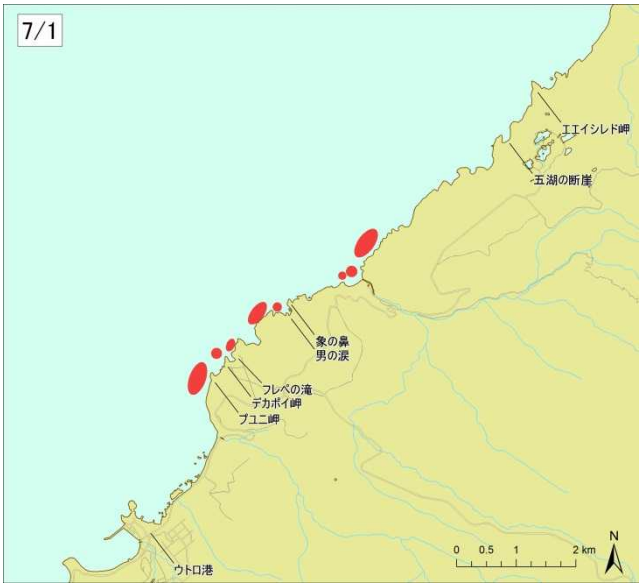

6/26
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

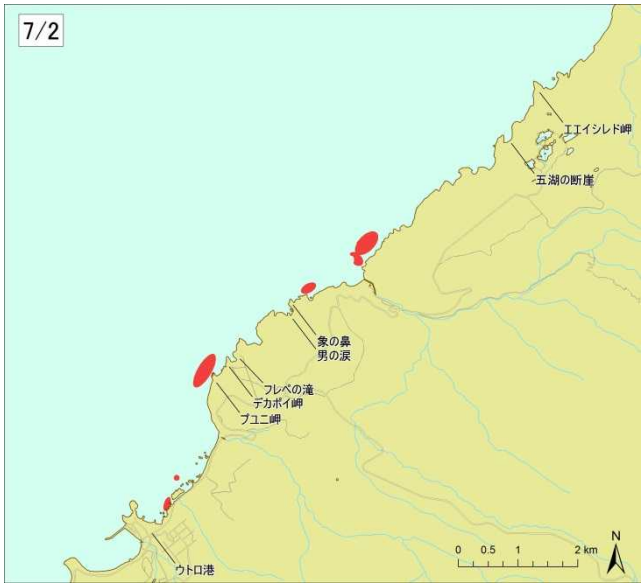

6/27
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

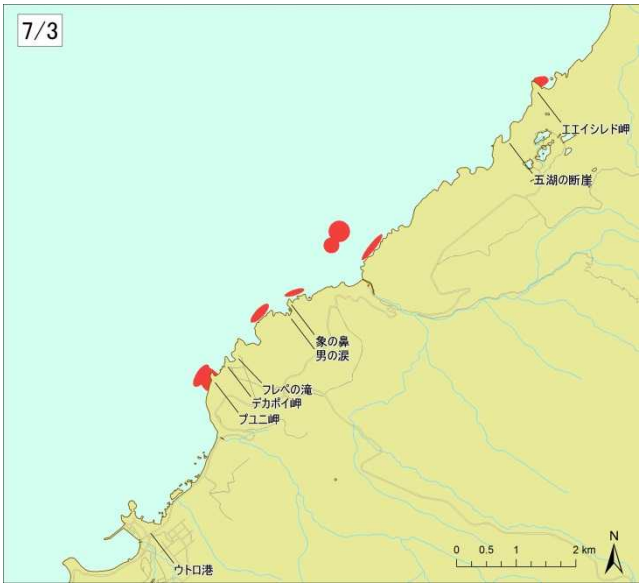

6/28
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

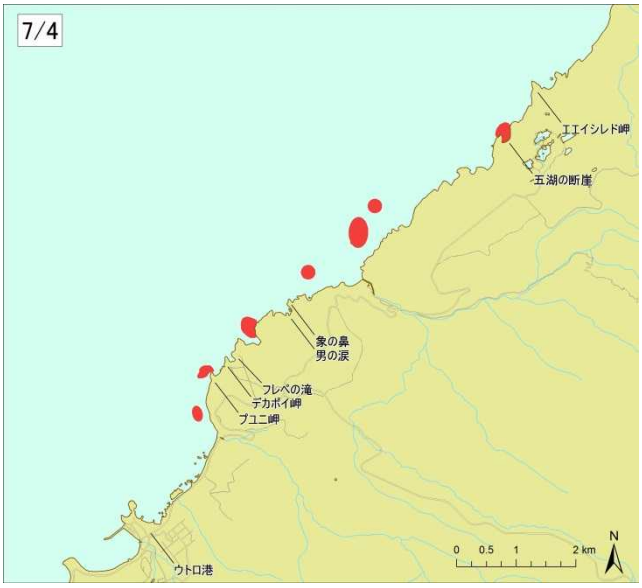

6/29
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

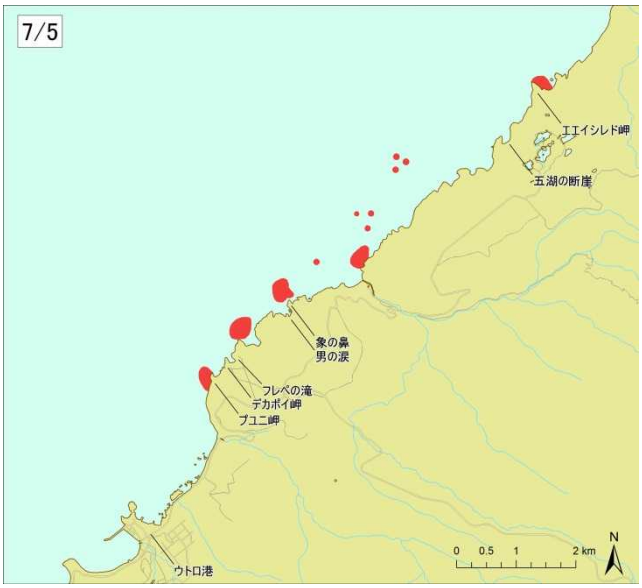

6/30
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

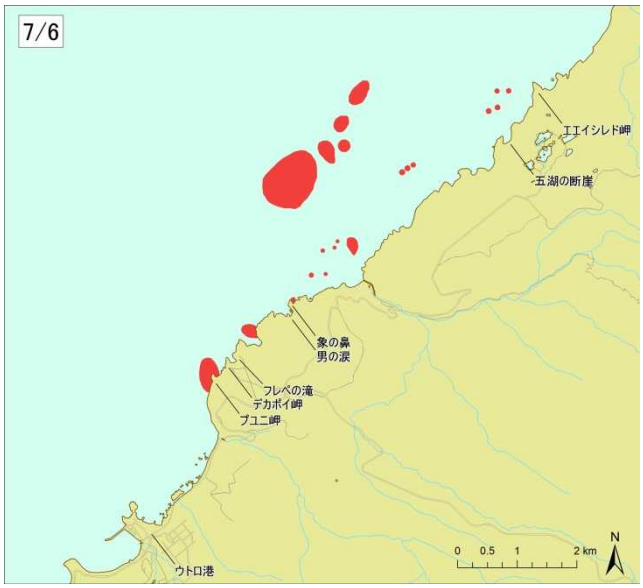

7/1
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

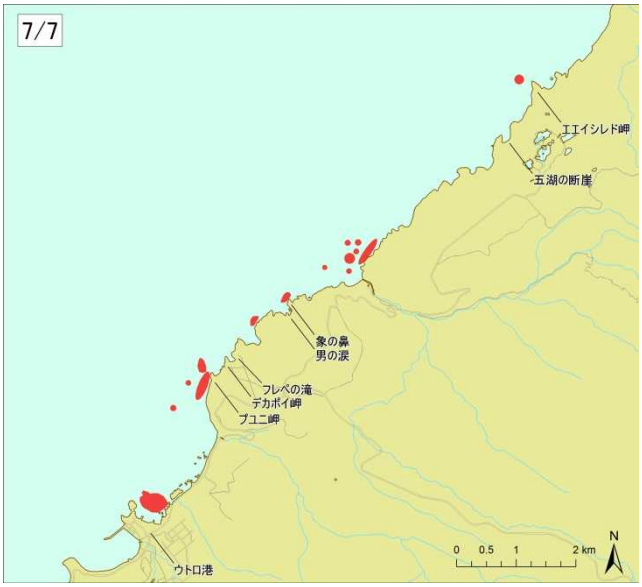

7/2
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

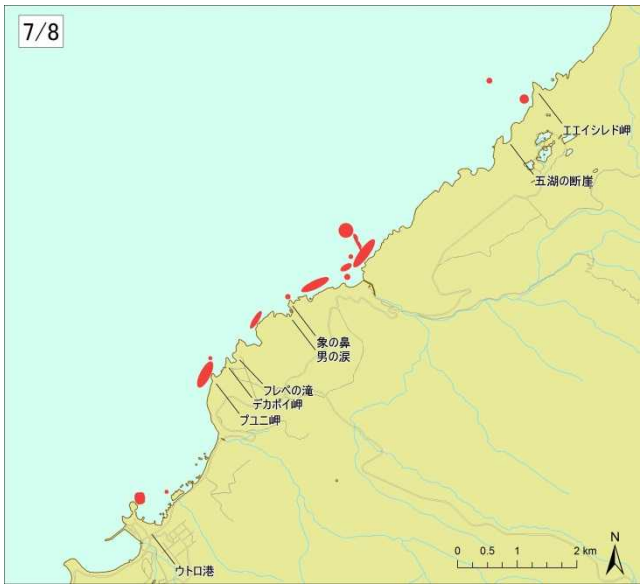

7/3
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

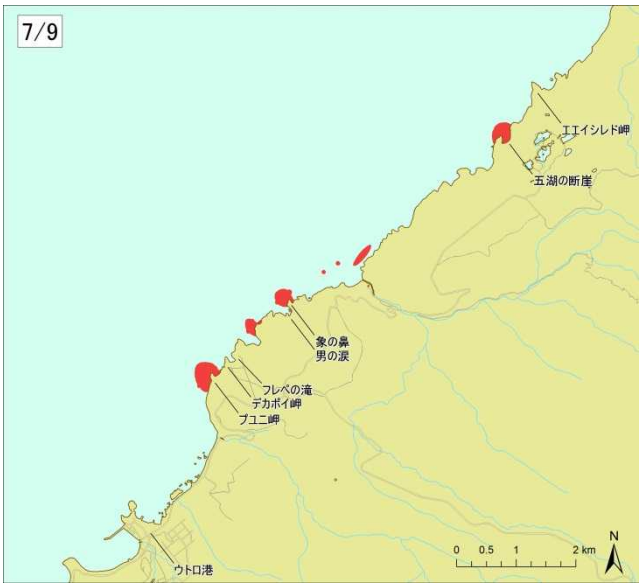

7/4
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

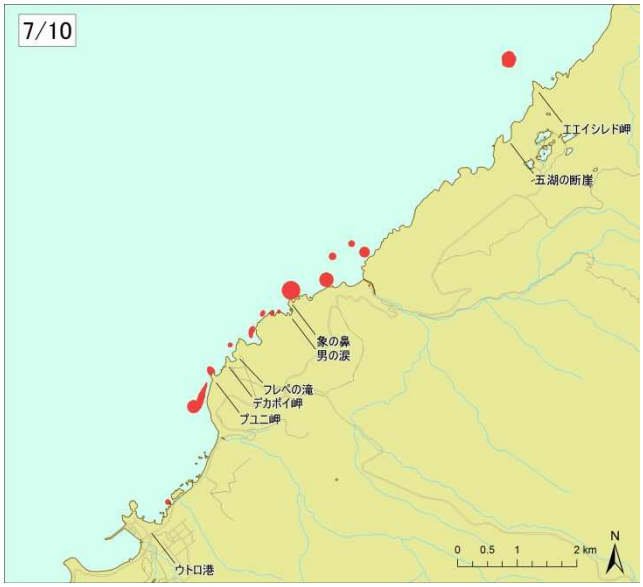

7/5
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

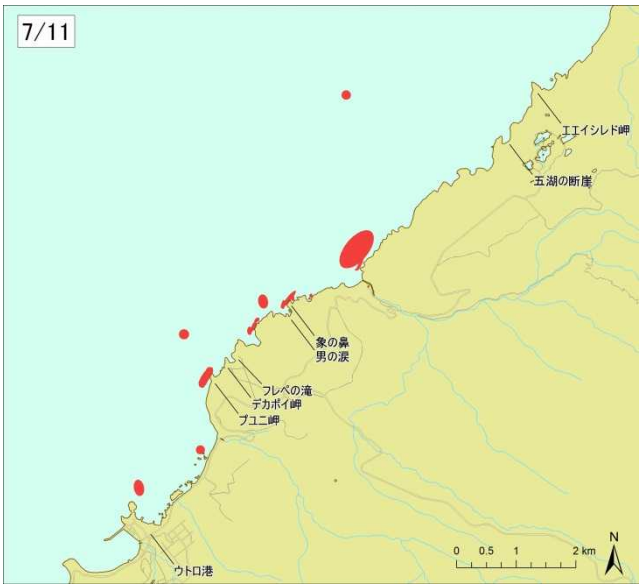

7/6
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N


7/7
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

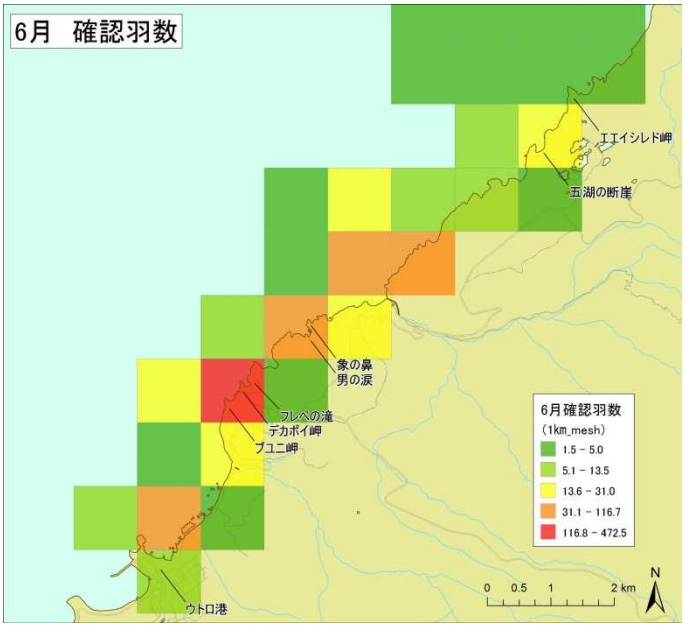

7/8
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

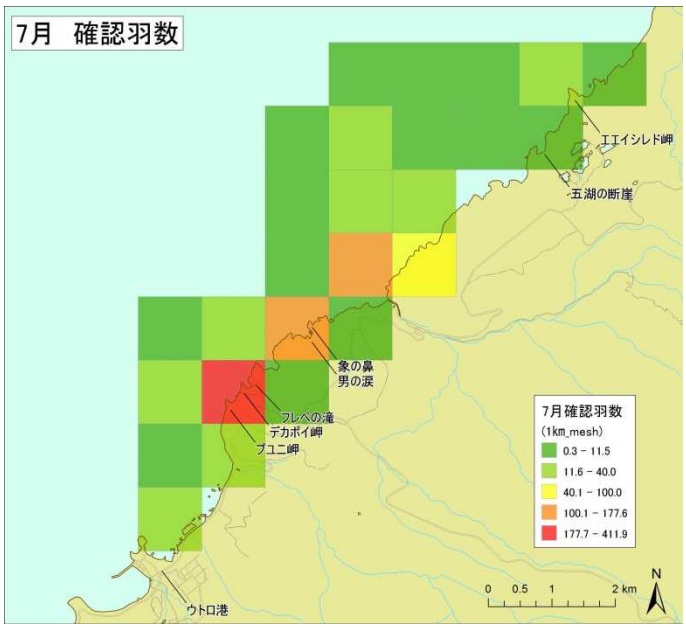

7/9
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

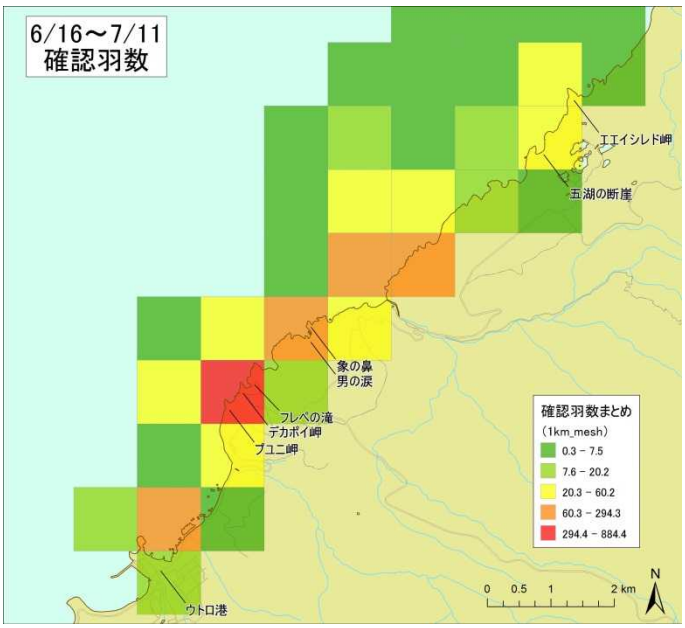

7/10
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
ブユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N


7/11
エエイシレド岬
五湖の断崖
象の鼻
男の涙
フレペの滝
デカポイ岬
プユニ岬
ウトロ港
0 0.5 1 2 km
N

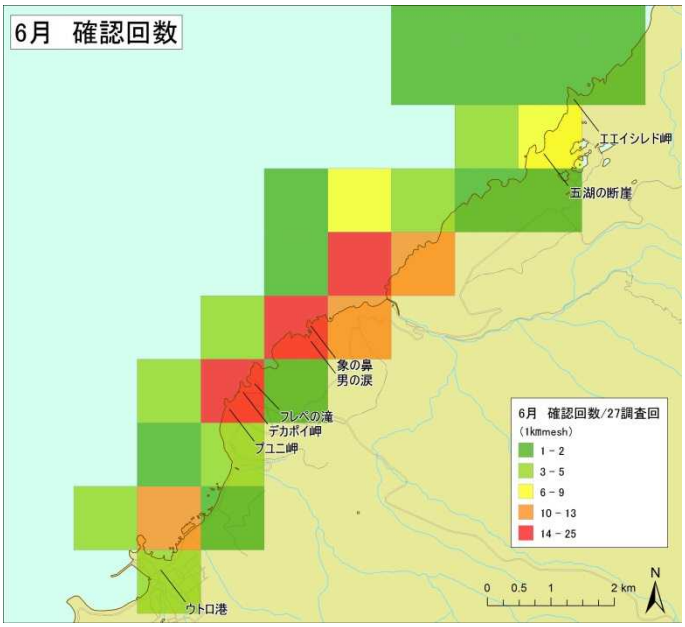
(2) GIS によるケイマフリ確認個体数メッシュ解析

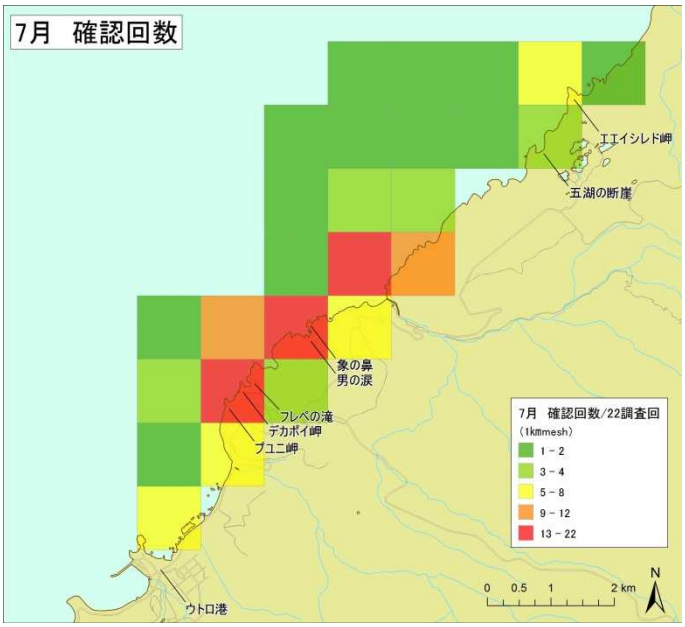


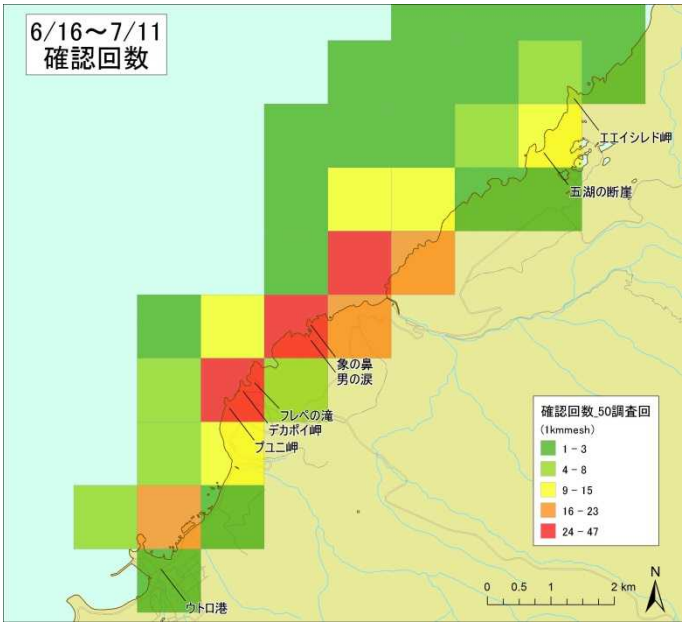



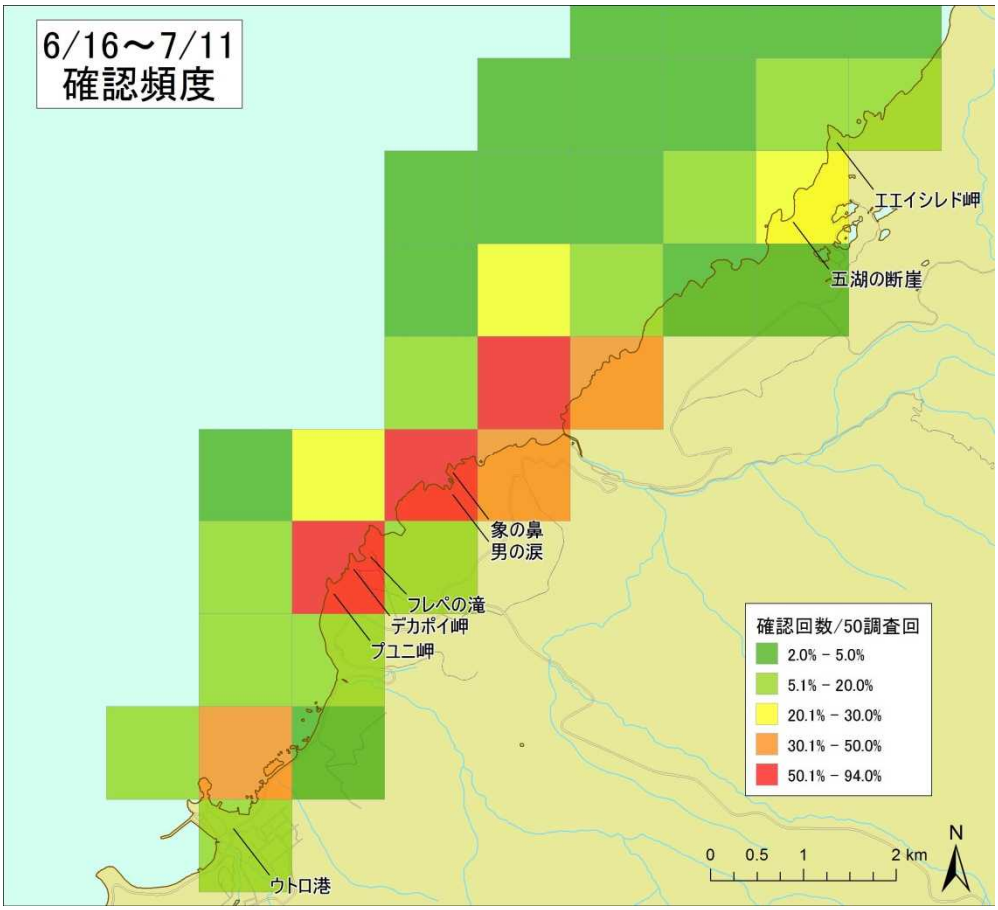
(3) GIS によるケイマフリ確認回数メッシュ解析



(4)GIS によるケイマフリ個体確認頻度のメッシュ解析（6 月～7 月）



# 資料 2. 適正利用・エコツーリズム検討会　ウトロ海域部会　議事録

## 資料２－１．平成 24 年　6 月 14 日　第 1 回　部会

| 発言者 | 発言内容 |
|---|---|
| | **開会･挨拶** |
| 環境省 | 釧路自然環境管理事務所の中山と申します。この取り組みは今年で4年目のなり、検討会を始めてから3年目ということになるようです。ケイマフリという海鳥を主役にウトロ海域に生息する海鳥を観光資源として考えながら、同時にそれを保護し紹介していこうという事業が少しずつ進んできたところでございます。昨年からはウトロ海域部会として行わせて頂いていますが、地域の様々な皆様方に支えられて進んで参りました。皆様方のご協力に改めて感謝させて頂きます。この計画は3ヵ年計画ということになってまして、今年は最終年度のまとめの年ということになります。本日は活発な御議論を頂きたいとお願いさせて頂きまして開会のご挨拶とせて頂きます。 |
| | **議題** |
| 環境省 | ・　本日の議題について説明　(環境省)<br><br>1.ウトロ海域部会について<br>　～経緯および年次計画における今年度の位置付け<br><br>2.本年度事業実施計画<br>1)　ウトロ海域海鳥調査計画<br>2)　利用者動向調査(アンケート調査)<br>3)　海域状況(海鳥)観察の実施<br>4)　広報用コンテンツの作成<br>5)　その他<br><br>3.その他　　意見交換 |
| 敷田座長 | それでは進行を進めさせて頂きます。この事業も3年目となり、最初は非常にわかりづらかったと思いますが、一重に皆さん方の努力のお蔭でここまでたどり着きました。先日、知床海鳥研究会の福田さんと知床小型観光船協議会の神尾さんに私どもの北海道大学に来て頂きまして、ケイマフリに関わる取り組みのお話をして頂いて議論をさせて頂いたのですが、事情を知らないお客さんもおりましたけれども、非常にお2人のお話に興味を持って頂きました。この積み上げは非常に先進例に近いと思います。この事業に関われることを非常に幸せだと感じています。今日は3年目に入りましたスタートでありまして、次にどれだけ進められるかという重要なお話が出てくると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。 |
| **1.ウトロ海域部会について** | |
| | **1.ウトロ海域部会について** |
| 環境省 | ･経緯および年次計画における今年度の位置付け　※パワーポイント |
| 敷田座長 | 成果のところで、どうやって協力関係が作れたのかを強調して記載するのが良い。 |
| **2.本年度事業実施計画** | |
| | **2-1.ウトロ海域海鳥調査計画** |
| | ～今年度の海鳥調査計画および、デコイの設置状況についての報告～<br>･デコイの設置及びその意味について |
| 環境省 | デコイの効果は繁殖地に近づかないことと、観光船が利用者にケイマフリの存在を説明できることの二つの効果があると思います。今年設置したデコイは先日流されてしまったが、現在再設置を考えています。 |
| 福田委員 | デコイを設置し観光船が近づかないよう協力いただいたお陰で、観察されるつがいの数が去年より2･3ペア増えています。大きな効果が1･2年で出ていることに驚いています。 |
| 環境省 | 福田さんと山本さん(ウトロ漁協)が再設置について進められていると聞いていますが。 |
| ウトロ漁協 | そうですね。設置の時期はは4月、5月が理想ということですが厳しいです。デコイが流されてしまったが今年のように30年や50年に1回とか、知床には気候が不安定な年もあります。 |
| 福田委員 | ケイマフリは保守的な生き物で、すぐ生息場所を変えたりできる生き物ではないと思います。最近ケイマフリが岸に近いところで営巣するようになってきたのは観光船に配慮して頂いている結果だと思います。 |
| 小城委員 | 天売島では繁殖地の近くに海水浴場が出来て人が入るようになり、営巣しなくなった例もあります。ケイマフリは繁殖に関して非常に神経質。観光船が近づかなくなって安全だとわかれば、もっと巣穴は増えていくと思いますね。 |
| 敷田座長 | 観光船側には随分配慮頂いているようですが、具体的に運航へのマイナスは生じていますか？ |
| 小型船 | 運航コースが多少距離をとったからといって、お客さんへの反響に影響はまずないと思います。 |
| 敷田座長 | ケイマフリに近づいてほしいというリクエストはないですか？ |
| 小型船 | ケイマフリに関してはないですね。沖合にもケイマフリはいますのでそちらのほうでも説明はできます。 |

| | |
|---|---|
| 敷田座長 | 協議会で船のアナウンスは実施した方が良い、という話はして頂いているのでしょうか。 |
| 小型船 | 最初の頃よりケイマフリに関しての知識も増えましたので、お客さんに保護活動を伝えることを推奨しています。 |
| | ・今後のデコイの設置のあり方 |
| 小型船 | 設置時期が課題です。繁殖期を考えればこの時期でなければ、というのもあると思うが、今回みたいに失くしてしまうことはこの先もあると思う。4 月から設置する意味はわかる。時化の状態でもまめに回収するとか事前にしておくとか漁師の人と我々事業者と話し合ってどういうふうにしていくか。今は気象情報もとりやすいのでどんな状況で回収するのかなどに関して議論していくことが大切だろうと思う。 |
| 福田委員 | あともう少しデコイの資金があれば良い。構造上根元から千切れてしまうかもしれません。 |
| 環境省 | あと3体デコイがあるのでやり直すことは可能です。 |
| 小型船 | いい成果が出ているのでデコイはまた作ればいい。ちゃんと福田さんがデータを出しているのだから予算を出せればいい。 |
| 福田委員 | 繁殖地の目印としてもデコイがあればお客さんにも話しやすいし、落ち着いてケイマフリが見れる空間を作っていけるのかなと。 |
| 小型船 | 確かに我々からしてもあそこは繁殖に適している気がする。同時に我々の事業としてはお客さんに景観を見せたいという気持ちが強かった。もっと早くから話し合いをしていたら解決していたかもしれない。今になれば我々も話が聞けるようになった。 |
| 敷田座長 | 今、それぞれの方から前向きなお話を頂きました。協力してもう少しデコイの世話の頻度を上げれば、流されるリスクも下げられるということなのですね。 |
| 敷田座長 | もう少し観光船・漁協で見て頂ければ、ということと、あとはデコイが3体では少ないから準備するということでしょうか。 |
| ウトロ漁協 | 漁師さんにお願いして用意したのですが、今回は土俵をアンカーにしました。 |
| 環境省 | 土俵のデコイは残りましたね。 |
| 環境省 | アンカーでも大丈夫ですかね。 |
| 小型船 | いいんじゃないかな。 |
| 敷田座長 | それは今後も協力がいただけるという前提ですか？ |
| ウトロ漁協 | デコイの3つや4つなら。言ってもらえれば。ロープ類はありますから。 |
| 環境省 | また再設置ご協力お願いします。 |
| 敷田座長 | 今から再設置しても意味があるのですか？ |
| 福田委員 | 呼び寄せるという効果というよりも、浮き目印ですね。去年からケイマフリがいなくなった時期にデコイがあったほうがいいというご意見を頂きました。鳥に影響がなければ置いてあってもいいと思うのです。 |
| 環境省 | 計画当初から繁殖が終わった後は目印を撤去して、観光船が運航する10月まではデコイを残しておくつもりです。 |
| 小型船 | 漁師の人に設置してもらうなら予算をつけて頼んだほうがいいのでは。海に携わる者としてケイマフリを保護する意味や協力が必要だということを山本さん1人で伝えることは大変だと思う。山本さんを通じて漁師の人も大事にしているとわかってくれれば保護への見方も変わってくると思う。 |
| 敷田座長 | 山本さん、理事会でこういう話は紹介できませんか？ |
| ウトロ漁協 | お願いする場所はなかなか無いと思う。 |
| 小型船 | 漁師の人も若い世代になってきて海を大事にして先を思うのであれば、こういう形があってもいいのでは。 |
| 敷田座長 | 今年は環境省にお金を捻出してもらって理事会でお話してもらって参加して頂きたいですね。 |
| 敷田座長 | 漁業関係者の方々にも一緒にやってもらうほうが関心も高められるでしょうし。 |
| ウトロ漁協 | 組合内に伝えます。 |
| 敷田座長 | オーロラ号に関しては随分距離があるので厳しいとは思うのですが。どうでしょうか？ |
| 大型船 | 場所的に我々の船は離れているので近づけない所です。 |
| 敷田座長 | 直接資源として使うチャンスは小型船に比べて低いですけれども、もしよろしければデコイの設置や準備にどなたか来て頂けないかと。そうすることで関心を高めていけたら良いと思いますけれども。 |
| 大型船 | 大型船でやれる範囲内であれば。出せる船もありますから。 |
| 小型船 | 無理に船を出さなくてもいいと思う。デコイを確認する時があるじゃないですか？そういう時に我々と相談して声を掛け合ってやるとか、そういうことだけでもいいと思う。 |
| 敷田座長 | 同じ事をみんなでやる必要はないと思います。やれることを少しずつやっていくという事が、こういう仕事は効果があると思います。 |
| ウトロ漁協 | 例えば流されてるのを見たら、すぐ教えてくれるとかね。 |
| 大型船 | 何かあれば、すぐ協力体制は取りたいと思います。 |
| | ・ケイマフリの生態調査―調査の必要性とガイドサービスへの活用― |
| 小城委員 | オーロラ号の時間は1日のはじめの航海の時間になるのですか？ |
| 福田委員 | 今、岬航路に乗って調査してます。朝10：00出航で1日1便です。 |

| | |
|---|---|
| 小城委員 | 1日の行動が見たいですね。本当は24時間やりたいけれどとても無理ですよね。もう少し生態情報の密度を高められないですかね。一日の鳥の日周変化を調べたい。 |
| 福田委員 | ただ、毎年きっちり同じ条件でやらないとモニタリングにならないと思います。 |
| 小城委員 | 私が言いたいのは繁殖期にケイマフリが雛が育つまでどういう所にいて何をしているのかということなんです。多少仮説が入ってもいいから、そういうライフヒストリーのようなものを作ったらどうかと思うのです。 |
| 小城委員 | 一体彼らは沖で何をやってどういう生活をしているか？ということを観光船などでお客さんに紹介するのに面白いと思うのです。多少仮説が入ってもいいから。これは観光をやっている方のサービスとして有効なんじゃないかと思いますね。 |
| 福田委員 | 調査方法は今まで同様変えるつもりはないですね。オーロラさんのように同じ時間・航路・速度という良い条件で調査できるのはめずらしいし利用させて頂きたい。 |
| 中川委員 | ケイマフリを色々な環境条件で観察するとすれば、陸上から見れる営巣地があると良いが、なかなか難しい。 |
| 福田委員 | 船で上陸可能だが他の海鳥に影響を与えてしまう。天売島のように岩が多いと観察しやすいのですが。。トークシモイで営巣が復活すると研究観察しやすくなり面白い。それが今後可能だと思います。 |
| | ・研究者の現状と将来への課題 |
| 敷田座長 | 今まで話を伺っていてわかったのですが、結局、調査は福田さんがほぼ全てという感じなのですね。調査をなんとかしようということになると、全部福田さんに至ってしまうというか。 |
| 環境省 | 「海域状況（海鳥）観察記録」のところで皆さんに観察して頂こうというのがあるのですが、観光船はたくさん出ているので、ケイマフリが居たという記録がそれによって得られれば生態とまでいかないにしても情報が集まってくるので面白いのかなと思います。 |
| 敷田座長 | 福田さんしか頼りにする人がいないと、福田さんに何か起きた時盛り上がった話が流れてしまう。後継者育成を考えたほうがよいのでは？ |
| 敷田座長 | 専業ではなく、仕事をお持ちの方にでも、お手伝いしてもらうことを考えていかないと。全て福田さんにかかるということになって何かあったときに、せっかくここまでやってきたのにもったいない。福田さんがいなくなることを前提に考えているわけではないですが、二重三重に考えていかなければいけないと思います。 |
| 敷田座長 | 環境省で担当できる方はいらっしゃいませんか？ |
| 環境省 | なかなか、そう簡単にはいかないですね。 |
| 敷田座長 | 来年以降の配慮をお願いしたい。引き継いでいく人を常に作っていかないと。ここまで皆さんがやっているのに突然切れたりしたら、がっかりすることが大きいと思います。そういうリスクの管理も必要かと思います。 |
| | 2-2.利用者動向調査（アンケート調査） |
| 環境省 | ・～実施計画の説明　※パワーポイント |
| 小型船 | 大型船はどう配っているのですか？全員には配れないと思うので、希望者だけとかですか？ |
| 大型船 | 基本的に降りてくるお客さんに手渡しで渡します。 |
| 小型船 | 数の制約上、もらえるお客さんともらえないお客さんが出てきます。「あの人だけもらって私はもらっていない」ということになります。 |
| 事務局 | 取ってくれない人も勿論いらしゃいますが、配布する便の利用者には、すべて配布を行っています。欲しいのに渡せない、というようなことは無いようにしています。 |
| 福田委員 | 「環境省からのお願い」と放送してもらうと関心を持って取ってくれる。アンケートとしての必要な配布数はあると思いますが、それ以外にもケイマフリの普及という意味で効果が大きかった。オーロラで放送してもらうと展示されているポスター・デコイへの関心度が全然違います。 |
| 敷田座長 | 出来上がった調査結果を何らかの形で広く公開出きないでしょうか？HP上に載せるにしても数字だけを並べるのではなく、もっと加工してですね。ヒグマの情報を得たくてHPに来た人にもケイマフリも見てもらえればと思います。HPの価値も上がるでしょう。 |
| | 2-3.海域状況（海鳥）観察の実施 |
| 環境省 | ・～実施依頼および観察技術支援（洋上説明会、意見交換会等）の実施計画　※パワーポイント |
| 敷田座長 | 観察記録と観察支援という意味の説明会・観察会のようなものですが大型船・小型船ともということなのでぜひ小型船の皆様にもご協力頂きたいと思います。 |
| 小型船 | 観察会というのは福田さんの出前講座のようなものでしょうか？ |
| 環境省 | はい。 |
| 小型船 | 海域観察記録については船長と乗組員2人だけなのでお客さんの管理もあって厳しい。できる限り協力したいと思うが。 |
| 敷田座長 | それは調査が目的なのですか？それとも解説の伝授が目的ですか？ |
| 環境省 | ケイマフリがどこにいたかの情報が集められれば分布の基礎情報になると思います。ケイマフリを意識して運航してくれるので観光船利用者・ケイマフリ、双方のためになるはずです。 |
| 敷田座長 | 小型船としては説明の仕方などを聞きたいなどの希望はあるのですか？ |

| | |
|---|---|
| 小型船 | ガイドが話すネタにはまだ引き出しがあると思います。説明会で話が聞ける機会が増えるのはとてもいいことだと思います。 |
| 敷田座長 | 説明会などで関心を持ってもらってから、ケイマフリの観察などをやるのが自然だと思いますが、いずれにしてもハイシーズンは無理なので、シーズン以外にそういう機会を作ってもらうのはどうでしょうか？ |
| 中川委員 | 観光のハイシーズンとケイマフリの繁殖シーズンとの関係もあると思うのですが、ケイマフリ以外の海鳥でもできると思うんです。例えばカモメはみなカモメと一括りになってしまうのですが、例えばミツユビカモメは日本では冬鳥となっていますけれど知床では夏の海にやって来ます。そのほかユリカモメが9月になると渡って来るのですが、東京の人は東京都の鳥に指定されていますので東京の鳥だと思ってる人が多いんです。この鳥が知床に居るという事を説明するとビックリします。カモメの見分け方って難しい所もあるんですけれども、そういったことも覚えていただくと、ケイマフリの繁殖期以外でも、どこにどのシーズンにどんなカモメが居るという事がわかってくると、随分観察対象の幅が広がっていくと思うんですよね。 |
| 小型船 | 中川先生にも是非”出前講座”をやって欲しいですね。（笑） |
| 敷田座長 | 中川、福田組でお邪魔するという事でどうでしょうか？御二方是非。バラエティも広がるしケイマフリにあまり興味のない人にもいいのではないかと思いますね。 |
| 福田委員 | 凄くいいと思います。 |
| 小型船 | お客さんにオオセグロカモメとかウミネコを説明した後に、ここにはケイマフリという海鳥が居ますということを説明するとテンションが違うんですよ。最初からケイマフリだけだったら、そこまでテンションは上がらないですね。そのあとオジロワシの説明をするとテンションは一番上がるんですけれどね。海鳥の中ではこの2種類がかなり観光船的には面白いですね。 |
| 中川委員 | 知床にはたくさんの海鳥がいて、その中に絶滅危惧種のケイマフリという鳥が居る。。季節によっても見る事が出来る種類が変ってくる、その多様性みたいなものを解ってもらうというのが、一番魅力を伝えられるかもしれませんね。 |
| 小型船 | そうですね。一つの種類だけというよりも、お客さんには海鳥を全体的に説明してあげた方が面白いと思いますね。 |
| | 2-4.広報用コンテンツの作成 |
| 事務局 | ・ホームページの公開について※HP印刷資料 |
| 敷田座長 | コンテンツの「保護の取り組み」のところは「地域での取り組み」に変えたほうがいいですね。実際に取り組んでいる地域の皆さんを紹介してもらえればと思います。 |
| 事務局 | メッセージコーナーがあって関係者の皆さんの声、昔のウトロの様子など、写真と共にメッセージとして関係者の声を紹介させていただきたい。 |
| 環境省 | ・動画コンテンツ制作について<br>・広報用素材（映像・写真等）についての提供のお願いについて |
| 敷田座長 | 動画コンテンツの作成ですが、皆さんに登場してもらいたいと思います。生の声は迫力があるので取材をぜひ受けて頂ければと思います。 |
| 敷田座長 | 私見として環境省が作ったとわかるタイトルなのでそれはやめてもらいたい。Youtubeに上げるのであれば、もっと柔らかいタイトルがいいと思います。中身は真面目でいいですが検索に引っ掛かりやすいものを是非。若い方のアイディアをお願いしたい。 |
| | 2-5.その他 |
| 環境省 | ・ケイマフリデコイを使用した広報PRについて<br>・海鳥出前講座について |
| 3.その他 | |
| 小城委員 | 最近出た「オホーツク生態系保全日露協力シンポジウム報告書」には、たくさんネタが詰まっている。今日の話では海鳥のことは話したが海の素晴らしさが伝わってこない。オホーツク海は世界でもまれに見る魚類生産型の海域です。オホーツクとアラスカのベニザケの違い、オホーツクと太平洋のサンマの違い、カラフトマスの卵の美味しさなど面白い話もあります。こういう話を報告書から抜きだして出前講座でやれば大変よいと思います。 |
| 敷田座長 | 小城先生の話が一番わかりやすくて面白いのでインタビューを3分間3本立てくらいで作れませんか？またそれが参考になって他の人も話しやすくなるのでは。 |
| 観光船 | 今年からガイドを始めたばかりの者ですがおすすめの本などはありますか？鳥のことは全く知らないので提示してもらえると助かります。 |
| 観光船 | 絵で見るより飛んでいる動画を準備してもらえると助かるのですが。 |
| 観光船 | この前一度博物館に行きました。詳しいことまでわらなかったですが、皆さんがオジロワシでは無く、なぜケイマフリをアピールしているのか今回非常に勉強になりました。 |
| 敷田座長 | こうしてみるとまだまだ意見交換ができそうですね。これが終わった後も引き続き会があると思いますのでよろしくお願いします。みなさんご協力ありがとうございました。 |
| | 閉会 |
| 環境省 | 今日の議事は全て終わりました。今年は3ヵ年事業のまとめの年です。今年中にできることをたくさんやっていきたいと思っておりますので、ご提案して頂いた内容で一緒にできることを協力して頂ければと思っておりますので今後ともよろしくお願いします。今日はどうもありがとうございました。 |

資料２－２．平成 24 年 10 月 23 日　第 2 回　部会

| 発言者 | 発言内容 |
|---|---|
| | **開会･挨拶** |
| 環境省 | 本日は大変お忙しい所、ウトロ海域部会にご出席頂きましてどうもありがとうございます。今年度はこれまでの活動に加えまして、デコイを使った海鳥繁殖地における航路への配慮や動画を作成してそれを活用して頂いたり、ホテルや旅館にデコイの配備･PRを行ってきたところでございます。この部会は前身の協議会を含め3ヵ年の事業でやっており、今年が最終年ということでございます。本日は今年度皆様方と行ってきた活動も含めて3ヵ年間の計画として進めてきた本事業の総括を行いたいと思っております。そして今後地域の活動として、皆さんと協力して活動を続けていく仕組みづくりについて御討議を頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。活発なご議論を頂きたくお願い申し上げまして、開会のご挨拶にさせて頂きたいと思います。 |
| | **議題** |
| | 本日の議題について説明　（環境省）<br><br>1.今年度の事業実施報告<br>1) 海鳥生息状況調査結果報告<br>2) 利用動向調査中間報告<br>3) 海域状況観察記録実施報告<br>4) ケイマフリデコイ活用事業報告<br>5) 動画コンテンツの作成<br><br>2.事業3年間の振り返り<br>1) 取組実施状況　評価及び今後の課題<br>2) 課題整理および次年度以降の実施体制について<br><br>3.その他　　意見交換 |
| 敷田座長 | 皆様お忙しい中お集まり頂きましてありがとうございます。本日の海域部会では今年の事業結果についてのお話と3年間のレビューの両方が入っています。これに先立って先日行われた「適正利用･エコツーリズム検討会議」でも新しいエコツーリズム戦略のもとで色々な提案が行われることになっていて、実際の試行段階に入っています。中でも実際に事業として進んでいるこの検討会は、いいモデルになると考えています。ここまでの成果を来年度以降も続けて残していきたいと思いますので、この点に関してもご意見やご参加の意思を見せて頂きたいと思います。どうぞよろしくお願いします。 |
| **1.今年度の事業実施報告** | |
| | **1-1.海鳥生息状況調査結果報告** |
| 福田委員 | ○調査結果概要報告　要旨　（※資料）<br><br>･今年のケイマフリの確認数は最大で140羽だった。これまでの生息数にほぼ回復したと思われる。営巣数は40巣を確認した。最も多かったのはプユニ岬で20巣、次に五湖の断崖の下で6巣、デコイの設置個所付近のトークシモイでは1巣のみだった。食性調査の結果は、88%がイカナゴでそれ以外はギンポ･カジカ･スケソウダラであった。<br>･他の海鳥については全体的に数が少なかった。ハシボソミズナギドリ、ミツユビカモメの数も少なかった。<br>･海洋ほ乳類に関しては、6～9月にかけてイシイルカは見られたもののその後見ることがなくなった。<br>･海鳥とイシイルカの数が少ない原因としては海水温の高さが考えられる。主な餌となるイカナゴは低水温でしか生きられず、海水温と海鳥の個体数は関連があると思われる。 |
| ｼｰｶﾔｯｸ | 午前中はたくさん見られるケイマフリも午後になると見れなくなることが多々あるが、どこに行ってるのか解りませんか？ |
| 福田委員 | 詳細はわからないが、おそらく岬方面やルシャ方向に分散しているものと思います。また夕方になると港周辺によく集まって採餌しているのが見れますね。 |
| 小城委員 | ケイマフリの個体数が増えてきたことは嬉しい事。観光船の方々の努力によるものでしょうね。 |
| 福田委員 | ケイマフリが調査をはじめた2000年頃のように崖の低い位置でも繁殖をするようになってきている。観光船の方々が協力して頂いたことで、だんだん元の位置に戻ってきている傾向が見られます。鳥たちもすごく助かっていると思いますね。 |
| 敷田座長 | 観光船事業者の皆さんは実感ありますか？ |
| 小型船 | あまり実感は無いが、気を付けるようにしているので結果に表れているのであれば良かったと思う。 |
| 敷田座長 | 今まで情報交換出来る場がなかったが、今は協力して自主的にやって頂いている。今後も是非続けて欲しいですね。 |
| 中川委員 | ケイマフリのカウント調査の範囲はどこからどこまでなのですか？ |
| 福田委員 | 毎年同じですがウトロ港から五湖の断崖、そしてエエイシレド岬周辺までです。 |

| | |
|---|---|
| 中川委員 | 先ほど分散してると仰ったルシャのあたりはどうですか？カウント出来てないですか？ |
| 福田委員 | カウント出来てないですね。おーろら号からも遠く見えません。以前はルシャまで行けた時にはケイマフリが結構いるのが観察できましたけれど。 |
| 中川委員 | 午後に分散しているというのは採餌行動でしょうか？ |
| 福田委員 | 採餌行動をしているのが多かったですね。午後からウトロ港に集まってくるのも主に採餌です。しかし日周行動は全体としてあまりわかっていないですし、繁殖についても全部で140羽中どれだけの数が繁殖に参加しているのかというところもまだ解らないです。解らない事の方が多いですね。 |
| 敷田座長 | ケイマフリが日中のお昼頃にたくさん見られるというような事は、観光船にとって有益なデータとして、それを意識して運航パターンを変えたりというのは考えられるますか？ |
| 小型船 | あまり関係ないですね。我々は朝から夕方まで定期的に出していますから。 |
| 敷田座長 | そういう情報というのはお店単位で提供してらっしゃいますか？神尾さんいかがですか？ |
| 小型船 | 今後そういう事も可能ではありますが・・・。 |
| 小型船 | そもそもケイマフリを知っているお客さんはまだ少ないですからね。 |
| 敷田座長 | 今後に期待というところですね。 |
| 環境省 | 聞き取りをした時に岬航路にケイマフリがいたというお話がありましたよね。岡部さんでしたね？ |
| 小型船 | カシュニの滝の沖に、たまに見たりはしましたね。 |
| 環境省 | 向こうの方で営巣している可能性はありますか？ |
| 福田委員 | 今までも見ていますが繁殖はしていませんね。 |
| 環境省 | 繁殖していない理由について何かありますか？ |
| 福田委員 | それは断崖の地形地質的な差でしょうね。 |
| 中川委員 | ケイマフリの営巣している辺りは第四紀溶岩の断崖で、それより先の方は第三紀で地質的に古いんですね。そういうところではケイマフリは繁殖しないんですね。 |
| 福田委員 | あの断崖の地形地質でなければ駄目なんですね。その特定の岩（地層）と魚が豊富にいるという条件が、知床半島のほんの一部分のウトロ周辺にのみ存在していて、ケイマフリの繁殖が成り立っているという事なんです。 |
| 敷田座長 | そういう説明内容が伝わるといいですね。すごい偶然の場所でしか生息できないものがいるんだというお話が出来ればいいと思います。 |
| 中川委員 | 観光船の皆さんもいつもご覧になって解っていると思いますけれども、カムイワッカの辺りから全然地形が変わりますよね。断崖絶壁が海まで落ちている地形が続きますけれども、そこから先に行きますと全然地質の年代が違う。ウトロから手前の方がずっと新しい。そういうことと海鳥の生息と合わせて説明してもらえると面白いと思います。 |
| 環境省 | 今年の福田さんの調査やオーロラ号の調査の中でイルカの観察というのがあって、ある時期からなかなか見られなくなったとか、小型観光船の方からも今年からデータを取り始めたというお話も聞いて、情報が集まってきたらしいですね。 |
| 敷田座長 | イルカ・クジラ類というのはお客さんに対してアピールできる観光資源になりえますか？ |
| 小型船 | 目撃率も上がってきているので観光資源になると思います。陸と海の動物両方が見られるというのは、かなり魅力的だろうと思います。 |
| | 1-2.利用動向調査中間報告 |
| | 1-3.海域状況観察記録実施報告 |
| | 1-4.ケイマフリデコイ活用事業報告 |
| | 1-5.動画コンテンツの作成 |

| | |
|---|---|
| 環境省 | 説明（※パワーポイント資料・資料1～3）<br><br>1-2.利用動向調査中間報告<br>・アンケートの配布総数が昨年多かったため今年は半数にした。回収率大型船約30%、小型船・シーカヤック20～25%で予想にほぼ即しており、十分な傾向比較が出来ると思われる（詳細は資料1）<br><br>1-3.海域状況観察記録実施報告<br>・観察記録データの活用例（GISによるケイマフリ記録メッシュ解析）<br><br>1-4.ケイマフリデコイ活用事業報告<br>・ウトロ地区の宿泊業者へケイマフリデコイ及びパンフレットの貸し出し、展示協力を頂き地域の取り組みをPR<br><br>1-5.動画コンテンツの作成<br>・ケイマフリ動画7タイトル（デモ版）を作成 |
| 寺崎委員 | この短い期間でここにいるメンバーが現場に行ってデータを取られたり、あるいは宿泊事業者に興味を示して頂いたり、Youtubeで漁協さんも協力されているという話が出ていましたが、こういったことは割と難しい。日本中であまり例が無いことが短期間で出来たというのは率直に喜びたいですね。 |
| 敷田座長 | GISのデータは皆さんが丹念にとって頂いたので、色々な方が見ても実感出来るような形に変換されている。船内でもう一度お客さんに紹介出来ないでしょうか？見栄えも良いし解りやすくて良いと思います。 |
| 大型船 | 現在も船内放送でビデオを流してますから、合間に動画を流してお客さんに見て頂くということは可能だと思います。 |
| 小型船 | 可能だと思います。ただ内容が幅広いのでそれを全部理解できるのかというところが気になりますので、福田さんのご協力も必要かと思います。もうちょっと鳥に関する知識や、どの辺りが一番見られているかなど、資料的なものも配布出来ると良いと思います。 |
| 福田委員 | とても良い意見だと思います。考えてみたいですね。 |
| 敷田座長 | 小型船のメールでの予約の割合というのはどのくらいありますか？ |
| 小型船 | 6割くらいですね。 |
| 敷田座長 | インターネットを見て選んで来る利用者にはYoutubeの動画を案内することができますね。事前に動画を見た場合の楽しみ具合は恐らく上がると思うので、そういう工夫を来年度以降連携して実施して頂ければと思います。 |
| 寺崎委員 | ケイマフリの生態自体を勉強してもらっても興味は上がると思うが、海鳥を守るためにこれだけの人間が一生懸命やっていて、価値のあるものだということが伝わるとまた違う意味ですごいものに自分が会えたんだなということで喜びも大きくなる気がする。単に対象を見るだけではなくて背景にある物語まで一緒に見せられると対象生物の価値というのは上がるでしょう。 |
| 敷田座長 | おーろら号の場合にもアンケートのコメント欄の記入でそういった情報が欲しいというのがいくつかあるのですが、そういった声にも応えていけると思うのですがいかがですか？ |
| 大型船 | 大型船だとクマでさえ小さくしか見えないので、動物観察を推していけない辛いところもあります。 |
| 敷田座長 | 双眼鏡の話ですとかコメントにもありますが、もう一つはその物語というかストーリーを説明されればお客さんの反応は随分違うと思います。 |
| 福田委員 | 大型船だから見えないという意見がありますが、実は全然そんなことはなくてよく見えます。目線も高いですし速度もそう速くはないのでケイマフリも他の海鳥もイルカも見ることが出来ます。また揺れも少ないですし比較的暖かく寒い思いせずに見る事ができます。 |
| 環境省 | 以前私がいた小笠原にも鳥のツアーというのがあるのですが大きい船を使っていますから、双眼鏡や望遠鏡を使って見るには船が安定していて楽なのです。大きい船にも小型船にはないメリットがあると思います。 |
| 敷田座長 | おそらく小型船のほうが情報提供が進んでいると思いますので、大型船でもお客さんとのやりとりがもっとあると良いのではないでしょうか？小型船の場合は風や雨に当たったりしますが大型船のほうは室内環境もいいし余裕がありますので、楽しんでもらえる素材があれば関心が低くてもゆったり楽しめる有利な展開もできると思います。 |
| 環境省 | 今回、根室のクルージング資料を用意してきましたのでご紹介したいと思います。（※資料） |
| 福田委員 | 根室市ではバードウォッチングの街にしたいということで観光協会が力を入れています。毎年1回バードフェスティバルを開催して世界の色々な所から人がやってきてバードウォッチングを楽しんでいます。、ここではエトピリカを資源だと考えています。上手い連携プランを考えることができれば「この季節は羅臼側は面白いよ」、「今はウトロ側がいいよ」というふうに、お互いに相乗効果があって海鳥を見たいという人が増えて、そういう方々が集まって経済効果も期待できるのではと思います。 |

| | |
|---|---|
| 福田委員 | ゴジラ岩さんなんか両方（ウトロ・羅臼）で船を動かしていますよね。今は羅臼側がすごく良いとか解りますよね。 |
| 福田委員 | 海鳥観察ネットワークのような形で、道東に行って羅臼、落石、ウトロと回ったりすることが出来たらいいと思いますね。海は太平洋側が時化ている時はとオホーツク側では凪ぎだったりしますので観察場所の選択も出来ます。うまく地域連携できればお互い良いのではないでしょうか？ |
| 敷田座長 | 菅原会長、こういう話を福田さんと事務局の方でして頂いて、連携して紹介するような事をぜひ検討していただきたいと思います。またこれは、おーろら号さんの利益にもなり全体の利益にもなると思いますので、ご検討をお願いします。福田さんもよろしくお願いします。 |
| 敷田座長 | 動画（Youtube）については完成版が出来たらコンテンツの提供は可能なので是非活用をお願いしたいと思います。 |
| 2.事業3年間の振り返り<br>※3.その他　（意見交換） | |
| | 2-1.取組実施状況　評価および今後の課題 |
| 環境省 | 説明（※パワーポイント資料）<br><br>・自然観光資源の価値の向上<br>・利用機会の拡大<br>・各種海域利用者間の調整<br>・広報普及啓発 |
| 敷田座長 | それぞれの皆さんも3年関わっていらっしゃいますし成果が順次上がっているので、具体的なご感想を頂けると思いますので順番に行きたいと思います。まずデコイの設置に関してはウトロ漁協の山本さんに組合として一番お手伝い頂きましたが、いかがでしたでしょうか？ |
| ウトロ漁協 | 私どもの立場としては出来る範囲で協力出来ることは協力する、というところだけです。例えばデコイをどこにでも設置されてしまうと、網が建てられないということになって漁民から意見が出ます。そうでない場合であれば協力できる範囲においてはしたいと思っています。 |
| 福田委員 | 今回デコイ設置だけではなく、北大の桜井先生と水中ロボットによるイカナゴの生息状況の調査でも船を出して頂きました。非常に感謝しております。いい映像が撮れました。ありがとうございます。 |
| ウトロ漁協 | 空いている時は依頼して頂いて結構です。お金を払えとか、そういうことは言いませんので。 |
| 小型船 | デコイはもう少し先の知床五湖の手前あたりに設置してもらえれば説明しやすいと思うのですが。 |
| 福田委員 | デコイの存在は取り組みのアピール性としてはすごくいいと思います。「こういう鳥がこの近くにいますよ」と説明したり、「この辺にたくさん営巣しているからここからは減速してください」という目印としてケイマフリのデコイを置いてみたらいいのではないか？こうして小さな海鳥を保護しているということ、世界遺産を皆でこれからも守っていこうとする姿勢がこの地域にはあるということをアピールできると思います。そのようなアピールを目的とする2倍くらいの大きさのデコイもあって良いかもしれません。 |
| 中川委員 | 大きなものを置くのは反対ですね。PR目的で、こういう保護活動を観光客の方にもお話をしたり、ホテル（街中）に置くのだったらいいかもしれないけれど、生息地には保護を目的とした本来のデコイ以外の物を置くべきではないと思います。 |
| 敷田座長 | 先程大型船では小さいから見えないというお話があったように、本当の繁殖地ではちゃんとしたデコイがあっていいのだけれど、全く関係のない所に模型があって、それを説明用に位置付けるというのは選択の余地があるのかなと思う。 |
| 中川委員 | 私も街中ならそういう物もいいと思いますが、実際の繁殖地の海ではやめた方がいいです。 |
| 福田委員 | ケイマフリの模様の旗でもいいと思いますね。ケイマフリの保護に役立つアピール性のある物があればいいと思うんです。そういうことを皆でアイディアを出して出来ればいいですね。 |
| 寺崎委員 | ケイマフリ自体が好きで見たいという人は限られるのだけれども、その裏にあるプロジェクト全体が価値を作るという点を上手く伝えられたらいいですね。 |
| 敷田座長 | やはりストーリーの部分を伝えるきっかけが必要だと思うので、先ほどの動画（Youtube）素材などを是非きっかけとして利用して頂ければと思います。 |
| 小城委員 | ケイマフリがこういう状況にあるので、水族館などで多くの人に見てもらえれば本物を見たいという人もここに来るんじゃないかと思うんですよね。そういう事も人々に啓蒙する価値はあると思いますが。最終的な報告書にそういった文章を付け加えられませんか？ |
| 敷田座長 | そのアイディアは私もいいと思うのですが、この事業をかなり超える可能性がありますので環境省の判断ですね。 |

| | |
|---|---|
| 環境省 | この事業としてそこまでは行けません。 |
| 小城委員 | 先程のYoutubeの動画の中でケイマフリが水中を泳いでいるシーンが無いので是非その姿をみたいと思いますが、やはりそれは飼育下のものを撮るしかないでしょうか？ |
| 小城委員 | 私はウトウを3年飼ったことがありますし、ケイマフリも生態観察で巣から雛を取り出して調べていたこともありますけれど、鳥の方もいじくられているうちに結構人間に慣れるんですね。元来沿岸性の鳥というのは飼育するのに非常に難しいものですけれども。ケイマフリの飼育について委員の1人の意見としてご記録願いたいと思います。 |
| 敷田座長 | 次にアンケート調査ですが、寺崎先生ぜひ今後に向けてアドバイスなどをお願いします。 |
| 寺崎委員 | 今回規模を小さくしても前回と変わらない結果となっていると思う。そのことが重要だと思う。アンケートの内容がちょっとプロモーション的なことが中心だったが、生態的な面でのモニタリングというのも非常に強調されてきた。利用のモニタリングも含めて持続的な保全と利用につながると思う。アンケートの内容・規模も含めて利用者の意識・感想もずっと聞いていくことが持続的な保護活動にも繋がると思う。 |
| 寺崎委員 | 十分あると思います。ただコストが掛かりますからそれを上手く、皆さんでその辺りのバランスを取りながら実施する必要がありますね。 |
| 敷田座長 | 何年も続けるのであれば、そんなに管理コストもかからないので、考えて頂けたらと思う。毎年やらなくても2年に1度という手もあるだろうし。特に私が非常にいいなと思っているのがこのコメント欄の内容で、個々の事業者でアンケートを実施するとなかなか書きにくかったりすると思うが、こういう形でやっていくと(確かにひどいことを書かれるケースももちろんある反面)、ここを直した方がいいというのも幾つか拾えるので、皆さんにもお考え頂ければと思います。 |
| | 2-2.課題整理および次年度以降の実施体制について |
| 環境省 | 説明（※パワーポイント資料・資料4）<br><br>1. 3ヵ年事業の総括<br><br>2. 平成25年度の重点事項<br>1）ケイマフリデコイを活用した航路設定<br>2）観光船からの海鳥等観察記録<br>3）ケイマフリPR活動<br><br>3. 平成25年度のウトロ海域部会の体制 |
| 敷田座長 | 大きく分けて事業とそれを進めていく体制ということだが、体制というのは簡単に言うとこういう場を意味した方がいいのではないかと。この場で意見交換をやって顔見知りになった結果色々な事業を進めることが出来た。事業については環境省予算が来年度以降はなくなるので、どれを残してどれをやるのかということは選択をしなければいけない。いずれにしても25年度は移行期間ということでまだ多少の時間もありますが、今後はお金が十分ではなくなるのでここら辺も含めて議論をしたいと思います。皆さんがこういう風に集まっている場というのは全国的にも珍しいし、表彰モノの活動だと思う。そういうことも含めて是非皆さんの色々な意見・成果を出して頂きたい。 |
| 福田委員 | 海鳥調査を15年くらいやっていますが、調査結果はまだ活用して頂けていないという思いがあります。やっと最近、少しずつデコイの置く場所を調査に基づいてやってきて成果が出つつあると思いますが、毎年調査をやりながら結果をすぐにお客さんへ情報提供として常に活かしていけるような体制を作るのが大事だろうと思います。 |
| 敷田座長 | 小型船協議会の方でこういう会議を、地元関係者の人はお金もかからないと思いますので、今後前向きにお考え頂けないでしょうか？ |
| 小型船 | それは全然問題ないです。持続していくことですよね。 |
| 敷田座長 | 事務局がしっかりしている小型船協議会がある程度やって頂ければ何とかなると思いますのでいかかでしょうか？また斜里町の岡田さん、具体的な成果が上がっていますけれど町が、これからは環境省に代わって予算要求しませんか？（笑）いいタイミングだと思いますよ。 |
| 斜里町（岡田） | 今回は環境省が全面的にバックアップ頂いて資源の保護と活用の両立を民間の方々も含めて目指すと言う枠組みが出来てきたところだと思います。今後規模はどうあれ、どうやって繋いでいくかということだと思う。まずはその方向に向けて調整していくことが重要でしょう。 |
| 敷田座長 | 全部を続けていくというの難しいかもしれませんが、海鳥の観察などはデータが抜けるとどうしようもなくなることもあります。町には知床財団もお持ちですので、色々な可能性があると思います。資源を利用すればするほど環境保全が出来てしまうという『新しい形の環境保全』の仕組みですので、すごく町としての説明も出来ると思います。知床財団みたいなところがお金を使っても悪くはない仕事だと思いますのでお考え頂けないでしょうか？ |
| 福田委員 | 例えばこういうことに関して、企業が協賛してバックアップしてくれる体制とか考えられないでしょうかね？ |

| | |
|---|---|
| 敷田座長 | 町でそういう仲介を出来たりというのはないですか？ |
| 斜里町（岡田） | 知床財団では独自の調査研究事業というのを、賛助会費や企業寄付などの財源を使ってある程度自由に項目を組めますので、タイアップできる部分もあるかもしれないですね。主には調査部分なのかと思いますけども。福田さんの調査でも過去に知床財団の事業としてやられていた経緯や実績もありますので。 |
| 敷田座長 | 知床財団のチラシや冊子などを見ていて、デザイン性の良さやコンテンツの充実を感じます。そういう点から見るとケイマフリの事例というのは非常にスマートだし優れていてセンスがいいので、知床財団として取り上げることのメリットはあると思われる。一度そういう視点からお話して頂ければ、知床財団の新しいPR素材となっていくものと思う。 |
| 環境省 | 事業者さんの聞き取りをさせていただくと、調査に関していえば現在おーろら号から調査をしているが、他の事業者からも協力を頂いているという話を伺っている。そういう地域の方々が協力しているところを知床財団さんの所で広報するなど、実は皆さんそれぞれが持っているツールを合わせて連携すれば地域の取り組みは実現出来るのではないか。そう感じました。 |
| 環境省 | 持ち寄り方式とよく言われますが、持ち寄りパーティーと同じように持っているものをそれぞれ出していくとお金をあまりかけずに色々なことが出来る。環境省も今後予算の継続というものが難しいが、来年度も何とか工面しようと思ってはいるが金額的には小さくならざるを得ない。しかしそういうことを考えていきながら少しずつ良くしていけたらと思います。 |
| 敷田座長 | 一番重要なのは、事業が終わってからも担当者の関心が薄れるのを防ぎ、是非続けて頂ければと思います。 |
| 中川委員 | この3年間で非常に成果があったと思うのですが、平成25年度からどう受け継ぐかが重要です。ケイマフリの生息状況を維持、あるいはもっと回復するのか？また元に戻らないように、そういうモニタリングは非常に重要だと思います。 |
| 敷田座長 | 来年度が勝負になると思います。こういう場の維持は地元関係者の熱心な努力がなければ長続き出来ません。是非小型船協議会も積極的に関わって頂ければと思います。 |
| 小型船 | はい、頑張ります。 |
| ｼｰｶﾔｯｸ | 来年25年度以降の事務局なのですけれども、菅原さんの所でやるということになるのでしょうか？ |
| 小型船 | いやいや、まだそういう事に決まったわけではないでしょう。 |
| 福田委員 | 今回の事業では、運営業務でユニオンデーターシステムさんの努力による部分も大きいので、飛び立った飛行機の平衡飛行させてもらう役割も必要だと思う。 |
| 環境省 | 先ほども申しあげたように、来年度はこれまでのような予算は確保できません。25年については経過期間としてお金を何とか工面して部会を続けていきますけれど、同時にこの協議会形式でやっていくための準備会をやりたいと考えています。その中でどういう体制でやっていくか、そういった議論をして頂くことになるのではないかと思います。 |
| ｼｰｶﾔｯｸ | ただそれを議論するのでも聞き役、世話役的な所が必要になってくるので、それは環境省さんにやってもらえるということでしょうか？ |
| 環境省 | 事業がどういう作り方になるかはわからないが、聞き手的な役割は担えると思います。 |
| ｼｰｶﾔｯｸ | その確認をさせていただければと思います。 |
| 敷田座長 | 来年はひとまず大丈夫だと思いますし、来年以降も関心を失われるということはないでしょう。優秀事業なのでご安心ください。ただ一方でコストを抑えて末永くやっていくための工夫というのが必要ですので、来年1年間かけて皆さんのお知恵を是非よろしくお願いします。では以上をもって海域部会を終了したいと思います。事務局にお返しいたします。 |
| 環境省 | 進行どうもありがとうございました。来年度も部会継続しながら徐々に移行出来るようにやっていきたいと思います。事務局の仕事も少し皆さんにお渡ししたいと思っています。よろしくお願いします。 |
| | **閉会** |
| 環境省 | 長時間のご討議どうもありがとうございました。それから3年間に渡るご討議を頂いたということで改めて御礼を申し上げます。テイクオフするためにはもう少し時間がかかると思いますので、予算の工面しながらご協力をしたいと思っています。テイクオフと申しましたけれど、あくまで地元の活動として根付いていくということで、お金がかかる部分については今までやってきたものを使っていきながら財布を小さくしてやっていけばいいと思いますし、先程言ったように持ち寄りをして頂くことになると思います。それは大きな負担ではなくて自分の出来ることをやって頂くことで、お金がない所でも仕事は出来ると思いますので、是非お願いします。皆様方のご尽力をさらに来年度も頑張って一緒にお仕事を続けさせて頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。 |

資料２－３．平成 25 年　3 月　1 日　第 1 回　企画会合

| 発言者 | 発言内容 |
|---|---|
| | 開会･挨拶 |
| 環境省 | 来年度（平成25年度）はウトロ海域部会を縮小しながら、実行体制を連絡会合に移行していくという年になります。その形を決める上で、皆さんと意見交換し来年度に向けた準備に繋げて行けたらと考えております。 |
| | 議事次第 |
| | 1．4年間の活動（特に協働で実施した3年間の活動）の総括<br><br>2．ウトロ海域部会/ウトロ海域連絡会議準備会における実施事項について<br>1）平成25年度の事業の連絡調整･実施を行う<br>2）平成26年度以降の体制の検討を行う<br><br>3．平成25年度事業の実行メニュー案について<br>1）ケイマフリデコイの設置･撤去（トークシモイ湾）<br>2）観光船「オーロラ」「オーロラ2」によるケイマフリセンサス<br>3）ケイマフリ営巣状況調査<br>4）観光船事業所、ホテル･旅館等への解説グッズの配布<br><br>4．平成26年度以降の体制づくりに向けた検討事項･方法について<br>1）連絡会議設置規約の策定<br>2）「知床スタイル」の整理<br><br>5．平成25年度事業の実行メニューの具体的実施法について<br>1）平成25年度の海上デコイの活用<br>2）平成25年度の観光船ケイマフリセンサス<br><br>6．その他 |
| 環境省 | 総括はすでに前回の部会にて終わっておりますので、来年度の進め方を中心に議論したいと思います。まず2．では25年度のウトロ海域部会と連絡会議の準備会が何の役割を持つかというと、事業の実行の調整機能と26年度の体制検討を行うということになります。これについては皆さん異論は無いと思います。3．で平成25年度の実行メニュー案の話をして、4．で実行体制をどうするかの議論をします。5．では事業の実行メニューの具体的実施法について、それから6．ではこのような取り組みを羅臼側にも拡張出来るのかということについて、今日は話を進めていきたいと思います。 |
| | 1．4年間の活動（特に協働で実施した3年間の活動）の総括 |
| | 資料1にて確認。 |
| | 2．ウトロ海域部会/ウトロ海域連絡会議準備会における実施事項について |
| | 第2回ウトロ海域部会での合意事項であることを確認。 |
| | 3．平成25年度事業の実行メニュー案について |
| 環境省 | 25年度は環境省からの予算がないことを前提に考えて頂ければと思います。現在の実行･参加団体で着実に継続実行出来るものを25年度に組み込みたいと思います。案としていくつか上げていますが、ケイマフリのデコイの設置については役割分担が比較的し易いということなので、これは実行しようと思います。それから一昨年･去年と行っていたケイマフリセンサス（「おーろら号」）も続けていけたらと思っております。<br>調査経費の関係等もあるのですけれど、やっていかなければならないものとして、効果を評価するためのケイマフリ営巣の状況調査が必要となるでしょう。 |
| 福田委員 | ケイマフリの営巣状況を調査するためには、センサス調査でケイマフリの状況を見ながらでないと難しいと思います。営巣調査単独では難しいんです。センサスと営巣状況はセットですね。 |
| 環境省 | なるほど。そのほか、観光船事業（ホテル･旅館等）に解説グッズを配布する。これは去年一昨年にケイマフリのデコイを渡していたのですけれども、今年うちの職員が旅館さんに聞き取りをして「設置してどうでしたか？お客さんの反応はいかがでしたか？」と話をしたのですが、「ケイマフリのことを紹介したいのだけどよく知らないんだよ。ネタを下さいよ。」という話があったので、うちのアクティブレンジャーとも調整をして、紹介できるグッズを配ることも来年度やりたいなと思っています。その中身に関連もするんですが、ケイマフリの営巣調査ですが、調査はどのように行っているのですか？ |
| 福田委員 | 例えば多く繁殖しているところでは船を停泊して観察していますね。センサスの途中にでも、新たに巣に出入りしているのを見つけたら、それもチェックするという形とっています。センサスをしながら、ある程度あたりを付ける、という感じでやっています。 |
| 環境省 | 巣への出入りとなると5月から7月ぐらいでしょうか？ |

| | |
|---|---|
| 福田委員 | 6月から7月くらいですね。 |
| 環境省 | 船の調査は去年の場合5月7日から8月14日までの23回で、1週間に2回くらいの頻度で海に出て数を数えている間に巣の中に入っていくものを見て記録する、という調査内容になるのでしょうか。 |
| 福田委員 | そうですね。いくら観察していても出入りしない時もあれば、出入りするというのが解る時もあるんですよね。そういう時は巣の出入りを見張るということもやります。 |
| 環境省 | 他の海鳥、ウミウ・ウミネコ・オオセグロカモメとかではパッと見て、すぐ巣の場所がわかりますが、ケイマフリは岩と岩の間なのでよく解らないものですか？ |
| 福田委員 | じっくり観察していないと解らないですね。1日多くて4回くらいの餌運びしか見られません。そのタイミングに合わなければ難しいですね。 |
| 環境省 | ほぼ6月中旬から7月下旬までは盛んに動いているということになりますね。 |
| 福田委員 | そうですね。予算的にどうかは全く解らないと思うのですけれど、それはセットでやっていかないといけないと思います。あと細かく岸にどれだけケイマフリが分布しているのかも、これからは調査していかないと解らないですね。最近は観光船が遠慮して走ってくれているので、それによって今後分布が変わってくると思います。100mメッシュくらいで位置を落としてるのですけれど、それはやはり絶対私は必要だと思っています。極端な話、調査費が出なくても私はやらなくてはいけないと思っていて。今までもそうやってきた年もありますので。。。今後もやり続けなければいけない事だと思っています。 |
| 環境省 | ケイマフリのデコイのトークシモイへの設置も行うことでいいですね。また、「おーろら号」さんがせっかく2年間もセンサスをして下さっているので、これについても様式をお渡しして、実施して頂いて、結果を回収して、環境省の方でGIS化をしたいです。釧路自然環境事務所で来年度もGIS化作業は出来ますでしょうか？ |
| 環境省 | GISオペレータスタッフがいますので、可能です。 |
| 環境省 | 営巣状況の調査に関しては、下手したらボランティアになってしまうかもしれないのですが、トークシモイに関してはせっかくデコイを設置しているのに、それを評価できない、ということもあると思います。また後半でも議論したいと思います。 |
| | **4．平成26年度以降の体制づくりに向けた検討事項・方法について** |
| 環境省 | 来年度以降連絡会議を作るための準備をしていかなければと思うのですが、25年度中に連絡会議の規約を作って関係機関の中で共有する必要があると思います。内容としては設置目的・目標や達成年度など、それから適正利用・エコツーリズム検討会議に対応する上位機関が必要なのかと思っています。<br>そして運営方法ですね。これは事務局を置くことになると思いますが。それから調整を担う事務局体制、「顔」となる会長、又は議長の設置、それと取組に助言するメール会員のような役割、これは今の専門委員の方々にメール会員のような形でやっていくのかなと考えております。<br>事前に神尾さんや福田さん、漁協の山本さんには26年度の体制をどうすればいいか？ということについてご説明・ご相談させて頂いたところです。環境省は当然、調整役として入りますけれども、実際に事務局として実行していくために、今後は観光船の方々にも事務局スタッフとして入って欲しいし、当然福田さんにも入って頂くことになると思います。<br>神尾さんと話をしていた時に、小型船観光協議会として単独で事務局となると大型船さんなどに、気兼ねしてしまうという話がありました。ただ大型船まで入るとなると殆ど全体会議に近いような状態になるので、その辺の塩梅が気になるというところですね。ただ案として作って会議の中で意見を聞きながら調整するという感じでしょうか。やはり小型船だけの会議に見えてしまうということですね。 |
| 福田委員 | ケイマフリのセンサスを「おーろら号」（道東観光）さんにやってもらいたいので、「おーろら号」さんに何らかの形で関わってもらわないといけないですね。 |
| 環境省 | そうですね。確かに作業があればコアメンバーとして参画していただくことになりますね。 |
| 環境省 | あとはシーカヤックの知床アウトドアガイドセンターさんですね。 |
| 福田委員 | この取組にとても協力的です。 |
| 環境省 | わかりました。そういうことも踏まえまして、春までに「おーろら号」さん、、知床アウトドアガイドセンターさんに連絡会議事務局への参加についてお声かけをすることにしましょう。 |
| | 会長について |
| 環境省 | 会の「顔」として会長か議長を決めなくてはいけないと思っています。実行組織ですから環境省の所長を置くというわけにはいかないですし、なるべく地域の人ということでお願いしたいところです。観光船の神尾さんからは福田さんがいいのではないかという話があがったりはしましたが。どうでしょうかね？ |
| 環境省 | 地元の方がいいでしょう。重たい人（重鎮的な人）になってもらえたらいいですね。 |
| 中川委員 | ウトロ地元で重鎮まではいかなくても、全体的なことを暖かくやってくれる方がいると一番いいですね。 |
| 環境省 | 後ろ盾になってくれるような人がいれば理想的ですよね。 |
| 環境省 | そういう方に是非お願い致しましょう。何名かお願い出来そうな方もいらっしゃると思いますので。 |
| | メール会員について |
| 環境省 | それでは取り組みに助言のメール会員の件ですけれども、今関わって頂いている専門家の方に入ってもらって情報を提供しているのですが、情報提供の資料が会議の資料という、そんな事になってしまいがちなので、対応を考えなければと思います。 |

| | |
|---|---|
| 福田委員 | フェイスブックを活用するのはいかがでしょう？その会でひとつアカウントを作ることは出来ますよね。そこに参加して頂いて、こちらからは「今日はこんな調査をしてこんな鳥がこんな場所にいました。」と発信する。みんな見られるという形がいいのかなと思ったのですけど。写真も入れられますし。もし、殆どの人がそれが出来るのであれば、そういう物の方が堅苦しいものではなく、写真とかで情報提供できますしね。 |
| 環境省 | 専門家の役割としては情報を評価してくれるという事があると思いますけれど、評価の中で地域活動を褒めてあげるという役割もあるのかなと思うんです。その役割を促すためには、会議資料を流すだけだったら多分うまくいかない気がしますね。 |
| 福田委員 | 色々作ったにしても、こんなにたくさんメーリングリストやブログがあったりするよりもフェイスブックだったらフェイスブックでまとめたほうが、いいのかなと思いますね。 |
| 環境省 | ただ、メーリングリストでもフェイスブックでも、ブログでも停滞はするんじゃないですかね？何を使うかという事は、問題がちょっと別な感じがするなぁ。 |
| 福田委員 | 結構、簡単です。観光船の船長さんとかもやってるようですし。 |
| 小型船 | ただ、やってない人はどうか？という問題があります。やらなきゃならなくなってしまう。既にやっている人は問題ないと思うのですけれども、やりたくないという人もいますよね。 |
| 福田委員 | それは別にメーリングリストに流せば。。。それだったら一緒か。 |
| 小型船 | そうですね。皆がいるところで協議しなければならないとは思いますけれども。 |
| 環境省 | メーリングリスト自体は知床データーセンターで作れますよね。基盤は環境省で作れます。 |
| 福田委員 | もう少し色々な話題を取り込んでいって皆が情報を共有できるツールが欲しいですね。例えばケイマフリが巣立ちましたとか、デコイを入れましたとか、その写真を入れたらもちろんいいだろうし、それに使った写真もここに入れたものは自由に使っていいというようにしたら良いこともあるだろうし。 |
| 環境省 | そうした方法の検討も投げかけてみますか。いい方法・アイデアをください。みなさんと相談しましょう。 |
| 環境省 | 前にそういう話を別の会議で出た時に、メーリングがとても役にたっていたんですよね。専門家とか役所とか色んな人がいるのだけれども、会議の日程の調整もメーリングのその場でやっていたんだすね。何かしら立ち上げた方がいいとは思います。 |
| 福田委員 | 皆が利用しやすいものを考えたいですね。いずれにしても神尾さんと私、小型観光船くらいはフェイスブックなどで情報発信をお互いながせればいいなあと思うんですよね。顔を合わすことが出来ないこともありますから。例えば「この鳥なんですか？」というような場合もあげてもらえば、そういうやりとりは気軽に出来るような関係になったらいいなぁと思いますね。 |
| 環境省 | 使いやすいものを選択すればいいと思いますね。フェイスブックが使いやすければそれを使えればいいでしょう。 |
| | 「知床スタイル」について |
| 環境省 | 2)「知床スタイル」の整理なのですけれども、神尾さんと話していたときに、「トークシモイで観光船がデコイを避けて通ってそれによって保全するとか、巣立った後は入っても大丈夫？」とかいうのを、ルール化出来ないかという話をさせてもらいました。ルール・制度・規制ということになると観光船の事業者は敷居が高く感じてしまうという話があり、一方で、対外発信する時には何か名前をつけないと説明が出来ないので名前を付けたいのだがどうするかといったやりとりをしました。<br>その際に「知床スタイル」という言葉で取り組みのやり方、イメージを伝えられればいいのではないか？というアイデアが出ました。このケイマフリを保全・活用する活動の理念・目標とかの仕組みを整理したものを、来年度まとめられればと思っていて。この「知床スタイル」の整理ができたので部会としては解散します、このスタイルを継続するために連絡会議等を行っていきます、ということが出来るのかなと考えているところです。<br>イメージとしてはトークシモイのプロジェクトや「おーろら号」でのセンサスの成果、旅館等に配布したデコイの取り組みに関するHPの立ち上げなど、「知床スタイル」の例をいくつか揃えられればと。そういう準備を来年度したらどうかと思っています。 |
| 敷田委員 | 知床スタイルって誰も、どこも使ってませんか？先に使われてるとまずいでしょうからね。 |
| 環境省 | わかりました。調べてみましょう。 |
| 福田委員 | 前からよく言っているんですけど、トークシモイでやっていることが広がっていけばいいし、何故こんなことをやっているのかということに対してケイマフリという貴重な鳥がいてみんなで見守るために目印やブイを置いているんだよということになれば、すごく関心も高まっていくし。知床は観光だけではなく環境に配慮したこともやっているんだな、ということで価値が上がるので、それをうまくアピール出来るような名前がいいですね。名前って重要ですよね。 |
| 環境省 | そうですね。保全しながら利用するというのが「知床スタイル」ですよ、ということですね。 |
| 福田委員 | ケイマフリプロジェクトというのが一番短くて分かりやすいのでは？ |
| 小型船 | (”知床スタイル”は) Googleで検索してもヒットしませんね。(スマートフォンで検索してみると) |
| | (一同笑い) |
| 敷田委員 | じゃあ大丈夫ですね。ホームページにすぐ書いて下さい。 |
| 環境省 | 名前があることで、皆さんがやっていることが外にも発信しやすくなります。 |
| 福田委員 | いつも思うことのなですけれど、観光船のフロントの人と我々は話が出来るんですよ。しかし実際に船を運航している現場の人とのコミュニケーションは意外とないんですよね。情報をこちらが発信したときに、すぐに伝わるようなシステムがあればいいのかなと思っています。難しい話をするのではなくて情報交換というかですね。時々「聞きたいことあったんだけど」と言われることもあって。 |

| | |
|---|---|
| 小型船 | 交流の場を設定することが出来ると思います。出前講座とかで福田さんに来てもらうことは出来ると思うんですよね。そういう場には実際に舵を持つ船長とかを呼ばなければ意味がないことなので、そのような企画は出来ると思います。調整役として小型観光船協議会という組織があるので、うまくやれるよう間で調整します。 |
| | 5．平成25年度事業の実行メニューの具体的実施法について |
| | デコイの設置について |
| 環境省 | 海上デコイの活用については今年も去年と同じでいいでしょうか？ |
| 福田委員 | 組合さんがお手伝いしてくれるのであればいいのですが。 |
| 事務局 | 今日午前中に寄ってきましたけれども、協力はするよ仰って頂いてましたよ。 |
| 環境省 | 観光船・福田さんサイドとしては海明けすぐに投入したいでしょ？組合さんは海況が安定しないので、5月20日以降でないと絶対駄目と言っていました。 |
| 小型船 | 福田さんの支障がある時期でなければ、こちらは大丈夫です。あとは実際にケイマフリが見られる時期であれば。 |
| 福田委員 | 組合さんの意見もわかるんです。今やっている組合の船を借りてデコイを落とすのであれば5月20日以降でないと難しい。例えば定置網で使う土俵でたくさん使って落とすのであれば、それ以前でも出来ると思うんですが、しかし引き上げられないので、それが大変なんです。 |
| 環境省 | 潜水士さんを雇って、毎年下に潜ってデコイをつける外すというのは出来ないですしね。 |
| 福田委員 | 水深20mくらい？ |
| 小型船 | それくらいでしょうね。 |
| 事務局 | 組合さんからは、海が安定するまでは流されてもいい安いもので最初は設置して、海が安定したらしっかりしたものを入れれば良いのでは？と。5月中はそういう時化がたまにあるから絶対流される。無理だと言っていました。 |
| 福田委員 | 石では無理ですね。やっぱり土俵ですね。土俵が毎年青いゴミとして海の中に捨て続けられるのは嫌だったから、石にしてきましたが、今回は穴をあけて砂だけを落とし回収する方式にしたから、よりよくなりました。あの組合さんの船では土俵1個しか運べないよね。 |
| 環境省 | 観光船を使うという手もありますが、 |
| 小型船 | 早い時期であれば出来ます。そんなに忙しい時期ではないですし。ただ、組合さんに何らかの形で関わっていてもらいたい。 |
| 環境省 | 今のスタイルがしばらく実施しましょう。あと、今年は11月撤去でしたけど10月中に撤去しましょう。 |
| 小型船 | そうですね。（全員同意） |
| | ケイマフリセンサス（事業者による海域観察）について |
| 環境省 | 「おーろら号」さんのケイマフリセンサスですが、去年はユニオンさんで用紙を提供して下さったんですよね。回収はどうやったのですか？ |
| 事務局 | 回収も直接行ってもらってきました。 |
| 環境省 | そうでしたね。そのあとでGIS作業を環境省でやったのですけれど、この辺は環境省でやれると思いますね。 |
| 事務局 | 観察記録について、おーろら号の船員さんたちは、指示事項を的確にやってくれています。ケイマフリ以外のイルカとかもやってくれていましたし、そういうデータも記録されていくと有効だろうと思いますけれども。 |
| 環境省 | おもしろいですよね。「トドいました。」とかね。 |
| 福田委員 | そういうのが広がって皆が色んな生き物がいたことを共有できたら大型船・小型線にとってもいいことですよね。 |
| 事務局 | 他の例えばミズナギドリの大群見たよという情報ですとか、事故や変なものが流れているとか、気づくこともあるかもしれませんね。 |
| 福田委員 | 大型観光船と小型観光船とで情報の交換というのはありますか？ |
| 小型船 | 正直なところ、あまりありません。 |
| 福田委員 | 今回をきっかけに、横の繋がりがどんどん増えていったらいいですね。 |
| 事務局 | 船員さんの中でも取り組みを理解している方はいらっしゃるし、福田さんと仲の良い方もいますよね。どなたかキーマンとなる方を見つかれば、直接色々とお願いできるようになるのではないかと思います。 |
| 福田委員 | 関心を持ってくれている人もいるしね。 |
| 小型船 | 全く繋がりが無い訳ではないので。小型船サイドでは大型船では出来ないことを発信している部分があるので。僕としては向こう側の気持ちが気になるので、ちょっと距離を置いているという部分はあります。同じ港を使っているので、「ここ大型船がいない時には使っていいよ。」というようにうまい形でコミュニケーションは取れているところもあるので、その延長でさらに踏み込んで一緒に協力できるところはやるというように発展していくことは有り得る話だと思います。 |
| 福田委員 | どっちともメリットのある話だと思いますよね。 |
| 小型船 | もう少し小型船の協議会で同じような考えで統一できたらと思います。まだ、小型観光船協議会の現場サイドでは全然話が違ったということになってしまう可能性はあります。その辺り、もう少し協議会が強くならないと話だけで終わってしまうのかなと。 |

| | |
|---|---|
| 福田委員 | 以前と比べると関係は改善しつつあると思いますね。 |
| 小型船 | 昔よりは良くなっているなと僕も感じます。 |
| | 予算の関係、スケジュールの関係 |
| 環境省 | 来年度、この部会と検討会議をスタートするとしても、環境省の予算があったとしても、5月には間に合わない可能性があります。ですから、この2本の事業に関しては来年度明けたら、すぐに準備に入って会議がある前にすぐ始めてしまいたいと思っています。 |
| 環境省 | 予算は全く厳しい状況なんです。 |
| 環境省 | そういう関係があるので、年度明けたら調整に入らせて頂いて、着々と準備して5月には実行したいと思います。ちなみにボランティアで今年も「おーろら号」さんにはケイマフリの観測方法ですとか、海鳥観測もレクチャーして頂きたいのですが。福田さんお願いできますか？ |
| 福田委員 | いいですよ。頼まれれば。シーズンは始まってしまうから、調査の方も、ある程度見切り発車的というのは、しょうがないでしょうね。毎年やるつもりでいますから粛々と。 |
| 中川委員 | ちょっと教えて頂きたいのですけれど。世界遺産の長期モニタリング計画の中でケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数・営巣分布等の調査がありますよね。それが、この事業で実施されてきた調査と、どういう関係にあるのか？福田さんがやっているこの調査も、長期モニタリングに位置づけられているのですか？関係行政機関が行う項目になっているのですけれども。 |
| 環境省 | 実際ここ3年間で実施した分は、それに関わっています。予算的には別予算で、長期モニタリングの予算から出しているわけではないです。 |
| 環境省 | 長期モニタリングという予算は全くないです。毎年やらなくてはいけないものでもないので、そこはその度に手だてするしかないのです。 |
| 福田委員 | 海鳥の繁殖地の調査もずっと10年以上やっているのですけれど、来年やらないわけにはいかないですよね。 |
| 中川委員 | 長期モニタリングとしても重要な項目で世界遺産の評価項目の達成とか陸域の関係で重要な調査に位置づけられて入っているんです。それを毎年やるか、そうでないか、という事もあるかもしれないけれど、出来れば毎年やる。特にケイマフリの繁殖は毎年やった方がいいのではないかと思います。 |
| 福田委員 | 海鳥全体でいうと、ウミウなんかも目まぐるしく変わっています。クマに補食されて繁殖地がどんどん変わっている種類もあるので、海鳥に対して圧力が高い地域だと思うんですね。そういった意味でも私は毎年やらなくてはいけないと思っています。ケイマフリの調査と一緒でも、どこかからお金を引っ張ってきて、やらなければいけないと考えています。 |
| 環境省 | 多様性センターの総合調査で5年に1回くらいしていますよね。長期モニタリングを作った時に想定していたのは基本は5年に1回ということになったのだと思います。ウトロの海域だと特殊な場合があるから3年間の予算がついたんですね。長期の中では5年に1回ということにしておかないと、項目が多いので毎年やるということは出来ないので、生物多様性センターの中で、最低限5年に1回はやるということになるんだろうと思います。 |
| 環境省 | 長期モニタリングは調査項目をあまり盛り込んでおらず、シンプルな内容です。今回3年間やった内容での調査を長期モニタリングでやるということではなくて、もっと絞り込んだものになると思います。 |
| 中川委員 | 観光船によるケイマフリセンサスは、全体の中で非常に重要なものとして記録する必要はあると思いますが、モニタリングというのはきちんと位置づけて、調査の保証がないと不安な気がしますね。それによってエコツーの中で観光船とやってきたことが海鳥の生息にプラスになった、その評価もモニタリング調査によって出来る事だと思います。 |
| 環境省 | 割と話は単純で、長期モニタリングについては5年に1回で項目も絞り込んだものをやれば役所としての義務は果たしてしまうという事です。それから、今後この3年間やってきた調査費を確保することは全く出来ないので、同じレベルでやるというのは難しいと思います。小規模になる予算に応じた調査を行うことになります。 |
| 環境省 | 最も重要なのは営巣数の調査ではないでしょうか。 |
| 中川委員 | 海鳥調査は、予算の範囲内で出来るだけやってもらうという話ですね。 |
| 環境省 | ベストはあるでしょうが、切り詰めなくてはなりません。 |
| 福田委員 | お金の話は抜きにして、毎年海鳥の繁殖地は変わってくるので、観光船と情報交換をして今年は海際で営巣していて、船が入ると営巣を放棄してしまう可能性があることを事前に調査して知っておく必要があると思うんです。それがこの知床スタイルというのかな、そういうデータを観光に生かしてやっていくという、こういう事例は他に無いですから。 |
| 環境省 | 今回は海鳥を観光資源にしましょうという話になっているので、見る人の目の精度はともかく、観光船の人達から見た海鳥という視点があります。<br>専門家の調査は当然必要なのですが、プラスアルファで海鳥を紹介してする観光事業者が変化に気付けるというかたちになっていくのがいいと思っています。まさにこの連絡会議を進めていく上で、そのレベルアップが出来ればいいと思います。方法として知床スタイルという形で保全しながら活用しましょうということで、方法としてはこういう形がありますよ、サポート出来ますよというのが望ましいのではと思っています。 |
| 中川委員 | あとはこの連絡会議がどういう会議かということですよね。例えば民間助成金をもらうとか、独自に予算を持つとかそういうことが出来る会議にするには組織的にちゃんとしなきゃならないとか、難しくなるのですかね。独自予算を持つとかね。規約を作ることで助成金申請も出来るかもしれませんよね。 |

| | |
|---|---|
| 福田委員 | 例えば環境省の予算が少なければ外部から助成金を申請してもらう、という形で今までも先行調査をしたりしてきました。そういうふうにお金をあちこちから集めてくるのが可能になれば理想ですけれど。ただそうなると運営していくのがかなり大変になる。誰がお金を扱うとか。組織運営が難しくなる。 |
| 環境省 | 助成金を受けられるよう会計規定をつくりましょう。 |
| 福田委員 | すぐにということではないけれど、そういうことにも幅を持っていたほうが。役割分担をやればいいと思う。ここは行政がやるけれど、一部は助成金でやる部分もあるというように。 |
| 環境省 | さっき言った長期モニタリングの話で言えば当然遺産管理者として行います。 |
| 福田委員 | 環境省の推薦があると通りやすい助成金もありますので、役割分担しながら行えればと思います。 |
| | 6．その他 |
| | 他の地域への転用について |
| 環境省 | 最後に、この取組を他地区に転用するということについて、羅臼にも色々観光船はありますけれども拡張できますでしょうか。 |
| 環境省 | まだ気が早いのではないですか？ |
| 福田委員 | 伝えておくはいいと思うけれど。 |
| 小型船 | でも、翌々はそうなるんじゃないですか？というか、しなきゃ駄目なのではないですか？ |
| 環境省 | 羅臼はすごく大きな案件があって、結局ワシの餌付け問題というのが必ず出てくるでしょう？ |
| 福田委員 | ワシは難しいかもしれないが、海鳥をテーマに出来るのではないか。海鳥はクジラと違っていつも行けば居る。観光船にとってはありがたい存在だから、海鳥の情報をもっと知りたいという話も聞きます。そういう意味で海鳥からやっていくのが良いのではないかと思いますね。 |
| 環境省 | 羅臼のホエールウォッチングは遭遇率があまり良くないですよね。他の所だと出来ているような気がするのだけれど、お客さんのがっかり度が高いところのフォローが羅臼の場合出来ていない気がします。 |
| 福田委員 | 例えば、根室の落石クルーズは鳥メインで案内をおこなっている。バードウォッチングのお客さんは情報が流れればこっちのほうにも来てくれるかもしれないし。だから将来的に道東のネットワークがうまくいけばと思う。あと落石が時化ていて、羅臼が凪ということもあると思うんですよ。その辺をうまく連携すると、うまくお客さんが回れるような形が出来れば。 |
| 環境省 | ちょっと距離がありますね。 |
| 福田委員 | まあ、そうですね。2、3時間。 |
| 環境省 | ウトロ海域の話も、一番最初はとんでもない事、という所からスタートしていたので、まず同じ場所に座って課題協議をするところからうまくやるというだけでいいのかなと。 |
| 環境省 | まずは海鳥くらいから始めるのが良いかもしれないですね。 |
| 環境省 | せっかく資源があるのだから、それについて協力しませんかというようにですね。 |
| 福田委員 | 凄いですよ、羅臼の海というのは。羅臼の調査は助成をもらって今年1年調査を行いましたが、海鳥の種類と数がウトロと比べると全然違うんです。羅臼はもの凄い種類と海鳥の数。それはすごい魅力というか、発掘していない観光の魅力だと思います。ハシボソミズナギドリのあの大群が見られるのはこの辺では羅臼くらいしかないんですよ。例えば落石では沖合いでしか見られないのが羅臼では近海で見られたり、急激に深いから外洋性の鳥が見られたり、そういう未開発の魅力は凄くあると思います。それを情報共有しながら発信すれば、羅臼はクジラだけじゃないんだってことにもなれば、お互いに良いのかなと思いますね。 |
| 事務局 | ウトロは今ケイマフリしか扱っていませんが、ワシもやったほうがいいのではないでしょうか？取組としてワシのほうが普通の人にはインパクトが大きいですよね？ |
| 福田委員 | まず海鳥の魅力を伝えたいわけで、ワシは結構市民権を得て誰でも知っているわけじゃないですか？そういうものではない海鳥の保護を、訴えながらやっていくということに僕は意義があると思います。 |
| 小型船 | 必然的にウトロの海域利用のものが現在あるので、おそらく羅臼での海域利用が必然というかなきゃ駄目だと思う。そうした時には羅臼の場合は海鳥もワシも出てきますので、ウトロでやった流れというのもありますが、必然的にウトロにあるものがなぜ羅臼にないんだという話になってくると思う。そのタイミングがいつか？ということもありますけれど、知床といえば羅臼とウトロもありますから、翌々は両方合わせて一つのものになるという考えを持たなければ駄目だと思います。観光船サイドでは当初はどちらでもやっていたので言っていることはわかるのですけれども。話をして決める部分は問題はないと思いますし、自分たちのやっていることを認めてほしいと思っている人がおりますので、その辺どこが折り合いの場所なのか解らない状態があります。こうしないと駄目だということになれば、皆そうしないと駄目ですし、どこかで話し合いをする機会がないと駄目だろうなとは思ってはいるんですけれど。 |
| 環境省 | ケイマフリとワシの餌付けのことでは、問題の性質もちょっと違う部分があると思うんです。進め方も違うだろうし。 |
| 小型船 | だから、難しい部分があるので羅臼はそのまま手を付けないで置いてあるような状態だと思うのです。 |
| 環境省 | ただ町内でも「あれはどうなんだ？」という声もあって。何か取り組まないのかと言う人もいる。それは観光協会系の人のなかにも、また事業者の中でも最近、言われていることが変わってきていますので、意見交換はしていきたいと思っている中で、うまくウトロの取り組みとの連携というかを考えられたらいいですね。 |

| | |
|---|---|
| 小型船 | しばらくは別々の考え方でウトロはウトロ、羅臼は羅臼という方向の方がよい気がしますね。 |
| 環境省 | 多分羅臼の人たちに、「ウトロでこんなことがうまくいったから、羅臼もやりましょう」といったら、それは失敗するかなという気がしますね。 |
| 福田委員 | 僕は海鳥をやっているから、僕は海鳥くらいから始めたらいいと思う。クジラがいない時の穴埋めみたいな感じでもいいから、そこが魅力なんだと。だってウトロで始めた時は「ケイマフリがそんな貴重なものだとは知らなかった」、というところから始まったんですから。「ハシボソミズナギドリってタスマニアから来てるの？」みたいな話からしてみたりとか。 |
| 中川委員 | ただ、そういう入り口で始まった今回のように、羅臼ではそう、うまくいくかな？という感じがしますね。。。今回は最初にケイマフリ問題の対立という形があってここまで来たというのがあるんだけど、羅臼では餌付け問題から入るから展開できるという可能性もあるかと思うんですけれど。 |
| 福田委員 | 一部の船にしか乗ったことはないのですが、もっと海鳥の見せ方があると思うんですよ。ただ突っ込んでいくのではなくて。ケイマフリと一緒で、遠くから来て換羽している鳥を飛ばしたら可哀そうだから、もう少しちゃんとした見せ方に発展していけば保護に繋がっていくと思うんですね。 |
| 環境省 | 情報があれば伝えるが出来てくると思うんですよね。まだ同じテーブルについていないので、解らないことがあると思うので、まずは同じテーブルについて、いきなりワシの餌付けからスタートしたら大変なことになるので、まずはまだ未利用資源である海鳥から入っていったらどうですか、というところから対話の場所を設けるというのが切り口ですよね。 |
| 小型船 | 観光船サイドの僕の意見だけじゃ参考にならないかと思うんですけれども、そういう話し合いの場所が欲しいという人もいるはずなんですよ。環境省の人がいて、中川先生が居てという風に。それをウトロで考えると結構な揉め事になるかもしれませんけれど。ただ順序としてそういうテーブルの場所を設けるのが一番最初だと思うので、その辺は福田さんが言うように、羅臼で見られる海鳥を、もうちょっと観光船サイドでうまく利用してほしいという話し合いは凄くいいことだと思います。 |
| 福田委員 | やっぱり疲れ果てている海鳥を守ってやりたいとか。 |
| 小型船 | それこそ、クジラがいない時は海鳥を紹介出来る部分があるはずですから、それは当社にしても、事業者は皆同じことですから。やっていくべきだと思います。 |
| 福田委員 | 落石クルーズで僕はずっと調査しているんですけれど、見せ方は凄く気を使っているんですよ。そういうところからしたらこっちに来たら追い掛け回して、沈むまで近づくという見せ方をしてないですけれど、それが鳥にもっと配慮が出来るようになれば、見る人だってもっと喜んで見てくれる。ここだと鳥を見る人も胸が痛いんですよ。鳥が飛んだり、潜ったりするまで近づく見せ方しか出来ていないので。 |
| 環境省 | 一方で私は中川先生がおっしゃるのが最もだなという気がしていて。長谷川さんとかがいい加減餌付けの問題とかの決着をつけて欲しい、話す場を作って欲しいとおっしゃるのです。だから私とかが行って海鳥の話でもしましょうか、というというとそんなことよりもまずは餌付けだろって言うかもしれないし、言わないかもしれない。それは最初長谷川さん達の感触を少し見てみてから、戦略的に海鳥の話から持っていくのか餌付けの話から持っていくのかということは考えていかなければならないという気はしますけれど。 |
| 中川委員 | こちらからの提案の働きかけの前に、向こう側（観光船事業者側）から白黒はっきり付けて、という話があるかもしれないと思っているんですよ。 |
| 福田委員 | 餌付けというのは難しくて、風蓮湖でも氷下漁とかで余ったものを餌としておびき寄せて、お金をとってカメラマンに写真を撮らせている。漁師がその辺に投げているものを集めているだけだから何が悪いんだって話になっているんですよ。 |
| 中川委員 | 餌付けは全国で議論しているんです。白鳥から水鳥から家庭の餌台から色々あるんですよ。個別でやれないかと思っているんですよ。一般論でやったらこれは大変な話ですよ。 |
| 福田委員 | そこに波及していくと収拾がつかなくなると思うんです。なぜ風蓮湖では良くて、なぜここでは駄目なんだみたいなことに。 |
| 中川委員 | 行政的に保全のための餌付けで、タンチョウのような例があったり、そこをひとつひとつ整理して理論づけしていかなくてはならない。一般論で全部ひっくるめるのではなくて、知床のワシ、ということでやるしかないのかなと思います。 |
| 環境省 | うちで希少鳥類を仕事で抱えていますけど、まさにタンチョウとシマフクロウは餌付けしているわけですよ。シマフクロウはバンバン餌をやって育てているようなものですけど、一方で羅臼で餌をやっているのは、けしからんという話は完全に自己矛盾してる訳です。従来海ワシの場合はこういう定置網漁で相当量の餌を供給されていた状況があったのですが、最近は雑魚として商品化されるようになって、以前より餌が減少しているんですよね。そこを観光船が多少餌付けをしたところで、昔から比べたらトータルでの餌の供給量は小さいじゃないかという話もある。氷下漁自体は100年くらいやっているのでしょうから、そういう状況の中でどうなんだ？という話になってくる。本当に何が正しいのかわからなくなってくる。 |
| 福田委員 | 本当に何が正しいのかわからなくなってくる。ケイマフリを保全していく目的はぶれることはないのですけれど、オジロワシの餌付けというのは異なります。昔は今よりもっとワシが居ました。スケソウダラの漁の頃流氷の上にワシが数えきれないほど並んでいた時代に比べると、今の餌の供給はほんと少ないくらい。 |

| | |
|---|---|
| 環境省 | そもそも、スケソウダラ漁による供給が過去になかったら、どうなっていたのだろうというのもありますね。オオワシがこれだけここに集まって越冬している状況というのは、そもそも餌の供給にあったのではということが考えられるんですよね。何が自然なのか解らない。餌をあげないというのが自然に近いというのは殆ど感情論に近いんじゃないかとしか思えない。 |
| 中川委員 | 人間との関わり抜きでは、これだけの越冬は出来てないのは確かなんですよ。それが積極的な餌やりと、漁による副次的なものとをどういう風に考えるかですよね。羅臼がいいのなら、こっちでもワシを集めようと、オホーツク海と根室海峡でワシ集めの競争をやり始めるのはどうかと思うんですよね。 |
| 環境省 | 今やってないところでやり始めるのは。。。 |
| 中川委員 | 実際にあるんですよ。少数ですけれども。 |
| 福田委員 | やりたいと思いますよ。個人の美的感覚だけれども僕はああやって網走にいる、ぽつんといるオオワシを綺麗だなと思ったりもする。でもそれはあくまでも個人の美的感覚ですよね。 |
| 中川委員 | やっぱり不自然なんですよ。あんな状態のワシを見るのは自然を見ているのではないんですよ。そういう観点から理解されていくと思うんですけれどね。 |
| 福田委員 | 個人の感情というかそういうものでどうやって方針を決めたらいいのか。 |
| 中川委員 | 一般のお客さんとカメラマンは違うと思いますよ。カメラマンは、もうたくさん写真を撮りたいから。しかし一般のお客さんはどうだろうと不自然に感じる人も結構いると思いますよ。 |
| 小型船 | だからきちんと話をしないと。捉え方というのはそれぞれで、観光のお客さんは特に気をつけなくてはならないなと思うのです。過去の経過があって今があるという部分では、昔は漁師さん達が魚をこぼれるくらい獲っていて、それを学習してワシが集まったということでの話し方をしないと、やっぱり不自然というか、人間が基本的に餌をやることは、いいことではないのだいうことを話し始めないと。過去に、こういうことがあって餌をあげて皆さんに見せているんです、という話を伝えないと駄目だな、というのを我々もやってはいるのですけれど。 |
| 中川委員 | スケソウダラ漁の時もたくさん集まってはいたけれど、こんなに”ぐじゃっ”と集まるのではなくて、ずっと点々と海にいるんですよ。網があちこちにあって広く薄く餌がありましたから。山のように餌をやってそこに何十何百集まるっていうその光景はここだけですよね。やっぱり説明は難しいと思います。マスコミも写真にそういう説明つけないで載せていて、いかにも自然に集まっているような解説を付けたりしているから、それも問題なんですよね。 |
| 福田委員 | 風蓮湖の例だとＮＨＫで放映されてから、エスカレートしてお金を取るようになっていった、という経緯があるので。難しいですよ。いいか悪いかは解らないですよ。落としどころがない。 |
| 中川委員 | こういう議論を一緒にやっていくということは悪いことでないですけどね。 |
| 敷田委員 | ウトロ海域部会のやり方からもうちょっとエッセンスを取り出せばいいと思います。そういう視点でいけば今回解決するテーマは何かということですよね。餌やりをやめさせたいことが解決すべきことなのか、もっと他に解決すべきことがあるかということかと思うんですよ。ウトロ海域部会を最初から見てるとケイマフリを保護しようということで話を始めたのだけど、到底共通テーマとはなりえなかったことですよね。結果的にケイマフリを保全保護出来ればいいなということで解決してきたというのは、資源の効率的利用の問題ですよね。どうしたらもっと観光船の人達が海域を有効的に使えるのか、そのためにやってきた結果が、たまたまうまくいっているような部分があります。<br>ここで何かをやろうとしたら、最初にまず餌やりを認める、暫定的に。だけれども餌やりでお客さんを集めることよりもっといいことがあるのではということを考えよう、というやり方が一番適していると思いますね。だから一番認めにくいことを認めてしまって、ただしそれがベストではないだろう、ということから入っていけばいいと思いますけれど。<br>うまくいけば餌やりで人を集めているような地域に対して、ここはそれをやらないことでブランド化の根拠の道筋としていけるはずなんですが、それをお客さんがどういう風に反応するか、なかなか確証を持てないので踏み込めないんだと思いますね。お客さんのデータもこっちはないし、実際にどのくらいの割合でカメラマンがいて、どれだけ収益が上がっているのか、解らない状態ですから。ウトロと同じようにやっていくのであれば、まずデータを取って、戦略を進めていく。基本は最初餌やりを頭ごなしに否定しない、ということでスタートさせればいいと思います。 |
| 福田委員 | まず規制を作ることをやめるということですね。 |
| 環境省 | 認めるかどうかはともかくとして規制しないということは言うのでしょうね。高圧的な規制をするつもりはないということから入らないと話し合いのテーブルにはつけないですよね。 |
| 中川委員 | むしろ、認める認めないは別としてもっとPRする。本当のことを言うと知床のワシは餌で集めているんですよと。そういうことはイメージが悪いからやめると思うのですよ。「うちはこれだけ餌をやってます！」だなんて、誰もホームページなんかに書かないでしょう。でも隠しちゃいけない。どんどん広報してマスコミに事実を書いてもらってですね。もしかすると、それでお客が減るかもしれないですが。 |
| 環境省 | それをやったら、また喧嘩になるでしょう。喧嘩になるのでは意味がないので。 |
| 中川委員 | ただ、隠しておくのは良くないかなあと。 |
| 環境省 | 隠すとか隠さないとかではなくて議論しようとしている時に、ことさらに煽るようなことや掻き立てることをしたら、全く信頼関係は持てなくなるので、その点はアウトだと思います。 |

| | |
|---|---|
| 小型船 | 多分観光船サイドもやっていることを認めてもらいたいというところもあって、町サイドも観光船がやっていることに言えないで伏せている部分があると思うんです。観光船サイドでも、そこまで町や人との同意の上で、こういうことをやっているということが言えるようになれば、もっと仕事としてやれると思うんですよね。<br>個人的な意見かもしれないですけれど。昔漁から貰っていた量を考えると僕らのあげているものに関しては、それを超えたものではないというのがあって、ワシの今まで当たってた餌を僕等があげてるんだ、というのもちょっとあるんですよね。あとはカメラマンと観光者との分け方というのは必ず必要だとは思うんですけれども。基本的には僕の会社では観光のお客さんにはワシに餌をあげないんですよ。もしやる場合には、きちんとそういう説明をした上での餌やり、ということにしてはいるんですけれど。これが駄目ということになれば、どういう部分が落としどころなのかということ、それよりあげられなくなって客がいなくなるより、どうすればこの仕事が認められて、町に胸張って言えるのかというところだと思うんですよね。 |
| 福田委員 | 例えばウトナイ湖でも白鳥の給餌をやっていたんですよ。野鳥の会があそこにサンクチュアリを作った時は。その時は数を数えて給餌の量を調節していたんですよ。調査もやって餌もやっているので、ただ単に客寄せのために餌をやっているんではないんですよ、ということを一応やっていたんですよ。おおまかですけれど一羽に対してこのぐらい当たっている、ということで、胃袋を全部満たすまではやっていない。そういう基礎データをとった上で、やるとか、そういう事も必要なことかなと。 |
| 小型船 | そうですね。そういうことに関して絶対ルールは出来ているのでどういう風にするのかは話し合いの場で。 |
| 福田委員 | 皆さんが自主的にやって下さるようになれば一番なわけで。だけどワシは一日一体どれだけ食うのだろうという話になってくる。 |
| 中川委員 | ワシが食う前にカモメがかなりの量を食ってるよね。それはちゃんと調べれば算定出来るから。 |
| 敷田委員 | もしこの海域でやるのだったら第一段階として給餌の事実を関係者が認めてもらった上で、環境保全の問題だけではなく、経済の問題で経済効果がどのくらいかがわかって、それをやらずに転換できる道があれば開いていけばいいと思いますし。無いのであれば暫定的に給餌を認めていくしかないと僕は思います。 |
| 環境省 | 羅臼の観光協会の人が言っていたのは今はカメラマンが多いからどうしても餌をやらないと駄目だと。お客さんさえ来れば将来的にはやめたいという気持ちはみんな持っているだろうと。今は暫定的にだろうけれど将来的にはゼロにするということで段階的に減らしていくんですと。あとは観光船の方で餌はやるけれども海ワシ類の保護を別の形で収益の一部をワシの保護にキックバックするものを作ることで、認めてもらえるようにすればいいのではないのかなぁ。そういう落としどころはあるかもしれませんね。 |
| 敷田委員 | 私は冬季に船に乗ったことがないのでカメラマンの実態は解らないのですけれども、カメラマンに将来的に依存して収益をあげていくのがいいのか、ごく普通の方の観光客を満足させていけばいいのかということが商売をやっている人達もまだ解らないし、やってない我々にとってはもっと解らないです。だからデータをとった上で将来どっちがメリットがあるかを、いっぺん議論してもいいのかと。議論をする上では認めざるをえないので。認めないと議論はならないですから。それで解決できないのだったら規制するのか、放っておくのかというのは腹をくくってもいいかとは思いますけれど。その前の段階として時間をかけるところはあってもいいと思います。議論のために餌やりを暫定的に認めようというのは、戦略的に提案してもいいと僕は思います。 |
| 福田委員 | 今の時点ではどうなのだろう？放って置かれているいるということも逆に不満なのだろうか？ |
| 小型船 | そうですね。こういう話し合いの場がなければ、自分で推測するしかないわけですから。福田さんはどう思っているのかな、とか、中川先生はどう思っているのかなとか。 |
| 事務局 | いつそれが会議の中で出てくるかを気にされているんですよね。 |
| 環境省 | 次の会に間に合わせるのは難しいですけれども、まず意見交換会をやって進んだところで提案してみるのがいいかと思います。 |
| 敷田委員 | 次の検討会議に出す時には、全く今までそういう議論をしてこなかった人達も一堂に会するので、その人達が納得できるように暫定的に餌やりを認めるという仕組みというか、整理をした上で、例えば3年間相談させてくれという感じで。 |
| 中川委員 | ただエコツーとか経済の問題ではなくて、保全上のリスクの問題がある。過度に集中することは感染症の問題があって、もしそれで大量に死ぬようなことがあったら、完全に資源を失うことになる。だからそういう視点でも、しっかり考えなくてはならないんです。 |
| 福田委員 | 今何羽来てどのくらいの餌の量を食べているのか解らない。 |
| 中川委員 | ある程度調べたデータはありますね。 |
| 小型船 | 一度調査で一回の航海あたりに、どのくらいの餌の量を使っているかは、以前調査をやられていたことがありますね。 |
| 敷田委員 | そういう方針であれば、やれるんではないですか。ウトロの例から見ても妥当に2年から3年かな。それでも3シーズンしかないですよね。 |
| 中川委員 | 以前は、流氷がない時に岸壁にいっぱい餌をまいて集めたりして、そうすると交通事故に遭うワシもいたりして。やっぱり極端な集中というのはいろんな問題があるんです。単に餌付けということだけはなくて。 |
| 福田委員 | 結局そうなるとカラスもオオセグロカモメも増えちゃうということになる。まわり巡って海鳥に悪影響を及ぼしかねないので。 |
| 事務局 | 餌やりを全くやめてしまったらワシは減るのでしょうか？ |

| | |
|---|---|
| 中川委員 | それもちゃんとシュミレーションして議論でしょうね。 |
| 福田委員 | でもゼロにはならない。 |
| 敷田委員 | どうでしょうか。こちらの海域への拡張というのはリスクはありますけれど、給餌を3年間ぐらい現状を認めた上で何とかする方法を考えて、その根拠はウトロでやったこの成功事例でということで皆さんを説得して提案をして部会を設置していく。 |
| 環境省 | いきなり戦略の一連をここにのせるのは危険性が高すぎると思うので、少し地元で意見交換した中である程度実現可能かどうかなど、妥協可能な範囲が見える場合には戦略に乗せていくという形でやらせてもらえればと思います。 |
| 敷田委員 | ただ全体にそういうことを、やり始めるということを報告をした方が僕はいいと思う。 |
| 環境省 | それも、まだやれるかどうか、というところで、まだまだだと思いますけれど。 |
| 福田委員 | 全体的に資源として利用するという意味で、海鳥もクジラも全部含めたほうがいいのかな、という気がするんですよね。 |
| 敷田委員 | とにかく付いたらやりましょうよ。 |
| 福田委員 | まだ間にあう助成金で道新基金があるので、また羅臼側の海鳥のパンフレットを作るように助成申請しようと思っています。ご意見あれば、また一緒に作っていきたいなと思います。 |
| 環境省 | ではそんな形で今日はいいですね。来年度に関してはウトロ側については会議が立ち上がる前に進めていきます、ご協力をよろしくお願いします。羅臼側はうまくいけば、まず話し合いからスタートということで、そういう場を設けたいなと思っています。 |
| 小型船 | でもその場は多分こういう戦略的な集まり方は出来ないという三宅さんの話で、たぶんその場に中川先生がいれば一番適切な意見交換が出来ると思うんですよね。それが難しいのであれば、三宅さんが先生の話を聞いておいて、何かあった時には先生は多分こういう気持ちでいる、というのがわかってもらえれば、いい意見交換ができるのかなと。僕が今お話ししてもらった中身では、そういう考えがあるということが理解できましたけれど。 |
| 環境省 | かなりセンシィティブな意見だと思うので、観光船の方と相談しながら。 |
| 小型船 | いずれにしてもしなきゃならないことは、誰もがしなきゃならないので。逆にぶつかったほうがいいのかなと。ただ何もなくなったら僕らも困るというのも、必ずあるとは思うので。それが形を変えて何かそういう話し合いであれば、全く余地がないわけではないので。 |
| 環境省 | 中川先生は（地元の方なので）理解される部分もありますが、他の専門家とかに飛び火していったら大変なことになりますよね。 |
| 環境省 | 一部の専門家からやめたほうがいいという指摘は入っています。それについてもこちら側としては考えなくてはならないと思います。 |
| 環境省 | 鳥の問題として扱わないというのが大事だと思いますけれど。これは観光の問題として扱うんだと。 |
| 環境省 | 観光の問題としてだけしか片付けるのは無理な話でしょう。ウトロの状況を見てきた中川先生にはわかってもらえても、そうでない専門家の皆さんにこのようなやり方をわかってもらえるかはすごく厳しい課題ですね。 |
| 敷田委員 | そうですね。この話し合いは野生生物保護のためにスタートしているのではないと、むしろ小型観光船の人達の経営上、戦略を相談する上でスタートしたらたまたま鳥の餌付けの問題が出てきてしまったので話しています、というようなことでスタートしてはどうですか？ |
| 中川委員 | しかし、やはり保護の問題は絶滅危惧種ですので、エコツーで議論するにしても、保全の問題からの視点も無視は絶対出来ません。 |
| 環境省 | その部分、神尾さんが会議でおっしゃったように保護と利用のバランスだと思うので、それをうまいところ見つけていくという作業でしかないと思います。 |
| 敷田委員 | なるほど。少なくとも応用が出来るということがわかっただけでもいいじゃないですか。 |
| | 閉会 |
| 環境省 | それでは、議論は尽きませんが、お時間も過ぎてしまいましたので、本日のところはここで終了したいと思います。皆様本当にありがとうございました。 |

資料 3. 各種様式

・利用者動向調査　案内
・利用者動向調査　調査票
・海域観察記録　記録票

知床世界自然遺産
SHIRETOKO WORLD NATURAL HERITAGE
2010年で知床は世界自然遺産登録5周年を迎えます

# 海域レジャー利用についてのアンケート調査協力のお願い

環境省では、関係行政機関や地元の関係者と共に、知床世界自然遺産地域における自然環境と人による利用との共存を目指して様々な取り組みを進めています。

その中で、今回海域レジャー利用を体験された皆様に対して、利用形態や利用目的、利用の感想などについて、アンケート調査を行っております。

ご旅行中のお時間が限られる中とは思いますが、知床の自然環境を後世に伝えていくために、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

環境省　ウトロ自然保護官事務所

- 調査主体／環境省　北海道地方環境事務所　釧路自然環境事務所
- 調査実施主体／ユニオンデーターシステム株式会社

# 海域レジャー利用についての
# アンケート調査協力のお願い

環境省では、関係行政機関や地元の関係者と共に、知床世界自然遺産地域における自然環境と人による利用との共存を目指して様々な取り組みを進めています。

その中で、今回海域レジャー利用を体験された皆様に対して、利用形態や利用目的、利用の感想などについて、アンケート調査を行っております。

ご旅行中のお時間が限られる中とは思いますが、知床の自然環境を後世に伝えていくために、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

環境省　ウトロ自然保護官事務所

- 調査主体／環境省　北海道地方環境事務所　釧路自然環境事務所
- 調査実施主体／ユニオンデーターシステム株式会社

# 海域レジャー利用についてのアンケート調査

## ◆　アンケートの回答方法について　◆

1．各設問の答えとして該当するものに○を記入してください。
　該当するものが無い場合は何も記入しなくて結構です。

2．“ 複数回答可 ”と指定されている設問は、あてはまるもの全てに
　○を記入してください。

3．“ その他 “ など回答記入欄（枠）がある場合は回答内容を記入
　してください。

## ◆　アンケートの返信方法について　◆

1．回答用紙を折りたたみ返信用封筒に入れてください。

2．封筒口はシールにより閉じてください。

3．回答者様の**住所、氏名などの記入の必要はございません。**

4．返信封筒は　**“ 切手を貼らずに ”**　ポストへご投函ください。

次のページよりスタートです。

※アンケート調査に関するお問い合わせは下記までお願いします。

環境省ウトロ自然保護官事務所（担当：野川）
〒099-4354　斜里郡斜里町ウトロ西 186-10
電話：0152-24-2297／FAX：0152-24-3646

ユニオンデーターシステム株式会社　（担当：栗林）
〒003-0024 札幌市白石区本郷通 13 丁目南 5-9
電話：011-862-7330／FAX：011-863-5965

## 基本項目

### Q 1. 乗船日および天候状況について

乗船日：　平成 24 年 ＿＿ 月 ＿＿ 日
乗船時間帯：　1.午前　　2.午後
天候状況：　1.晴れ　2.曇り　3.雨（ぱらぱら）　4.雨（強い）
霧の状況：　1.無し　2.知床連山が見えないくらい　3.断崖が霞むくらい

### Q 2. 今回知床に訪れた旅行のタイプは？

1. 団体旅行・ツアー　2. 小グループ旅行(家族・友人)　3. 一人旅
ウトロに宿泊されましたか？　→　1.はい　2.いいえ

### Q 3. 知床に旅行されたのは今回で何回目ですか？

今回で ＿＿＿＿ 回目

## 観光船利用の状況について

### Q 4. 乗船した航路は？　※シーカヤックを利用された方は Q5.へ

1.知床岬コース 2.硫黄山コース（ｶﾑｲﾜｯｶの滝まで） 3.ルシャコース（ﾍﾞｱｳｫｯﾁ）
4.その他　（　　）

### Q 5. 今回乗船した船（シーカヤック含む）に乗る計画をしたのはいつですか？

1.旅行前　2.旅行中　3.ウトロで（急に乗ることになった）

### Q 6. 乗船した船を選んだきっかけは？　－複数回答可

1. ツアーの中でのオプション、アクティビティ
2. 家族や友人などに乗った方が良いと勧められたから
3. インターネット、旅行雑誌などを見た
4. ホテル、民宿などでの紹介
5. 観光案内所・道の駅・世界遺産センターなどで知った（パンフレット等）
6. 町内の商店やコンビニなどで知った
7. その他

**Q７．「こんな情報が欲しかった」と思われる事はありますか？**
**※事前に雑誌やインターネットで情報を集めた方のみ、お答えください。**

1.欲しかった情報がある

2.特に無し（または十分な情報が得られた）

3.その他

**Q８．以前にもウトロの観光船（シーカヤック含む）に乗船したことはありますか？**

1. 初めて乗った
2. 以前に乗ったことがある
   大型観光船（　　）回　　小型観光船（　　）回　シーカヤック（　　）回

**Q９．知床の他の場所への訪問状況について**　－複数選択可

1.乗船前に行った場所

a.知床五湖(高架木道を散策)　b.知床五湖(地上遊歩道をﾂｱｰで散策)
c.ｶﾑｲﾜｯｶ湯の滝　d.ﾌﾚﾍﾟの滝　e.知床自然ｾﾝﾀｰ　f.世界遺産ｾﾝﾀｰ・うとろ道の駅
g.知床峠　h.羅臼岳　i.羅臼湖　j.熊の湯　k.観光船(羅臼より乗船)
l.らうす道の駅　m.羅臼ﾋﾞｼﾞﾀｰｾﾝﾀｰ　n.ﾙｻﾌｨｰﾙﾄﾞﾊｳｽ
その他（　　）

2.乗船後に行く予定の場所

a.知床五湖(高架木道を散策)　b.知床五湖(地上遊歩道をﾂｱｰで散策)
c.ｶﾑｲﾜｯｶ湯の滝　d.ﾌﾚﾍﾟの滝　e.知床自然ｾﾝﾀｰ　f.世界遺産ｾﾝﾀｰ・うとろ道の駅
g.知床峠　h.羅臼岳　i.羅臼湖　j.熊の湯　k.観光船(羅臼より乗船)
l.らうす道の駅　m.羅臼ﾋﾞｼﾞﾀｰｾﾝﾀｰ　n. ﾙｻﾌｨｰﾙﾄﾞﾊｳｽ
その他（　　）

**Q 10. この船（シーカヤック含む）に乗る前に何に期待しましたか？**－複数回答可

1. 風　景　　2. 野生動物　　3. 船という乗り物自体に乗る楽しみ
4. その他

「風景」と答えた方→　一番期待していたものは？
　a.知床連山　　b.断崖･滝　　c.海　　d.その他（　　）
「野生動物」と答えた方→　一番期待していたものは？
　a.クマ　b.クジラやイルカ　c.ワシ　d.海鳥　e.その他（　　）

**Q 11. 乗船して何が印象に残っていますか？（良かった点）**－複数回答可

1. 風　景　　2. 野生動物　　3. 船という乗り物自体に乗る楽しみ
4. その他

「風景」と答えた方→　一番印象に残っているものは？
　a.知床連山　　b.断崖･滝　　c.海　　d.その他（　　）
「野生動物」と答えた方→　一番印象に残っているものは？
　a.クマ　b.クジラやイルカ　c.ワシ　d.海鳥　e.その他（　　）

**Q 12. 乗船して残念だった点はありますか？**　－複数回答可

1. 見たかった物が見られなかった。　　2. 天候が悪かった。
3. 船酔いしてしまった。　　4. 暑かった・寒かった・濡れてしまった等
5. その他

6.特になし

**Q 13. 船内放送（案内・解説）や、ガイドの説明について感想をお聞かせください。**

**Q 14. 次回ウトロに来た時に乗ってみたい船のタイプはありますか？**　－複数回答可
**※また同じ船に乗りたい場合は同じ船のタイプに○**

1. 大型観光船　　2. 小型観光船　　3. シーカヤック　　4. なし

**Q 15. 今回乗った船を家族や友人会社の同僚などにお勧めしたいですか？**

1.お勧めしたい　　2.お勧めできない

**Q 16. そのほか乗船後の率直な感想など是非お聞かせください。**

**回答者様の情報**

**Q 17. 性別・年齢**

性　別：　1.男性　　2.女性
年　齢：　a.10 代　b.20 代　c.30 代　d.40 代　e.50 代　f.60 代　g.70 代以上

**Q 18. ご職業**

1.会社員　2.公務員　3.団体職員　4.自営業　5.農林水産業　6.主婦・主夫
7.パート　8.学生　9.年金生活　10.その他（　　）

**Q 19. どこから来られましたか？**

1.道内（　　市町村）2.北海道外（　　都府県　　市町村）

アンケートはこれで終了です。お疲れ様でした。ご協力ありがとうございました。

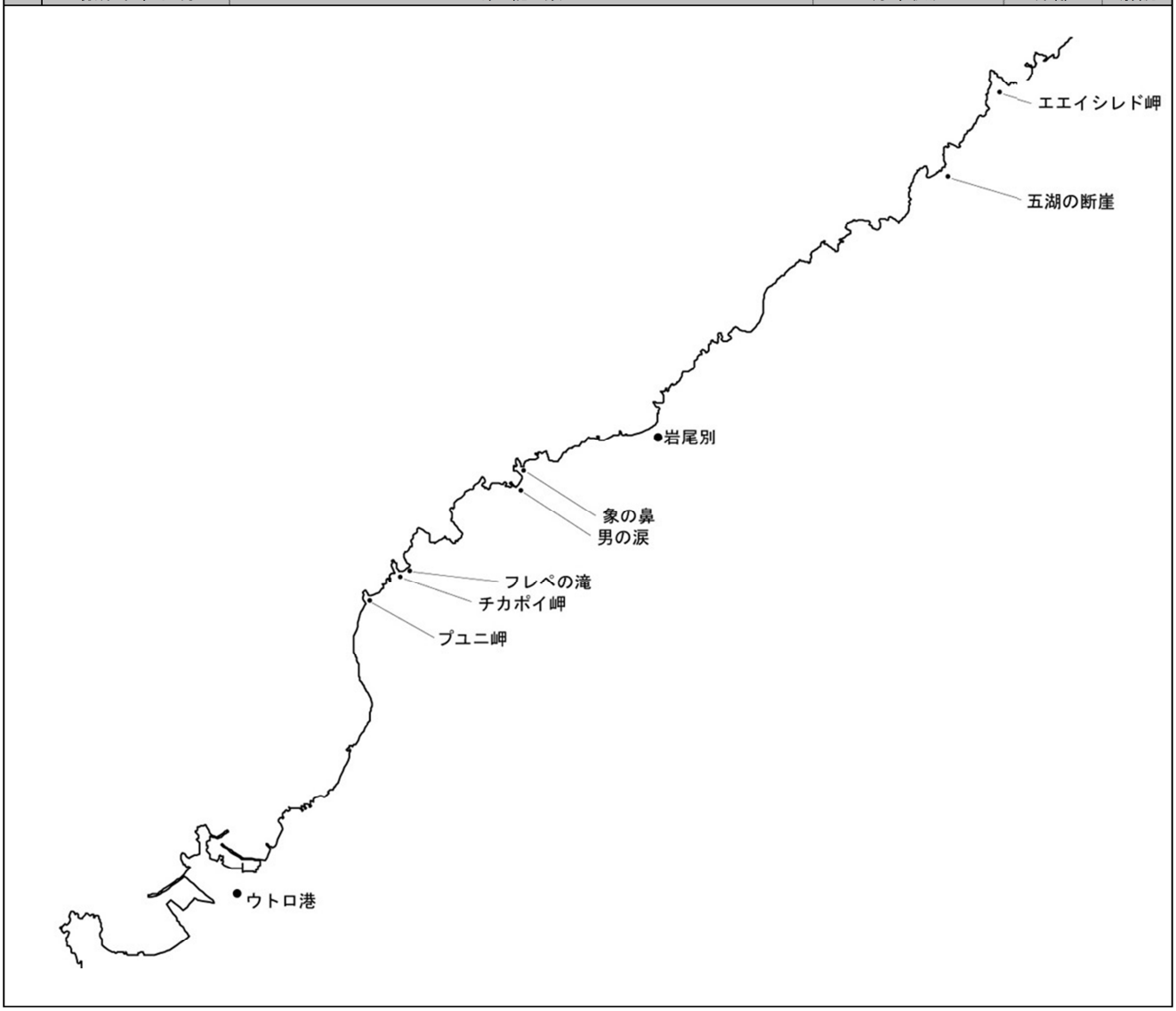
知床世界自然遺産
SHIRETOKO WORLD NATURAL HERITAGE

# ウトロ海域　海域観察記録票

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 船　名 | おーろら、おーろら2 | 観察日 | 平成　　年　　月　　日 | | |
| | | 航　路 | 硫黄山 ・ 岬 ・ ルシャ ・ その他（　　） | | |
| 記録者 | | 出航時間 | : | | |
| | | 天　候 | | 波の高さ | m |

●ケイマフリの記録

| | 場所･位置区分 | 確　認　数 | 分布状況 | 距離 | 解説 |
|---|---|---|---|---|---|




●その他の記録

## 《謝　辞》

本業務の実施に際し、専門委員の皆様をはじめ、地域の方々の多大なるご協力を賜り成果を得る事ができました。観光船事業者の各社の方々、ウトロ漁業協同組合、知床温泉旅館協同組合、知床民宿協会、斜里町役場、知床斜里観光協会、斜里知床博物館、の皆様には貴重な助言と御指導を賜りました。たくさんの地域の皆様のご協力に感謝し、ここに厚く御礼申し上げます。